YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2025年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご　挨　拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・指定医療機関・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会構成図	7
患 者 統 計	8
1. 外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1 日平均外来患者数	11
4）1 日平均外来新患者数	11
2. 入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別 1 日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数	12
3. 救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類〈大分類〉科別	20
4）疾病分類〈中分類〉	21
診 療 部	24
内　　科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	35
炎症性腸疾患科（IBD科）	37
呼吸器内科	39
腫 瘍 内 科	40
透析センター（腎不全対策・関連診療科）	41
腎 臓 内 科	45
糖尿病・内分泌・代謝内科	46
脳神経内科	49
膠原病リウマチ内科	50
小　児　科	51
放 射 線 科（診療部）	53
救　急　科	54
集中治療科	57
外　　科	60
整 形 外 科	62
脳神経外科	65
心臓血管外科・心臓血管センター	67
形成外科・美容外科	70
呼吸器外科	72
小 児 外 科	74
歯科・歯科口腔外科	77
泌 尿 器 科	80
眼　　科	81
麻　酔　科	83
肝臓センター	85
皮　膚　科	91
婦　人　科	92
乳 腺 外 科	93
耳鼻咽喉科	95
病理診断科	96
副 診 療 部	100
薬　剤　部	102
放 射 線 科	105
臨床検査科	107
リハビリテーション科	111
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	118
臨床工学科	120
栄　養　科	125
治験センター	128
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	130
病診連携室	134
健診センター	144
情報システム管理室	146
保　育　室	148
がん相談支援センター	151
医療安全管理部	155
感染制御部	161
臨床腫瘍センター	166
看 護 部	168
４階西　４階東	170
５階西　５階東	171
６階西　６階東	172
７階西　７階東	173
８階西　８階東	173-174
ICU　HCU	174-175
外来　保健指導	175-176
ER　手術室	176-177
透析室　入退院支援	177-178
委 員 会	186
呼吸ケアチーム（RST）	188
褥瘡対策委員会	189
研修管理委員会	190
栄養サポートチーム（NST）	194
緩和ケアチーム	196
がん緩和支援委員会	198
地域医療支援病院運営委員会	200
関 連 施 設	202
八尾徳洲会介護センター	204
よろこび訪問看護ステーション	208
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	210
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	219
サービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷	223
ラフィーネ介護センター	224
学 術 業 績	226
学 会 発 表	228
学 術 論 文	236

Yao
Tokushukai
General Hospital

八尾徳洲会総合病院の理念

1．生命を安心して預けられる病院
2．健康と生活を守る病院　＊1
3．患者さまの権利と尊厳を大切にする病院

《基本方針》

1．「年中無休・24時間オープン」で救急医療を提供します。＊2
2．患者様からの贈り物は一切受取りません。＊3
3．医療技術・診療態度の向上にたえず努力します。

＊1・医療行為を選択する権利、プライバシーが保証される権利を大切にし、患者様の権利を尊重します。
＊2・地域に開かれた病院を標榜します。
＊3・患者様一人一人に公平な医療を提供します。

患者様の権利と責務

権　　利

1．何人も差別されることなく、安全で良質な医療を受ける事ができます。
2．医療サービスの内容と予測される結果について説明を受ける事ができます。
3．医療行為を選択する事ができます。また、法律の許す限り希望しない医療を拒否する事ができます。
4．治療を選択するにあたり、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める事ができます。
5．意識のない患者様、自己決定権あるいは自己決定能力のない患者様の場合、法律上の権限を有する代理人（法定代理人）に委任できます。また、事前の意思表示に沿った医療行為を受ける事ができます。
6．疼痛等の症状を訴える事ができます。
7．継続して一貫した医療を受ける事ができます。
8．プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
9．診療録の開示を求め、自己の健康状態について十分な情報を得る事ができます。
10．医療の情報について常に提供を受け、健康教育や講演を受ける事ができます。
11．生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事ができます。
12．病院内で安全な環境の提供を受ける事ができます。
13．医療調査研究への参加を拒否する事ができます。
14．医療費に関する情報を受ける事ができます。
15．一人一人の文化や価値観が尊重された医療を受ける事ができます。
16．診療・ケア・倫理的な問題・意見が相違する場合等について相談する事ができます。

責　　務

1．病状および個人情報に関する情報を、正直かつ正確にご提供ください。
2．治療方針を守り、治療中、心身に変化や問題が起こった場合は職員にお知らせください。
3．わからないことがあれば何度でもご質問ください。
4．病院の規則を守り、安心できる診療環境づくりにご協力ください。
5．健康保険の手続きや、支払い方法ついてご相談のある方は速やかにお申し出ください。
6．医療費を適正にお支払いください。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院　院長　原田　博雅

平素より八尾徳洲会総合病院の運営に対し、地域の皆さまならびに関係医療機関の皆さまより多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。この度、2025 年版の病院年報を発刊する運びとなりましたので、ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に 5 類へ移行して以降、医療提供体制は徐々に平時の姿へと戻りつつありますが、地域医療を取り巻く環境は依然として大きな変化の中にあります。高齢化の進行や救急需要の増加、医療従事者の働き方改革への対応など、医療機関に求められる役割はますます多様化しております。そのような状況の中で、当院は地域の基幹病院としての使命を果たすべく、救急医療をはじめとする急性期医療の充実に努めてまいりました。2025 年も救急搬送患者の受け入れに積極的に取り組み、地域の医療機関や行政との連携を深めながら、地域住民の皆さまに安心していただける医療提供体制の維持・強化に取り組んでおります。

また、現在進行している病院改修工事も順調に進んでおり、2024 年に竣工した新館の運用を開始するとともに、2026 年 3 月に予定されている集中治療室（ICU）および高度治療室（HCU）の増床、手術室の拡充、感染症病棟の整備など、より高度で安全な医療を提供できる体制の整備を進めております。これらの施設整備は、重症患者への対応力の向上だけでなく、将来の医療需要を見据えた地域医療体制の強化にもつながるものと考えております。

さらに、2024 年度より本格化した医師の働き方改革への対応も継続して進めております。医療の質を維持しながら、持続可能な医療提供体制を構築することは、地域医療を守るうえで極めて重要な課題です。当院では、医師をはじめとする多職種が連携し、効率的かつ安全な医療体制の整備に取り組んでおります。

本年報では、2025 年における当院の診療実績や各部門の取り組みをまとめております。本誌を通じて当院の活動をご理解いただき、地域医療における当院の役割についてご認識いただければ幸いです。

今後も「生命だけは平等だ」の理念のもと、地域の皆さまに信頼される病院であり続けるよう、職員一同一層努力してまいります。引き続き皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978年7月1日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	1,201名（2026年4月現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、炎症性腸疾患外来、糖尿病･内分泌･代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、脳神経内科、膠原病リウマチ科、透析センター、腎臓内科、皮膚科、小児科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、集中治療科、救急総合診療科、麻酔科、歯科･歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷 サービス付き高齢者向け住宅　ラフィーネの郷 ラフィーネ介護センター
１日平均外来患者数	826名（2025年）
１日平均入院患者数	414名（2025年）

沿革

1978年 7 月	開院　許可病床250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
1994年 9 月	総合病院許可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
1995年 9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
1996年 11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
1998年 3 月	歯科・歯科口腔外科開設
1998年 4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
1998年 12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
2000年 4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
2001年 12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
2003年 3 月	睡眠障害センター開設
2003年 10 月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
2004年 4 月	医療安全管理部設置
2004年 6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
2006年 6 月	健診センター開設
2006年 11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得
2007年 6 月	新病院建設開始
2007年 12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
2009年 8 月	新病院移転
2009年 11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
2010年 4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
2011年 9 月	一般7：1入院基本料取得
2011年 10 月	小児科開設
2012年 11 月	放射線治療開始
2012年 11 月	日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
2013年 9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
2018年 1 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審
2018年 2 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1取得（認定4回目）
2020年 11 月	JCI認証取得（初回）
2022年 1 月	特定集中治療室管理料1取得
2022年 2 月	手術支援ロボット導入（ダヴィンチ）
2022年 4 月	DPC特定病院群指定
2023年 4 月	地域医療支援病院
2023年 6 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0受審
2023年 10 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0取得（認定5回目）
2023年 8 月	新館増築・本館改修地鎮祭
2023年 12 月	JCI認証取得（2回目）
2024年 1 月	卒後臨床研修評価機構更新認定 介護老人保健施設　八尾徳洲苑、よろこび訪問看護ステーション
2024年 3 月	よろこび訪問看護介護センター、八尾徳洲会介護センター　新築移転 サービス付き高齢者向け住宅　「ラフィーネの郷」開設 ラフィーネ介護センター　開設
2024年 11 月	12床増床　許可病床数　427床
2024年 12 月	南館新設
2025年 3 月	外国人患者受入れ医療機関認定制度（JMIP）認証取得
2025年 11 月	28床増床　許可病床数　455床

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸療法医学会専門医研修施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本高血圧学会研修施設Ⅰ
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本手外科学会研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR・核医学）
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本臨床栄養代謝学会認定教育施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定　NST 稼働施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

指定医療機関

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院
保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
身体障害者福祉法指定医
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院
大阪府地域医療支援病院
DPC対象病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
320列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）
ハイブリッド手術室対応多軸透視・撮影装置
ダヴィンチ（手術支援ロボット）
マゾールX（脊椎手術支援ロボット）
Saroa（手術支援ロボット）

許可施設基準

医療DX推進体制整備加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療医療安全対策加算2
歯科外来診療感染対策加算3
一般病棟入院基本料
急性期充実体制加算1
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
診療録管理体制加算2
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
看護職員夜間配置加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
緩和ケア診療加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染対策向上加算1
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算1
バイオ後続品使用体制加算
病棟薬剤業務実施加算1
病棟薬剤業務実施加算2
データ提出加算
入退院支援加算
認知症ケア加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
協力対象施設入所者入院加算
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
入院時食事療養／生活療養(Ⅰ)
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1
連携充実加算
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
歯科治療時医療管理料
在宅患者歯科治療時医療管理料
在宅患者訪問診療料(Ⅰ)の注13(在宅患者訪問診療料(Ⅱ)の注6の規定により準用する場合を含む。)、在宅がん医療総合診療料の注8及び歯科訪問診療料の注20 に規定する在宅医療DX情報活用加算
救急患者連携搬送料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅療養後方支援病院
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
BRCA1／2遺伝子検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算(Ⅳ)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2
認知療法・認知行動療法1

医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる処置の休日加算1
歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる処置の時間外加算1
歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる処置の深夜加算1
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
人工腎臓
導入期加算1
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
ストーマ合併症加算
手術用顕微鏡加算
CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法
緊急穿頭血腫除去術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
顎関節人工関節全置換術(歯科)
乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胃縮小術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
生体腎移植術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
体外式膜型人工肺管理料
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の休日加算1
歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の時間外加算1
歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の深夜加算1
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
周術期栄養管理実施加算
輸血管理料Ⅰ
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯根端切除手術の注3
麻酔管理料(Ⅰ)
周術期薬剤管理加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
一回線量増加加算
強度変調放射線治療(IMRT)
画像誘導放射線治療(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
デジタル病理画像による病理診断
病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算2
クラウン・ブリッジ維持管理料
看護職員処遇改善評価料46
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
入院ベースアップ評価料75
酸素の購入単価

2026年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

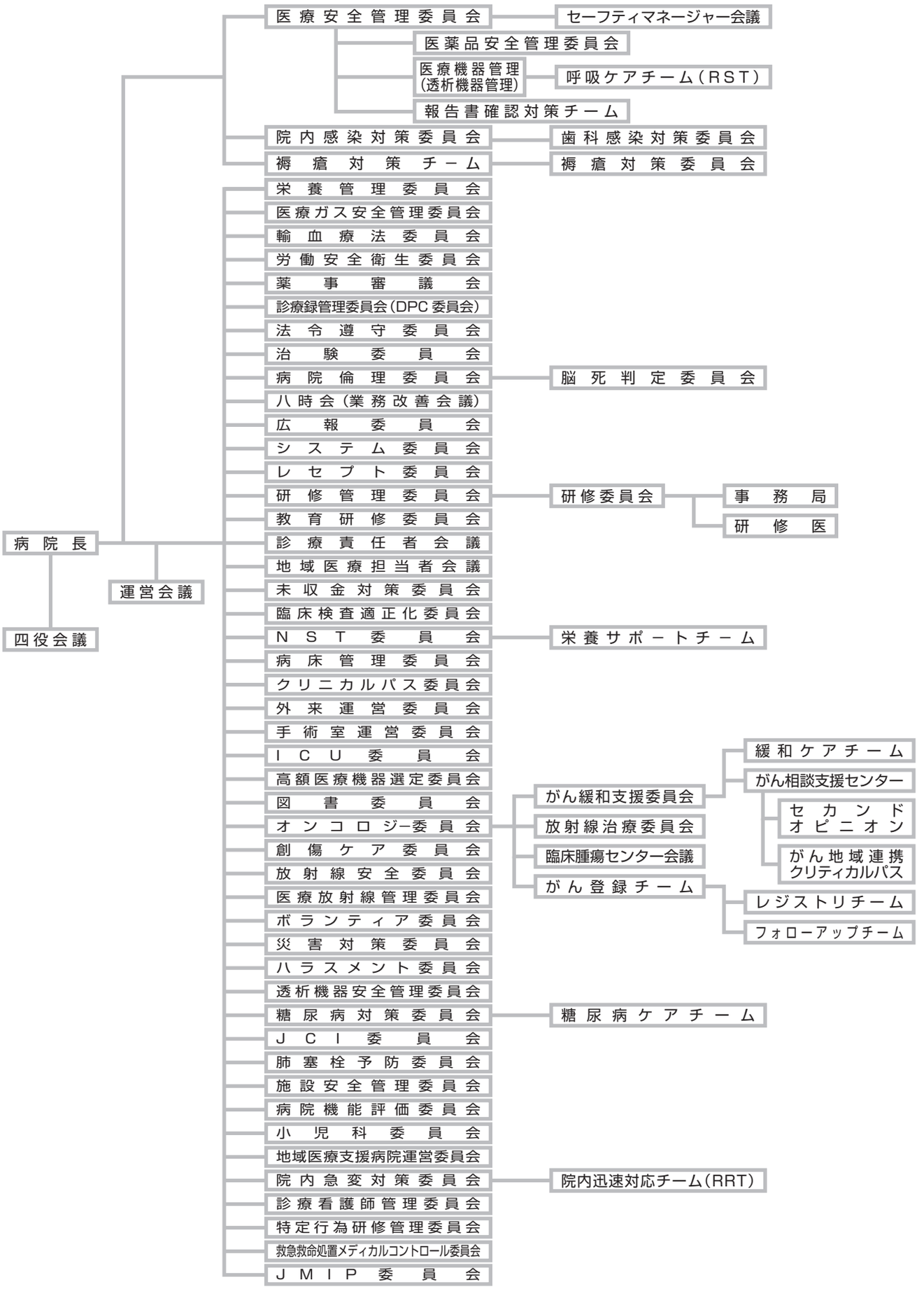
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
よろこび訪問看護ステーション
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
サービス付き高齢者向け住宅　ラフィーネの郷
定期巡回・随時訪問対応型訪問介護看護　ラフィーネ介護センター



八尾徳洲会総合病院 委員会構成図

2026年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2025年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1日平均外来患者数　11
4）1日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別1日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1. 外 来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

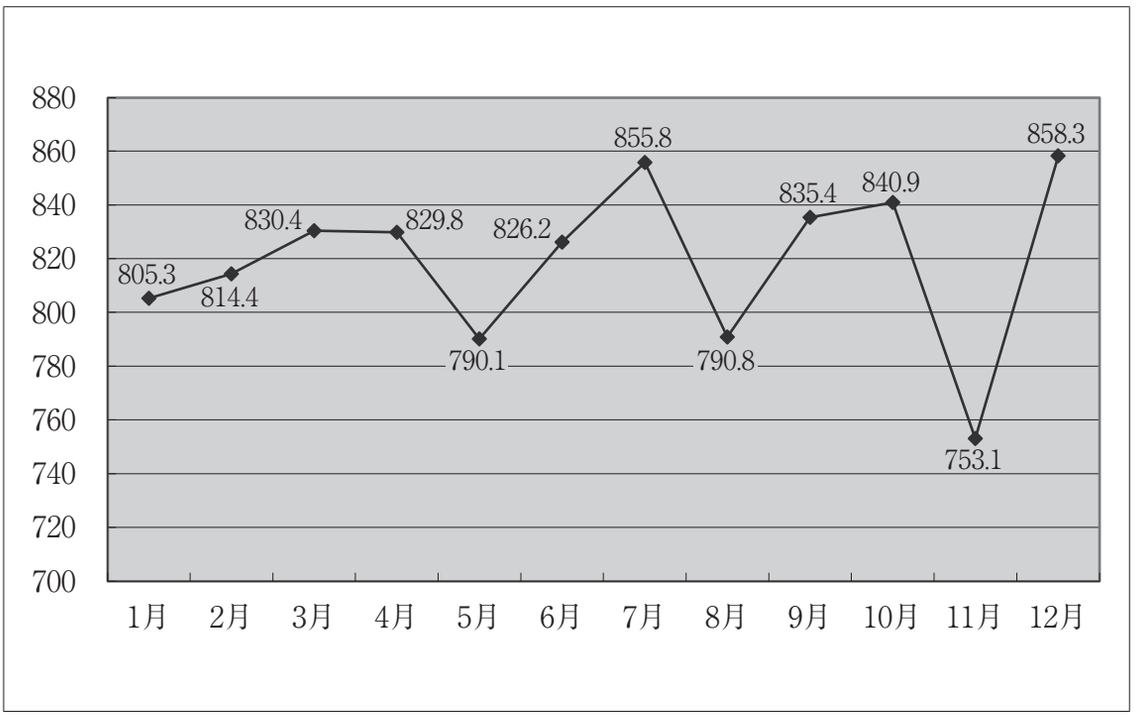
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	805.3	814.4	830.4	829.8	790.1	826.2	855.8	790.8	835.4	840.9	753.1	858.3	9830.5	819.2
②	24,964	22,804	25,744	24,894	24,493	24,786	26,528	24,515	25,062	26,068	22,594	26,609	299,061	24,922
③	26.1	26.2	31.1	32.8	29.4	27.5	29.3	28.8	26.8	27.4	27.1	29.3	341.8	28.5

2）科別・月別外来患者数

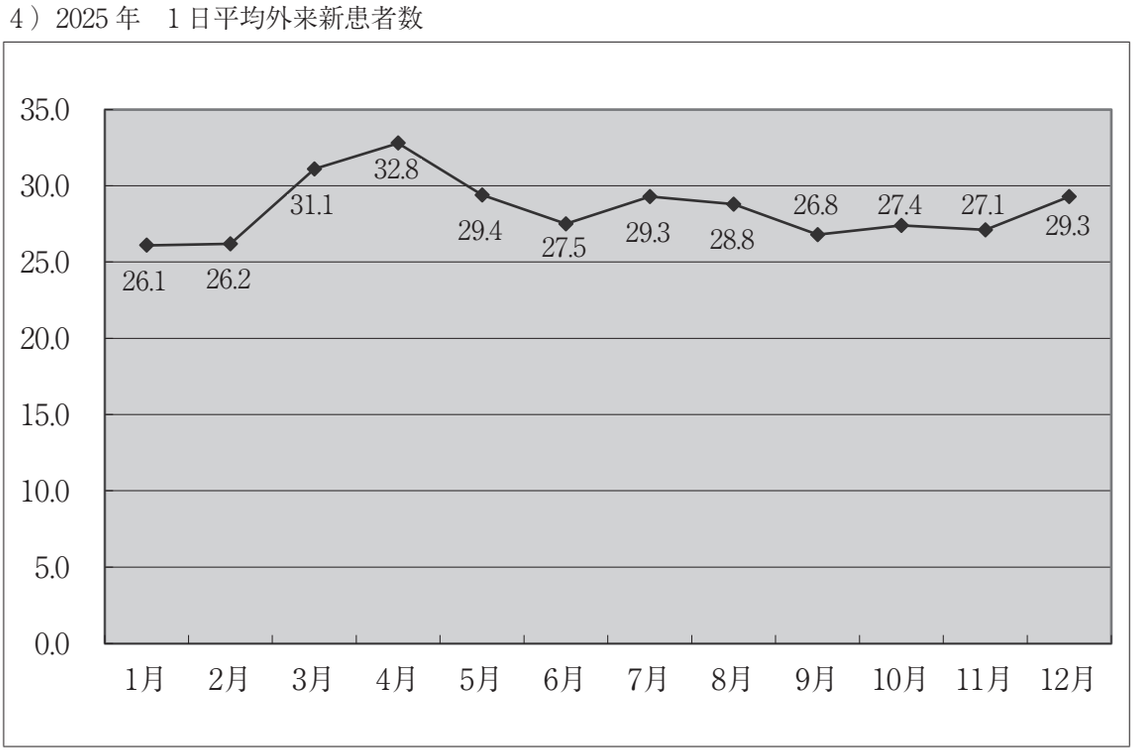
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	腎臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	7,549	1,868	1,360	238	124	63	745	271	2,451	558	1,340	819	1,237	489	0	322
2月	6,203	1,240	1,174	251	128	63	742	277	2,276	497	1,262	891	1,197	411	1	216
3月	7,205	1,949	1,261	269	147	94	897	280	2,519	541	1,399	924	1,381	586	0	222
4月	7,035	1,912	1,370	265	134	71	869	287	2,487	591	1,350	946	1,340	546	0	201
5月	6,788	1,945	1,338	280	155	80	850	290	2,471	537	1,309	883	1,348	513	0	196
6月	7,065	1,636	1,269	290	148	81	868	263	2,433	541	1,337	909	1,446	522	1	172
7月	7,539	1,845	1,423	292	149	77	799	338	2,660	600	1,304	959	1,470	587	1	249
8月	6,186	1,846	1,333	267	171	102	771	289	2,634	488	1,200	791	1,328	569	0	228
9月	6,478	1,982	1,333	272	136	81	908	293	2,637	574	1,399	891	1,451	518	0	293
10月	6,794	2,057	1,419	318	194	59	950	339	2,625	582	1,487	925	1,317	629	0	290
11月	5,991	1,520	1,220	252	137	61	778	269	2,299	517	1,245	768	1,283	509	0	247
12月	6,794	2,306	1,426	284	183	73	862	325	2,612	600	1,440	940	1,538	699	4	313
合計	81,627	22,106	15,926	3,278	1,806	905	10,039	3,521	30,104	6,626	16,072	10,646	16,336	6,578	7	2,949
平均	6802.3	1842.2	1327.2	273.2	150.5	75.4	836.6	293.4	2508.7	552.2	1339.3	887.2	1361.3	548.2	0.6	245.8

	リハビリ外来	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	精神科	合計
1月	89	694	819	500	654	125	323	914	646	416	67	91	8	184	0	24,964
2月	89	630	835	501	620	116	388	328	1,715	366	81	108	7	191	0	22,804
3月	78	666	914	555	714	172	387	960	733	432	99	149	20	191	0	25,744
4月	77	675	893	572	602	128	411	637	651	398	90	152	9	194	1	24,894
5月	73	573	856	585	702	125	419	756	597	429	73	128	10	184	0	24,493
6月	79	668	869	620	633	141	429	921	624	373	69	155	17	207	0	24,786
7月	73	686	944	665	720	129	392	1,044	747	418	80	116	9	213	0	26,528
8月	76	649	834	671	603	126	320	1,642	645	368	57	119	8	194	0	24,515
9月	77	669	932	655	554	146	339	948	701	369	66	137	14	209	0	25,062
10月	77	705	920	652	748	167	414	680	865	397	84	130	13	231	0	26,068
11月	61	660	783	516	922	134	347	682	716	338	71	81	8	179	0	22,594
12月	87	728	946	608	732	161	467	1,002	719	348	58	147	15	192	0	26,609
合計	936	8,003	10,545	7,100	8,204	1,670	4,636	10,514	9,359	4,652	895	1,513	138	2,369	1	299,061
平均	78.0	666.9	878.8	591.7	683.7	139.2	386.3	876.2	779.9	387.7	74.6	126.1	11.5	197.4	0.1	24921.8

3）2025 年　1 日平均外来患者数



4）2025 年　1 日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計（2025）

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	423.5	418.8	418.8	411.5	389.5	391.7	416.9	419.6	412.7	417.2	418.2	427.6	4965.9	413.8
②	13,127	11,726	12,982	12,345	12,075	11,751	12,924	13,007	12,382	12,932	12,546	13,255	151,052	12,588
③	14.43	13.61	13.15	11.64	11.42	11.75	12.05	12.24	11.83	12.19	12.42	10.79	147.52	12.29
④	105.88	105.26	105.55	104.71	99.46	99.25	105.69	106.31	104.77	105.70	105.89	109.64	1258.1	104.8

2）科別・月別１日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	175.42	152.71	151.94	147.90	130.03	131.33	150.77	142.16	153.67	168.42	157.93	147.65	1809.93	150.83
循環器内科	33.74	29.82	28.84	30.90	30.90	32.33	38.81	38.10	33.80	32.71	34.83	40.06	404.84	33.74
外科	41.94	46.71	52.23	51.20	46.81	37.07	40.58	50.23	47.40	48.00	42.83	42.52	547.52	45.63
肝臓センター	21.00	26.00	23.97	23.43	22.42	27.57	24.71	29.26	28.80	20.61	22.70	25.16	295.63	24.64
整形外科	50.03	45.29	44.65	45.23	56.16	52.03	55.84	57.61	49.67	48.52	48.10	56.10	609.23	50.77
脳神経外科	44.19	53.39	50.74	52.93	44.06	41.80	34.68	33.10	39.60	39.45	42.97	49.00	525.91	43.83
泌尿器科	5.55	9.11	9.32	6.57	7.23	9.03	11.03	9.48	8.90	8.48	8.57	7.52	100.79	8.40
婦人科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小児科	0.39	0.25	0.29	0.23	0.16	0.57	0.35	0.00	0.03	0.58	0.00	0.00	2.85	0.24
眼科	3.16	3.07	4.32	4.93	4.32	4.07	4.26	3.35	3.27	4.61	4.87	4.42	48.65	4.05
形成外科	9.74	8.86	17.39	18.97	18.90	18.60	23.42	20.74	14.43	17.29	20.20	16.87	205.41	17.12
心臓外科	22.55	26.68	18.32	16.23	14.26	22.33	16.68	16.81	13.07	14.87	19.07	23.13	224.00	18.67
耳鼻咽喉科	1.26	0.93	0.19	0.07	0.87	1.50	0.45	0.35	0.33	0.35	0.37	1.84	8.51	0.71
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
口腔外科	2.97	4.50	4.65	4.57	2.74	3.77	3.32	3.87	3.97	3.74	4.40	3.84	46.34	3.86
腎臓内科	11.52	11.46	11.94	8.33	10.65	9.70	12.00	14.52	15.80	9.52	11.37	9.48	136.29	11.36
合計	423.5	418.8	418.8	411.5	389.5	391.7	416.9	419.6	412.7	417.2	418.2	427.6	4965.9	413.8

3）病棟別・月別１日平均入院患者数

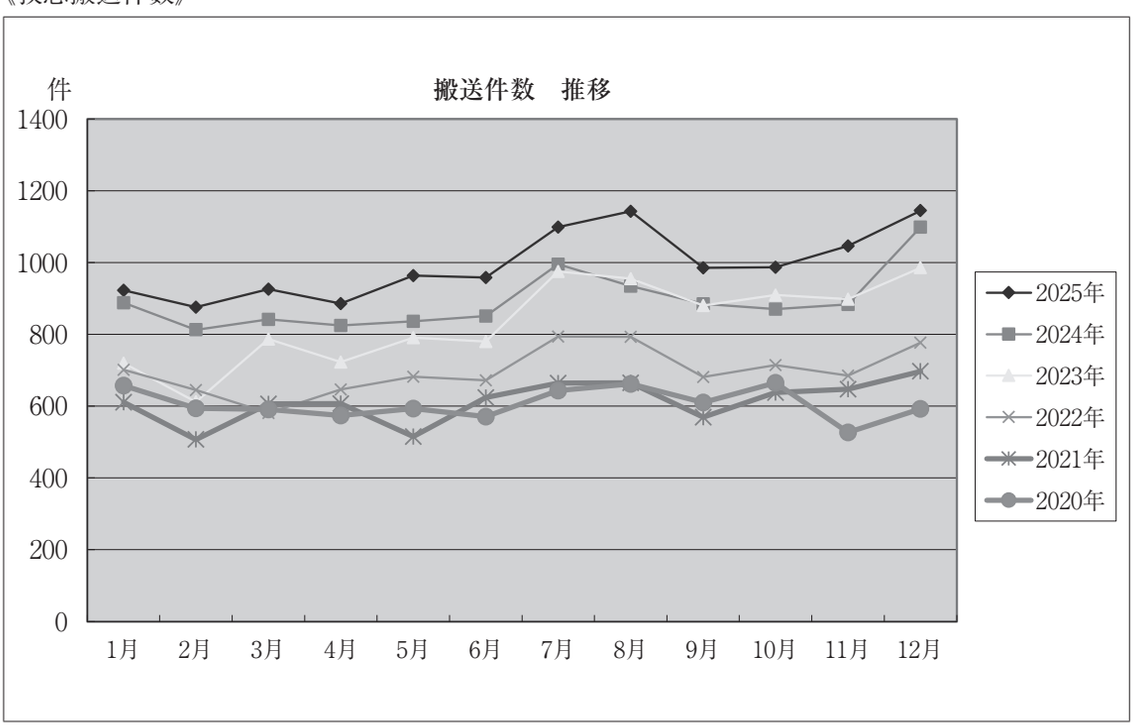
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	7.97	7.64	7.90	7.63	7.42	7.93	7.77	7.68	7.80	7.68	7.67	7.84	92.93	7.74
HCU	19.48	19.25	18.16	16.73	18.68	23.20	27.84	27.48	27.37	26.65	25.93	25.58	276.35	23.03
4東	45.26	45.32	44.45	44.57	40.68	39.40	41.71	43.26	42.80	43.71	41.80	42.77	515.73	42.98
4西	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	10.07	24.29	34.36	2.86
5東	42.94	42.29	42.19	39.83	36.45	38.37	39.87	40.77	39.00	39.61	39.67	39.81	480.80	40.07
5西	40.94	39.07	39.06	38.83	37.81	37.97	39.35	39.35	38.73	38.71	38.33	37.52	465.67	38.81
6東	43.90	43.75	44.19	42.93	41.26	40.53	43.65	42.23	41.40	42.81	42.50	41.03	510.18	42.52
6西	45.00	44.18	44.87	44.10	42.32	43.37	44.84	43.87	43.73	43.97	43.37	42.26	525.88	43.82
7東	44.45	43.54	43.84	44.20	40.10	38.93	41.48	42.58	41.20	40.90	40.97	40.48	502.67	41.89
7西	44.81	44.32	44.42	44.37	41.58	39.73	43.77	43.90	42.73	44.26	42.10	41.19	517.18	43.10
8東	44.06	43.93	44.48	43.87	41.42	41.17	43.55	43.71	43.87	44.19	42.00	41.84	518.09	43.17
8西	44.65	45.50	45.19	44.43	41.81	41.10	43.06	44.74	44.10	44.68	43.80	42.97	526.03	43.84
総計	423.5	418.8	418.8	411.5	389.5	391.7	416.9	419.6	412.7	417.2	418.2	427.6	4965.9	413.8

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2025年	923	876	926	886	964	958	1,099	1,143	985	987	1,046	1,145	11,938	994.8
2024年	888	813	842	825	836	851	995	934	885	870	883	1,099	10,721	893.4
2023年	720	612	787	723	791	780	975	955	880	910	898	986	10,017	834.8
2022年	701	645	581	646	682	672	794	793	681	714	685	777	8,371	697.6
2021年	611	507	606	607	515	624	664	665	569	638	647	697	7,350	612.5
2020年	657	594	591	574	593	571	643	662	610	665	527	592	7,279	606.6

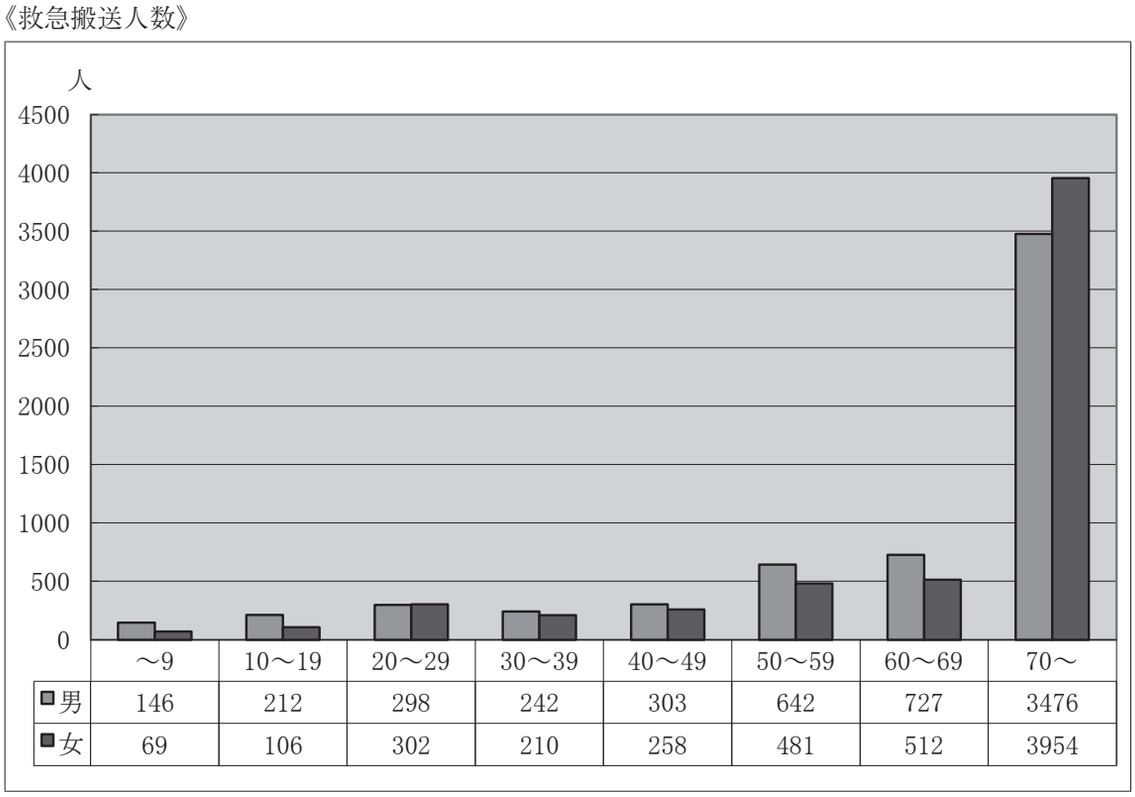
《救急搬送件数》



2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	11	13	12	12	19	3	13	8	11	14	13	17	146	215
	女	5	5	9	7	7	6	4	4	5	8	7	2	69	
10～19歳	男	9	8	17	18	22	25	31	19	12	22	13	16	212	318
	女	7	3	7	10	7	17	12	9	9	7	4	14	106	
20～29歳	男	15	27	23	22	16	26	23	29	33	27	27	30	298	600
	女	18	21	34	16	23	21	34	36	27	22	32	18	302	
30～39歳	男	16	18	19	19	14	24	28	25	23	18	17	21	242	452
	女	13	18	16	13	14	21	21	24	13	21	22	14	210	
40～49歳	男	27	20	20	16	26	25	47	37	19	18	26	22	303	561
	女	17	17	21	22	25	27	32	21	20	19	22	15	258	
50～59歳	男	45	39	61	48	45	56	39	81	57	54	66	51	642	1,123
	女	27	27	31	38	45	38	41	55	45	47	36	51	481	
60～69歳	男	59	50	66	49	55	54	78	66	56	53	66	75	727	1,239
	女	42	42	38	37	46	42	51	51	39	28	47	49	512	
70歳～	男	276	260	255	259	284	252	302	298	317	307	316	350	3,476	7,430
	女	336	308	297	300	316	321	343	380	299	322	332	400	3,954	
合計	男	458	435	473	443	481	465	561	563	528	513	544	582	6,046	11,938
	女	465	441	453	443	483	493	538	580	457	474	502	563	5,892	

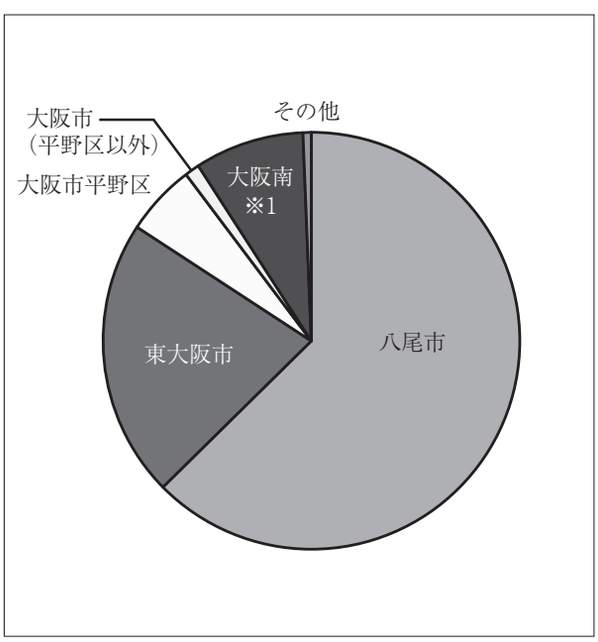
《救急搬送人数》



	～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
男	146	212	298	242	303	642	727	3476
女	69	106	302	210	258	481	512	3954

3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	大阪市 平野区	大阪市 (平野区以外)	大阪南	その他	合計
1月	524	242	47	23	73	14	923
2月	538	192	39	13	87	7	876
3月	552	236	45	10	79	4	926
4月	536	207	54	12	67	10	886
5月	609	214	45	7	84	5	964
6月	617	191	60	10	76	4	958
7月	680	232	72	8	99	8	1,099
8月	719	225	64	12	120	3	1,143
9月	648	198	48	10	77	4	985
10月	661	183	56	9	76	2	987
11月	669	220	59	8	82	8	1,046
12月	725	234	69	15	92	10	1,145
合計	7,478	2,574	658	137	1,012	79	11,938



	件数	%
八尾市	7,478	62.6%
東大阪市	2,574	21.6%
大阪市平野区	658	5.5%
大阪市(平野区以外)	137	1.1%
大阪南 ※1	1,012	8.5%
その他	79	0.7%
合計	11,938	100.0%

単位:件

※1　大阪南
柏羽藤(柏原市、羽曳野市、藤井寺市)
富田林市・河内長野市・太子町・河南町・千早赤阪村

病　歴　統　計

―― 2025年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類〈大分類〉科別　20

4．疾病分類〈中分類〉　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	180	141	151	183	185	169	199	195	197	195	189	218	2,202	183.5
循環器科	132	115	132	170	155	115	145	133	160	145	142	194	1,738	144.8
外　科	96	87	106	93	115	90	79	108	107	105	100	109	1,195	99.6
心臓外科	25	31	33	37	21	35	32	22	17	26	27	32	338	28.2
脳神経外科	61	74	88	73	94	79	81	69	65	72	80	97	933	77.8
整形外科	74	70	74	75	102	78	95	112	100	105	82	130	1,097	91.4
泌尿器科	35	40	41	49	40	56	49	55	35	40	46	54	540	45.0
形成外科	9	12	22	19	30	19	25	27	21	22	19	33	258	21.5
小 児 科	2	3	2	2	2	6	4	0	1	2	0	0	24	2.0
眼　科	43	42	57	62	73	57	58	48	43	69	64	69	685	57.1
耳鼻咽喉科	4	4	2	2	5	9	5	2	3	3	2	13	54	4.5
皮 膚 科	2	3	1	3	3	3	1	3	4	3	3	4	33	2.8
乳腺外科	4	2	4	11	4	5	3	3	0	9	3	3	51	4.3
腎臓内科	15	16	18	18	18	16	21	19	25	19	21	23	229	19.1
口腔外科	30	38	39	47	33	31	38	42	40	35	32	34	439	36.6
肝臓外科	37	52	74	54	69	66	72	70	72	58	50	68	742	61.8
肝臓内科	8	3	5	2	11	7	4	2	11	4	3	2	62	5.2
小児外科	3	6	4	8	6	7	7	13	9	4	3	7	77	6.4
呼吸器外科	18	19	20	25	13	24	20	20	17	22	31	27	256	21.3
呼吸器内科	46	41	46	60	52	39	57	53	54	55	56	77	636	53.0
腫瘍内科	22	22	23	39	24	30	26	29	26	36	27	28	332	27.7
集中治療科	37	28	37	20	23	11	16	9	3	7	6	5	202	16.8
救急総合診療科	2	7	8	12	12	8	27	24	24	20	23	23	190	15.8
放射線治療部	3	3	3	4	1	3	2	7	5	4	10	8	53	4.4
合　計	888	859	990	1,068	1,091	963	1,066	1,065	1,039	1,060	1,019	1,258	12,366	1,030.5
男	506	493	559	618	639	545	612	613	598	614	598	733	7,128	594.0
女	382	366	431	450	452	418	454	452	441	446	421	525	5,238	436.5

2. 死亡退院患者統計
《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	38	30	19	26	16	18	17	25	25	27	30	25	296	24.7
男	22	23	13	13	12	10	11	13	15	20	18	15	185	15.4
女	16	7	6	13	4	8	6	12	10	7	12	10	111	9.3
循環器科	5	8	3	3	5	4	4	2	6	3	6	3	52	4.3
男	3	7	2	3	3	3	4	1	4	2	2	2	36	3.0
女	2	1	1	0	2	1	0	1	2	1	4	1	16	1.3
外　科	10	5	4	4	6	6	3	8	7	5	3	9	70	5.8
男	7	3	3	3	3	4	2	2	6	3	1	7	44	3.7
女	3	2	1	1	3	2	1	6	1	2	2	2	26	2.2
心臓外科	1	3	2	4	1	1	1	2	2	0	5	1	23	1.9
男	0	2	1	4	1	1	1	0	1	0	3	1	15	1.3
女	1	1	1	0	0	0	0	2	1	0	2	0	8	0.7
脳神経外科	9	8	10	3	5	4	5	1	3	4	5	9	66	5.5
男	4	3	5	2	3	2	2	0	2	2	3	7	35	2.9
女	5	5	5	1	2	2	3	1	1	2	2	2	31	2.6
整形外科	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1	1	2	13	1.1
男	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4	0.3
女	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	9	0.8
泌尿器科	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	6	0.5
男	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	4	0.3
女	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0.2
形成外科	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	5	0.4
男	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	0.3
女	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0.2
肝臓外科	5	6	4	3	8	6	2	4	7	3	3	1	52	4.3
男	4	4	2	1	4	5	0	3	5	2	2	1	33	2.8
女	1	2	2	2	4	1	2	1	2	1	1	0	19	1.6
腎臓内科	2	2	2	3	2	2	1	1	3	1	2	1	22	1.8
男	1	2	1	3	2	1	1	0	1	0	2	1	15	1.3
女	1	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	0	7	0.6
集中治療科	5	13	12	10	10	5	4	10	4	8	13	7	101	8.4
男	5	7	7	5	4	3	0	5	2	6	8	5	57	4.8
女	2	6	5	5	6	2	4	5	2	2	5	2	46	3.8
合　計	79	76	58	56	56	47	39	57	60	52	69	59	708	59.0
男	47	51	35	34	33	30	22	26	37	35	40	41	431	35.9
女	32	25	23	22	23	17	17	31	23	17	29	18	277	23.1

悪性腫瘍	肺	41	転移癌	6	直腸	2	
	大腸	12	胆管	6	乳	2	
	膵臓	12	食道	3	原発不明	2	
	胃	9	前立腺	3	多発性骨髄腫	1	
	肝臓	9	悪性中皮腫	2	その他	8	合　計　118
呼吸器系	誤嚥性肺炎	83	細菌性肺炎	15	肺腫瘍	2	
	急性肺炎	54	COVID-19	11	気胸	2	
	間質性肺炎	36	慢性閉塞性肺疾患	6	肺膿瘍	1	
	呼吸不全	21	膿胸	3	その他	9	合　計　243
循環器系	心不全	33	急性心筋梗塞	8	肺塞栓症	4	
	脳出血	25	心停止	8	大動脈瘤破裂	3	
	脳梗塞	16	急性大動脈解離	7	虚血性心疾患	2	
	心室細動	9	くも膜下出血	4	その他	9	合　計　128
消化器系	腸壊死	11	イレウス	4	腹膜炎	2	
	肝硬変	8	消化管出血	4	胃穿孔	2	
	肝不全	4	急性胆管炎	4	その他	5	合　計　44
その他の疾患	敗血症	62	CO2ナルコーシス	6	窒息	3	
	慢性腎臓病	22	急性腎不全	4	出血性ショック	2	
	老衰	18	外傷性くも膜下出血	4	尿路感染症	2	
	低酸素性脳症	10	急性循環不全	3	貧血	2	
	多臓器不全	10	菌血症	3	その他	24	合　計　175

3. 疾病分類〈大分類〉科別

科別 / 疾病分類	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	乳腺外科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	集中治療科	救急総合診療科	放射線治療部	合計
感染症及び寄生虫症(A00～B99)	145	1	32	2	0	1	1	4	6	0	3	11	0	3	0	24	0	0	0	13	5	30	31	0	312
新生物〈腫瘍〉(C00～D48)	209	1	381	5	22	3	225	25	0	0	1	0	47	0	49	240	17	3	109	21	183	2	2	52	1,597
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50～D89)	43	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	8	1	0	0	1	6	1	1	0	70
内分泌・栄養及び代謝疾患(E00～E90)	226	9	4	3	0	1	2	8	2	1	0	0	0	7	0	10	1	0	1	9	1	10	16	0	311
精神及び行動の障害(F00～F99)	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	5	0	21
神経系の疾患(G00～G99)	53	3	1	0	102	15	0	1	0	0	4	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3	6	3	0	196
眼及び付属器の疾患(H00～H59)	0	0	0	0	0	0	0	12	0	676	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	688
耳及び乳様突起の疾患(H60～H95)	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	51
循環器系の疾患(I00～I99)	139	1,670	10	288	563	6	0	19	0	0	1	0	0	20	0	12	0	0	1	5	9	12	14	0	2,769
呼吸器系の疾患(J00～J99)	624	26	11	12	2	2	0	0	14	0	7	0	2	16	1	17	5	4	113	505	104	105	43	0	1,613
消化器系の疾患(K00～K93)	346	1	711	2	0	3	0	1	1	0	1	0	1	2	364	402	33	43	0	2	9	3	5	0	1,930
皮膚及び皮下組織の疾患(L00～L99)	27	0	1	0	0	3	0	86	0	0	0	21	0	0	9	2	0	2	1	4	0	1	1	0	158
筋骨格系及び結合組織の疾患(M00～M99)	49	1	1	0	68	225	0	37	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	5	1	5	4	0	401
腎尿路生殖器系の疾患(N00～N99)	233	15	19	11	0	5	307	18	0	0	0	0	0	171	0	4	3	14	0	10	1	11	10	0	832
妊娠、分娩及び産じょく〈褥〉(O00～O99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天性奇形・変形及び染色体異常(Q00～Q99)	0	1	2	2	3	0	0	4	0	0	0	0	0	1	3	1	0	11	0	0	0	0	0	0	28
症状・徴候及び異常臨床所見・異常臨床所見で他に分類されないもの(R00～R99)	17	2	7	1	4	0	1	4	1	0	1	0	1	1	0	8	0	0	0	3	4	1	3	0	59
損傷・中毒及びその他の外因の影響(S00～T98)	58	5	14	10	168	832	2	39	0	8	1	0	0	5	13	5	1	0	30	4	0	10	47	1	1,253
特殊目的用コード(U00～U99)	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	51	6	3	1	0	77
合　　計	2,202	1,738	1,195	338	933	1,097	540	258	24	685	54	33	51	229	439	742	62	77	256	636	332	202	190	53	12,366

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章　感染症および寄生虫症	312
A00-09　腸管感染症	74
A15-19　結核	3
A20-28　人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49　その他の細菌性疾患	177
A50-64　主として性的伝播様式をとる感染症	0
A65-69　その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74　クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79　リッチケア症	0
A80-89　中枢神経系のウイルス感染症	3
A90-99　節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	22
B15-19　ウイルス肝炎	14
B20-24　ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0
B25-34　その他のウイルス疾患	13
B35-49　真菌症	3
B50-64　原虫疾患	3
B65-83　ぜん〈蠕〉虫症	0
B85-89　シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94　感染症および寄生虫症の続発・後遺症	0
B95-97　細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99　その他の感染症	0
第2章　新生物〈腫瘍〉	1,597
C00-14　口唇、口腔および咽頭	2
C15-26　消化器	662
C30-39　呼吸器および胸腔内臓器	270
C40-41　骨および関節軟骨	0
C43-44　皮膚	9
C45-49　中皮および軟部組織	12
C50　乳房	54
C51-58　女性生殖器	7
C60-63　男性生殖器	104
C64-68　尿路	119
C69-72　眼、脳および中枢神経系のその他の部位	6
C73-75　甲状腺およびその他の内分泌腺	2
C76-80　部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	95
C81-96　原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	43
C97　独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09　上皮内新生物	4
D10-36　良性新生物	57
D37-48　性状不詳または不明の新生物	151
第3章　血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	70
D50-53　栄養性貧血	21
D55-59　溶血性貧血	2
D60-64　無形成性貧血およびその他の貧血	25
D65-69　凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	8
D70-77　血液および造血器のその他の疾患	12
D80-89　免疫機構の障害	2
第4章　内分泌、栄養および代謝疾患	311
E00-07　甲状腺障害	7
E10-14　糖尿病	95
E15-16　その他のグルコース調節および膵内分泌障害	17
E20-35　その他の内分泌腺障害	7
E40-46　栄養失調(症)	5
E50-64　その他の栄養欠乏症	0
E65-68　肥満(症)およびその他の過栄養〈過剰摂食〉	0
E70-90　代謝障害	180

第5章　精神および行動の障害	21
F00-09　症状性を含む器質性精神障害	2
F10-19　精神作用物質使用による精神および行動の障害	14
F20-29　統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	1
F30-39　気分〔感情〕障害	1
F40-48　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2
F50-59　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0
F60-69　成人の人格および行動の障害	0
F70-79　知的障害〈精神遅滞〉	1
F80-89　心理的発達の障害	0
F90-98　小児〈児童〉期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99　詳細不明の精神障害	0
第6章　神経系の疾患	196
G00-09　中枢神経系の炎症性疾患	14
G10-13　主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	1
G20-26　錐体外路障害および異常運動	14
G30-32　神経系のその他の変性疾患	6
G35-37　中枢神経系の脱髄疾患	1
G40-47　挿間性および発作性障害	92
G50-59　神経、神経根および神経そう〈叢〉の障害	21
G60-64　多発(性)ニューロパチ〈シ〉ーおよびその他の末梢神経系の障害	3
G70-73　神経筋接合部および筋の疾患	5
G80-83　脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0
G90-99　神経系のその他の障害	39
第7章　眼および付属器の疾患	688
H00-06　眼瞼、涙器および眼窩の障害	21
H10-13　結膜の障害	2
H15-22　強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	2
H25-28　水晶体の障害	357
H30-36　脈絡膜および網膜の障害	183
H40-42　緑内障	85
H43-45　硝子体および眼球の障害	35
H46-48　視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52　眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54　視機能障害および盲〈失明〉	0
H55-59　眼および付属器のその他の障害	3
第8章　耳および乳様突起の疾患	51
H60-62　外耳疾患	0
H65-75　中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83　内耳疾患	50
H90-95　耳のその他の障害	1
第9章　循環器系の疾患	2,769
I00-02　急性リウマチ熱	0
I05-09　慢性リウマチ性心疾患	1
I10-15　高血圧性疾患	7
I20-25　虚血性心疾患	960
I26-28　肺性心疾患および肺循環疾患	23
I30-52　その他の型の心疾患	749
I60-69　脳血管疾患	552
I70-79　動脈、細動脈および毛細血管の疾患	451
I80-89　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	22
I95-99　循環器系のその他および詳細不明の障害	4

第10章	呼吸器系の疾患	1,613
J00-06	急性上気道感染症	19
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	647
J20-22	その他の急性下気道感染症	9
J30-39	上気道のその他の疾患	9
J40-47	慢性下気道疾患	142
J60-70	外的因子による肺疾患	477
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	124
J85-86	下気道の化膿性およびえ〈壊〉死性病態	55
J90-94	胸膜のその他の疾患	90
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	41
第11章	消化器系の疾患	1,930
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	365
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	158
K35-38	虫垂の疾患	99
K40-46	ヘルニア	198
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	11
K55-64	腸のその他の疾患	387
K65-67	腹膜の疾患	21
K70-77	肝疾患	112
K80-87	胆のう〈嚢〉、胆管および膵の障害	543
K90-93	消化管系のその他の疾患	36
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	158
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	65
L10-14	水疱症	1
L20-30	皮膚炎および湿疹	2
L40-45	丘疹落せつ〈屑〉〈りんせつ〈鱗屑〉〉性障害	0
L50-54	じんま〈蕁麻〉疹および紅斑	12
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線（非電離および電離）に関する障害	0
L60-75	皮膚付属器の障害	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	78
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	401
M00-03	感染性関節障害	6
M05-14	炎症性多発性関節障害	38
M15-19	関節症	37
M20-25	その他の関節障害	4
M30-36	全身性結合組織障害	22
M40-43	変形性脊柱障害	11
M45-49	脊椎障害	160
M50-54	その他の脊柱障害	50
M60-63	筋障害	27
M65-68	滑膜および腱の障害	4
M70-79	その他の軟部組織障害	10
M80-85	骨の密度および構造の障害	4
M86-90	その他の骨障害	25
M91-94	軟骨障害	1
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	2
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	832
N00-08	糸球体疾患	12
N10-16	腎尿細管間質性疾患	121
N17-19	腎不全	278
N20-23	尿路結石症	194
N25-29	腎および尿管のその他の障害	16
N30-39	尿路系のその他の疾患	172
N40-51	男性生殖器の疾患	34
N60-64	乳房の障害	0
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	1
N80-98	女性性器の非炎症性障害	4
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0
第15章	妊娠、分娩および産じょく〈褥〉	0
O00-08	流産に終わった妊娠	0
O10-16	妊娠、分娩および産じょく〈褥〉における浮腫、たんぱく〈蛋白〉尿および高血圧性障害	0
O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
O60-75	分娩の合併症	0
O80-84	分娩	0
O85-92	主として産じょく〈褥〉に関連する合併症	0
O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第16章	周産期に発生した病態	0
P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
P10-15	出産外傷	0
P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
P35-39	周産期に特異的な感染症	0
P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
第17章	先天奇形、変形および染色体異常	28
Q00-07	神経系の先天性奇形	0
Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	2
Q20-28	循環器系の先天性奇形	6
Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	4
Q50-56	性器の先天奇形	7
Q60-64	尿路系の先天奇形	7
Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	0
Q80-89	その他の先天奇形	2
Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	59
R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	8
R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	18
R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	1
R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	1
R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	1
R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	11
R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
R50-69	全身症状および徴候	17
R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
R83-89	その他の体液、検体〈材料〉および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1
R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	1,253
S00-09	頭部損傷	177
S10-19	頚部損傷	34
S20-29	胸部〈郭〉損傷	75
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	112
S40-49	肩および上腕の損傷	94
S50-59	肘および前腕の損傷	136
S60-69	手首および手の損傷	28
S70-79	股関節部および大腿の損傷	305
S80-89	膝および下腿の損傷	110
S90-99	足首および足の損傷	16
T00-07	多部位の損傷	6
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	6
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	4
T20-32	熱傷および腐食	10
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	28
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	5
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	55
T79	外傷の早期合併症	3
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	45
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	4
第20章	傷病および死亡の外因	0
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
第22章	特殊目的用コード	77
U07	COVID-19	77

診　療　部

―― 2025年 ――

1）内　　科　26
2）循環器内科（カテーテル部門）　33
3）消化器内科　35
4）炎症性腸疾患科（IBD科）　37
5）呼吸器内科　39
6）腫 瘍 内 科　40
7）透析センター（腎不全対策･関連診療科）　41
8）腎 臓 内 科　45
9）糖尿病・内分泌・代謝内科　46
10）脳神経内科　49
11）膠原病リウマチ内科　50
12）小　児　科　51
13）放 射 線 科（診療部）　53
14）救　急　科　54
15）集中治療科　57
16）外　　科　60
17）整 形 外 科　62
18）脳神経外科　65
19）心臓血管外科・心臓血管センター　67
20）形成外科・美容外科　70
21）呼吸器外科　72
22）小 児 外 科　74
23）歯科・歯科口腔外科　77
24）泌 尿 器 科　80
25）眼　　科　81
26）麻　酔　科　83
27）肝臓センター　85
28）皮　膚　科　91
29）婦　人　科　92
30）乳 腺 外 科　93
31）耳鼻咽喉科　95
32）病理診断科　96

1）内　科

病院長　原田　博雅

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

1. 概要

一般内科は、糖尿病や高血圧などの慢性疾患から、急性肺炎、尿路感染症、うっ血性心不全などの、急性疾患まで取り扱っております。現代では、医療の専門性が細分化したことにより、患者様自身で適切な診療科を選択しかねる症状が増えてきました。八尾徳洲会総合病院でも、その地域性により当院には幅広い年代の患者様が様々な症状を訴えられ当院を受診されます。当科ではどの診療科に受診すべきかわからない患者様に対して最初の窓口としての役割を担います。また、一般的な疾患に対しての治療と、循環器科など専門治療への紹介の橋渡しを行います。また、健康診断でいくつかの臓器にわたる異常を指摘され、受診する診療科に困った際にも一般内科を案内させていただきます。

診断のついていない健康問題を抱える患者様 に対して臓器の枠にとらわれない横断的な知識を活かして、幅広い医療を提供することを目標 にしています。臨床の経験に富んだ医師が、診断・治療に難渋する患者様の問題解決に尽力しています。診断の結果専門診療科への紹介が好ましい場合は、院内紹介や他施設への紹介を速やかに行い、対応していきます。

2. 実績

《退院患者数》

◎内　科

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
437	373	418	506	470	391	493	469	494	481	474	576	5,582

3. 今後の目標

常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

1.感染症および寄生虫症(A00-B99)

疾　　病	件	疾　　病	件
敗血症	88	ウイルス感染症	3
(MRSA)	(4)	ニューモシスチス肺炎	3
菌血症	39	丹毒	3
(大腸菌)	(10)	非結核性抗酸菌症	3
(緑膿菌)	(1)	ウイルス性髄膜炎	2
腸炎	33	肺炎球菌感染症	2
(感染性)	(11)	ウイルス性脳炎	1
溶連菌菌血症	10	カンジダ菌血症	1
細菌性腸炎	8	ヘルペス脳炎	1
(偽膜性)	(3)	パルボウイルス感染症	1
レジオネラ肺炎	7	結核性胸膜炎	1
サイトロメガロウイルス腸炎	5	その他	12
帯状疱疹	5	合　計	228

2.新生物(C00-C97)※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	196	膵臓	7
胃	53	悪性中皮腫	5
悪性リンパ腫	25	前立腺	4
転移癌	22	卵巣	4
(脳)	(10)	急性骨髄性白血病	3
(骨)	(8)	膀胱	3
(胸膜)	(2)	悪性軟部腫瘍	2
(肺)	(1)	原発不明	2
結腸	21	後腹膜	2
食道	14	多発性骨髄腫	2
直腸	10	脳	2
乳	10	子宮	1
肝臓	7	その他	6
胆管	7	合　計	408

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物 (D00-D48)

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
結腸腺腫	13	骨髄異形成症候群	4
胃腺腫	12	大腸側方発育型腫瘍	4
十二指腸腺腫	3	脳腫瘍	3
直腸腺腫	3	肺腫瘍	3
盲腸腺腫	2	膵管内乳頭粘液性腫瘍	2
キャッスルマン病	1	その他	12
合　計	34	合　計	28

3.血液および造血器の疾患、免疫障害(D50-D89)※輸血目的の再入院を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
鉄欠乏性貧血	15	大球性貧血	3
(小球性)	(5)	汎血球減少症	2
(出血性)	(4)	悪性貧血	1
急性失血性貧血	11	後天性血友病	1
貧血	8	易感染性	1
好中球減少症	6	播種性血管内凝固	1
IgA 血管炎	4	合　計	53

4.内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	19	低カリウム血症	20
(ケトアシドーシス)	(10)	低血糖	15
(その他の合併症)	(2)	アシドーシス	14
(高血糖高浸透圧症候群)	(2)	高カリウム血症	9
(合併症なし)	(2)	低アルブミン血症	9
Ⅱ型糖尿病	65	電解質異常	7
(合併症なし)	(22)	高カルシウム血症	6
(ケトアシドーシス)	(14)	水中毒	4
(その他の合併症)	(11)	低栄養	4
(多発合併症)	(8)	高ナトリウム血症	3
(眼合併症)	(3)	アミロイドーシス	2
(高血糖高浸透圧症候群)	(3)	バセドウ病	2
(腎合併症)	(2)	副腎皮質機能低下症	2
脱水症	44	その他	13
低ナトリウム血症	40	合　計	278

5.精神および行動の障害(F00-F99)

疾　　病	件	疾　　病	件
急性アルコール中毒	6	うつ病	1
アルコール離脱せん妄	2	解離性障害	1
認知症	2	その他	5
アルコール依存症	1	合　計	18

6.神経系の疾患(G00-G99)

疾　　病	件	疾　　病	件
てんかん	22	ステロイドミオパチー	1
パーキンソン病	10	ミオクローヌス	1
低酸素性脳症	7	多系統萎縮症	1
レビー小体型認知症	4	一過性脳虚血発作	1
ギラン・バレー症候群	2	筋萎縮性側索硬化症	1
悪性症候群	2	脊髄小脳変性症	1
周期性四肢麻痺	2	その他	14
無菌性髄膜炎	2	合　計	71

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	14	回転性めまい	1
(末梢性)	(7)	前庭神経炎	1
(良性発作性頭位)	(5)	合　計	16

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
心不全	522	房室ブロック	37
(うっ血性)	(350)	心房細動	36
(左室)	(121)	陳旧性心筋梗塞	31
(慢性)	(43)	蘇生に成功した心停止	19
(急性)	(7)	虚血性心疾患	18
冠状動脈硬化症	365	冠動脈閉塞症	16
狭心症	313	肺塞栓症	16
(労作性)	(72)	心室細動	13
(不安定)	(70)	洞不全症候群	13
(3枝病変)	(15)	たこつぼ型心筋症	10
急性心筋梗塞	108	無症候性心筋虚血	9
(下壁)	(39)	心膜液貯留	6
(前壁)	(39)	大動脈弁狭窄症	5
(側壁)	(6)	QT 延長症候群	3
(後壁)	(4)	その他	28
虚血性心筋症	87	合　計	1,655

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	13	ワレンベルグ症候群	1
脳出血	2	合　計	16

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	143	深部静脈血栓症	3
(壊疽あり)	(7)	急性大動脈解離	2
重症虚血肢	34	大腸毛細血管拡張症	2
食道静脈瘤	3	オスラー病	1
(出血)	(2)	その他	7
うっ滞性皮膚炎	3	合　計	198

9.呼吸器系の疾患(J00-J99)

疾　　病	件	疾　　病	件
誤嚥性肺炎	437	胸水貯留	19
肺炎・病原体不詳	430	肺炎球菌肺炎	16
(気管支)	(72)	肺膿瘍	11
(大葉性)	(10)	気管支拡張症	10
(閉塞性)	(8)	肺気腫	8
間質性肺炎	121	インフルエンザ菌肺炎	7
(薬剤性)	(11)	急性気管支炎	7
細菌性肺炎	117	膿胸	6
(マイコプラズマ)	(4)	気胸	5
(緑膿菌)	(4)	急性呼吸窮迫症候群	5
(MRSA)	(3)	好酸球性肺炎	4
慢性閉塞性肺疾患	74	化学性肺炎	3
気管支喘息	43	過敏性肺炎	3
(発作)	(16)	急性扁桃炎	3
インフルエンザ	41	扁桃周囲膿瘍	3
(肺炎を伴う)	(5)	その他	19
呼吸不全	31	合　計	1,423

10.消化器系の疾患(K00-K93)

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
逆流性食道炎	9	胃潰瘍	33
食道裂孔ヘルニア	6	(出血性)	(29)
マロリー・ワイス症候群	6	胃ポリープ	4
食道潰瘍	5	胃前庭部毛細血管拡張症	3
(出血性)	(2)	萎縮性胃炎	3
食道アカラシア	2	急性胃粘膜病変	1
食道狭窄	2	出血性胃炎	1
食道通過障害	2	胃食道逆流症	1
十二指腸潰瘍	18	その他	4
(出血性)	(13)	合　計	100

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	57	小腸炎	2
急性虚血性腸炎	29	腸穿孔	2
大腸ポリープ	14	直腸ポリープ	2
消化管出血	12	クローン病	1
イレウス	11	出血性内痔核	1
潰瘍性大腸炎	6	腸腰筋膿瘍	1
直腸潰瘍	5	その他	8
(出血性)	(2)	合　計	151

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
肝硬変	18	肝機能障害	2
(アルコール性)	(6)	アルコール性肝障害	1
(原発性胆汁性)	(4)	肝膿瘍	1
肝不全	5	合　計	27

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
急性胆のう炎	3	慢性膵炎	10
胆石性胆のう炎	1	（アルコール性）	（3）
総胆管結石	48	急性膵炎	8
（胆管炎を伴う）	（16）	（アルコール性）	（2）
急性胆管炎	18	（胆石性）	（1）
閉塞性黄疸	2	合　計	90

11.皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	17	水疱症	1
褥瘡	7	慢性膿皮症	1
じんま疹	3	薬剤性過敏症症候群	1
多形紅斑	2		
頚部リンパ節炎	1	合　計	33

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患(M00-M99)

疾　　病	件	疾　　病	件
横紋筋融解	14	顕微鏡的多発血管炎	3
関節リウマチ性間質性肺炎	6	膠原病	3
ANCA 関連血管炎	6	急性腰痛症	2
関節リウマチ	5	皮膚筋炎	2
関節炎	5	スチル病	2
廃用症候群	5	その他	10
偽痛風	4	合　計	67

13.腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99)

疾　　病	件	疾　　病	件
慢性腎臓病	174	ANCA 関連腎炎	2
尿路感染症	137	腎機能低下	1
急性腎盂腎炎	59	腎梗塞	1
急性腎不全	55	精巣上体炎	1
急性腎障害	10	直腸膣瘻	1
ネフローゼ症候群	4	その他	3
膀胱炎	3	合　計	451

14.先天性奇形、変形および染色体異常(Q00-Q99)

疾　　病	件
常染色体顕性（優性）多発性のう胞腎	1
先天性心疾患	1
合　計	2

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)

疾　　病	件	疾　　病	件
意識障害	7	不明熱	2
喀血	4	異常不随意運動	1
嘔吐症	4	多臓器不全	1
失神	3	その他	6
腰痛症	3	合　計	31

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)

疾　　病	件	疾　　病	件
熱中症	31	消化管内異物	3
急性薬物中毒	29	外傷性くも膜下出血	2
アナフィラキシー	14	マムシ咬傷	1
低体温	8	熱傷	1
頭部打撲傷	8	脳震盪	1
脊椎圧迫骨折	6	異物誤嚥	1
ペースメーカー電池消耗	5	その他	17
一酸化炭素中毒	3	合　計	130

17.特殊目的用コード(U00-U99)

疾　　病	件
COVID-19	74
合　計	74

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

循環器内科は救急医療の最前線で重要な役割を担い、心臓血管外科と連携して 24 時間体制の救急対応を整えています。幅広い循環器疾患の診療を行う中でも、特に虚血性心疾患および末梢動脈疾患の治療に注力しています。

- 虚血性心疾患：冠動脈高度石灰化症例に対する Rotablator や Diamondback といった先端医療機器を駆使した治療を行っており、全国トップクラスの症例数です。また、レーザー光線により血栓やプラークを消失させるエキシマレーザーも導入しております。慢性完全閉塞している複雑病変（CTO）の症例数も十分であり、高い成功率を誇っています。

- 末梢動脈疾患：間欠性跛行を有する下肢閉塞性動脈硬化症に対して積極的にカテーテル治療を行っています。下肢壊疽や潰瘍といった重症虚血肢に対しては形成外科による創傷ケアセンターと協力しながら包括的な診療を実践しています。高度石灰化病変を伴う大腿膝窩動脈病変に対しては新しいデバイス（Jetstream）を新規導入し治療施行しております。ステント内再狭窄（ISR）へはレーザー治療（Turbo Power）も行っています。

- 不整脈：上室性不整脈に対するアブレーションを開始しました。脳梗塞や心不全の原因となる心房細動への治療を中心に行っています。今後はパルスフィールドによるアブレーション（PFA）を導入予定です。

部長の松尾は海外での治療および指導経験が豊富で、海外でのネットワークを生かした活動を行っています。海外からの見学依頼も多数で、国内外の学会発表も積極的に行っています。

2. メンバー構成

松尾浩志（循環器内科部長）・原田貴臣・髙橋圭・田辺悠馬・児玉侑香・熊田博斗・
牧田俊則（不整脈科）・福田貢（総長）

3. 実績

	2023年	2024年	2025年
PCI	737	749	795
末梢血管EVT	251	233	215
経静脈ペースメーカー	9	22	14
リードレスペースメーカー	20	18	32
ローターブレーター	214	221	289
ダイアモンドバック	26	68	59
エキシマレーザー	81	61	70
ショックウェイブ	43	28	31
Jetstream	15	21	16
Turbo Power	−	−	4
アブレーション（EPS含む）	−	−	33（新規導入）

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,868	1,240	1,949	1,912	1,945	1,636	1,845	1,846	1,982	2,057	1,520	2,306	22,106	1842.2

4. 今後の目標

心臓血管外科と連携し、今後増加が見込まれる大動脈弁狭窄症への経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を開始予定です。不整脈部門においては新たにICD、CRTといったペースメーカーデバイスも導入予定です。これまで以上に質の高い、的確な医療サービスを提供し、地域医療に貢献して参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

3）消化器内科

消化器内科　中島　ひろみ

1. 概要

当院の内視鏡室では、2024 年 12 月に改装し、内視鏡検査室内にトイレ 8 個、更衣室 5 部屋を有し、積極的に消化管内視鏡検査・治療を施行しております。希望により鎮静剤を使用し、苦痛の少ない検査を心がけています。また安全を期するため、鎮静アセスメントを使用し、それぞれの患者様の全身状態やリスクを評価し、鎮静剤の投与量を調整したり、検査後の拮抗薬を使用したり、鎮静後アセスメントを行っています。

消化管内視鏡検査としては、上下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、小腸内視鏡検査を行っています。拡大機能の有する内視鏡を常備しており、また患者様の負担軽減のため、大腸ポリープ切除を希望される方は、下部内視鏡検査中に大腸ポリープがあった場合、その場でポリープを切除させていただいています。必要であれば入院で行うことも可能です。

治療としては、早期食道・胃・十二指腸・大腸癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術、食道・胃静脈瘤に対する結紮術や硬化療法、化膿性胆管炎や閉塞性黄疸に対し内視鏡的胆道ドレナージ術や、慢性膵炎に対し内視鏡的膵管ドレナージ術、超音波内視鏡下穿刺手技（EUS-FNA）も行っています。

また、緊急性を有する処置に関しても、内視鏡的止血術・異物除去、内視鏡的胆道ドレナージ術を初めとして、積極的に行っています。内視鏡的に止血ができない症例に対しては、放射線科や外科と連携をとり、迅速に対応を行っています。

日本消化器内視鏡学会の推奨する、日本消化器内視鏡データベースプロジェクト（JED：他施設共同研究事業）にも参加しています。

その他内視鏡室では、安全な検査・治療を行うためにスコープ・処置具の洗浄消毒への取り組みに力を入れています。

2. メンバー構成

医長	中島　ひろみ	日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会専門医
	櫻井　史歩	日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
	羽鳥　葵	日本内科学会認定専門医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医

3. 実績（1 月～12 月）

内視鏡業務	
上部消化管内視鏡検査	5,719
下部消化管内視鏡検査	2,927
小腸内視鏡検査	16
内視鏡的止血術	197
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術（EIS・EVL）	16
内視鏡的異物除去術	17
内視鏡下ステント留置術	38
内視鏡下イレウス管留置術	45
消化管バルーン拡張術	13
内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）	361
内視鏡的粘膜下層剥離術（上・下を含む）	118
内視鏡的大腸ポリープ切除術	1,346
超音波内視鏡／超音波内視鏡下針生検	68／28

4. 今後の目標

患者さまに対し、より苦痛の少ない検査、質の高い検査・治療を目指していきたいと考えております。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

4）炎症性腸疾患科（IBD 科）

炎症性腸疾患科　消化器内科部長　西村　東人

1. 概要

- 当院の炎症性腸疾患外来は、2012 年に設立された。2022 年 3 月までは非常勤で岸和田徳洲会消化器内科医師が週に 1 度の専門外来を担当していた。
- 2022 年 4 月から高砂西部病院消化器 IBD 内科の西村が、炎症性腸疾患外来を引き継いだ。
- 2025 年 1 月に高砂西部病院の西村が当院の常勤医となり、炎症性腸疾患科（IBD 科）を標榜した。水曜木曜の炎症性腸疾患科外来（予約制）と、金曜の IBD 患者内視鏡検査を担当している。

2. メンバー構成

常勤医：　西村　東人　炎症性腸疾患科　消化器内科部長

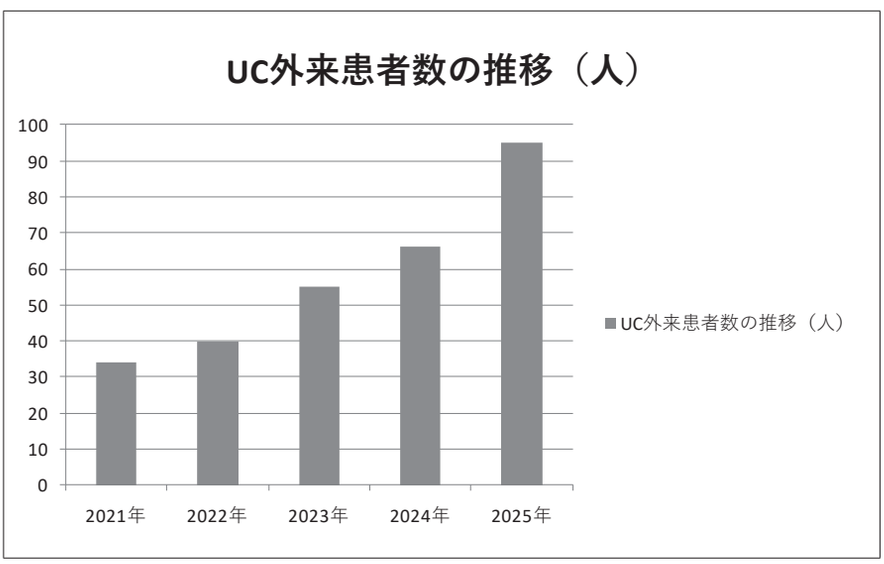
非常勤医：前本　篤男　札幌東 IBD センター長

3. 実績

《表①》

西暦	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
UC外来患者数の推移（人）	34	40	55	66	95
前年からの新規患者増加数		6	15	11	29

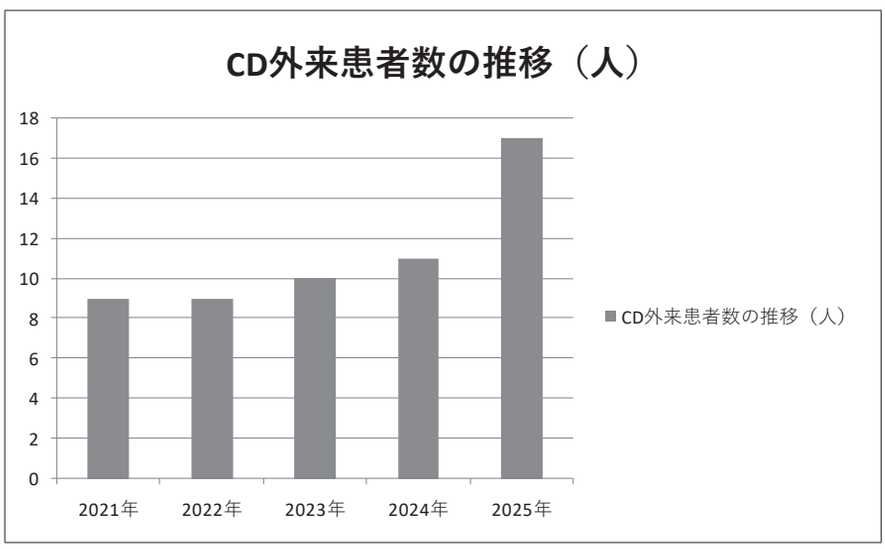
《グラフ①》



《表②》

西暦	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
CD外来患者数の推移（人）	9	9	10	11	17
前年からの増加数		0	1	1	6

《グラフ②》



4. 今後の目標

- 本邦の IBD 疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）は増加の一途であり、新たな治療薬も近年数多く登場しているが、診療を担う専門医師は不足している。多くの施設では消化器内科医師が診療を担当しているが IBD 診療のプライマリーを習得する機会には恵まれないのが現状である。中河内地区で IBD の専門外来を有する基幹病院として、その役割を果たせるように 2 年目の 2026 年も続けて研鑽をしていきたい。
- 地域の IBD 患者さまが医療格差のない適正な標準治療をうけられるように、医療講演や連携会議を開いて中河内地区での地域連携を促進させる。
- 炎症性腸疾患の専門外来を担当する新たな医師の育成・発掘に努める。
- カンファレンスや症例を共有することで消化器内科医師との連携を深める。
- 外来看護師、薬剤師、MSW、医事課、他科医師など、他職種との連携を深め、スタッフが充実すれば将来は IBD センターを設立して、当院の IBD 診療をより活性化させたい。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

5）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にありましたが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは2016年の4月からとなります。肺癌に関しては、腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務も行っております。2018年4月からは濵口眞成医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的に行っております。

2020年以来の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当科と集中治療部を中心に中等症・重症患者の診療を担っています。特にICUでは、人工呼吸管理だけではなくECMO管理も含めた集中的治療を行っております。

2. メンバー構成

院長　　原田　博雅　日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器専門医
　　日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器学会指導医・専門医
副院長　石原　英樹　日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
医員　　伊藤　力
医員　　原田　祥子　日本内科学会総合内科専門医

3. 実績

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
618	484	564	597	586	539	683	538	633	694	582	659	7,177	598

4. 今後の目標

現在、中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

6）腫瘍内科

腫瘍内科部長　瓜生　恭章

1. 概要

- 腫瘍内科は常勤医師１名、非常勤医師１名による体勢が継続しています。
- 呼吸器腫瘍は呼吸器内科医の協力が得られる症例も増えてきています。
- 血液腫瘍は血液内科不在の状況が継続しておりますが、来年度から常勤が加わることで化学療法の幅が広がると考えられます。
- 腫瘍内科本来の臓器横断的な治療介入が難しい現状は継続しています。
- 消化器外科、呼吸器外科、肝臓センター、泌尿器科の先生方に協力を得て固形癌に対する化学療法を行っております。
- 当院には抗がん剤に精通したがん専門薬剤師が３名、及びがん薬物療法認定看護師２名が在籍しており、質の高いがん薬物療法を行うことができています。
- 呼吸器腫瘍に関しては、全国徳洲会呼吸器部会で行っているカンファレンスを通じて、治療介入が難しい症例の検討を行い、適正な標準治療が行えるように努力しています。
- 呼吸器外科との連携がよく、周術期化学療法も積極的に行っていく方針です。
- 学会活動にも積極的に参加、徳洲会 Real World Data を解析した論文を発表しました。

2. メンバー構成

瓜生　恭章（部長）　資格　日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
専門分野　各種固形がん（肺がん）

洪　鉉寿（非常勤医師）　資格　日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医、日本血液学会専門医
専門分野　各種固形がん（肺がん、大腸がん、胃がん、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
184	191	191	194	184	207	213	194	209	231	179	192	2,369	197.4

4. 今後の目標

市中病院でも標準治療を行えるように今後も努力していきます。
がん薬物療法を受ける患者さまが安心して加療ができる環境を維持していきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

7）透析センター（ 腎不全対策・関連診療科 ）

透析センター長　申　勝

1. 概要

2025 年は、常勤医師 3 名・非常勤医師 4 名の診療体制となっています。また、看護師（15 名）、薬剤師（兼任 3 名）、臨床工学技士（兼任 4 名）、管理栄養士（兼任 3 名）、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 100 名の透析患者さまの対応をしています。

センター関連の総入院患者数は継続して増加の方向にあり、昨年のべ 1,247 例の内訳は男：女＝ 2.6：1, 平均年齢；74.5 歳 , 糖尿病有病率；58.6％ , 年間救急搬送率；53.1％（662 件）でした。特に 75 歳以上の後期高齢者は、総入院患者数の 60.5％と 6 割以上を占め、救急搬送率；59.5％と更に増加しました。内科系：外科系＝ 1.75：1 と、内科系入院が全体の 63.7％を占めています。2019 年末から世界的流行の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対しては、他施設や行政との緊密な連携の上で、地域の診療体制継続と感染拡大防護に多職種で徹底して取り組んでいます。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2025 年 12 月末までに 71 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で PD 終了者と他施設の通院患者を除く 7 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。腎移植については、専門外来の開設準備として腎移植委員会を 2021 年 10 月に立ち上げました。経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。

2016 年より風水害対策としての地域防災連携協議会を当院でも開き、臨床工学技士を中心に多職種チームとして活動しています。万一の災害時には、迅速に広域的に展開していく方針です。大阪府中河内地域における救急搬送腎不全患者の動向について、当院の臨床工学技士が『大阪救急第 111 号』にて掲載報告しています。前年より担当医師の交代がありましたので、下記をご参照ください。

2. メンバー構成：－ 2025 年－透析センター診療担当医師

血液透析主担当：申　勝　　（血管・透析科）
腹膜透析主担当：森　ちさこ（腎臓・免疫科）
集中治療室担当：石原　英樹（ICU・呼吸器科）
循環器診療担当：福田　貢　（循環器内科）
糖尿病診療担当：植田　秀樹（糖尿病内科）
透析室支援担当：岩嶋　和子（内科・非常勤）
透析室支援担当：笹脇　利久（内科・非常勤）
病棟管理主担当：未登録　　（免疫・膠原病科）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
694	630	666	675	573	668	686	649	669	705	660	728	8,003	666.9

《透析センター月別患者数》（2025 年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
透析患者数（月平均）	90.9	88.5	89.3	84.4	82.0	79.1	82.5	84.1	86.1	80.0	89.4	86.7	1,023	85.3
新入院数	112	90	111	87	86	91	106	111	114	105	113	121	1,247	103.9
新規導入数	4	6	2	4	5	4	5	6	3	3	7	5	54	4.5
CAPD開始数	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0.3
ｼｬﾝﾄ手術数	9	5	6	4	11	9	3	6	8	6	7	11	85	7.1
PDカテ留置数	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	5	0.4
死亡者数	6	4	2	3	5	1	2	5	1	3	2	3	37	3.1

注 1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2：新入院数は透析センターに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数）》（2025 年）

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病ﾘｳﾏﾁ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	88	147	294	42	1	195	5	12	10	794

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形A(ﾘｳﾏﾁ)	眼・耳・歯	形成(末梢)	合計
科別人数	74	9	55	67	63	24	51	31	79	453

注 4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

令和7年度(2025年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の入院患者（～19歳の入院なし） 249名(20.0%)	65歳～75歳未満の入院患者（前期高齢者） 243名(19.5%)	75歳以上～の入院患者（後期高齢者） 755名(60.5%)	透析センターに紹介された全ての入院患者を対象（外来 or 紹介） 1,247名(100.0%)
男女比(男：女)	5.7：1	2.4：1	2.1：1	2.6：1
平均年齢	54.6歳	70.7歳	82.3歳	74.5歳
救急搬送率	42.6%	44.0%	59.5%	53.1%
糖尿病の有病率	65.1%	61.3%	55.8%	58.6%
ICU の入室率	10.4%	21.8%	15.4%	16.4%
緊急透析の有無	8.0%	13.2%	8.2%	9.2%
入院中 手術あり	34.5%	27.6%	25.6%	27.5%
入院中 カテあり	21.7%	23.1%	19.6%	20.7%
死亡率 入院時から一週間(168時間)	3.6%	1.7%	6.0%	4.7%

内 科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病内分泌代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外 科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管心臓血セ 67
形成外科美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯 科歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼 科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96

《年齢血液浄化表》

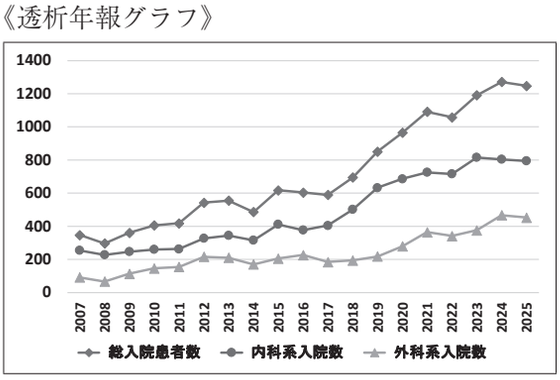
令和7年度(2025年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の 入院患者 (～19歳の入院なし) 249名	65歳～75歳未満の 入院患者 (前期高齢者) 243名	75歳以上～の 入院患者 (後期高齢者) 755名	透析センターに 紹介された 入院患者(全体)を 対象(外来 or 紹介) 合計1,247名
緊急HD(初回時)	13	17	44	計74件
緊急CHDF(初回時)	7	9	18	計34件
CHDFの年間全件数 (緊急/ICU/術後etc.)	13	18	43	計74件(のべ662回)
エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP)	1	0	2	計3件(のべ4回)
血漿交換(PE)	1	0	4	計5件(のべ50回)
ビリルビン吸着療法	1	1	0	計2件(のべ4回)
LDLアフェレーシス	3	5	5	計13件(のべ126回)
血球吸着療法 (LCAP、GCAP)	2	0	0	計2件(のべ8回)

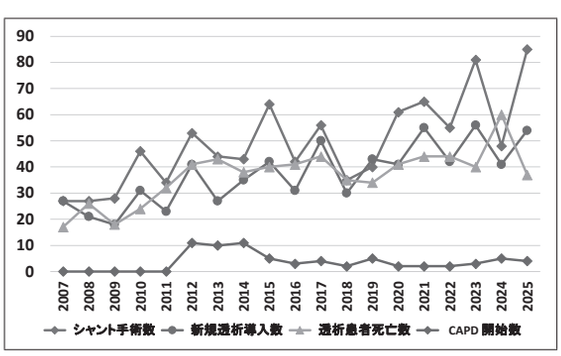
《病院全体での比較》

令和7年度(2025年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	病院全体での 年間入院患者 (医事課の集計より) 12,351名(100%)	病院全体の年間 救急搬送後入院 (病院全体の41.0%) 5,059名(100%)	透析センター関連の 年間入院患者 (病院全体の10.1%) 1,247名(100%)	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 (病院全体の5.4%) 662名(100%)
男女比(男:女)	1.4:1	1.2:1	2.6:1	2.3:1
平均年齢(歳)	71.6歳	76.5歳	74.5歳	76.7歳
内科系入院数	6,437名(52.1%)	3,826名(75.6%)	794名(63.7%)	442名(66.8%)
外科系入院数	5,914名(47.9%)	1,233名(24.4%)	453名(36.3%)	220名(33.2%)

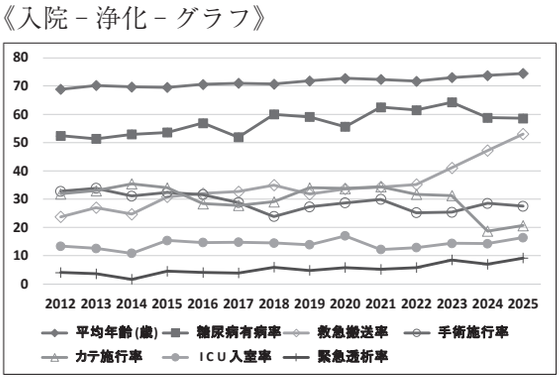
【病院救急搬送数】年間 11,938 件 (月平均 995 件)

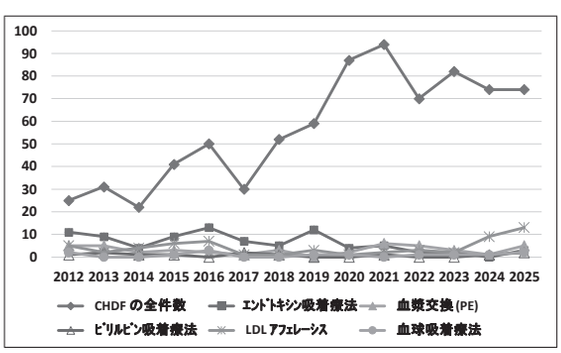
《透析年報グラフ》





《入院－浄化－グラフ》





《透析センター当番医待機表（2025 年)》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	岩嶋	笹脇	申	申
午後	森	申	申	森	森	申
休日	申 （森）	申 （石原）	岩嶋 （申）	笹脇 （申）	申 （森）	申 （福田）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように一層の基幹施設整備を行います。腎移植実施に向けて徳洲会グループの湘南鎌倉総合病院と連携し、2021 年から準備を開始しています。また、地域の腎不全患者の－新規透析導入･入院加療･災害対策－の総合施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（申　勝）

若い人から高齢者までの幅広い年齢の患者さまに、腎移植と腹膜透析を含めた適切な治療選択を提供して参りたいと考えています。腎不全治療の 3 本柱（移植・血液透析・腹膜透析）を基礎とし、グループ病院の特性を生かし、今後の高齢化・独居の患者さまにも対応したいと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（森ちさこ）

本邦では透析を行うべき疾患や対応すべき災害が年々増大しており、現在の対策は限界に近づきつつあります。八尾市周辺で急性期対応できる施設は当院を含めて一部に限定されますが、今後は他施設と連携して拡充した地域対策を行います。血液透析という治療が標準となる様に早期に実現したいと考えています。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（岩嶋・笹脇・福田）

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

8）腎臓内科

腎臓内科医長　森　ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者さまも引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。

最大の特色は腹膜透析の導入･施行をしていることです。検尿異常から発見される腎炎（IgA 腎症・ANCA 関連血管炎）も診断・早期治療に尽力しています。腎炎から慢性腎不全と幅広く対応させていただいております。透析に至らないことが目標ですが､残念ながら腎不全に至った場合でも当院では療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森　ちさこ（医長）

日本内科学会認定医・日本透析学会専門医・日本腎臓学会員

外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
271	277	280	287	290	263	338	289	293	339	269	325	3,521	293.4

3. 今後の目標

近年の傾向として、糖尿病性腎症を主とした腎不全、腎硬化症の患者様が増えています。腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と 3 つの治療法を提案していきたいと思います。腎炎の患者様も積極的に診ております。検尿異常からの早期発見に力をいれています。腎生検による診断、ステロイド治療をしていきます。中河内地域に多い ANCA 関連血管炎も多く診させて頂いています。難病指定医ですので､医療費に関わる申請をさせていただきます。

また多発性のう胞腎を積極的に診察しています。難病申請により医療費を軽減したうえで、進行抑制できるトルバプタンの認定医であるため導入が可能です（導入には 1 泊入院が必要）。開業医の先生方には、疑わしい症例がありましたら、また腎機能障害の方がいらっしゃれば御紹介頂けると幸いです。可能な限り当日紹介も診させて頂きます。

9）糖尿病・内分泌・代謝内科

糖尿病代謝内科部長　石橋　里江子

1. 概要

当科は2025年8月1日より、新設された西外来に内分泌内科も含め集約する運びとなりました。糖尿病の新しい病名への動きもふまえ、ダイアベティスケアセンターとして新たに始動しています。

糖尿病領域は新規薬剤の登場が相次ぐ一方で以前にもまして基本となる食事療法と運動療法が重要視されています。個々の患者さまをよく観察し、有効性と安全性を両立する治療を目指してチーム医療を展開しています。2025年にはこれまで培ったチーム医療を土台に肥満症治療もスタートさせました。今後も保険診療の枠組みにおいて減量治療に安心して取り組める環境を提供してまいります。また、1型糖尿病を含むインスリン治療者の増加に伴いCSII（持続皮下インスリン注入療法）ならびにCGM（持続グルコースモニタリング）もそれぞれ複数の選択肢をご用意しました。

例年通り、糖尿病教室は公開医療講座として2月と8月を除き月2講演ずつハイブリッド形式で行いました。11月14日には当院で8回目となる世界糖尿病デーの院内イベントを開催しました。

今後も地域の先生方のご協力のもと、患者さんの健康を支える活動を続けてまいります。

2. 糖尿病ケアチーム構成メンバー　　★日本糖尿病学会専門医　○糖尿病療養指導士

【常勤医師】　★石橋里江子　髙原良典（総合診療部部長）　★植田秀樹　★堀川慶子　★羽鳥広隆

【診療看護師】　髙橋博之

【保健師】　○酒井菜穂子　○藤井安希子　○西村千恵　大谷康仁　牧田美奈　魚田緋那

【薬剤師】　○坂野千賀　○森田亜記　○栗野大輔　小田麻優子　横田悠之佑　磯部尚輝　川崎梨紗子　奥谷麻衣　世良愛絵　森田名美

【理学療法士】　○服部玄徳　西田知哉　植田健斗　西本大海　山内明日香

【管理栄養士】　佐藤友亮　坂本美紀子　八坂陽菜　篠田歩実　尾鼻千波　関楓子

【臨床検査技師】　○髙津美乃里　大前裕也　戸野川始　○松村知里　上紺屋利則　山尾克樹

【臨床心理士】　宮坂なつ花　藤原恭子　田原一樹

【看護師】　井本ユミ

【医事課】　冨安里奈　寺田将彰　五十嵐稀吏

3. 実績

1）外来患者件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
糖尿病	683	585	648	705	739	760	814	656	679	748	580	679	8,276
内分泌	114	139	165	90	80	107	106	101	94	123	99	137	1,355

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

2）入院担当件数　500 件／年（主科 141 件含む）

3）『世界糖尿病デー（WDD） inYAOTOKU』 2025 年 11 月 14 日（金）

延べ参加者 228 名

場所：八尾徳洲会総合病院　1 階西外来　他

- 糖尿病内科医師による相談
- 保健師によるフットチェック、フットケア
- 管理栄養士による献立シミュレーション
- 理学療法士による運動相談、InBody 測定
- 薬剤師による血糖測定
- 検査技師による血管年齢測定
- 臨床心理士による糖尿病川柳
- ポスター、パンフレット展示

4）糖尿病教室　（公開医療講座）

場所：八尾徳洲会総合病院　南館 3 階　第 1 会議室　ハイブリッド開催

日付	テーマ	担当	講師	聴講人数
1月21日	糖尿病と歯周病	歯科医師	占部　一彦	18
	よく噛んで健康的な食生活を ～オーラルフレイルの予防～	管理栄養士	坂本　美紀子	19
3月21日	血糖値　測ってみよう、考えてみよう	薬剤師	坂野　千賀	19
	小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	医療 ソーシャルワーカー	三谷　勇一	18
4月18日	血糖値はホルモンで動いている ～インスリンとインクレチンのひみつ～	糖尿病内科医師	石橋　里江子	33
	糖尿病食事療法の基礎・応用	管理栄養士	佐藤　友亮	31
5月16日	糖尿病の薬について　～内服～	薬剤師	栗野　大輔	26
	運動療法の基本と最近の話題	理学療法士	服部　玄徳	27
6月20日	検査データについて ～糖尿病連携手帳に沿って～	臨床検査技師	戸野川　始	24
	糖尿病合併症およびその検査について	糖尿病内科医師	植田　秀樹	24
7月18日	災害への備え	総合診療部医師	髙原　良典	24
	糖尿病とこころ	臨床心理士	田原　一樹	24
9月19日	運動と食事療法	管理栄養士	八坂　陽菜	23
	運動療法実践編 ～有酸素運動について～	理学療法士	服部　玄徳	23
10月17日	糖尿病の薬について　～注射～	薬剤師	栗野　大輔	27
	糖尿病と足のケア	保健師	牧田　美奈	27
11月21日	糖尿病性網膜症	眼科医師	米田　貴博	20
	糖尿病の検査データの見方 JADEC連携手帳に沿って	臨床検査技師	山尾　克樹	21
12月19日	最も糖尿病が増悪しやすい この時期の過ごし方	診療看護師	髙橋　博之	19
	運動療法実践論 ～レジスタンス運動について～	理学療法士	植田　健斗	20
			合計	467

4. 今後の目標

1）スタッフにとって満足度の高い職場環境の整備

2）チーム医療に精通したスタッフの育成

3）専門医・療養指導士など資格取得の推進

4）先進医療の導入と安全な運用

5）病診連携を通じた地域医療への貢献

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

10）脳神経内科

脳神経内科部長　辰己　新水

1. 概要

脳神経内科疾患全般を扱っております。

2. メンバー構成

常　勤：辰己　新水

非常勤：辻　浩史

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2025 年 1 月～2025 年 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	49	筋疾患	6
感染性神経疾患	23	神経筋接合部疾患	3
代謝・中毒性神経障害	19	末梢神経障害（脳神経障害を含む）	18
てんかん・けいれん	48		

4. 今後の目標

常勤医一人の体制でご迷惑をおかけするかもしれませんが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

11）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

当診療科は 2008 年 5 月に発足した診療科で、18 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスなど膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病等の免疫異常症、更に不明熱も診療しています。診断が困難な患者さまもご紹介ください。

治療法として有効な生物学的製剤（バイオ製剤）、あるいは JAK 阻害剤も診察室近くで行われ、安心して治療を受ける事が出来ます。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、理学療法士、そして医師事務作業補助者のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者さまに「安心して生命を任せられる医療」を提供できるよう日々精進しております。毎日、専門医が診察しておりますので、患者さまは当診療科を安心し、信頼して頂いたうえでご受診くださっていると考えております。

診療担当医と外来診療日

吉崎　和幸（非常勤）　：毎週水曜日（午前 9：30 ～ 12：00）

八木田　正人（非常勤）：毎週水曜日・金曜日（午前 9：00 ～ 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者さまが増加し、周辺の医療機関にもその存在が定着しています。

膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療、JAK 阻害剤を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者さまの満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者さまのほぼ全員が安心して当院での治療を継続しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、以前は離れた大阪市内の病院あるいは大学病院に通院していた患者さまが、当院へ受診するようになっております。

《外来患者数》

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
合計	3,126	3,392	3,432	3,208	3,203	2,712	3,408	3,830	3,986	4,700	4,652

4. 今後の目標

今後も専門の学会・研究会に出席し、また内外の医学雑誌により新しい知識を得て、患者さまにとって安心安全のより有効な最新医療を提供できるよう努めて参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

12）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

小児科としては多職種連携と情報交換の為に月１回院内小児科委員会を開催し、種々の問題に対応し、最新の小児情報を共有しています。また大阪府発達障がい対応登録施設に登録しています。アレルギー学会準教育施設登録施設としてもアレルギーの勉強のできる対応を心がけております。

当院の JCI 等認定に相応しい診療を行っています。

2. メンバー構成

一般外来の他、発達とアレルギー、心身症について石垣は月曜から土曜まで外来を行い併存疾患への対応も心がけています。午後は予約診療です。アレルギー学会専門医や子どもの心の相談医、ICD（感染対策）等の資格を取得し、多岐にわたる患者の診療を続け、入院患者も受けいれています。

また大阪医科薬科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第１、３金曜午後)、土曜は小武内先生（女性医師)、小児神経も土曜ほぼ毎週七里先生が担当しています。神原先生は火水の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行っています。予防接種は月曜日午後に行っています。第３金曜午後に乳児健診も行っています。小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。石垣は成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法やアレルギー相談を中心として診療を行っています。

3. 実績

アフターコロナであっても感染症対策が必要とされる現状に対しては､外来レイアウトの他、感染対策に留意し､通常外来運営を維持できるよう努力しています。隔離室は２部屋あります。

入院の受け入れは肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。起立性調節障害では現在点滴療法の検討が盛んに行われています。当科でもある程度対応しています。また引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士がカウンセリングや心理治療を行っています。大阪府発達障がい支援施設の登録施設になったこともありコロナ後の対応に努力しています｡中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市や柏原市とも連携しています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるモコモコ病児保育室があり、保育師とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児、病後児）のケアを年間 1,000 人以上受け入れています。今年度は、さらに感染対策と受け入れ体制に工夫をしながら、できるだけ安全安心の病児保育受け入れをできるよう努力されています。院内の看護師､医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。

参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓発活動をしています。

ほかに石垣は奈良リハビリテーション専門学校の小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り、感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室と AST,ICT、地域連携と新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。

微力ながら小児外科患者様の必要時対応や、症状による評価後他科 consult を行い院内協力も行っています。中河内地区のみならず重症者や稀少な疾患、悪性腫瘍、膠原病、先天疾患等は大阪市内、藤井寺等のセンターや大学病院、規模の大きい小児科との紹介連携も行っています。

徳洲会グループとしても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。学会発表や講演会座長などもわずかながら行われています。日本小児臨床アレルギー学会や地域の小児科研究会、大阪小児科医会等での活動は目立たないながらもこつこつ行われています。

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
654	620	714	602	702	633	720	603	554	748	922	732	8,204	683.7

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させ、新しい情報を保護者様たちの為にも役立てたいと考えています。JCI 等の基準に対応し、PEWS の運営も開始予定です。また、大阪医科薬科大学の新田先生による PALS 院内講習会も開催予定です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

13）放射線科（診療部）

放射線科　兵藤　公一

1. 概要

放射線科ではCT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィーと一部の単純撮影の読影。一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影とIVR、放射線治療を主に担当しています。各診療科や近隣の病院、診療所と連携し、各種画像診断、IVRや放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR部門：常勤医3名（岩崎聖　兵藤公一　甲川佳代子）
非常勤10名
放射線治療部門：常勤医2名（梶谷千香枝 板谷貴好）　非常勤2名

3. 実績

①読影件数　CT、MR、RI、UGI 約47,533件/年、マンモグラフィー約1,986件
② IVR件数　40件（血管内塞栓術、B-RTO　など）
③放射線治療（新患人数）163人/年

4. 今後の目標

画像診断・IVR部門では、CTの読影件数増加が著しいです。

放射線治療部門では、2024年末にVARIAN True Beamに機器更新され、定位放射線治療が可能になりました。2025年10月より常勤の放射線治療専門医が2名体制になったことにより、IMRT（強度変調放射線治療）の提供が可能となりました。引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。

日本医学放射線学会専門医修練機関に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

14）救急科

救急センター長　村尾　佳則

1. 概要

当院は 455 床の急性期病院として、中河内地区を中心とした年間 10,000 件以上の救急搬送を受け入れています。「断らない医療の実践」のため、24 時間を通して対応できる体制をとっており、2025 年の救急車搬送件数は病院の各部所の協力により 11,938 件を受け入れました。「命だけは平等だ」のスローガンのもと救急患者を助けよう、なんとかしようとする病院全体の努力の賜物であります。満床のための受け入れお断りを減らすために当院は増築中で 2026 年 3 月には ICU20 床、HCU30 床、感染症病床 26 床を含め 475 床の急性期病院となります。将来的に救命救急センターを目指す HCU 病棟には感染対応可能な個室を用意しております。

近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っています。また、新型コロナ感染症に対する緊急事態宣言や発熱患者の増多に対し、発熱対応エリアを作成し通常疾患患者とエリア分けして初期対応にあたってきました。また感染症対応ベッドの追加整備により感染症対応可能な病院となります。

救急科専門医養成基幹施設に登録：八尾徳洲会総合病院は中河内地区の 2 次医療機関であるが、2023 年度より救急科専門医の専攻医募集を始めました。プログラムの特徴は、3 次医療機関である岸和田徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、宇治徳洲会病院、2 次医療機関として北野病院と野崎徳洲会病院を含む徳洲会グループの施設に加えて 3 次医療機関の大学病院の基幹施設として奈良県立医科大学高度救命救急センター、近畿大学病院救命救急センター、さらに国立病院機構大阪南医療センター、共愛会病院、名瀬徳洲会病院、徳之島徳洲会病院を連携、関連施設としています。

2. メンバー構成

村尾　佳則　　救急センター長

救急科専門医・指導医、外科専門医・指導医、熱傷専門医、外傷専門医、社会医学系専門医・指導医、日本 Acute Care Surgery 学会　ACS 認定外科医、日本救急医学会功労会員、日本外傷学会名誉会員、第 32 回日本外傷学会会長（2018 年）、日本熱傷学会名誉会員、第 46 回日本熱傷学会会長（2020 年）、日本腹部救急医学会特別会員、日本臨床外科学会評議員、日本臨床救急医学会評議員、日本 Acute Care Surgery 学会評議員、日本ショック学会評議員、日本災害医学会評議員、近畿外科学会特別会員、臨床研修指導者、救急科専門医プログラム統括責任者、日本 DMAT 隊員、日本 DMAT 統括

海外：ISS/SIC,IATSIC member, American Association for the Surgery of Trauma (AAST), Shock Society（米国）member

濵口　眞成　　医長

救急科専門医、呼吸療法専門医、内科学会認定内科医、日本 ECMOnet 協力者

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

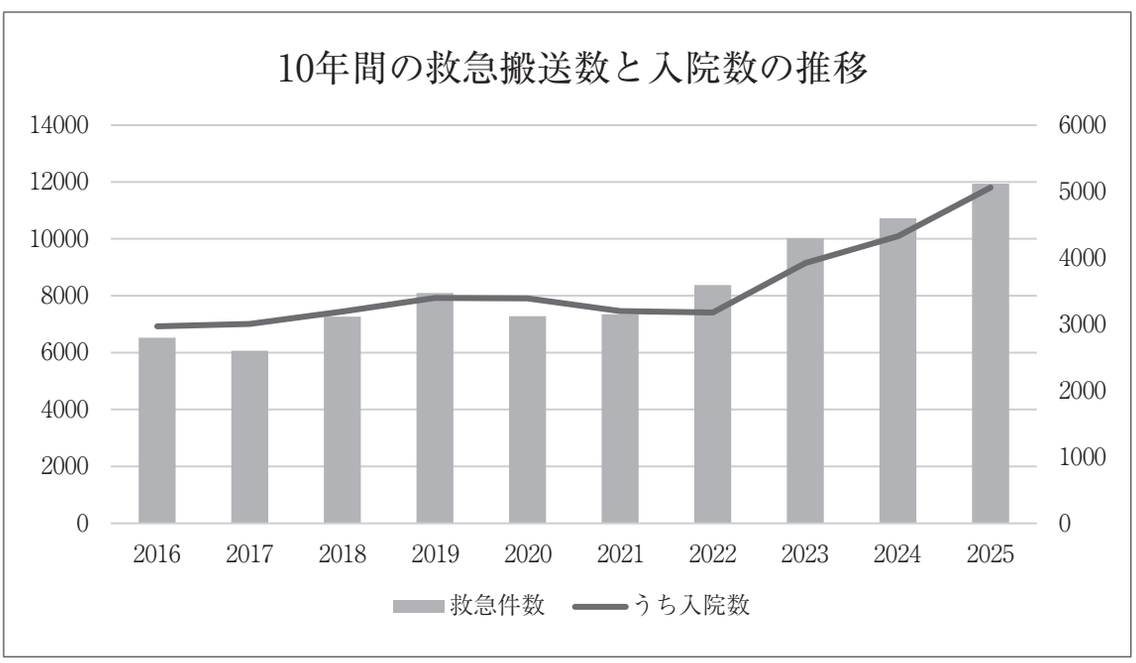
松岡　信子　　救急総合診療科（救急科）兼外科医長
日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、
JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー、
マンモグラフィー読影認定医、緩和ケア研修会受講

大津　周　　救急科専攻医
外科専門医、消化器外科専門医、消化器内視鏡専門医、がん治療認定医、
消化器がん外科治療認定医

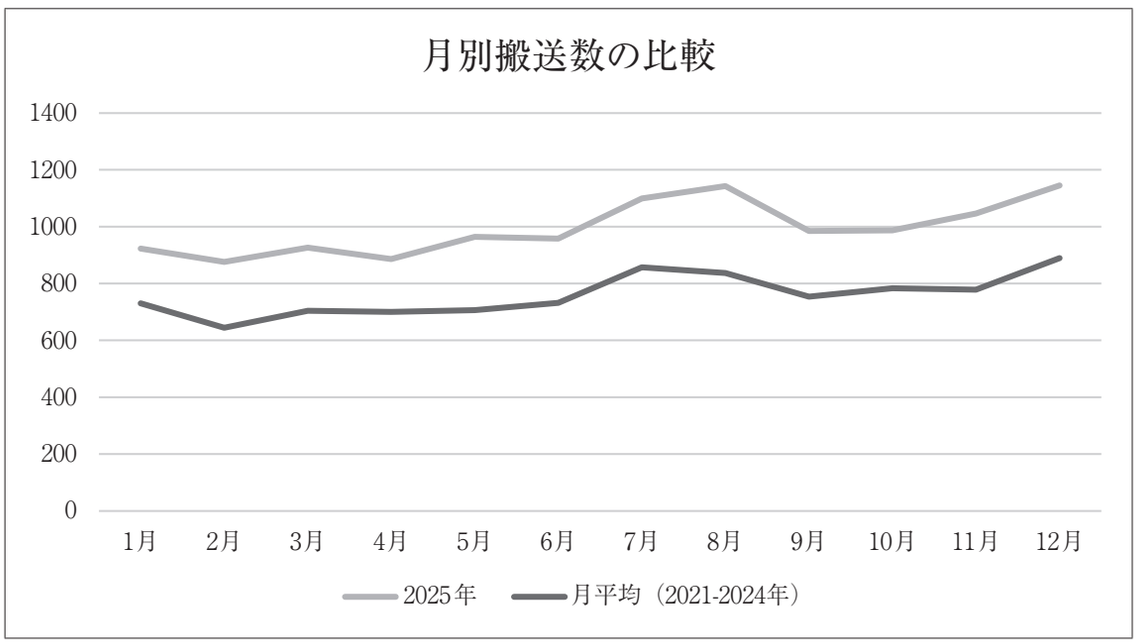
野間口　侑基　救急科専攻医
外科専門医

3. 実績

救急搬送数は新型コロナ感染症が 2023 年 5 月に 2 類から 5 類に引き下げられたこともあり、2024 年に引き続き搬送数が増加。コロナ病床は感染状況により縮小しました。



また月別搬送数において、年々増加傾向にあり、やはり年末の搬送数が増加しました。過去 10 年間の月平均数よりも大幅に増加しています。



なお、ここでいう救急搬送数は、当院 2 階救急外来で受け入れし診察した件数です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
搬送数	923	876	926	886	964	958	1,099	1,143	985	987	1,046	1,145	11,938
外傷搬送	226	207	249	253	273	251	267	307	258	300	301	339	3,231
紹介搬送	91	91	97	92	93	89	95	81	96	98	93	114	1,130
CPA搬送	38	28	26	14	22	15	23	21	8	27	29	25	276

上記のように毎月約 10％の病診連携を通して他病院から各科への紹介救急搬送の初期対応を救急外来で行っています。

心肺停止症例は毎月約 20 例搬送されており、VF 症例に対しては循環器内科と連携した体制をとっています。また、蘇生後低酸素脳症に対し、積極的に脳低温療法を取り入れるようにしています。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供するとともに、初期研修病院として研修医教育の充実、また救急科専攻医枠も 2 人と増加し今後は専攻医の育成さらに地域のメディカルコントロール体制を充実することにより中河内地区の救急災害医療の改善に努める所存です。

また年々救急搬送件数が増加傾向にあり、当院は増築中で 2026 年 4 月には病床数は 475 床となり、ICU、HCU、感染症病棟を完成させる予定であります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

15）集中治療科

1. 概要

1）集中治療科

当院集中治療科は、救急医療および高度急性期医療を支える部門として重症患者の集中管理を担っている。ICU のタイプとしては general ICU であり、ER ICU（救急）、surgical ICU（外科系）、medical ICU（内科系）、さらに循環器集中治療を担う CCU としての機能を併せ持つ形で運用されている。

ER ICU としては重症急性呼吸不全（ARDS：急性呼吸窮迫症候群、ILD-AE：間質性肺疾患急性増悪など）、敗血症性ショック、心停止後症候群、急性腎傷害、急性薬物中毒、重症熱中症、代謝性疾患（糖尿病性ケトアシドーシスなど）などの症例を中心に受け入れている。

また surgical ICU として心臓血管外科、消化器外科、肝臓外科、脳神経外科、形成外科、呼吸器外科、口腔外科、小児外科などの術後重症患者の管理を行っている。さらに院内急変症例の受け入れも行い、medical ICU としての役割も担っている。

当院心臓血管センターとの密接な連携のもと、多数の重症循環器疾患患者の管理も行っており、CCU としての役割も重要な位置を占めている。運用形式としてはいわゆる semi-closed ICU であり、専従集中治療医が中心となり、各診療科と協力しながら診療を行っている。

2026 年度には集中治療体制のさらなる強化を目的として、ICU は従来の 8 床から 20 床へと増床され、より充実した集中治療体制の構築が進められている。

当集中治療室は引き続き特定集中治療室管理料 1 の施設基準を満たし、日本集中治療医学会認定専門医研修施設および日本専門医機構認定集中治療科専門医養成の基幹施設として運用されている。また日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設としても認定されており、集中治療専門医および呼吸療法専門医の育成を担っている。

2）重症新型コロナウイルス感染症と日本 ECMOnet

2020 年以降の新型コロナウイルス感染症パンデミックにおいて、当院は大阪府の重症患者受入医療機関として多数の重症例を受け入れ治療に当たってきた。現在までに多数の人工呼吸管理および ECMO（extracorporeal membrane oxygenation）管理を実施し、良好な治療成績を収めている。

また日本 ECMOnet には当集中治療科より 2 名が参加しており、全国的な重症呼吸不全治療体制の構築に貢献している。部長緒方は現在、日本 ECMOnet 大阪・奈良・和歌山エリアコーディネーターとして活動しており、当 ICU は ECMO センターとしての役割も担っている。他院からの ECMO 導入患者の搬送受け入れや、ECMO 導入目的での患者受け入れも行っている。

3）心臓血管センターとの連携

当院心臓血管センターは重症循環器疾患の積極的受け入れを行っており、集中治療科はその集中管理を担っている。V-A ECMO、ECPR、Impella、IABP などの機械的循環補助（MCS: Mechanical Circulatory Support）症例の管理も行い、循環器救急医療の重要な役割を担っている。

4）臨床試験・症例集積事業への参画

当集中治療科は全国の大学病院を中心とした臨床試験や学会主導の症例集積事業に積極的に参加している。主な研究事業は以下の通りである。

- JIPAD（日本集中治療医学会）
- JPICS（日本集中治療医学会）
- R-CAST study（岡山大学など）
- Lung stress mapping（大阪大学など）
- SAVER Express study（広島大学など）
- Liberation study（東京大学・広島大学など）
- PCT study（倉敷中央病院・広島大学など）

これらの研究を通じて集中治療医療の質向上およびエビデンス構築に貢献している。

2. 治療科メンバー紹介

- 部長

緒方　嘉隆（平成 7 年 大阪大学医学部卒業）

専門医など

医学博士

日本救急医学会・救急科専門医

日本集中治療医学会・評議員、学会認定集中治療専門医、

日本専門医機構認定・集中治療科指導医

日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医、代議員、機関誌「呼吸療法」編集委員会委員、

ECMO プロジェクト委員会委員

日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会・呼吸器専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会・気管支鏡専門医

日本 ECMOnet 大阪・奈良・和歌山エリアコーディネータ

Euro ELSO adult ECMO course in Karolinska Institute 修了

所属学会

日本救急医学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会・日本心肺補助学会・

日本内科学会・日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会

- 医長

濵口　眞成（平成 20 年 大阪大学医学部卒業）

専門医など

日本救急医学会・救急科専門医

日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医

日本内科学会・認定内科医

日本 ECMOnet 協力者

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病 内分泌 代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外　科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96

• 医長

石井　真梨子（平成 22 年大阪医科大学（ 現大阪医科薬科大学 ）医学部卒業）

専門医など

日本内科学会・認定内科医

• 医員

渡邉　宏樹（平成 23 年　京都府立医科大学卒業）

日本救急医学会専門医

日本消化管学会胃腸科専門医

総合診療特任指導医

医療通訳技能検定英語 1 級

日本不整脈心電学会心電図検定 1 級

日本医療教育プログラム推薦機構ホスピタリスト医学プログラム認定

日本消化官学会便通マネージメントドクター

• 医員

山田　知樹（平成 25 年　大阪大学医学部卒業）

専門医など

日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会・呼吸器専門医

日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医

• 医員

村上　紗羅（平成 25 年　神戸大学医学部卒業）

専門医など

日本集中治療医学会集中治療専門医

日本麻酔科学会麻酔科専門医

日本救急医学会救急科専門医

日本内科学会内科認定医

日本周術期経食道心エコー認定医

16）外　科

外科部長　遠藤　幸丈

1. 概要

当科では、当院の理念である「救急医療」を中心に、地域医療への貢献を目指し、大阪府がん診療拠点病院としての役割を果たすとともに、へき地医療にも積極的に貢献しています。手術においては、従来の拡大手術に加え、患者さんにとって安全で合併症の少ない手術を最優先し、根治性の確保にも注力しています。そのため、低侵襲手術（MIS: Minimally Invasive Surgery）を積極的に導入し、腹腔鏡手術に加えて、ロボット支援手術も取り入れています。これにより、患者さまの身体的負担の軽減に努めています。

また、地域医療への貢献として、緊急手術にも積極的に対応しており、手術部門は病診連携をはじめ、病棟、薬剤部、リハビリなど各部門と協力し、地域医療の充実に取り組んでいます。2025 年には、緊急手術件数を含む総手術数が 1,327 件に達しました。

2. メンバー構成

金谷誠一郎（顧問）／京都大学医学博士、日本外科学会専門医・指導医、
日本消化器外科学会専門医・指導医、
日本内視鏡外科学会技術認定医・ロボット支援手術プロクター
日本消化器病学会専門医・指導医、
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

遠藤　幸丈（部長）／日本外科学会専門医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科専門医・指導医
日本がん治療認定医療機構認定医

大田　修平（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
ACLS・BLS プロバイダー、Diploma in Tropical Medicine

堤　綾乃　（医長）／日本外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、
日本がん治療認定医療機構認定医、日本消化器外科専門医、
日本乳癌学会乳腺認定医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

松岡　信子（医長）／日本外科専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、
JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

池田　知也　／日本外科学会専門医、日本消化器外科専門医・指導医、
消化器がん外科治療認定医、JATEC インストラクター

服部　彬　／日本外科学会専門医

小池　廣人　／日本外科専門医、日本消化器外科専門医、消化器がん外科治療認定医、
ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

白木　秀人　　／日本外科専門医、腹部救急医学認定医、ICLS インストラクター、
ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
清水　元就（専攻医）
武田　悠吾（専攻医）
西村　淳史（専攻医）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,360	1,174	1,261	1,370	1,338	1,269	1,423	1,333	1,333	1,419	1,220	1,426	15,926	1327.2

《外科手術件数》

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
食道	9	2	3	1	3
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	65	61	38	17	16
胃切除・胃全摘（開腹）	9	18	7	5	4
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	213	191	221	245	254
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	0	0	0	0	0
膵頭十二指腸切除	12	9	9	13	11
膵体尾部切除	4	11	1	6	5
肝切除	37	33	13	16	14
虫垂切除（腹腔鏡下）	89	95	88	96	107
虫垂切除（開腹）	2	0	1	3	2
結腸切除（腹腔鏡下）	78	80	57	73	65
結腸切除（開腹）	9	12	12	18	12
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	31	32	39	22	20
直腸切除・切断（開腹）	4	1	6	3	1
鼠径部ヘルニア修復（腹腔鏡下）	110	125	115	138	143
鼠径部ヘルニア修復（鼠径部切開）	15	35	44	56	62
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	34	28	27	11	14
乳房腫瘤・乳がん	27	29	17	34	25
その他	406	354	330	327	334
呼吸器外科	124	127	118	143	151
ロボット支援	0	1	54	66	84
手術件数	1,278	1,244	1,200	1,293	1,327

4. 今後の目標

当科では、緊急症例から慢性期疾患に至るまで、適切な診断と治療を提供することを目指します。さらに、内視鏡治療、腹腔鏡手術、ロボット手術、開腹手術の精度を高め、患者さま一人ひとりに最適な医療を提供していきます。地域医療への貢献を一層深めるため、各部署との連携を強化し、消化器疾患における治療の質向上を目指します。

個人としては、ロボット手術プロクター資格、ダヴィンチサージカルシステム術者資格、外科専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、外科周術期管理認定医などの資格取得に努めていきます。本年度も引き続き、地域医療への貢献に尽力してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

17）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 7 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急総合診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者さまは 45 床の整形外科病棟（6 階西）で治療にあたっております。

手術件数は、2025 年は年間 1,028 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者さまもできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 19　例（股関節 7 例、膝関節 12 例）、脊椎外科手術は 140 例の手術をこなし、手外科症例は 307 例と安定した成績をあげております。また、患者さまのニーズに応えるべく専門外来も開設しております。當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を担当しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川　潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症（病気療養中）
診療部長	當麻　俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
診療部長	岩崎　圭至	専門：人工関節　手外科
医長	土肥　義浩	専門：手外科
医長	三木　秀賢	専門：人工関節
医員	松尾　裕次郎	専門：手外科　整形外科一般
後期研修医	西岡　広薫	専門：整形外科一般
	川村　謙人	専門：整形外科一般

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2,451	2,276	2,519	2,487	2,471	2,433	2,660	2,634	2,637	2,625	2,299	2,612	30,104	2508.7

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

《手術件数》2025年1月～12月

分野	各手術	合計
1 脊椎	頚椎後方　形成、除圧、ヘルニア摘出	15
	固定	1
	頚椎前方　形成、除圧、ヘルニア摘出	5
	固定	3
	胸腰椎後方　形成、除圧、ヘルニア摘出	61
	固定	43
	脊椎腫瘍手術	2
	抜鋼術	3
	その他の手術	7
合計		140
3 股関節、大腿骨	大腿骨頸部骨折　観血的整復固定術	48
	大腿骨頸部骨折　人工骨頭置換術	125
	大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術	103
	人工股関節置換術（初回THA）	7
	抜鋼術	7
	その他の手術	12
合計		302
4 膝関節、下腿骨	膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	12
	下腿骨骨折観血的手術	19
	人工膝関節置換術（初回TKA）	12
	関節鏡（複雑なもの）	5
	靭帯再建術（鏡下も含む）	2
	抜鋼術	21
	その他の手術	3
合計		74
5 足関節、足部	足関節周辺骨折観血的整復固定術	28
	足趾骨折観血的整復固定術	3
	アキレス腱縫合術	4
	抜鋼術	16
	その他の手術	1
合計		52
6 鎖骨、肩関節、上腕	鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	22
	上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	7
	上腕骨骨折観血的整復固定術	22
	人工肩関節置換術	1
	肩板断裂手術	1
	反復性脱臼手術	1
	抜鋼術	20
	その他の手術	3
合計		77
7 肘関節、前腕	肘関節周辺骨折観血的整復固定術	19
	前腕骨骨折観血的整復固定術	5
	肘関節滑膜切除術,関節形成術	3
	抜鋼術	10
	その他の手術	13
合計		50

分野	各手術	合計
8 手関節、手	手関節周辺の観血的整復固定術	82
	手指の骨折・靱帯損傷手術	48
	手関節滑膜切除術,関節受動・形成術	4
	指関節滑膜切除術,関節受動・形成術	12
	腱鞘切開術	36
	腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	23
	抜鋼術	54
	その他の手術	12
合計		271
9 神経の手術	尺骨神経剥離術(前方移行,King等)	6
	手根管解放術(正中神経剥離術)	24
	その他　剥離,縫合,移植(上肢)	6
合計		36
10 腫瘍の手術	骨腫瘍　悪性　脊椎・骨盤・躯幹	1
	骨腫瘍生検術	1
	部腫瘍　良性　四肢・躯幹	15
	軟部腫瘍　良性　脊髄	2
合計		19
12 植皮、移植	有茎皮弁(一部が皮下組織から離れずここから血液の供給を受けるもの)	4
	遊離植皮(皮膚を皮下組織から切り離す)	1
13 四肢切断術	手指	1
14 その他の手術	上記に分類されない手術	1
total　手術件数		1,028

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図って行きたいと思っております。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信していきたいと思っています。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病 内分泌 代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外　科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96

18）脳神経外科

脳神経外科部長　吉村　政樹

1. 概要

われわれ脳神経外科は脳および脊髄神経を守ることを目的としています。突然の麻痺や呂律障害で発症する脳卒中の方の救急対応をはじめ、顔や手足の痛み・しびれ感や、ふらつきなどの症状がおありの方に対して、脳から脊椎脊髄疾患を想定した診断と治療を提供します。

脳卒中では、ホットライン対応により、急性期脳卒中の受け入れを 24 時間体勢で行なっています。一次脳卒中センターとして、超急性期血行再開通療法（t-PA 静注療法および血栓回収療法）を積極的に行い、以前は寝たきりになっていたような脳梗塞でも、歩いて帰ることができる方が増えています。脳動脈瘤や血管狭窄症に対しても、血管内治療を積極的に行う体制に移行しています。2024 年からは、院内発症の脳卒中疑い症例に関しては脳神経外科医がファーストタッチできる体制に変更し、血栓回収術を行う可能性を高めて入院患者さまの予後悪化を防ぐべく努力しております。

高難度な頭蓋底腫瘍手術や下垂体腺腫など、当院としては希少な疾患の手術では、大阪公立大学脳神経外科と連携し、共同で対応できるよう体制を整えています。

脊椎疾患においては、顕微鏡手術による神経への愛護的手技を行なうと共に、筋組織へのダメージが少ない低侵襲除圧手術により、神経機能回復と筋運動機能温存の両立を目指しています。2018 年からは最小侵襲手技である全内視鏡下手術（FESS）を開始し､好評を得ております。若年者の腰椎ヘルニアや、高齢者の椎間孔狭窄などに適応し、ピンポイントで神経への圧迫を取り除きます。創は 1cm 弱で、痛みが少なく、入院期間の短縮（平均 4 日間）にもつながっています。固定術を必要としない手術であり、ニーズはますます高まっています。

2. メンバー構成

吉村　政樹（部長）日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脊椎脊髄外科専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本脊髄外科学会脊髄内視鏡下手術技術認定医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医

高　沙野（医員）　日本脳神経外科学会専門医・指導医

川村　晨（医員）　日本脳神経外科学会専修医

畑中　政人（医員）日本脳神経外科学会専修医

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
819	891	924	946	883	909	959	791	891	925	768	940	10,646	887.2

《入院患者数》970 例（2025 年）

《手術件数》 2025 年 1 月～12 月

術式	件数	術式	件数
頭部疾患関連外科手術	142	脊椎疾患手術（合計）	87
動脈瘤クリッピング手術	7	頸椎前方除圧術	14
脳内血腫除去術（開頭+内視鏡）	6	頸椎後方除圧術・固定術	44
脳動静脈奇形摘出手術	2	胸腰椎後方除圧術・固定術	7
頸動脈内膜剥離術,脳血管バイパス手術	4	全内視鏡下手術（FESS）	13
脳腫瘍摘出手術	9	経皮的椎体形成術	6
脳腫瘍生検術		その他	3
頭部外傷　開頭術	8	血管内手術（合計）	100
慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ術	63	急性期再開通療法	41
水頭症手術	21	脳動脈瘤塞栓術	21
		頸部血管形成術（CAS）	35
その他	22	動脈塞栓術	3
		合計	329

4. 今後の目標

適切な診断と、適切な治療適応の判断を徹底し、それぞれの患者さまに最も適したやさしい治療をモットーに診療します。当院の最大の特徴である急性期脳卒中治療に関しては、血管内治療環境や CT 装置の更新による診断能力向上などハード面の充実とともに、ER や放射線科、ME スタッフの協力の下、安定した治療サービスの提供が行えるようになっております。

今後は院内全スタッフへの啓蒙を行うことで、盲点になりがちな「院内発症」の脳卒中診療のスピードアップを図りたいと思います。脳卒中を疑えば、主治医スキップで脳外科院内ホットライン（PHS　3151）へ！！

脊椎脊髄疾患については、脳神経疾患との鑑別を含めた診断、脊椎アライメントを重視した姿勢管理、筋組織へのダメージを最小限に抑えた低侵襲手術を軸に診療を行って参ります。特に当科の特徴である FESS は、今後ますます需要が高まると考えられます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

19）心臓血管外科・心臓血管センター

心臓血管外科　部長・心臓血管センター長　薦岡　成年

1. 概要

現体制になり 6 年目､また心臓血管センター開設から 5 年目になりました。メンバーは現在、薦岡以下 3 名＋専攻医 1 名の 4 名体制となっています。日頃から循環器科と密な関係を維持し、循環器科 Hot Line の運用も上手くいっており、24 時間 365 日循環器系医師の院内常駐を実現しています。また手術部をはじめ集中治療部および ER/ICU/HCU・病棟・リハビリ・薬剤部とも良好な連携を図り、循環器系の地域医療に貢献することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。より一層の連携を深め、さらに地域医療に微力ながら貢献し続けたと考えています。

2025 年の手術件数は、開心術は 104 例と減少傾向が続いたが、ステントグラフト手術例 123 例と総手術件数 373 例は、過去最高を記録しました。

施設認定

- 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本ステントグラフト実施基準管理委員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
- 日本脈管学会認定研修指定施設
- IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
- 下肢静脈瘤血管内治療実施委員会認定実施施設

2. メンバー構成

部　　長：薦岡　成年　2003 年 防衛医科大学卒業
　　外科専門医、心臓血管外科専門医・修練指導医、循環器専門医、脈管専門医・指導医
　　胸部・腹部ステントグラフト指導医、TAVI 指導医、日本血管外科学会認定血管内治療医
医　　長：小島　三郎　2012 年　広島大学卒業
　　外科専門医・心臓血管外科専門医（2023 年取得）
医　　員：春日　健介 2016 年 滋賀医科大卒業
　　外科専門医（2022 年取得)、心臓血管外科専門医（2022 年取得）
専攻医：　清水　元就　2022 年　高知大学卒業

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
558	497	541	591	537	541	600	488	574	582	517	600	6,626	552.2

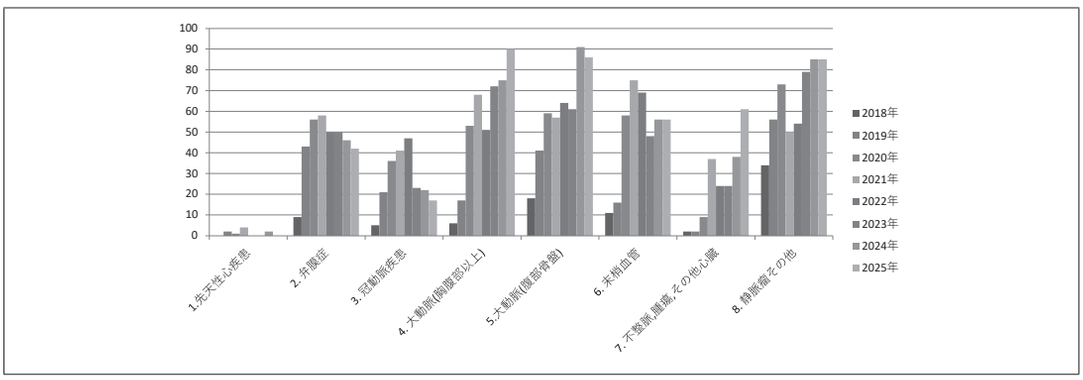
手術件数

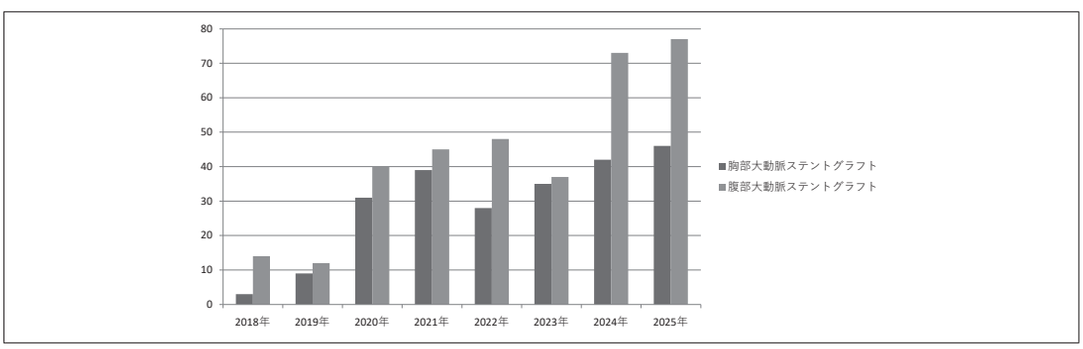
年	腹部ステントグラフト	胸部ステントグラフト	計
2010	22	8	30
2011	43	31	74
2012	24	12	36
2013	40	7	47
2014	23	10	33
2015	31	5	36
2016	26	7	33
2017	36	4	40
2018	14	3	17
2019	12	9	21
2020	40	31	71
2021	45	39	84
2022	48	28	76
2023	37	35	72
2024	73	42	115
2025	77	46	123
合計	591	317	908

全心臓血管手術（重複例あり）	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1. 先天性心疾患			2	1	4			2	0
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50	46	42
3. 冠動脈疾患	18	5	21	36	41	47	23	22	17
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72	75	90
5. 大動脈（腹部骨盤）	37	18	41	59	57	64	61	91	86
6. 末梢血管	14	11	16	58	75	69	48	56	56
7. 不整脈,腫瘍,その他心臓	1	2	2	9	37	24	24	38	61
8. 静脈瘤その他	50	34	56	73	50	54	79	85	85
合計件数	143	85	198	345	390	359	357	415	437
	2018年9月から新体制								
主要心臓大動脈手術（重複例あり）	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1. 先天性心疾患			2	1	4			2	0
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50	46	42
3. 冠動脈疾患	18	5	21	37	41	47	23	22	17
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72	75	90
5. 不整脈、腫瘍、その他心臓		2	2	9	37	24	24	38	61
合計件数	41	22	85	156	208	172	169	183	210

ステントグラフト手術	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
胸部大動脈ステントグラフト	4	3	9	31	39	28	35	42	46
腹部大動脈ステントグラフト	36	14	12	40	45	48	37	73	77
経カテーテル的大動脈弁置換術	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数	40	17	21	71	84	76	72	115	123

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病内分泌代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外　科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管心臓血セ 67
形成外科美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96





- 弁膜症手術：2025 年の当院での弁膜症手術数は若干減少した。年末に念願であった TAVI 施設認定を取得出来た。
- 冠動脈バイパス術：2025 年は前年と比較して減少となった。循環器内科での PCI デバイスの進歩等によるものと考えられる。
- 急性 A 型大動脈解離：心臓血管センターの開設に伴い、急性大動脈解離の院外紹介が緩やかではあるが増加している。手術は、ほぼ全例若手医師が執刀している。
- ステントグラフト：suture device を用いた経皮的ステントグラフト手術を標準術式にすることで、負担の少ない動脈瘤治療を継続しており、症例数は更に増えている。また以前から行っている、解離性動脈瘤に対する血管内治療は良好な治療成績を維持している。単純なステントグラフト手術の多くは若手医師が執刀した。
- 末梢動脈：ほぼ全例若手医師が執刀した。

4. 今後の目標

本年はようやく TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）施設認定を取得したため、早急に軌道に乗せていきたいと考えています。TAVI 導入を期に、全体的な手術数、特に開心術を増やすべく宣伝活動等に力を入れていきたいと考えております。心臓外科的には循環器科、コメディカルと共同し、病診連携にさらに力を注ぎ、中河内地区の循環器医療に貢献したいと考えております。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

20）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

1. 概要

当科は、常勤 5 名で診療しています。2008 年より日本形成外科学会認定施設、現在は大阪公立大学形成外科の専門研修連携施設となっています。

当科の特徴としては「下肢救済治療」が挙げられます。

2009 年に米国足病医と連携し、下肢切断を防ぐことを目的とした「創傷ケアセンター」を開設し、現在では日本で最も治療件数の多い施設となりました。閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れており、distal bypass 術（足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）や赤外線療法を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。

当科では装具療法にも力を入れています。他院で数回にわたる手術を受けたにもかかわらず治癒しない潰瘍でも適切なフットウェアを装着することで治癒に至る場合もあります。糖尿病や透析をされている患者さまでは複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができ、このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年から、日本であまり行われていない「糖尿病足変形（シャルコー足など）に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者さまに変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者さまも多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴で整容的に優れており、自身で論文を検索し関東からも来院されるようになりました。

眼窩底骨折の手術では皮膚に傷を残さない「経結膜切開法」を採用しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療を行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者さま一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪公立大学医学部附属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者さまにとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・福村崇・小倉一真・安藤加奈子・山口優里の 5 名で診療を行っています。

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
489	412	586	546	513	523	588	569	518	629	509	703	6,585	548.8

【2025 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数】

集計期間　2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日

形成外科　新患者数　　2,029 名

形成外科　入院患者数　　225 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	23	0	15	0	0	43	81
先天異常	3	0	1	2	0	6	12
腫瘍	21	0	14	1	1	402	439
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	7	0	0	0	0	12	19
難治性潰瘍	44	23	87	0	0	6	160
炎症・変性疾患	18	1	13	1	0	46	79
美容（手術）	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	82	0	0	68	151
Extraレーザー治療	0	0	0	0	0	0	0
計	117	24	212	4	1	583	941

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加え、当科の特徴である下肢救済治療の分野でより高い専門性を目指し、地域貢献できればと考えています。引き続き学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

21）呼吸器外科

呼吸器外科部長　市橋　良夫

1. 概要

原発性肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などに対し、外科的治療を中心とした診療を行っている。胸腔鏡手術を積極的に導入し、安全性と低侵襲性の両立を重視した治療を実践し、肺癌の手術治療は主に低侵襲ロボット手術で行い、患者さま一人ひとりの病状や背景を踏まえ、きめ細やかで寄り添う医療の提供に努めています。

2. メンバー構成

市橋　良夫（常勤）　日本外科学会専門医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医
ロボット支援手術プロクター
日本呼吸器外科学会　胸腔鏡安全技術認定医

森田　琢郎（常勤）

花岡　伸治（非常勤）　大阪医科薬科大学病院　特任教授　呼吸器外科科長
日本外科学会専門医・指導医・代議員
呼吸器外科専門医合同委員会
呼吸器外科専門医・指導医・評議員
日本肺癌学会評議員
がん治療認定医
ロボット支援手術プロクター

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科薬科大学病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・評議員
日本呼吸器学会専門医
がん治療認定医
ロボット支援手術プロクター

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
238	251	269	265	280	290	292	267	272	318	252	284	3,278	273.2

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

4. 今後の目標

2023 年 10 月より呼吸器外科常勤医 2 人体制となり、外科的治療適応のさらなる拡大を目指して診療体制の充実を図っています。手術支援ロボット（da Vinci）や単孔式解剖学的肺葉切除術を積極的に導入し、低侵襲手術の推進と治療成績の向上に努めてきました。

さらに当院では 2025 年より、国内で新たに承認された国産手術支援ロボット「SAROA」を導入し、先進的外科治療の選択肢拡大を図っています。

今後も新規医療技術の導入と安全性の確保を両立させながら、質の高い呼吸器外科医療の提供に取り組んでいきます。

22）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

1. 概要

近年の発展としては、小児泌尿器分野における先天性水腎症に対し、ロボット手術を成功させました。術後も安定し生活されています。

2025 年は当院で小児外科開設後､15 年目となりました。年間の手術数から考えると､約 1, 500 名程度の小児が当院で、小児の全身麻酔、手術を施行したこととなります。この 15 年間を振り返りますと、様々な症例を経験し、また無事に治療ができて、大きな合併症なく、過ごせたことに病院関係者、小児外科スタッフ、コメディカルに感謝し、また近隣のクリニックからも信頼を失うことなく、患児を紹介していただけたことに深謝いたします。

当院は 7 年前より日本小児外科学会の教育関連施設（大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、若手の外科医が専門医取得を目指せる環境となりました。当院外科は新たな専門医制度のもと、基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、4 年前より 3 人体制となり、小児外科領域の救急症例も引き続き積極的に受け入れていきたいと考えております。

どうしても少子高齢化の社会で、小児の症例が減少傾向にありますが、新たに小児医療チームとして、小児科、小児外科、小児泌尿器科で活動できるように準備したいと思います。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に標準医療が提供できるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村　拓也（平成 7 年）

資格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、ICT ドクター（ICD)、外科系プログラム責任者、NST 委員長、JCI 委員長、臨床研修指導者、臨床研修プログラム責任者、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

医長：山中　宏晃（平成 14 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、近畿小児外科学会評議員

医長：河島　茉澄（平成 22 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

3. 手術数の推移（2025 年度：69 例）



4. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
63	63	94	71	80	81	77	102	81	59	61	73	905	75.4

2025 年の手術に関する主な内容：合計　69 例

• 体表疾患（9 例）

舌小帯：3 例

皮下腫瘤：4 例

• 腹部疾患（48 例）

鼠径ヘルニア

高位結紮：23 例

単孔式腹腔鏡手術（LPEC）：15 例

急性虫垂炎：2 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

臍ヘルニア、臍形成：6 例

胆嚢摘出術：1 例

腸回転異常：1 例

• 生殖器、泌尿器科疾患（10 例）

腎盂尿管形成術（ロボット手術）：1 例

停留精巣：7 例（内　除睾術 1 例）
包皮形成術：1 例
尿膜管遺残：1 例
膀胱鏡下尿管ステント抜去：1 例

5. 今年の目標

2026 年も 3 人体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。

今後、当院は小児チームとして、小児科、小児外科で共同し、小児医療を実践したいと考えています。従来通り、小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきながら、積極的に、小児医療を提供したいと考えています。こどもの治療で悩んだら、何でも相談してください！

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病 内分泌 代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外　科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96

23）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部　一彦（2006年4月赴任)、医員：安田　卓司（2025年4月赴任)、医員：笠原　駿（2022年4月赴任）の3名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率40％以上を維持しています。

2008年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できるように体制づくりをしています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療および他科入院患者様の周術期口腔機能管理を行っています。

一般的な歯科治療は原則おこなっておりません。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営しており、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および他の大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定をうけています。診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。



1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしで行っています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で1（～2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除を行って抜歯しますが、かなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者さまの場合には、腫脹がその都度伴うことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯を行うことで1本抜歯に対する時間が短くすみ、数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴と、疼痛コントロール・感染予防を行うことで1回の腫脹で済ませることができます。年間200件をこえる症例数となっています。

2. メンバー構成

部長：占部　一彦（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医
医長：安田　卓司（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医
医員：笠原　駿（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医

3. 実績

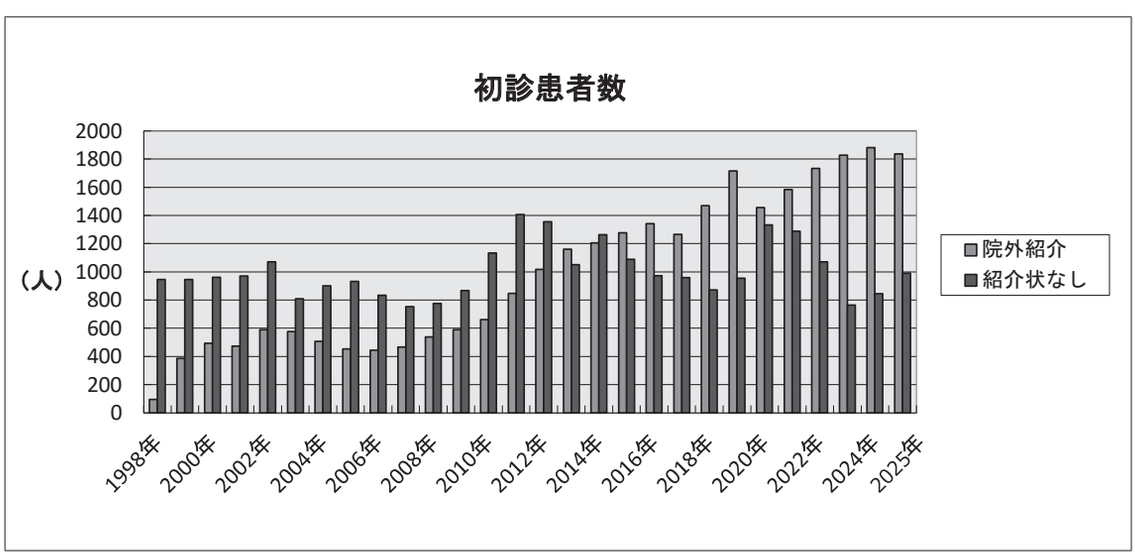
《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
818	833	913	891	856	869	943	834	932	920	783	946	10,538	878

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
院外紹介	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468	1,716	1,456	1,584	1,733	1,827	1,881	1,836
紹介状なし	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871	955	1,333	1,287	1,070	763	844	991



内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

《外来手術症例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	678
難抜歯	285
単純抜歯	782
歯根端切除/歯根嚢胞摘出術	100
口腔内・外消炎処置	48
口腔内外創傷処置	30
舌腫瘍摘出術	11
上顎洞口腔瘻閉鎖術	17
顎骨腫瘍摘出術	22
腐骨除去術	18
歯肉腫瘍摘出術	12
粘液嚢胞摘出術	8
顎関節脱臼非観血的整復術	23
腐骨除去術	18
その他	76
合計	2,128

《入院手術症例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	212
抜歯(止血異常)	61
歯根端切除/歯根嚢胞摘出術	25
顎骨腫瘍摘出術	44
顎変形症手術	27
上・下顎骨・頬骨骨折観血的整復術	10
腐骨除去術	7
口腔内・外消炎手術	10
小帯形成	3
舌腫瘍摘出	3
骨隆起形成術	4
その他	27
合計	433

4. 今後の目標

救急病院の特徴として、炎症性疾患や外傷性疾患の救急対応が多いため、より迅速に対応できるように体制を構築し、ER とも連携し地域医療に貢献できるよう力をいれています。

また医科歯科連携にて現在入院患者さまの周術期口腔機能管理を積極的に行っており、患者さまの入院期間の短縮に、より貢献していきたいと思います。

24）泌尿器科

泌尿器科部長　金丸　知寛

1. 概要

2025 年は 4 月に木村医師が就任し 4 人体制となりました。昨年に引き続き私が泌尿器科部長を務めております。

2025 年度も、2022 年に導入されたダヴィンチ Xi の手術症例を増やすことに尽力いたしました。2024 年度にはロボット支援膀胱全摘除術の症例数増加に伴い、同手術の施設認定も取得できました。ロボット手術は非常に低侵襲ですので、今までは手が出せなかった高齢の進行性膀胱癌患者にも施行できるようになり、積極的に症例を増やしております。尿路変更もロボット支援で施行しており、患者の術後 ADL の向上と早期退院に貢献できたと考えております。2025 年の当科症例数を下記に示しています。

2. メンバー構成

顧問　飯盛　宏記

部長　金丸　知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会・技術認定医
ロボット支援手術プロクター　日本透析医学会専門医

医員　榮井　広嗣　日本泌尿器科学会専門医

医員　木村　匠吾

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,237	1,197	1,381	1,340	1,348	1,446	1,470	1,328	1,451	1,317	1,283	1,538	16,336	1361.3

《手術実績》

ロボット支援前立腺全摘除術　19 例

ロボット支援腎摘除・腎尿管全摘除術　10 例

ロボット支援腎部分切除術　13 例

ロボット支援膀胱全摘　4 例

4. 今後の目標

今年度は手術室の増室工事も行われており、泌尿器科医の人数も増えましたので、さらなる泌尿器科でのロボット支援手術数の増加を目指したいと思っております。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

25）眼科

眼科部長　奥田　吉隆

1. 概要

現在 4 名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。午前診察は初診および予約診療を行っております。午後はレーザー等の処置や時間のかかる検査が必要な患者さまの予約診療を主として行っております。

当院で行っている手術は、網膜硝子体手術、白内障手術（多焦点眼内レンズ含む）、緑内障手術、外眼部手術が中心です。

網膜硝子体手術は、硝子体手術用機械（コンステレーションアルコン社製）、硝子体手術用広角観察システム（リサイトカールツァイス社製）および眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。また 2022 年 4 月からは 3D ビジュアルシステム（NGENUITY）での手術を行っております。本年度、疾患としては、硝子体出血、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体・眼内レンズ脱臼、外傷性眼疾患などを行っております。近医の開業医さんからのご紹介は基本的に 24 時間対応可能です。

白内障手術は、日帰りもしくは入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障手術が多いことです。眼内レンズ強膜内固定術や眼内レンズ縫着術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っております。

また角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

最近では多焦点眼内レンズも導入し幅広い白内障手術を施行し、患者さまの満足度の高い手術を心がけております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、霰粒腫切開術、眼瞼皮膚腫瘍切除術、涙道疾患に対する手術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区、羽曳野市の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者さまをご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

奥田　吉隆（部長）　日本眼科学会専門医　日本網膜硝子体学会専門医　PDT 認定医
ボトックス認定

滝　功一郎（医長）　日本眼科学会専門医　ボトックス認定医

宮木　俊哉（医長）　日本眼科学会専門医　日本網膜硝子体学会専門医

米田　貴博（医員）　日本眼科学会専門医

（非常勤医師）

照林　優也　緑内障専門医

髙鍬　広章　眼形成専門医

西庄　龍東　ぶどう膜専門医

大学応援医師

3. 実績

《外来患者数》2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,340	1,262	1,399	1,350	1,309	1,337	1,304	1,200	1,399	1,487	1,245	1,440	16,072	1339.3

《手術件数》2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日

計 2,175 件（うち白内障手術 1,314 件・硝子体手術 287・緑内障手術 77 件・眼形成 75 件・硝子体注射 404 件・その他 18 件）

4. 今後の目標

地域の患者さまから、より一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。また近隣の開業医様や病院さまより沢山のご紹介を頂けるようになり、本当に感謝しております。今後も緊急疾患含めどのような疾患に対しても真摯に向き合い、患者さまが満足して頂けるよう精一杯治療していきたいと思っております。

このような手術件数ができるのも日頃より大事な患者さまをご紹介して頂いている近隣の先生方のおかげでございますので、その思いを裏切らないよう馬車馬のように働いていく所存でございます。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

26）麻酔科

麻酔科部長　谷　仁介

1. 概要

当院麻酔科は、日本麻酔科学会の麻酔科認定病院に認定され、5 名の常勤麻酔科医師と複数の非常勤麻酔科医師で運営されています。

常勤麻酔科医師は、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格を有し、また日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医もしくは麻酔科専門医資格を有し、24 時間 365 日の麻酔業務に取り組んでいます。

当科の方針として、手術を受ける患者さまの安全を第一に考え、本邦における標準的な全身麻酔を実践することを掲げ、多くの患者さまを受け入れています。

当院の手術室は､一般的な手術に加えてハイブリッド手術室を設置し､ダビンチによるロボット手術が泌尿器科、呼吸器外科、外科、肝臓外科で施行されています。

脊椎固定術用のロボットも導入され、今まで以上に安全な脊椎手術が行えるようになり、さらに 2025 年初頭に追加導入した「サロア」により、ロボット手術が幅広く施行出来るようになりました。

また、2026 年 3 月には増改築工事が終わる予定で、それに伴い 4 月より 10 室の手術室が稼働することになり、今まで以上に多くの患者さまを受け入れることが可能となります。

コロナウィルスを始めとする感染症対策として、手術室内できめ細かな感染対策を行い、患者さまが安心して手術、麻酔を受けていただけるようにしています。

手術を受ける際には多大な不安があると思いますが、当院での手術・麻酔に関しては我々にお任せください。

2. 常勤医師

部長　谷　仁介　　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　池下　和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医長　金沢　晋弥　（日本麻酔科学会指導医・専門医・心臓麻酔専門医）
医員　仲村　光世　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
医員　濱崎　亜弓　（日本麻酔科学会指導医・専門医）

3. 実績

2025 年の麻酔科管理手術件数は 3,008 件でした。

《麻酔方法》

全身麻酔	TIVA	全身麻酔 + 硬､伝麻	脊髄くも膜下麻酔	鎮静
2,546件	10件	440件	11件	1件

《手術部位別》

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸+開腹	胸・腹壁　会陰
59件	127件	260件	13件	228件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
420件	539件	426件	220件	695件

《年齢別》

0−5歳	6−19歳	20−65歳	66−85歳	86歳以上
42件	146件	997件	1,398件	425件

4. 今後の目標

患者さまの安全を最優先に考え、術前、術中、術後において問題無く経過することを目標とし、24 時間 365 日、いつでも患者さまを受け入れ、常に安全な手術麻酔を提供させていただきます。

コロナウィルスを始めとする感染症に対し、可能な限りの感染対策を取るとともに、最先端の手術に柔軟に対応し、患者さまがいつでも安心して最適な手術を受けられる麻酔科・手術室運営を心がけます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

27）肝臓センター

肝胆膵外科部長　木村　拓也

1. 概要

2025 年の医療保険制度・政策に関するトピックスとしては、高額療養費制度における自己負担上限額の見直しが挙げられます。当科領域においては、患者自己負担の増加を背景に、ハイボリュームセンターにおける集約化医療や、低侵襲手術の重要性が一層高まることが予想されます。

今後は、身体的・経済的双方の観点から患者負担の少ない手術療法の提供に加え、入院期間延長の要因となる術後合併症を最小限に抑えるための、より緻密な周術期管理が求められる時代になると考えられます。一方で、疾患をより早期に発見し、低侵襲に治療介入することが、医学的利益と経済的利益の双方につながるという考え方は、患者さまにとっても一層説得力を持つものとなります。

肝臓センターでは、必ずしも手術適応とならない肝胆膵疾患を有する患者さまを多数フォローしており、今後も診療の裾野の拡大を意識した取り組みを進めていきたいと考えています。

さて、今年の目玉は高度技能専門医修練施設認定とマイ肝プロジェクトです

肝臓センターでは、肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、肝炎・肝硬変・胆管炎・膵炎などの診療を行っており、中河内地区に根差し、15 年目の節目を迎えました。大阪府がん診療拠点病院、肝疾患専門医療機関として、低侵襲な腹腔鏡手術・ロボット手術から、血行再建を伴う超拡大手術まで幅広く手術を行っており、また、総合病院として、さまざまな合併症を抱える方・ご高齢の方などに、ガイドラインに沿い患者目線に立った医療を提供しています。

今年はトルコと中国から、各 1 名の医師が肝臓外科の手術見学に来日されました。「肝臓診療といえば八尾徳洲会」と認知される施設を目指し、徳洲会グループ内においても中核的な役割を担えるよう、診療体制の充実と実績の積み重ねに努めてまいります。

以下、肝臓センターとして、科の枠組みを超えた活動もしています

- 2026 年は JCI 更新年であり、ガイドラインの見直し、クリニカルパスの整備
- JMIP 取得
- C 型肝炎サーベイ委員会の本格稼働、マイ肝プロジェクトの始動
- 地域小中学校でがん教育の講演や、八尾市立病院と第 1 回八尾診療連携の会・八尾徳洲会がんフォーラムの開催で肝疾患についての講演
- 徳洲会新聞掲載記事（2025 年 5 月 5 日「小児へのダヴィンチ手術を初実施」、2025 年 8 月 1 日「八尾病院が JMIP 認証取得」、2025 年 10 月 20 日「「高度技能専門医修練施設」日本肝胆膵外科学会から認定」、2025 年 11 月 10 日「一般向けイベント開催へ精力的！」、2025 年 12 月 15 日「マイ肝プロジェクト」スタート）

2. メンバー構成

• 松田康雄（顧問、肝臓センター長）

資　　格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、医療安全委員長

• 木村　拓也（副院長・外科統括部長・肝胆膵外科部長）平成7年卒

資　　格：日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医･指導医､日本総合診療医学会認定医､日本臨床栄養代謝学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医・指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員､近畿外科学会評議員､近畿小児外科学会評議員､感染制御医師（ICT)、外科プログラム責任者、NST 委員長、QI センター長、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習、臨床研修プログラム責任者講習、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定、Saroa サージカルシステム術者資格認定

• 井上　雅文（部長）平成11年卒

資　　格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会専門医･指導医、近畿外科学会評議員、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習

• 藤井　貴子（部長）平成13年卒

資　　格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本移植学会移植認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、日本がん外科治療認定医、医療情報学会医療情報技師、日本肝臓学会西部会評議員、臨床研修医指導者講習、日本感染症学会セクションコントロールドクター（ICD)、医療安全管理者、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、がんのリハビリテーション研修会、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定、Saroa サージカルシステム術者資格認定、QI センター副センター長、下肢静脈瘤血管内治療実施医、日本医療通訳協会医療通訳２級

• 中多　靖幸（医員）

資　　格：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医機構認定医、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

• 河島　茉澄（医長）

資　　格：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

3. 実績

• 手術件数（図 1 参照）

278 件／年 （前年比 96.2%）

考察：2025 年は当科の手術枠がある火曜日と木曜日に祝日が計 5 日もあり、手術枠 99 日（前年比 94.3%）に対して 278 件（前年比 96.2%）の手術を施行しています。手術日自体が少ない中、前年と比較し、総件数は健闘した数と言えます。目標通り、肝細胞癌をふくめた肝臓の手術件数は増えました。中でも、ロボット肝切除の割合が増えています。膵癌・中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除術の件数は維持できており、動脈再建を行った症例がありました。ロボットによる総胆管拡張症に対する手術も経験し、当科におけるロボット支援手術の適応は着実に拡大しています。

手術枠の制約がある中でも、症例数のみならず手術内容の高度化・低侵襲化を両立できた一年であったと考えます。

• 肝胆膵の内視鏡処置件数（診断含む）

ERCP 323 件（数例重複含む、肝外施行 227 件） 前年比 97.3%

EUS 94 件（うち、EUS-FNA 18 件、EUS 下手技 9 件） 前年比 93.1%

（EUS 下手技内訳：BD2、ランデブー 3、内瘻化 4）

考察：肝胆膵疾患について、術前診断をはじめ、緊急処置・術後合併症に対する内視鏡的治療を迅速かつシームレスに行えるのが当センターの強みです。合併症による再開腹手術を回避するなど、術後成績向上に寄与しています。

• 外来患者数（図 2 参照）

10，039 人／年（昨年比 6.3%増）

考察：外来患者数は年々増加しているものの、初診患者数は前年を下回りました。このことから、逆紹介率を高めつつ、新規患者数の増加を図る取り組みが今後の課題と考えます。

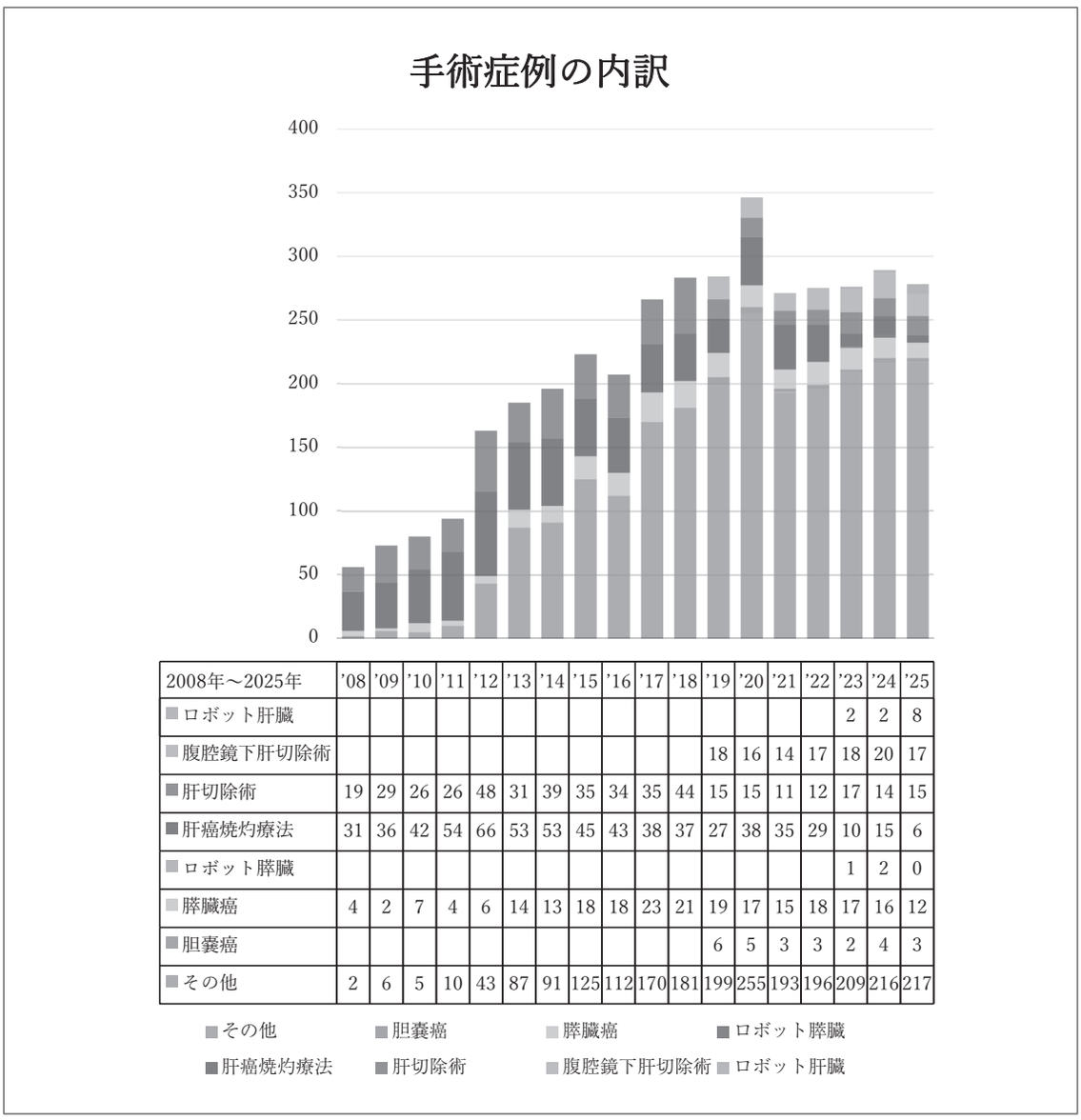
• がん薬物療法治療数

のべ 378 件、患者数 89 人：前年比　約 90% （前年　のべ 419 件、患者数 102 人）

考察：点滴製剤に限り集計を行いました。肝胆膵悪性腫瘍でがん薬物療法を行っている患者のべ数・患者数は、昨年と比べ減少しました。レジメン別で比較すると、胆道癌が減少していることがわかります。胆道癌においては、化学療法件数の増減と手術件数は必ずしも直結するものではありません。しかし近年、他施設の報告では、化学療法により病勢制御が得られ、切除不能例から conversion surgery に至る症例が一定数報告されており、胆道癌に対する化学療法症例の増加は、将来的な手術症例増加につながる可能性があり、治療戦略上の意義は大きいと考えます。

化学療法レジメンの内訳（同一患者において治療ライン変更により異なるレジメンを施行した場合は、それぞれ 1 件として計上）（図 3 参照）

Suppl.：がん登録数と来院経路



2008年～2025年	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25
ロボット肝臓																2	2	8
腹腔鏡下肝切除術												18	16	14	17	18	20	17
肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44	15	15	11	12	17	14	15
肝癌焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37	27	38	35	29	10	15	6
ロボット膵臓																1	2	0
膵臓癌	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21	19	17	15	18	17	16	12
胆嚢癌												6	5	3	3	2	4	3
その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181	199	255	193	196	209	216	217

図1

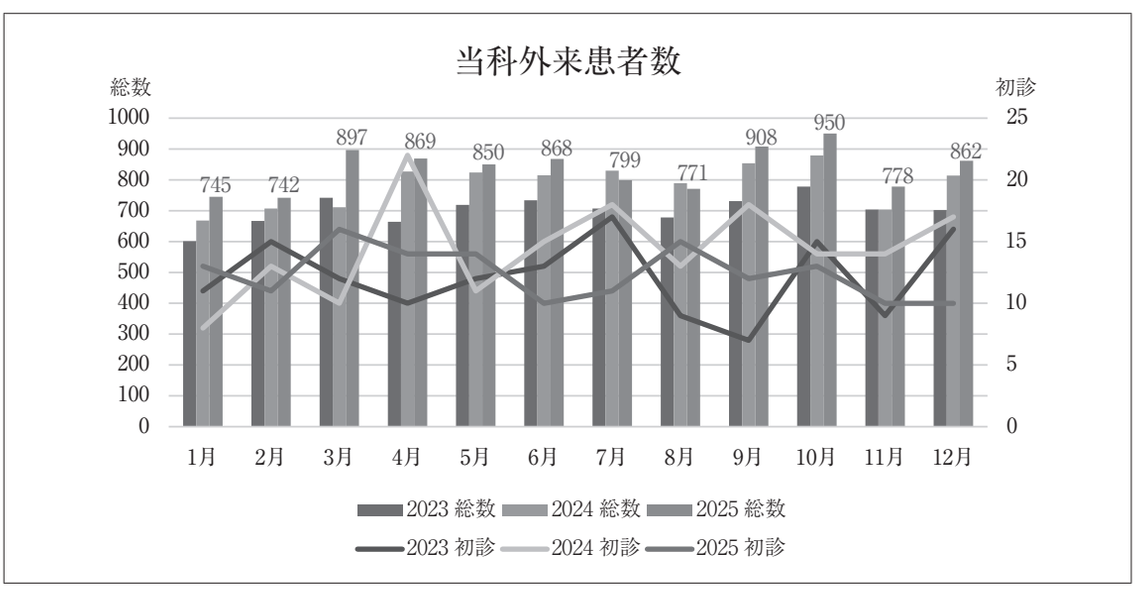


図2

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

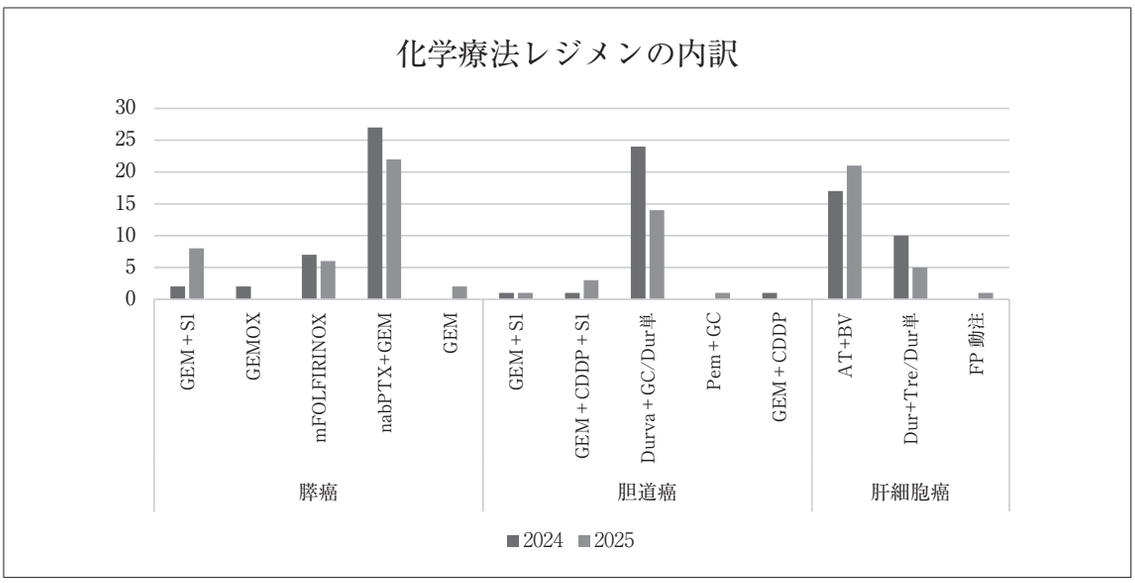


図3

《来院経路》

診断年	原発部位《局在コード》	自主的受診	自施設での他疾患経過観察中	他施設からの紹介	その他（救急車）
膵臓	2023	5	11	26	2
	2024	8	11	28	4
	2025	8	10	31	4
Vater乳頭	2023	0	0	2	0
	2024	2	0	2	1
	2025	0	0	2	0
肝外胆管	2023	3	4	10	1
	2024	8	3	13	1
	2025	2	3	12	3
胆嚢	2023	1	0	1	0
	2024	1	2	9	2
	2025	2	1	3	0
肝内胆管	2023	3	0	6	0
	2024	1	1	4	2
	2025	2	2	1	3
肝臓	2023	2	3	18	2
	2024	0	13	16	3
	2025	0	11	21	4

Suppl.

4. 本年の肝臓センターまとめと来年の目標

本年は昨年と比べ、手術件数、外来新患数、がん薬物療法の延べ患者数はいずれも減少に転じていました。

2026 年は、肝予備能低下例に対する低侵襲手術のさらなる推進に加え、AI 画像診断の導入やマイ肝プロジェクト、近隣住民への啓発活動を通じて、胆のう癌・胆管癌などが臨床進行期で発見される症例の減少を図り、手術適応症例の増加を目標とします。血管吻合・胆道再建を伴う高難度手術について、ロボット支援下での実施を試み、高度技能専門医修練施設としての機能と差別化を図りたいと考えます。

また、高度技能専門医修練施設に認定されたことを踏まえ、肝胆膵高度技能医資格の取得を科内で段階的に進めるとともに、後期研修医の獲得にも注力していく方針です。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 35
炎症性腸 37
呼吸器内 39
腫瘍内科 40
透析セン 41
腎臓内科 45
糖尿病 内分泌 代謝内科 46
脳神経内 49
膠原リウ 50
小児科 51
放射診科 53
救急科 54
集中治療 57
外　科 60
整形外科 62
脳神経外 65
心臓血管 心臓血セ 67
形成外科 美容外科 70
呼吸器外 72
小児外科 74
歯　科 歯科口腔 77
泌尿器科 80
眼　科 81
麻酔科 83
肝臓セン 85
皮膚科 91
婦人科 92
乳腺外科 93
耳鼻咽喉 95
病理診断 96

28）皮膚科

皮膚科医員　葉山　友紀

1. 概要

2024 年度より、常勤 2 名で診療にあたっております。

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、水疱症、天疱瘡、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）といった一般皮膚科疾患を診療しております。

検査としましては、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査、ダーモスコピー検査、顕微鏡検査を行っております。

皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー検査、エコー検査、皮膚生検による病理検査を行っております。手術が必要な場合は当院形成外科や大阪公立大学医学部附属病院にご紹介しております。

専門的、高度な加療が必要な疾患は、大阪公立大学医学部附属病院をはじめとした高次医療機関へご紹介させていただいております。

※紫外線療法、パッチテストやプリックテストは行っておりません。

2. メンバー構成

常勤　葉山　友紀、磯　典子

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
500	501	555	572	585	620	665	671	655	652	516	608	7,100	591.7

4. 今後の目標

地域医療に貢献して参りたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

29）婦人科

婦人科　出口　昌昭

1. 概要

2024 年 4 月より常勤医師 1 名、非常勤医師 2 名にて婦人科外来診療を開始し、同時に院内他診療科よりのコンサルトに対応しています。

主たる外来業務は、

1）婦人科悪性腫瘍の診断
2）婦人科良性腫瘍の診断と、子宮筋腫・子宮内膜症に対する薬物療法
3）月経不順・月経困難症・月経前症候群・更年期障害等の診断と薬物療法
4）性感染症の診断と治療
5）尿失禁・過活動膀胱の診断と治療
6）骨盤臓器脱に対する保存的療法
7）不妊治療希望者に対する初期スクリーニング
8）HPV ワクチン接種

産科診療に関しては、妊娠の診断等初期対応のみ実施しています。

2. メンバー構成

出口昌昭（常勤）	月～木	担当	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医
梅咲直彦（非常勤）	金	担当	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医
浜崎　新（非常勤）	水	担当	日本産科婦人科学会専門医 日本周産期・新生児学会専門医

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
125	116	172	128	125	141	129	126	146	167	134	161	1,670	139.2

4. 今後の目標

24 時間対応可能な人的資源の充実を待って、まずは婦人科疾患の治療（手術療法・化学療法・放射線療法）の自院での再開を目指します。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

30）乳腺外科

乳腺外科部長　鄭　聖華

1. 概要

2024 年 1 月 1 日より乳腺外科を立ち上げて頂き、はや 2 年が経ちました。マンモグラフィ、超音波、乳腺専用コイルを用いた 3 テスラ MRI など機器が充実しており、昨年は最新機種の放射線治療機器トゥルービームも導入しており時間短縮と精度の高い照射が可能となっております。来院当日中に画像検査から針生検、マンモトーム生検なども完遂できるよう心がけております。また、当院には形成外科医師が 5 名常勤で在籍しており患者さまのご要望に応えられる再建が可能となっております。

手術に関しましては、初年度でありました昨年の 42 例で合併症はゼロでした。ありがたいことに病理専門医も常勤で 4 名在籍しており、バイオマーカー、オンコタイプ Dx、遺伝子検査などが即座にでき、よりきめ細やかな個別化医療を行っております。病理医師、放射線科医師、薬剤師、病理検査技師、レントゲン技師、超音波検査技師と月に 2 回症例検討カンファも行っております。

当院では現在乳癌診療におけるほとんど全ての検査・治療が可能となっております。

2. メンバー構成

（常勤医師）　鄭　聖華（乳腺外科部長）
大阪市立大学医学博士
日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医・指導医
日本癌治療認定医機構認定医
近畿外科学会評議員
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師
マンモグラフィー読影認定医 B1
緩和ケア研修会修了
日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構教育セミナー受講修了

（非常勤医師）服部　彬
日本外科学会専門医
日本癌治療認定医機構認定医
マンモグラフィー読影認定医 B
検診乳腺超音波読影認定医 B
緩和ケア研修会修了

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
124	128	147	134	155	148	149	171	136	194	137	183	1,806	150.5

《手術件数》

乳房切除術 24 例、乳房温存療法 7 例、乳輪乳頭温存皮下乳腺全摘＋広背筋皮弁を用いた再建術 1 例、良性腫瘍摘出術 3 例

4. 今後の目標

八尾市とその周辺の近隣の先生方におかれましては、いつも貴重な症例をご紹介頂き誠にありがとうございます。充実した設備､協力的で強力な同僚･パラメディカルに恵まれクオリティの高い医療を提供できる状況でありますので、今後ともどんどん患者さまをご紹介いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

31）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長　森　彰之

1. 概要

2025 年も 2024 年同様に新型コロナウイルス感染症も多く、年末にはインフルエンザの流行もあり急性の上気道症状患者が多く来院されました。昨年同様に感染対策を行っており耳鼻咽喉科外来からの院内感染は起きておりません。今後も患者さまに安心して受診していただけるように引き続きの感染対策継続および強化をしてまいります。本年度も入院や手術は常勤医が 1 名のため適応・重症度を検討し治療にあたっています。

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

- 鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など
- 耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど
- のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープなど耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来で対応しています。

成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。
外来、入院患者の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。
甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。
手術は就学児童以上を対象としております。
副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チュービング術などを症例の重症度を検討し行っております。
中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森　彰之（常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
323	388	387	411	419	429	392	320	339	414	347	467	4,636	386

4. 今後の目標

入院・手術での対応を行っていき地域医療に貢献していきたいと思います。

32）病理診断科

病理診断科部長　中塚　伸一

1. 概要

2025 年 12 月現在、医師 9 名（常勤 4 名、非常勤 5 名）、病理専任の臨床検査技師 11 名（常勤 10 名、非常勤 1 名、うち細胞検査士 5 名）、医療事務 2 名が業務に携わっております。

当科では、院内の組織診断、細胞診断、病理解剖を行うほか、徳洲会大阪病理診断研究センターとして、大阪および近隣府県のグループ病院、一般医療機関の病理診断を請け負っております。2025 年には新たに徳洲会グループに加わった厚生会第一病院および正和病院のほか、一般診療所 1 施設の受託を開始し、12 月現在でグループ病院 11 病院、一般医療機関 10 施設と連携しております。中部徳洲会病院とはバーチャルスライドを使用した遠隔病理診断連携を実施しており、病理医の不足･偏在を解消するモデルケースとして実績を積み重ねております。引き続き病病連携・病診連携を推進し、積極的に地域医療への貢献に努めてまいります。2025 年の病理診断の総件数は、組織診断 13,008 件、細胞診断 22,015 件と、細胞診断件数が飛躍的に増加いたしました。これも病病連携の受託件数の増加によるものです。病理解剖は院内外で 13 件実施し、8 回の臨床病理検討会（CPC）を実施いたしました。初期研修医は病理解剖に実際に立ち会い、CPC での発表を通して、全身の臓器の状態を把握し、病態を理解する訓練を積んでおります。

2025 年 7 月に部門スペースの拡充工事が完了し、より充実した検鏡室に改修され、新たに遺伝子検査室が増設されました。換気設備の更新とともに、安全キャビネットやクリーンベンチを導入し、より安全で精度の高い病理診断が行える環境を整えております。免疫染色の件数増加に伴い、自動免疫染色装置も高機能機種に更新され、作業効率の向上に寄与しております。11 月には解剖室に遺体保冷庫を導入し、ご遺体をより良好な状態で解剖検索を実施できる環境を整えました。

2025 年 1 月、当科のスタッフが中心となり国内有数の病理エキスパートを講演者としてお招きし､「徳洲会病理部会がん分子病理セミナー 2025」をハイブリッド形式で開催しました（於: 大阪公立大学）。医師 37 名、技師 69 名（うちグループ外 76 名）の参加・視聴があり、学術的な面においても対外的に強く印象づけることができました。

2. メンバー構成（2025 年 12 月現在）

医師

中塚伸一（部長､センター長）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
寺田信行（副部会長）	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
久保勇記	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
南部尚子	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
青笹克之（最高顧問）	日本専門医機構病理専門医
山下憲一（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
若狭朋子（非常勤）	日本専門医機構病理専門医・産婦人科専門医・臨床検査専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病 内分泌 代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管 心臓血セ　67
形成外科 美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科 歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

北村昌紀（非常勤）　　日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、
日本臨床細胞学会細胞診専門医
坂本香織（非常勤）　　日本専門医機構病理専門医

臨床検査技師
岩﨑由恵（細胞検査士）、西川裕子（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、坪佐朱莉（細胞検査士）、吉川つかさ、溝邉栞、平井翔也、塩見日向子、伊佐萌子、田之上果代、萩原勝美（非常勤、細胞検査士）

3. 実績

《組織診断、細胞診断件数》

	組織診断	迅速組織診断	細胞診断	
徳洲会グループ病院				
当院	5,479[42%]	106	8,545[39%]*	*うちROSE 179件
1 松原徳洲会病院	1,733	10	3,384	病理解剖も受託(2件)。
2 生駒市立病院	1,394	0	3,115	
3 近江草津徳洲会病院	1,261	0	1,782	
4 阪南中央病院	986	0	2,206	
5 神戸徳洲会病院	498	0	505	
6 中部徳洲会病院	415#	0	0	#遠隔病理診断のみ。
7 六地蔵病院	262	0	285	
8 東佐野病院	64	0	8	
9 東大阪徳洲会病院	34	0	14	
10 厚生会第一病院	16	0	0	2025年9月～
11 全南病院	8	0	0	2024年八尾徳洲会総合病院に統合。
12 名古屋徳洲会病院	0	0	2,135	
13 正和病院	0	0	0	2025年12月～
徳洲会グループ病院　小計	12,150	116	21,979	
グループ外病院･診療所				
14 恵生会病院	806	0	10	
15 城山病院	18	18	0	迅速診断(戻しを含む)のみ。
16 菊池内科	16	0	0	
17 新井クリニック	15	0	26	
18 Takaデンタルクリニック	3	0	0	
19 八尾市立病院	0	9	0	迅速診断のみ。
20 なかたに歯科	0	0	0	
21 中井歯科クリニック	0	0	0	2025年10月～
グループ外病院・診療所　小計	858	27	36	
合計	13,008	143	22,015	

他、医真会八尾総合病院から免疫染色のみ受託。愛染橋病院、森之宮病院と病理解剖受託契約を締結している。

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
760	2025.1.14	内科	53	男	特発性間質性肺炎、急性増悪
761	2025.1.17	内科	82	女	乳癌全身転移、感染性心内膜炎
762	2025.6.27	松原徳洲会病院・内科	66	男	十二指腸穿孔、腹膜炎
763	2025.8.13	腫瘍内科	84	男	肺癌
764	2025.8.22	肝臓外科	81	女	急性出血性膵炎、膵管内乳頭粘液性腺腫
765	2025.9.14	内科	75	男	肺癌、癌性胸膜炎、肺膿瘍
766	2025.9.26	内科	69	男	肺癌、肺炎
767	2025.10.3	腫瘍内科	73	女	肺癌、癌性リンパ管症
768	2025.10.5	内科	76	男	誤嚥性肺炎
769	2025.10.7	腎臓内科	82	女	ANCA関連血管炎
770	2025.12.11	内科	85	女	誤嚥性肺炎、CABG後
771	2025.12.16	腫瘍内科	93	男	肺癌
772	2025.12.22	松原徳洲会病院・心臓外科	82	女	心不全

計13例

《担当カンファレンス》

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

乳腺カンファレンス（火曜午後、月に約２回）

呼吸器カンファレンス（木曜午後、毎週）

4. 今後の目標

2015 年に生駒市立病院の病理診断の受託を開始してから、10 年が経ちました。この間、受託契約施設数、病理診断件数は順調に増加してきました。業務量の増加に伴い、標本作製・病理診断の精度管理、医療安全管理などさまざまな問題点にも直面しております。これらの問題にも怠りなく注意を配り、作業効率と合わせ業務の「最適化」を引き続き追求します。そのための基盤となるのがマンパワーであり、病理医・病理技師の若手の育成と優秀な人材のリクルートにも尽力してまいります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　35
炎症性腸　37
呼吸器内　39
腫瘍内科　40
透析セン　41
腎臓内科　45
糖尿病内分泌代謝内科　46
脳神経内　49
膠原リウ　50
小児科　51
放射診科　53
救急科　54
集中治療　57
外　科　60
整形外科　62
脳神経外　65
心臓血管心臓血セ　67
形成外科美容外科　70
呼吸器外　72
小児外科　74
歯　科歯科口腔　77
泌尿器科　80
眼　科　81
麻酔科　83
肝臓セン　85
皮膚科　91
婦人科　92
乳腺外科　93
耳鼻咽喉　95
病理診断　96

副　診　療　部

―― 2025年 ――

33）薬　剤　部　102
34）放 射 線 科　105
35）臨床検査科　107
36）リハビリテーション科　111
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
37）臨床心理科　118
38）臨床工学科　120
39）栄　養　科　125
40）治験センター　128
41）医療福祉相談室　130
（MSW 医療ソーシャルワーカー）
42）病診連携室　134
43）健診センター　144
44）情報システム管理室　146
45）保　育　室　148
46）がん相談支援センター　151
47）医療安全管理部　155
48）感染制御部　161
49）臨床腫瘍センター　166

33）薬剤部

薬剤部薬局長　草薙　みか

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

病院内の増改築に伴う入院患者の増加に対応した一年となりました。また、大学の実務実習生の受け入れを各期に 4 名から 6 名へと増加させ、学生教育にも注力してまいりました。

2025 年 4 月からは大里薬剤部長の薬剤部本部長業務が本格化し、全国各施設へ業務指導に出向く機会が増加いたしました。当院では、医薬品安全管理者を私が、実務実習指導薬剤師を横山係長が、麻薬管理者を前田係長が担当し、役割を分担することで薬剤部の運営を行ってまいりました。4 月から 2 名の新しいスタッフを迎えてスタートし、11 月にはグループ内から 1 名の転勤者を迎えました。11 月 15 日からは、新設した 4 西病棟においても、他の病棟と同様に病棟常駐活動を開始いたしました。病棟薬剤業務活動における服薬指導件数は、昨年と同程度で月に 2,441 件（前年比 103.2%）と、前年度を上回る件数で推移いたしました。特に、退院時薬剤情報指導件数は 28.8%増加し、土日も平日と同様に退院患者さまへのシームレスな薬物治療管理支援を実施してまいりました。来年度も入院患者数の増加に対応できるよう、医療安全にも配慮した環境を整備してまいります。

2025 年度の薬剤部 QI 指標としては、『多職種連携による質の高い薬学的管理』を目指した周術期担当薬剤師の活動に焦点をあてました。2025 年 4 月～ 8 月の集計では周術期薬剤管理加算算定率 77.7% と目標の 100% には及ばなかったものの、グループ内ではトップの算定件数を達成いたしました。また、周術期担当薬剤師の薬学的介入率 38.9%、周術期担当薬剤師の多職種連携率 31.4% と、両者ともに目標の 30% 以上を達成することができ、量的・質的にも結果を残すことができました。

学会発表も積極的に行ない、『医療薬学フォーラム 2025　第 33 回クリニカルファーマシーシンポジウム』では 3 演題、『第 35 回日本医療薬学会年会』では 4 演題の発表を行い、『第 41 回日本栄養治療学会学術集会』では 1 演題の発表も予定をしています。今後は、これらの発表を論文につなげていきたいと考えております。

2026 年も常に薬剤師として臨床現場で何が求められ、何ができるのかを考え、それらの責務を果たせるよう努めていきたいと思います。

2. メンバー構成

• 薬剤師 51 名 （非常勤 1 名）

【育児休業：2 名】【僻地・離島応援：3 名】

助　手　3 名

• 有資格者

日本医療薬学会	医療薬学指導薬剤師	大里恭章
	医療薬学専門薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	草薙みか、山本倫数、濱田達志
	薬物療法指導薬剤師	草薙みか
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山靖法
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山靖法
日本医療緩和薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	山田直輝
日本栄養治療学会	NST 専門療法士	大里恭章、草薙みか、森田亜記、岩政かおり、山本倫数、森田幸男
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	坂野千賀、森田亜記、栗野大輔
日本アンチ・ドーピング機構	スポーツファーマシスト	大里恭章、山本倫数、井上悠、森下夏伎、松重彩、山本実伶奈
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、横山靖法、前田晃佑、青山瑛里子
日本麻酔科学会	周術期管理チーム薬剤師	大里恭章、前田晃佑
日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師	山本浩二郎
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん化学療法認定薬剤師	濱田達志
日本アカデミック・ディテーリング研究会	アカデミック・ディテーリング認定薬剤師	大里恭章、坂野千賀、栗野大輔、中田将基
日本循環器学会	心不全療養指導士	森田幸男、森下夏伎
日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師	竹腰雄真

3. 実績

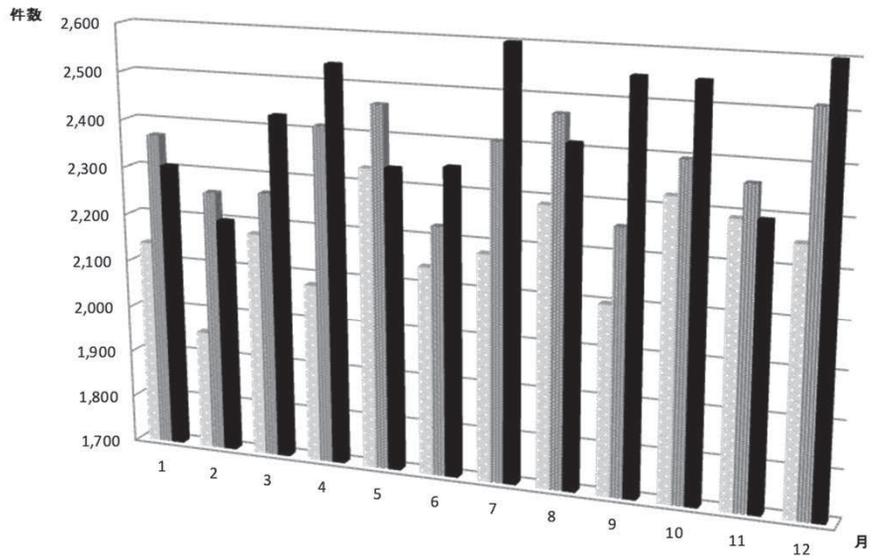
学生実習受け入れ【2025 年度：2025 年 5 月～ 2026 年 2 月：16 名】

• 2 期　6 名（武庫川女子大学 1 名、摂南大学 1 名、大阪大谷大学 2 名、近畿大学 2 名）

• 3 期　6 名（大阪医科薬科大学 1 名、摂南大学 1 名、近畿大学 4 名）

• 4 期　4 名（近畿大学 1 名、大阪医科薬科大学 3 名）

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2023年	2,138	1,952	2,177	2,080	2,333	2,141	2,179	2,288	2,100	2,325	2,291	2,253
2024年	2,369	2,257	2,265	2,412	2,463	2,226	2,406	2,468	2,256	2,397	2,360	2,513
2025年	2,306	2,199	2,427	2,538	2,337	2,348	2,601	2,413	2,549	2,548	2,292	2,742

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表・論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成とともに資格取得ができる環境を構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する



薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

34）放射線科

放射線科副技師長　村尾　信義

1. 概要

2025 年度は、診療放射線技師 4 名の新入職および 2 名の転勤があり、現在は診療放射線技師 37 名、事務員 1 名の体制となっております。今年度も、徳洲会グループ放射線部会と緊密に連携し、超規模病院としての責務を全うしてまいります。

検査実績といたしましては、前年と同様に近隣のクリニックや診療所より年間 3,230 件の検査依頼をいただきました。

今期は 2025 年 2 月に GE 社製 MR インジェクター「MR Xperion」を、5 月に GE 社製 X 線骨密度測定装置を導入いたしました。さらに 12 月には､第 3CAG 室に PHILPS 社製｢Azurion 7」および DVX 社製 インジェクター「RAQUOS」を導入いたしました。その他の既存の装置を最大限に活用することで、検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めてまいりました。

また近年の傾向と同様に、循環器内科および脳神経外科の協力により、緊急カテーテル治療の件数も増加いたしました。

脳卒中患者さまに対しては、緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術といった治療を行うなど、救急医療の面においても大きく貢献できたものと考えております。

学術面では、今後も個々の能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を継続してまいります。

治療および検査体制の充実を図り、安全に最大限配慮しながら迅速に対応できるよう、そして地域社会に信頼される病院であり続けられるよう、努力してまいります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 37 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	伊吹剛、井上竜太、齋藤里沙、宮本夏実
マンモグラフィ検診認定技師	村尾信義
	疋田直子、齋藤里沙、安川莉愛、金岡愛実、宮本夏実、
	大西あゆみ、藤田雅舞、坂元真衣 岡田優妃 、岡島菜乃、
	坂本樹美
胃がん検診認定技師	琉秀光、近藤浩司
肺がん CT 認定技師	近藤浩司、伊吹剛
救急撮影認定技師	小川宏明
Ai 認定技師	橋詰智
医療情報技師	村尾信義、川野友也
X 線 CT 認定技師	伊吹剛、瀬川裕一

3. 実績

《月別放射線科統計》

2025年	単純透視	CT	MR	RI	CAG	DSA	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	6,894	3,216	784	86	117	50	323	229	11,699
2月	7,007	3,023	882	70	95	40	268	231	11,616
3月	6,689	3,379	959	98	104	64	291	287	11,871
4月	6,763	3,377	846	115	123	56	266	258	11,804
5月	6,520	3,427	944	102	127	41	287	291	11,739
6月	6,699	3,368	1,002	104	109	34	190	320	11,826
7月	7,233	3,497	949	89	116	42	347	309	12,582
8月	7,455	3,504	855	83	94	34	266	214	12,505
9月	6,802	3,454	946	72	128	41	371	249	12,063
10月	7,074	3,536	1,005	97	115	32	408	295	12,562
11月	6,289	3,251	840	100	100	32	370	251	11,233
12月	7,286	3,840	920	100	133	48	436	296	13,059
合計	82,711	40,872	10,932	1,116	1,361	514	3,823	3,230	144,559
平均	6,893	3,406	911	93	113	43	319	269	12,047

実習生受け入れ

清恵会第二医療専門学院　　1名

大阪ハイテクノロジー専門学校　2名

4. 今後の目標

CT線量管理による画像の質向上や被曝量の低減などを含め、診断精度および治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指してまいります。

また、科内の労働環境改善を図るとともに、勉強会への積極的な参加や資格取得の励行などを通して、個人の能力向上にも尽力してまいります。

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

35）臨床検査科

臨床検査科技師長　松田　治恵子

1. 概要

2022 年の増改築キックオフから 3 年が経過し、外来診療時における採血の混雑解消を検査科の重要課題として掲げ、増改築に伴う検査室改革の準備を進めてまいりました。2025 年は、まさにこの計画を実行する年となり､3 月 16 日には検体検査室を地下へ移転し､1 階の採血コーナー拡張が完了しました。この改革により、採血の待ち時間は劇的に改善されました。地下に移転した検体検査室には、検体の到着確認から遠心、開栓、測定、冷蔵庫保管、検体廃棄までをフルオートで行なう搬送システムを導入いたしました。1 階の採血室と、地下に移転した検査室が階層をまたぐという課題を解決するため、両者を垂直搬送システムを用いて接続いたしました。これにより、外来採血検体を人の手を介することなく、安全かつ迅速に搬送することが可能となりました。病棟検体についても、自動払出しステーションが搬送システムと連携しております。このように、外来と病棟の両方が搬送システムと連携する機能は、日本初の画期的な取り組みとなっております。このため、外部機関からの見学依頼を多数いただくようになりました。現在は毎月一組限定でのご案内となるため､見学をお待ちいただいている状況です。

検査部会全体としては、離島・僻地医療への応援を継続しており、2025 年には 3 月末から 5 週間石垣島へ､9 月から 2026 年 3 月までは 20 週間にわたり徳之島への応援を予定しております。2025 年度は合計半年間、延べ 5 名の技師が離島応援に貢献いたしました。その他、交換研修として、松原徳洲会病院より 3 年目の技師を受け入れました。当院からは、9 年目の技師を和泉市立総合医療センターへ研修に派遣することができました。

検査各部門では、生理検査における腹部超音波検査は 2 年連続で前年を下回ったものの、その他の超音波検査や機能検査は全て 3 ～ 4%増加いたしました。検体検査は全てにおいて件数が増加しており、なかでも病理部門は 20%の増加となりました。点数でみると免疫部門のみが前年を約 15%下回る結果となりました。その要因としては、点数の高い PCR 検査や抗原定量検査が減少した一方で、点数の低いインフルエンザ・コロナ同時定性検査の実施件数が増加したことが影響しております。これは、COVID-19 検査の内容の変化に伴う結果であると考えております。前年と COVID-19 検査の総件数自体には大きな変化はみられなかったため、当該検査を除いて前年と比較すると、免疫部門においても他の検査同様に 3%の増加率を維持しておりました。

学術発表につきましては、日本医療検査科学会第 57 回大会ランチョンセミナーで 1 演題、第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会で 2 演題、第 64 回日臨技近畿支部医学検査学会で 2 演題を発表いたしました。また、院内品質改善検討会（QI 大会）では特別賞を受賞いたしました。さらに、関西大阪ブロック検査部学術集談会では代表 2 演題のうちの 1 演題に選出され、福岡徳洲会病院で開催された全国検査部学術集談会にて発表いたしました。

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

2. メンバー構成

• 臨床検査技師　　51 名

（他、採血コーナー常勤看護師 2 名、非常勤看護師 1 名、受付事務 5 名）合計：59 名



臨床検査科

3. 実績

1）資格試験合格者

• ICLS　岸上周平技師、吉川つかさ技師

2）実習生受け入れ

• 日本医療学院専門学校　1 名（4 ヶ月）
• 大阪医療技術学園専門学校　1 名（4 ヶ月）
• 関西医療大学　1 名（3 ヶ月）

3）機器更新・新設

アークレイ　HA8190V　2 台（搬送接続用）
小林採血管準備装置 i・pres core
シスメックス　XR-9000　XR-20　2 台（11616、11617）
　　SP-50　1 台（16449）
　　CN-6000（11585）
オリンパス　システム生物　顕微鏡　BX43　2 台
BD　BACTEC　MGIT960
ロシュ　BenchMark ULTRA PLUS（免疫染色）
　　ベンチマーク　ULTRA　PLUS
日本エアーテック　VS-6 型 標準クリーン・ベンチ
　　バイオハザード対策用キャビネットクラスⅡ A2
シーメンス　半自動型卓上尿分析器　CLINITEK Advantus
シーメンス EMP 契約
　　Aptio オートメーション 1 式（コンプレッサー・無停電装置・DMS・APS3 台）
　　AtellicaCH930 生化自動分析装置 4 式
　　Atellica IM1600 免疫自動分析装置 2 式
　　Atellica サンプルハンドラー 2 式

Atellica2M 用純水製造システム
Atellica4M 用純水製造システム
アテリカ用 SRS 接続キット一式（2 式）

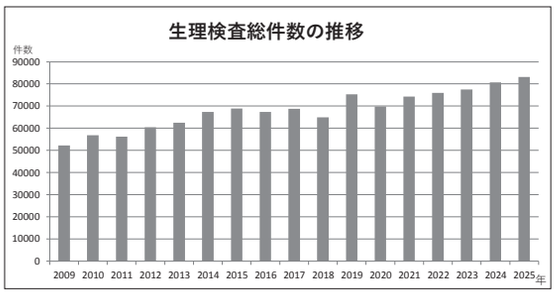
4）検査統計

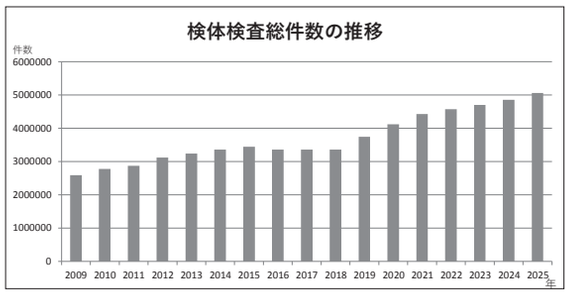
（件数）

項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	44,659	39,653	43,306	43,467	45,254	46,961	48,795	45,106	46,624	46,748	40,433	48,799	539,805	44,984
血液	93,883	83,540	90,783	92,622	94,191	94,191	98,349	95,820	93,200	97,921	86,514	102,652	1,123,666	93,639
微生物	8,192	7,343	7,771	8,194	7,682	8,170	9,033	8,474	9,125	8,374	8,459	9,253	100,070	8,339
免疫	28,046	24,744	26,478	26,538	26,668	26,604	28,821	27,323	27,404	28,189	26,745	30,527	328,087	27,341
生化学	203,113	179,287	197,362	198,067	201,608	201,929	210,979	199,854	199,738	210,300	185,483	219,184	2,406,904	200,575
病理	1,260	1,263	1,411	2,133	1,548	1,560	1,700	1,599	2,096	1,761	1,456	1,382	19,169	1,597
細胞診	3,493	3,066	3,495	2,565	3,259	3,690	3,842	3,516	3,763	3,694	3,332	3,897	41,612	3,468
外注合計	5,439	5,317	6,589	5,791	5,743	5,895	5,454	5,639	5,580	5,600	5,354	5,800	68,201	5,683
検体合計	425,253	375,911	413,337	415,536	421,829	424,242	445,577	421,871	424,199	440,534	389,514	459,406	5,057,209	421,434
腹部エコー	790	752	856	743	807	842	866	762	818	903	738	871	9,748	812
心エコー	789	715	725	794	782	800	846	815	838	840	730	940	9,614	801
他エコー	863	878	886	887	917	937	1,014	921	883	948	810	1,022	10,966	914
生理合計	6,609	6,388	6,741	6,863	6,751	6,925	7,540	7,010	7,097	7,187	6,362	7,629	83,102	6,925
月間検査合計	431,862	382,299	420,078	422,399	428,580	431,167	453,117	428,881	431,296	447,721	395,876	467,035	5,140,311	428,359

（点数）

項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	291,079	281,504	292,558	291,446	313,422	324,056	331,283	320,549	312,485	325,831	280,522	327,991	3,692,726	307,727
血液	1,298,251	1,158,785	1,207,541	1,285,489	1,255,035	1,274,047	1,370,273	1,320,081	1,280,711	1,323,380	1,171,192	1,415,865	15,360,650	1,280,054
微生物	1,319,082	1,130,742	1,230,578	1,239,238	1,167,290	1,235,243	1,383,619	1,295,609	1,387,294	1,266,343	1,273,323	1,408,060	15,336,421	1,278,035
免疫	2,329,934	1,697,173	1,805,251	1,718,404	1,695,859	1,708,600	1,942,759	2,012,793	1,891,969	1,847,909	1,807,073	1,992,822	22,450,546	1,870,879
生化学	2,760,735	2,383,992	2,649,739	2,670,053	2,686,785	2,748,382	2,841,187	2,686,793	2,682,467	2,813,302	2,576,820	2,971,264	32,471,519	2,705,960
病理	1,073,170	1,073,310	1,195,090	1,822,660	1,307,070	1,329,010	1,435,700	1,352,170	1,786,570	1,502,570	1,244,540	1,168,470	16,290,330	1,357,528
細胞診	412,150	364,300	414,000	323,320	397,640	443,165	460,775	420,560	449,090	435,430	391,650	458,630	4,970,710	414,226
外注合計	1,145,818	1,157,346	1,387,908	1,336,676	1,339,821	1,358,994	1,354,832	1,335,403	1,241,355	1,214,951	1,206,784	1,225,088	15,304,976	1,275,415
検体合計	11,842,399	10,364,372	11,412,495	11,900,796	11,389,172	11,603,687	12,428,288	12,004,688	12,279,871	12,019,606	11,149,464	12,308,640	140,703,478	11,725,290
腹部エコー	437,560	414,900	472,490	413,960	444,360	467,700	481,560	421,120	449,640	498,150	405,810	476,000	5,383,250	448,604
心エコー	706,720	647,800	648,540	708,640	697,460	710,820	753,780	728,360	748,600	756,560	654,800	840,840	8,602,920	716,910
他エコー	487,350	490,100	490,100	507,850	497,050	522,850	566,600	513,350	493,450	522,500	459,000	572,800	6,123,000	510,250
生理合計	2,251,450	2,176,760	2,277,640	2,332,700	2,333,040	2,411,665	2,569,180	2,345,175	2,377,190	2,489,895	2,176,770	2,670,160	28,411,625	2,367,635
院内検査合計	14,093,849	12,541,132	13,690,135	14,233,496	13,722,212	14,015,352	14,997,468	14,349,863	14,657,061	14,509,501	13,326,234	14,978,800	169,115,103	14,092,925





4. 今後の目標

1）検査技師の質の向上

①各専門技士育成

細胞検査士、輸血専従技師、微生物検査技師、生理検査技師（超音波・各種機能検査）

②各種資格試験の受験

細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、
認定輸血検査技師、認定血液検査技師　など

③各種学会発表・論文執筆の推進

④離島応援

2）業務改善・改革

①超音波検査予約枠増設

②患者搬送軽減のための病棟連携

③各専門分野における人員配置の見直し（生理検査・細菌検査・病理検査・輸血検査）

3）患者様満足度向上

①接遇改善

②予約検査の充実

③生理検査の待ち時間短縮

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

36）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

理学療法室室長　野村　日呂美

1. 概要

2025 年は病院の増床に伴いリハビリ室が 4F から 3F へ移転いたしました。面積は 743㎡から 525㎡と縮小しましたが、各療法の外来スペースを共有するなどの工夫により、受付業務の共有化を図ることができました。

2025 年度の目標であった急性期加算の算定漏れ防止に取り組み、月 80 万円の部署増収に貢献いたしました。この活動は、QI 大会にて最優秀賞を受賞することができました。

第二の目標であるスタッフの増員と離職防止については、多数の実習生を受け入れるとともに、SNS やインスタグラム等を用いた広報活動を実施いたしました。理学療法士は目標とする募集人数を達成いたしましたが、作業療法士と言語聴覚士の確保は困難な状況でした。特に言語聴覚士の業務量過多は継続しており、昨年 12 月より実施していた理学療法士と作業療法士による口腔ケア、および飲水テスト・ペースト食の開始を本年も継続いたしました。さらに、2 月からはグループ病院からの応援を得て業務を運用する状況でございました。来年度も引き続き離職防止と新規人材の確保を目標として取り組んでまいります。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標（次項参照）

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

【理学療法】

1. メンバー構成

在籍人数　　単位：名

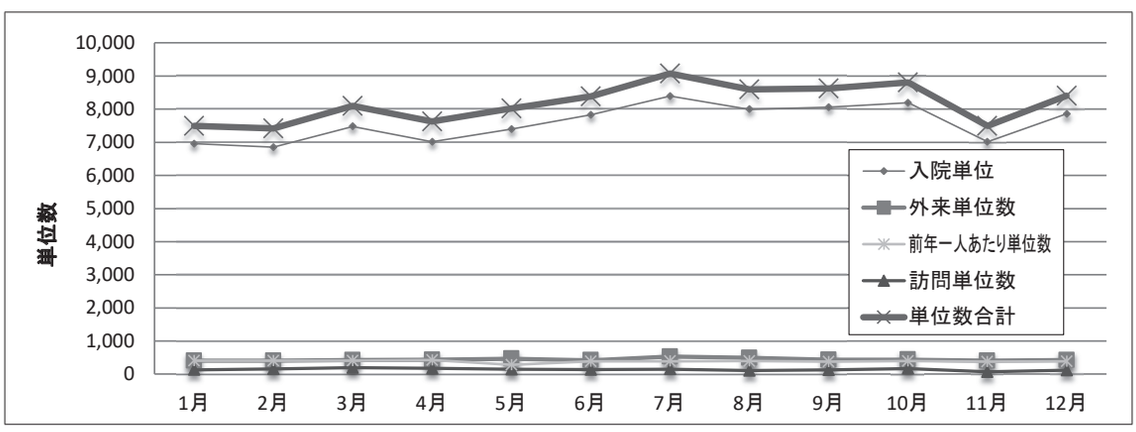
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
24	24	24	28	28	28	28	27	26	26	26	26

4 月 4 名入職、3 月より育児短時間で 1 名復帰
3 月 2 名、7 月末　1 名退職、8 月末 1 名部署移動
全南病院応援
11 月中旬より 1 名・12 月末より 1 名体調不良にて不在
全南病院応援、11 月より週 3 回午前中から週 2 回午前中に変更
12 月末で 1 名退職・12 月有給にて不在

2. 実績

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	6,957	6,851	7,481	7,020	7,403	7,828	8,393	7,998	8,059	8,194	7,014	7,858	91,056	7,588.0
外来単位数	409	407	423	434	470	420	528	490	436	440	407	425	5,289	440.8
訪問単位数	132	160	196	178	145	135	153	112	130	173	71	122	1,707	142.3
単位数合計	7,498	7,418	8,100	7,632	8,018	8,383	9,074	8,600	8,625	8,807	7,492	8,405	98,052	8,171.0
スタッフ数（実働数）	19.6	19.6	19.6	18.8	20.6	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.2		21.0
一人あたり病院単位数	375.8	370.3	403.3	397.5	383.1	375.8	406.1	386.7	387.0	393.3	337.3	373.1		382.4
前年一人あたり単位数	404.6	405.4	409.5	426.5	281.3	385.2	391.9	398.2	376.5	394.8	376.0	384.3		386.2
前年スタッフ数	19.2	18.2	17.6	15.6	17.2	18.9	19.7	20.1	19.1	19.1	19.1	19.1		18.6
延べ入院件数	4,982	4,789	5,307	5,227	5,472	5,481	6,183	5,937	5,529	5,897	5,221	5,943	65,968	5,497.3
延べ外来件数	294	318	339	353	366	326	430	378	337	346	318	313	4,118	343.2
訪問患者数	11	11	14	12	12	12	13	10	13	13	9	10	140	11.7

（訪問含む）



①実習生受け入れ

			期間	学年
《見学実習》	森ノ宮医療大学	8/4 ～ 8/8	2 年	1 名
	大阪公立大学	9/8 ～ 9/12	2 年	2 名
	大和大学	3/3 ～ 3/7	1 年	1 名
《検査測定実習》	大阪保健医療大学	1/20 ～ 2/15	3 年	2 名
	大阪府立大学	12/1 ～ 12/19	3 年	1 名
	行岡医療大学	2/3 ～ 2/21		1 名
《臨床実習》	大阪医療福祉専門学校	10/13 ～ 11/29	3 年	1 名
	大阪公立大学	6/2 ～ 7/23	4 年	1 名
	大阪四條畷学園大学	8/11 ～ 10/1	4 年	1 名
《地域実習》	大阪公立大学	9/3 ～ 9/9	4 年	2 名

②地域連携

服部　玄徳　　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員
久松　寛　　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員

③学術発表・論文投稿

学会名：第 25 回 AKA 医学会理学・作業療法士会学術集会
テーマ：肩関節周囲炎に対し AKA- 博田法が及ぼす影響について表面筋電図を用いて検討した一症例
発表者：山内朝日香

学会名：第 15 回　リハビリテーション部会　関西・大阪ブロック　学術研修会
テーマ：外的刺激によりすくみ足の改善を示した脳血管性パーキンソニズムの一例
発表者：山本　泰誠

学会名：神経理学療法学会
テーマ：Lateropulsion を伴う Opalski 症候群の一症例～急性期における治療介入～
発表者：村上　隼

3. 今後の目標

- 在院日数短縮に向けて大腿骨頚部骨折におけるリハビリパスの導入
- スタッフの離職防止と新人獲得

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

【作業療法】

1. メンバー構成　　単位：名

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スタッフ実働人数	7	7	7	9	9	9	9	9	9	10	10	10

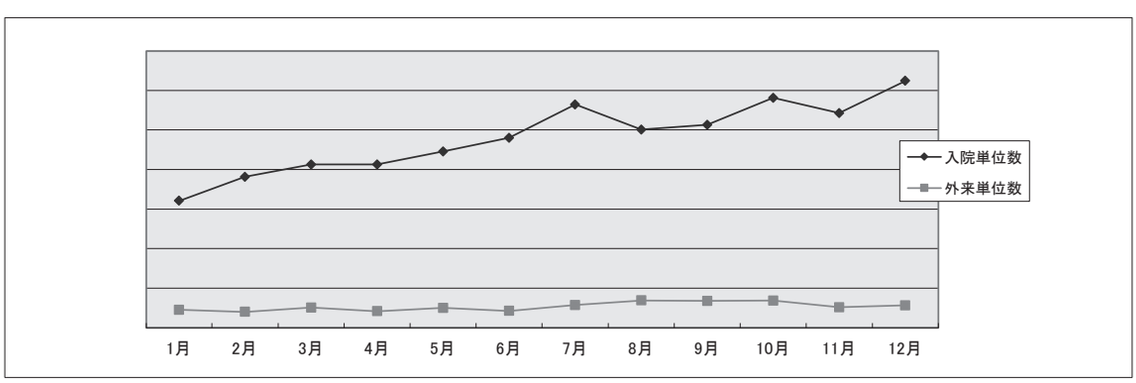
4 月に 2 名入職

10/6 より 1 名育休より復帰　* 復帰後は時短勤務

2. 実績

《作業療法単位数》

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,605	1,907	2,065	2,064	2,229	2,403	2,823	2,504	2,565	2,908	2,715	3,123	28,911	2,409.3
外来単位数	226	201	256	209	252	213	287	347	339	342	261	284	3,217	268.1
単位数合計	1,831	2,108	2,321	2,273	2,481	2,616	3,110	2,851	2,904	3,250	2,976	3,407	32,128	2,677.3
スタッフ実働人数	7	7	7	9	9	9	9	9	9	10	10	10		
2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,835	1,717	1,824	1,761	1,789	1,555	1,870	1,959	1,524	1,635	1,634	1,753	20,856	1,738.0
外来単位数	207	283	302	259	250	210	275	301	286	308	257	249	3,187	265.6
前年度単位合計	2,042	2,000	2,126	2,020	2,039	1,765	2,145	2,260	1,810	1,943	1,891	2,002	24,043	2,003.6
2024スタッフ人数	6	6	6	8	8	7	6	7	6	6	6	6		



《実習生受け入れ》

	期間	学年
大阪公立大学	2/17 ～ 2/28	2 年
	9/10	1 年
大阪医療福祉専門学校	8/25 ～ 11/1	4 年
関西福祉科学大学	7/14 ～ 8/2	4 年
大阪保健医療大学	1/27 ～ 2/14	3 年

《学術集会》

学会名：第 39 回大阪府作業療法学会

テーマ：作業・遊びの活動の再開を支える装具デザイン
～母指 MP 関節過伸展障害 3 症例の実践から～

発表者：梅崎大貴

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

【言語聴覚療法】

1. メンバー構成　　単位：名

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
7	7(+2)	6(+1)	5(+1)	5(+1)	5(+1)	5(+1)	5(+1)	5(+1)	5(+1)	5	5(+0.3)

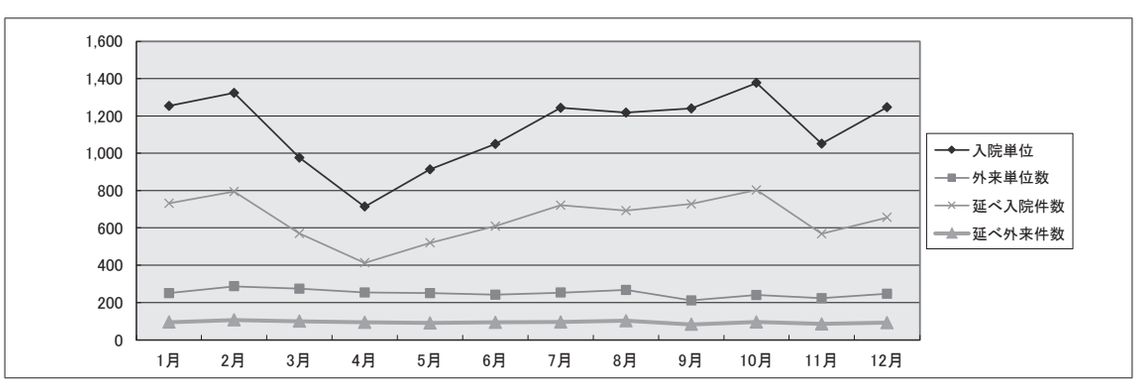
()内応援者数

2月	名古屋病院より1名、出雲病院より1名応援
	1名産前産後休暇
3月	補助員1名入職
3月末	3名退職
3月～4月	松原病院より1名応援
4月	新人1名入職
5月～6月	神戸病院より1名応援
7月～8月	高砂西部病院より1名応援
9月～10月	宇治病院より1名応援
12月	松原病院より週2回1名応援

2. 実績

《言語療法単位数》

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,253	1,324	976	714	913	1,049	1,243	1,218	1,240	1,377	1,052	1,247	13,606	1,133.8
外来単位数	250	287	274	254	250	242	253	268	212	241	224	247	3,002	250.2
延べ入院件数	732	794	570	413	520	610	722	693	728	803	568	656	7,809	650.8
延べ外来件数	95	107	100	94	91	94	96	103	83	96	85	92	1,136	94.7
スタッフ実働数	7	9	6	4	4	5	5	5	5	5	4	4	63	5.3



《実習生受け入れ》

なし

【心臓リハビリテーション】

1. 概要

循環器科、心臓血管外科において入院患者さまへのリハビリテーションの提供を行っております。入院患者さま、手術患者さまとも多く、早期退院に向けて高頻度での介入を継続しております。特に術後の患者さまは ADL 低下が著明にみられるため、自宅退院に向けての ADL の向上を術後早期から積極的に図っております。また、患者層の高齢化に伴い心不全症状での入院患者さまが増加しており、そのような患者さまの再入院予防は、今後取り組むべき課題であると考えております。

外来リハビリテーションにつきましては、継続して拡大を目指しておりますが、通院手段の確保が困難であるなどの理由により、現状では伸び悩んでいる状況です。

2. メンバー構成

循環器科医師　　：松尾浩志、高橋圭、田辺悠馬、熊田博斗、児玉侑香
心臓血管外科医師：薦岡成年、小島三郎、春日健介、清水元就
理学療法士　　：片田理恵、岩本千尋、麻野智幹、村上隼
臨床検査技師　　：戸野川始

3. 実績

《業務量》

合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	合計
患者数	593	551	461	494	476	579	358	283	213	266	283	359	409.7	4,916
単位数	894	904	724	740	755	785	476	357	333	385	410	497	605.0	7,260

《学会発表》

なし

4. 今後の目標

- 外来心臓リハビリテーションの拡大
- 心不全再入院予防への参画

37）臨床心理科

臨床心理士　朴　祐希

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

当院における心理士の役割は、治療を受ける患者さまお一人おひとりの心に寄り添い、支えることです。病気や外傷に直面した際、人は不安や混乱、苦悩、痛みといった多様な感情や感覚を抱き、それらが治療や回復の妨げになることも少なくありません。そうした心理的負担を少しでも和らげ、患者さまが心身ともに安定した状態で過ごせるようサポートすることを私たちは目指しています。

本年度は患者さまへの直接的な心理支援に加え、岸和田徳洲会病院および宇治徳洲会病院より各１名の心理士研修者を受け入れ、人材養成や他施設との連携強化にも注力いたしました。今後もグループ全体の心理士の質的向上に貢献していく所存です。

2. メンバー構成

片上徹也　（精神保健指定医）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）
宮坂なつ花（臨床心理士・公認心理師）
藤原恭子　（臨床心理士・公認心理師）
田原一樹　（臨床心理士・公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

- 心理外来（小児科・その他の診療科）

  小児科領域では主に心身症や発達障害などの患者さまを対象に、医師の指示のもと心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を実施しております。他の診療科においても､身体疾患に伴う心理的な不調をきたしている患者さまに対応いたしております。また、心理検査や発達検査、認知機能検査などのさまざまな検査も実施しております。

- 糖尿病外来

  糖尿病ケアチームとして、他職種とともに患者さまの血糖管理や治療を支えるための精神的なサポートを行っています。主に、当院の糖尿病外来に通院中の患者さまに対し、糖尿病とともに生きる不安や心理的な負担を抱えている方にはカウンセリングを、また糖尿病を持つご高齢の患者さまには医師の指示のもと、認知機能検査を実施しております。これらの介入を通じて患者さまお一人おひとりに合わせた支援を目指し、チームスタッフとも連携を図っております。

【入院業務】

- 診療科は問わず入院患者さまやそのご家族に対して、カウンセリングなどの心理的ケアを実施しております。
- 緩和ケアチーム、糖尿病ケアチーム、精神科リエゾンチーム、心臓外科リハビリカンファレンス、ICU カンファレンスなどに参加し、医師や看護師をはじめとする多職種と連携・協力しながら、患者さまをサポートするチーム医療を実践しております。

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	面談	小児科	64	70	59	59	55	65	49	53	57	61	51	65	708
		糖尿病外来	5	7	4	3	2	2	2	3	2	2	1	2	35
		緩和ケア	1	3	3	1	2	2	2	1	0	0	0	0	15
		その他	4	3	5	5	4	4	8	6	5	6	3	7	60
	検査	心理検査	2	0	0	0	1	1	5	1	1	0	1	3	15
		発達検査	6	5	7	9	7	6	5	10	9	7	3	11	85
		その他検査	4	1	1	1	3	1	1	2	0	2	2	1	19
	合計		86	89	79	78	74	81	72	76	74	78	61	89	937
入院	面談	内科系	5	4	4	2	2	9	11	1	6	19	12	12	87
		外科系	12	14	5	8	5	24	27	14	18	21	17	39	204
		小児科・婦人科	0	0	0	0	0	2	0	7	4	0	0	0	13
		糖尿病	4	6	7	5	8	6	5	3	10	12	9	7	82
		緩和ケア	3	18	6	9	16	4	8	7	0	9	16	6	102
		リエゾンフォロー	6	10	6	9	10	13	20	21	15	17	11	3	141
	検査		13	5	5	8	7	11	6	9	9	7	6	6	92
	合計		43	57	33	41	48	69	77	62	62	85	71	73	721

4. 今後の目標

私たちは、日常生活の中でさまざまな困難を抱え相談に来られた方お一人おひとりと丁寧に向き合い、ともに考え、ともに歩む姿勢を大切にしております。その関わりを通して、皆様が日々の生活を少しでも安心して過ごせるよう支援することを目標としております。

今後も多くの方のお力になれるよう、院内での臨床活動にとどまらず、学会発表の継続や他施設との連携を積極的に進めるとともに、心理士一人ひとりの専門性と資質の向上に努めてまいります。

38）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

- 2025 年 12 月時点で病床は 437 床となり、それに伴い医療機器に関連する対応件数も増加いたしました。スタッフ数は 31 名です。アブレーション業務を開始し、心臓カテーテル室は増築工事により 3 室となりました。また、TAVI の施設認可も取得いたしました。
- 臨床工学科の品質管理指標としましては、中央貸出管理医療機器の稼働率および医療安全に関するインシデント件数のモニタリングを継続し、これらの取り組みを通じて課題を抽出、改善を図る仕組みの醸成に努めてまいりました。
- 透析機器の保守対応のさらなる充実を図るため、メーカー講習会へ参加し認定資格を取得いたしました。
- タスクシフトに必要な臨床工学技士告示研修の受講は引き続き推進し、手術室におけるタスクシフトを視野に入れた対応を進めてまいりました。本年度より開始いたしましたスコープオペレータ業務は 61 件に対応し、臨床工学技士の実習プログラムとして適用することができました。
- グループ内の臨床工学部会活動の一環として、各業務のワーキンググループにスタッフが参加し、情報共有、業務の標準化、スキルアップ、そして質改善に向けた取り組みを行いました。
- 認定資格の取得を推進し、知識の向上および安全な医療体制の構築を図ってまいりました。
- 臨床実習の受け入れを継続するとともに、適宜面談をおこない、実習の質向上に努めてまいりました。
- 臨床工学技士の離職者が多く、一部スタッフのオンコールや残業が過多となっている現状があります。そのため、業務の見直し、運用変更、教育推進などを進めております。これと並行して、離職理由を把握し、離職防止に努めてまいります。

2. メンバー構成

役　職	氏　名
技士長	藤田　和睦
係長	藤村　篤志
副主任	玉城　賞
副主任	長谷川　弘将
副主任	今堀　泰一
	河野　遥
	吉村　有梨奈
副主任	矢野　友規
	西村　宥哉
	東内　耀平
	前田　遼

役　職	氏　名
	山谷　和佳
	加藤　由希子
	中之　花
	尾﨑　大輝
	吉岡　水輝
	平野　涼寧
	川原田　直樹
	山本　健心
副主任	末次　円香
	稲田　恵理
	今村　芙紀

役　職	氏　名
副主任	矢野　佑紀
	岸田　一格
	本間　梨音
	河田　愛莉
	村田　渓士
	安部　響
	尾崎　玖琉
	久米川　翼
	武井　和真
	繁　唯央利

2025年12月時点

3. 実績

《2025 年臨床工学科業務量件数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル													
CAG	44	42	33	50	41	34	39	31	33	37	26	43	453
右心カテ	0	2	0	1	1	0	0	1	2	2	0	0	9
PCI	71	43	61	68	78	63	66	55	76	77	60	83	801
下肢アンギオ	6	6	17	7	7	2	7	1	6	6	4	5	74
PTA	20	12	29	34	17	14	18	8	21	17	9	21	220
TPM	9	5	9	7	11	15	9	13	9	7	9	4	107
PPM	1	4	3	3	5	7	6	4	3	1	4	3	44
その他(PTAV、PTMC)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DSA													
脳アンギオ	3	5	2	2	3	0	1	1	1	2	0	1	21
腹部アンギオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シャント造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
血液浄化													
HD/HDF/ECUM(外来)	708	625	677	673	694	627	673	638	662	704	652	710	8,043
HD/HDF/ECUM(入院)	345	272	338	285	310	239	282	323	348	282	360	372	3,756
on-lineHDF	484	438	457	474	483	449	407	103	428	425	382	433	4,963
i-HDF	10	34	50	74	72	62	77	96	78	120	95	70	838
病棟透析	15	13	26	7	15	24	22	11	8	16	18	20	195
CRRT	115	48	78	62	29	42	44	54	44	46	58	42	662
PMX	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
GCAP	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
CART	0	2	1	0	1	1	3	4	2	3	4	4	25
血漿交換	0	0	0	0	0	3	3	2	0	3	19	20	50
血漿吸着	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4
レオカーナ	0	0	5	5	1	0	24	21	17	32	21	0	126
手術													
人工心肺(開胸)	13	14	7	5	5	7	3	4	3	8	12	4	85
人工心肺不使用(開胸)	1	1	1	0	3	1	1	0	0	1	4	6	19
人工血管置換術(開腹等)	0	0	3	1	1	2	2	1	1	2	0	0	13
自己血回収(単独)	16	16	10	6	15	10	8	7	6	10	17	8	129
ダビンチ	12	13	14	11	11	15	16	12	18	15	14	12	163
ナビゲーション	1	2	0	1	3	2	3	0	3	3	2	4	24
MEP	8	8	14	13	11	13	11	10	7	12	8	12	127
鏡視下手術	71	94	63	83	65	74	77	81	65	80	60	72	885
TEVAR	5	5	0	2	7	5	3	2	4	6	4	3	46
EVAR	5	5	6	9	6	10	10	6	3	4	5	8	77
スコープオペレータ	10	8	10	9	5	3	1	4	2	6	1	2	61
補助循環(件数)													
ECMO	6	1	1	3	2	3	3	0	2	1	2	3	27
IABP	7	3	6	3	2	5	3	3	2	3	7	5	49
IMPELLA	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
不整脈業務													
EPS	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
アブレーション	0	0	0	0	0	0	0	2	8	9	6	7	32
ペースメーカー													
外来	18	20	16	27	37	3	38	2	14	14	14	34	237
入院	8	9	7	6	9	9	7	4	5	2	4	10	80
遠隔モニタリング	150	150	150	150	184	150	139	150	150	150	150	150	1,823

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
消化器内視鏡検査													
上部消化管内視鏡検査	409	403	473	451	469	479	533	516	497	528	451	510	5,719
下部消化管内視鏡検査	192	225	249	247	229	246	301	236	255	274	231	242	2,927
小腸内視鏡検査	0	3	4	2	0	1	2	2	1	0	0	1	16
止血術	13	17	19	16	15	16	18	16	15	21	21	10	197
EVL/EIS	3	2	0	2	2	0	0	2	2	0	2	1	16
拡張術	1	0	5	0	0	2	2	0	1	0	1	1	13
EMR・ポリペクトミー	78	87	103	107	105	123	142	121	114	133	116	117	1,346
ESD	10	9	7	9	14	8	13	7	7	14	9	11	118
ステント	4	4	2	3	0	4	2	4	4	4	5	2	38
イレウス管（スコープ使用）	7	5	0	4	6	7	3	4	2	4	1	2	45
異物除去	0	0	0	1	1	0	0	6	5	0	2	2	17
OTSC	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1	7
胃瘻造設	5	2	7	9	3	2	5	9	4	4	3	3	56
EUS（観察のみ）	3	6	4	4	6	8	7	5	10	4	5	6	68
EUS（観察以外）	0	4	1	3	2	3	1	1	4	4	2	3	28
胆膵系処置													
ERCP	24	18	19	38	39	26	32	32	35	38	30	30	361
EST/EPBD	10	7	11	7	12	7	6	14	14	21	13	14	136
胆管メタリックステント	3	1	0	3	0	0	3	6	7	3	5	4	35
チューブステント	22	13	15	30	35	19	21	24	29	31	21	20	280
ELT	4	3	0	7	9	3	0	2	6	8	5	3	50
バスケット/バルーン採石	13	10	9	15	31	19	23	12	21	21	18	22	214
擦過細胞診	1	8	3	8	3	1	4	5	9	4	4	3	53
胆管内内視鏡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
胆管内結石破石術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
気管支鏡													
BF	11	9	10	13	9	5	13	15	14	13	7	3	122
BAL	3	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	7
EBUS-GS	5	3	8	8	4	4	9	12	11	7	5	2	78
EBUS-TBNA	0	0	0	1	1	0	2	2	0	3	1	0	10
保守点検													
輸液ポンプ	582	627	591	646	678	648	644	584	544	599	582	681	7,406
シリンジポンプ	352	377	308	381	361	275	293	297	244	282	285	320	3,775
除細動器	992	879	989	948	990	972	1,032	1,104	1,031	1,091	1,084	1,146	12,258
低圧持続吸引器	80	75	61	80	66	63	62	63	39	64	74	68	795
人工呼吸器	1,438	1,585	1,476	1,323	1,077	1,112	938	1,060	992	1,091	1,030	1,096	14,218
生体監視モニター	7,921	7,283	7,521	7,168	7,271	7,437	8,101	8,087	7,534	8,046	7,739	8,670	92,778
血液浄化装置	1,420	1,225	1,394	1,287	1,330	1,186	1,353	1,312	1,362	1,323	1,402	1,425	16,019
内視鏡機器	1,746	1,770	1,987	1,947	1,946	2,086	2,350	2,060	2,132	2,336	1,956	2,176	24,492
人工呼吸関連（延べ件数）													
IPPV	607	531	482	414	233	314	269	332	236	266	345	397	4,426
NPPV	394	260	185	219	288	209	171	170	189	179	269	312	2,845
NHF	721	637	534	371	294	327	312	384	391	413	548	438	5,370
搬送用人工呼吸器	21	14	24	14	9	3	1	13	18	8	11	15	151
在宅人工呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急車での人工呼吸器	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1	9
呼吸療法													
RST	167	130	145	148	148	129	155	141	133	120	91	121	1,628
救急車対応													
救急車同乗	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	2	1	10

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

4. 今後の目標

現在携わっている業務についてリーダーを設定し、業務の安定化、教育推進、情報集約を通じて、効率的な管理体制の構築に努めてまいります。また、各業務においては目標の設定により、スタッフが主体的に能力を伸ばしやすい環境を構築してまいります。

《血液透析》

- i-HDF や on-line HDF 治療の増加により、引き続き透析液（超純粋透析液）水質管理を継続して行います。課題としては、超純粋透析液使用のため、ET 測定の頻度が増加していることから、ET 測定器の購入を検討します。
- エコーを使用したシャント評価や穿刺ミスの低減を図り医療の質向上を図ります。
- 一部機器の老朽化に伴い、RO 装置および透析監視装置の更新を進めます。今後、ICU および HCU の増床から特殊透析の増加が見込まれるため、機器の増設も検討します。

《心臓カテーテル》

- 2026 年よりカテーテル室が増床し 3 部屋となります。それに伴い、今後件数の増加が予想されることから、メンバーの増員および教育体制の強化を図ります。

《内視鏡》

- 内視鏡治療介助に必要な知識の底上げです。看護師も携わるため、どのような教育を行なえばより安全な治療介助が行えるかを検討します。
- スコープの修理費を抑え、よりコスト意識を高めることで病院経営に貢献します。

《心臓血管外科》

更なる人工心肺使用症例数の増加、緊急手術、重症症例の増加や低侵襲手術の導入など心血管外科手術の増加が予想されます。また 2026 年は TAVI の開始も予定されています。これらに対応し、安全で安定した医療を提供できる体制の強化を図ります。

《手術（整形外科・脳神経外科・Davinci)》

前年と比較し手術支援ロボット業務・術中神経モニタリング業務の件数が増加しているため業務に対応できる人員の増員を目標とします。また、迅速な手術の進行と患者さまの安全性を担保できる体制整備を進めます。

《ラパロ》

2025 年 1 月より業務開始、週 2 回で対応。告示研修修了者から選抜し、対応可能なスタッフの育成を図ります。

《アブレーション》

2025 年 7 月より業務を開始しました。現時点では約週 2 回で対応しています。選抜したメンバーで対応しており、体制の安定化、増員および個々のスキル向上を図ります。

《ペースメーカー》

- 植え込み、外来、MRI、OP のチェックができる人材の増加を図ります。
- 頻脈デバイスの遠隔モニタリングを見ることができる人材の育成および定着を図ります。

《ICU》

ICU は 10 床から 20 床へ増床される予定で、全体的な業務量の大幅な増加が見込まれます。様々な経験を通してスタッフのスキルアップを図り、より安全な医療を提供できるよう指導・教育を行ってまいります。

《HCU》

HCU は増改築により 20 床から 30 床へ増床しました。全体的な業務量の増加が見込まれ、特に血液浄化業務の対応が増加する見込みです。様々な経験を通してスタッフのスキルアップを図り、より安全な医療を提供できるよう指導・教育を行ってまいります。

《ME》

ME 中央管理機器の輸液、シリンジについては稼働率の変動が大きく、90％を越える稼働の際は機器が不足する状況が発生しています。そのため臨床工学科では、毎月の標準指標として稼働率をモニタリングし、故障・破損による更新状況を把握し、院内における安定的な機器配備が行えるよう務めます。

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

39）栄養科

栄養科室長　小山　洋史

1. 概要

2025 年は、当院の病床数増加に伴い、栄養科にとって大きな転換点となる一年でした。病床の拡大により、提供食数は大幅に増加し、厨房では連日、想定を上回る調理量への対応が求められました。特にピーク時には厨房の処理能力を超える業務負荷が発生し、作業動線や工程の見直しが急務となる場面も多々生じました。加えて、調理師･厨房員の人員不足は深刻化し、安定した食事提供体制を維持するための継続的な配置調整が必要不可欠となりました。こうした人的逼迫は、9 月からの外来レストラン休業という形で顕在化し、栄養科全体として勤務体制の再構築を図る一年となりました。

一方、臨床面においては、早期栄養介入加算の対象となる HCU の増床により、管理栄養士の病棟業務はより高度かつ迅速な対応が求められました。病態把握から介入、他職種連携までの一連の流れにおいて、質とスピードの両立が求められ、管理栄養士の臨床的専門性を高める契機となりました。

施設設備面においては、厨房機器の老朽化が顕在化し、洗浄機をはじめとする高額厨房機器の更新が必要となった一年でもありました。特にスチームコンベクションオーブンなど大量調理に欠かせない機器の検討・更新は、今後の安全かつ効率的な調理業務を維持するために不可欠であり、計画的な設備投資の重要性が再認識されました。

2. メンバー構成

2025 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日

管理栄養士	11 名
栄養士	1 名
調理師	13 名
常勤調理補助	1 名
調理補助	20 名

3. 実績

《実習生受け入れ》

- 武庫川女子大学　2025 年 6 月 9 日～ 6 月 27 日　4 名

- 大阪樟蔭女子大学　2025 年 8 月 4 日～ 8 月 8 日　4 名
  2025 年 8 月 18 日～ 8 月 22 日　4 名

《食数》　2025年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	15,720	14,094	16,139	14,853	15,303	14,129	16,637	16,391	15,387	17,057	14,906	16,639	187,255	15,605
経管栄養	3,297	2,399	2,675	2,601	1,711	1,874	1,437	1,934	1,587	2,715	2,406	2,227	26,863	2,239
特別食	12,355	10,644	12,334	11,898	11,882	13,007	12,225	11,685	11,688	10,474	11,533	13,302	143,027	11,919
特別食非加算	2,744	2,087	2,253	2,925	2,213	1,881	1,554	1,674	1,578	1,076	1,140	1,277	22,402	1,867
職員食	8,098	7,661	8,284	9,335	9,094	9,150	9,509	9,096	8,796	9,565	8,527	9,425	106,540	8,878
保育所	630	559	758	414	384	396	407	532	468	496	504	589	6,137	511
病児後保育	85	55	55	46	86	70	92	63	65	94	122	119	952	79
付き添い食	67	24	28	39	123	47	30	132	16	10	33	100	649	54
合計	42,996	37,523	42,526	42,111	40,796	40,554	41,891	41,507	39,585	41,487	39,171	43,678	493,825	41,152

《病院食内訳》　2025年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	4,902	4,009	4,865	4,052	4,519	4,755	5,346	5,061	4,743	5,652	4,759	5,310	57,973	4,831
軟菜食	3,741	3,735	4,123	3,985	3,906	3,633	4,445	4,350	4,064	3,977	4,307	5,195	49,461	4,122
極軟菜食	5,369	4,333	5,248	5,241	4,411	3,925	4,540	5,487	4,469	4,029	4,837	4,438	56,327	4,694
ペースト食	4,633	4,338	5,278	5,779	5,553	5,282	5,868	4,583	5,443	5,315	4,572	4,472	61,116	5,093
流動食	301	301	309	290	223	291	242	352	351	291	261	220	3,432	286
学童食	13	29	39	50	18	40	46	29	22	86	9	9	390	33
幼児食	56	14	9	8	18	39	13	26	17	15	10	17	242	20
離乳食	1	10	0	0	0	0	0	5	0	2	0	0	18	2
糖尿食	3,065	2,253	2,924	2,658	2,726	2,593	2,930	2,174	2,467	2,362	2,555	2,683	31,390	2,616
心臓食	2,926	3,061	3,253	3,587	3,546	3,373	3,441	3,731	3,014	2,953	2,699	4,244	39,828	3,319
高血圧食	571	1,089	715	1,346	1,271	1,486	1,492	1,377	564	1,076	1,025	1,195	13,207	1,101
腎臓食	1,391	1,115	1,058	1,183	923	1,603	1,724	990	1,384	866	1,319	1,181	14,737	1,228
透析食	396	329	381	383	418	181	250	524	613	747	1,112	827	6,161	513
糖尿透析食	911	806	905	751	774	681	547	858	814	658	779	715	9,199	767
脂質異常症食	198	21	82	75	160	25	172	24	37	121	78	275	1,268	106
低脂肪食	262	306	347	404	490	397	405	623	642	348	462	326	5,012	418
肝臓食	327	313	556	470	558	302	237	249	394	273	304	344	4,327	361
肝不全食	350	138	58	108	56	80	98	83	143	128	104	144	1,490	124
貧血食	56	7	113	88	124	149	47	128	113	109	13	30	977	81
低残渣食	512	596	707	382	675	457	589	597	681	881	624	571	7,272	606
潰瘍食	84	122	119	211	375	243	254	132	183	143	249	193	2,308	192
胃切後食	150	130	93	57	89	216	260	67	187	112	79	66	1,506	126

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
クローン病食	4	0	0	0	0	29	0	0	15	0	0	0	48	4
ケモ食	143	208	179	230	428	225	403	323	448	574	286	268	3,715	310
COPD食	63	32	27	58	256	166	150	125	97	10	94	192	1,270	106
注腸検査食	0	0	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	6	1
顎間固定食	34	35	20	15	14	92	7	60	61	63	82	33	516	43
訓練食	169	152	105	33	86	88	76	79	62	66	65	82	1,063	89
濃厚流動食	3,306	2,491	2,722	2,676	1,724	1,905	1,466	1,934	1,619	2,734	2,511	2,236	27,324	2,277
その他(単品食等)	1,565	1,565	1,639	844	1,024	859	927	1,220	1,029	1,250	663	864	13,449	1,121
合計	35,499	31,538	35,874	34,967	34,365	33,117	35,975	35,192	33,676	34,841	33,858	36,130	415,032	34,586

《栄養指導件数》　2025年1月1日～12月31日

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院初回	234	230	217	257	259	235	258	268	254	264	244	257	2,977	248
入院2回目	60	71	49	50	72	58	68	57	51	64	43	60	703	59
外来初回	21	18	24	36	25	27	19	18	17	19	16	24	264	22
外来2回目	100	110	88	89	102	110	80	78	73	75	69	64	1,038	87
外来化学療法	4	10	8	5	5	4	7	6	8	9	10	6	82	7
合計	419	439	386	437	463	434	432	427	403	431	382	411	5,064	422

《その他の業務》　2025年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
早期栄養介入加算(ICU)	126	126	107	112	137	124	160	124	113	116	144	132	1,521	127
早期栄養介入加算(HCU)	384	349	387	372	455	597	694	667	664	645	641	622	6,477	540
栄養管理計画書	3,417	3,137	3,425	3,456	3,480	3,330	3,639	3,672	3,522	3,692	3,595	3,945	42,310	3,526
周術期栄養介入加算	2	1	2	0	0	2	4	3	4	4	0	0	22	2
個別食時加算	5	14	8	7	14	14	19	6	3	9	13	12	124	10
合計	3,934	3,627	3,929	3,947	4,086	4,067	4,516	4,472	4,306	4,466	4,393	4,711	50,454	4,205

4. 今後の目標

2026 年の診療報酬改定を控え、管理栄養士にはより高い専門性と介入力が求められます。栄養科としては、改定内容に迅速かつ的確に対応できるよう、研修の充実や院内教育の強化を進め、臨床栄養チームとしての質の向上を目指してまいります。また、増床に伴う食数に対応するため、安全性と衛生を最優先とした作業工程の見直しや、効率化を図った献立・作業体制の改善を継続的に実施してまいります。厨房設備の更新も含め、持続可能な給食提供体制の基盤づくりを進めていく所存です。さらに、栄養科の日々の臨床実践やその成果を、院内だけでなく学会や外部の場で積極的に発信することで、当院栄養科の価値を広く示し、病院全体の評価向上にも貢献してまいる所存です。

40）治験センター

治験センター長　大里　恭章

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

2024 年 12 月に新設された南館へ移転した当センターは、2025 年において、新体制の定着および治験業務の推進を重点課題として取り組んでまいりました。職員数を維持しながら、安定した体制のもと、質の高い治験業務の遂行に努めております。2025 年は新規治験の受託が限定的となる状況も見られましたが、関係各所との調整を継続的に行った結果、2026 年より開始予定の大規模国際共同治験を受託するに至りました。

また、当グループ全体で推進しております新型コロナウイルス陽性者を対象とした大規模臨床研究につきましては、順調に進捗しており、2025 年度中に必要症例数を確保できる見込みです。

さらに本年の重要な取り組みとしましては、業務効率の向上および治験における逸脱防止を目的に、企業と連携し、生成 AI を活用したツールの開発プロジェクトを開始いたしました。当初の計画どおり概念実証（PoC）を完了し、その成果を「第 25 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2025 in 大宮」において発表いたしました。本取り組みは、当グループにおける DX 推進の一環として位置づけられております。

2. メンバー構成

薬剤部長兼治験センター長：大里 恭章（薬剤師）
副センター長　　：元田 健太郎（臨床検査技師）
専任 CRC　　：加藤 美和（看護師）
専任 CRC　　：東福 すみれ（看護師）
専任 CRC　　：澤田 梓歩子（事務員）

3. 実績

【受託治験】

①動脈硬化性心血管疾患、慢性腎臓病、全身性炎症（ノボ　ノルディスク ファーマ株式会社）
②心血管疾患の既往を有する肥満症（ノボ　ノルディスク ファーマ株式会社）
③肥満症（ノボ　ノルディスク ファーマ株式会社）
④全身性の炎症を伴う心不全（ノボ　ノルディスク ファーマ株式会社）
⑤持続的血液浄化療法（ニプロ株式会社）
⑥低栄養のリスクがある高齢者（ファイザー株式会社）

4. 今後の目標

①治験の推進

来年度に開始予定の大規模国際共同治験を確実に遂行してまいります。

②生成 AI・DX

本年度に PoC を完了した生成 AI ツールにつきましては、実務への本格的な活用を見据え、継続的な改良および機能拡張を進めてまいります。また、デジタル技術を活用した業務改革を推進し、従来課題となっていた属人的な業務プロセスの見直しを行うことで、担当者によらず一定の業務品質を維持できる体制の構築を目指します。

③体制整備・教育

院内連携を一層強化し、新たな診療科における治験受託の拡大を図るとともに、教育体制の充実を通じてチーム全体のスキル向上に取り組んでまいります。

④地域医療・社会への貢献

地域医療への貢献を基軸に、最新技術と人的スキルの融合を図ることで治験の質を高め、より多くの患者さまに先進的な治療の機会を提供できるよう、着実に取り組んでまいります。

41）医療福祉相談室（MSW：医療ソーシャルワーカー）

認定医療ソーシャルワーカー　三谷　勇一

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

2025 年問題として、認知症高齢者が 700 万人に達すると予想されておりましたが、実際は 471 万人に留まるなど、時代の先行きが不透明な状況が続いております。MCI（軽度認知障害）という新しい考え方による集計方法の変更が原因と考えられておりますが、これは既存の常識にとらわれると時代に取り残されてしまうことを象徴するような出来事でした。2025 年度も多方面で法改正がありました。6 月には、懲役刑と禁固刑を拘禁刑に一本化することで、受刑者の状況に応じた作業や指導で更正を強化したり、10 月には、障害者総合支援法において、就労選択支援という新たな概念の元、多様な就労ニーズへの対応強化が行われております。このような状況の中、当院の退院支援部門は、科学的根拠に基づく介入（EBP：エビデンスベーストプラックティス）を実践しております。

病棟数は 12 棟となり、病床数 455 床へと増床いたしました。これまで取得してまいりました入退院支援加算に加え、協力対象施設入所者入院加算、重症患者初期支援充実加算、救急患者連携搬送料の取得など、相次いで体制変更を進めてまいりました。一方、MSW 部会の活動としましては、日報、月報の記載方法を見直し、データの集計方法を変更いたしました。さらには QI 大会への出場や、医事部門チャレンジコンテストへのエントリーなど、科学的に実践データを分析し、体制構築に活用いたしました。また、部会単位の初の取り組みとして、徳洲会グループ全体での新人研修を企画立案し、実行いたしました。これらの取組みは、学会発表 2 演題としてまとめることができました。

1/20　入退院支援センターオープン
10/1　患者サポート窓口新体制における再オープン（患者サポート体制充実加算算定）
10/1　特別養護老人ホーム愛の郷との連携強化（協力対象施設入所者入院加算）
11/1　入院時重症患者対応メディエーター活動開始（重症患者支援充実加算算定）
11/15 感染症病床（4 西）開始

2. メンバー構成

病棟専任社会福祉士 11 名（算定加算：入退院支援加算 1、入院時支援加算 1、
患者サポート体制充実加算、重症患者支援充実加算）

入院時重症患者対応メディエーター：三谷勇一（専任）
医療対話推進者：　三谷勇一（専任）
がん専門相談員：　三谷勇一（専任）
入退院支援専従社会福祉士：　門田翔太（専従）
入退院支援専任看護師：　石田智子（専任）
入院時支援専従看護師：　辻井千穂（専従）
影山雄紀（ICU・HCU）、中納浩子（4 西）、福田珠己（4 東）、伊藤貴代（5 西）
木村千恵（5 東）、井本裕美（6 西）、脇由佳（6 東）、柿沼和絵（7 東）
石田智子・古山有希（7 西）、柿沼和絵（7 西）、五十嵐健太（8 西）、竹内里咲（8 東）

人事異動

なし

委員会活動等

患者ケア委員会	三谷	患者アセスメント委員会	三谷	業務改善委員会	門田
QI 会議	三谷	運営会議・広報委員会	門田	放射線治療委員会	三谷
QI 会議	門田	がん緩和支援委員会	三谷	オンコロジー委員会	三谷
未収金委員会	竹内	地域医療担当者会議	五十嵐	病床管理委員会	影山
入退院支援会議	三谷	入退院支援会議	影山	入退院支援会議	中納
八尾パルス会議	三谷	入院時重症患者対応メディエーター会議			三谷

認定資格等

認定社会福祉士（医療分野）	三谷	認定スーパーバイザー	三谷
認定医療ソーシャルワーカー	三谷	救急認定ソーシャルワーカー	三谷
認定がん専門相談員	三谷	入院時重症患者対応メディエーター	三谷
公認心理師	三谷・門田	職場適応援助者	三谷
両立支援コーディネーター	三谷・門田	障害者職業生活相談員	三谷
社会福祉士実習指導者	三谷・門田	介護福祉士	井本
地域緩和ケア連携調整員	三谷・門田	医療対話推進者	三谷
認知症サポーター	三谷・門田	精神保健福祉士	伊藤
ファイナンシャルプランナー	三谷・門田	第一種衛生管理者	三谷

3. 実績

1）退院支援実績

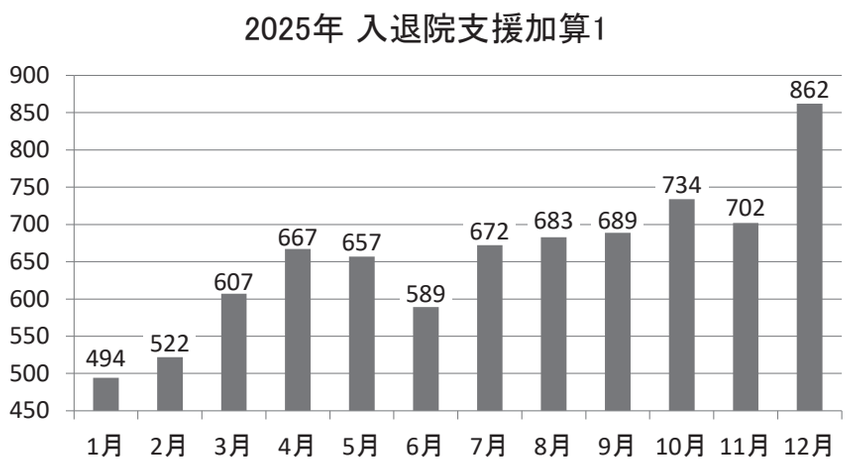
2025年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1.他施設へ		185	172	188	239	254	206	251	261	260	247	241	306	2,810
内、グループ内施設へ		32	25	35	54	35	32	34	51	60	46	38	63	505
内訳	①医療機関	112	105	118	147	153	118	145	156	168	153	137	193	1,705
	内、グループ内施設へ	26	19	24	43	30	21	26	32	49	37	24	52	383
	②老健施設	9	9	13	17	15	12	9	13	15	14	17	19	162
	内、グループ内施設へ	4	4	8	11	5	9	4	11	9	7	12	11	95
	③老人ホーム等	63	58	56	73	84	76	86	92	75	80	85	92	920
	内、グループ内施設へ	2	2	3	0	0	2	4	8	1	2	2	0	26
	④その他	1	0	1	2	2	0	11	0	2	0	2	2	23
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

2025年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2.在宅診療へ		45	33	29	44	33	26	27	34	27	26	39	48	411
内訳	グループ内事業所	1	2	1	1	2	6	4	3	4	5	3	1	33
	(再掲)内､新規登録	1	2	0	0	2	3	1	4	3	5	3	2	26
	グループ外事業所	44	31	28	43	31	20	23	31	23	21	36	47	378
3.死亡		79	76	58	57	55	46	38	56	60	51	69	57	702
4.その他(軽快退院を含む)		579	578	715	728	749	685	750	714	692	736	670	847	8,443
1､2､3､4の合計		888	859	990	1,068	1,091	963	1,066	1,065	1,039	1,060	1,019	1,258	16,623

2）入退院支援加算1（退院支援計画書）算定実績

昨年の7,148件から増加し、7,878件となりました。

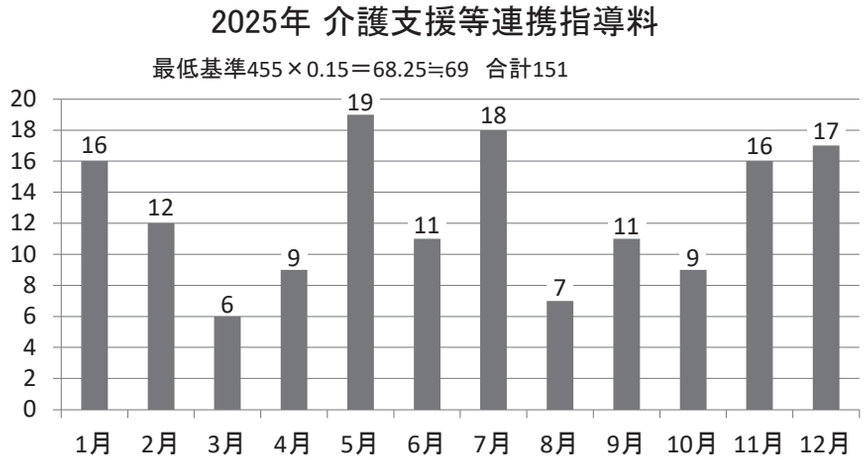
図1



3）介護支援等連携指導料など

施設基準として年間69件以上の算定が必要となります。2025年は151件で有意に条件を満たしましたが、昨年の176件を下回っております。退院時共同指導料2は178件と昨年の212件より減少いたしました。地域連携診療計画加算は188件と、昨年の180件を上回りました。また、入院時支援加算1は昨年の696件から増加し、768件でした。入院時支援加算2は、昨年の17件から減少し14件でした。

図2



薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

4）相談援助実習（指導者：三谷、門田）合計 0 名

本年度は実習生の受け容れをしませんでした。

5）研修・部会参加

8/29	徳洲会 MSW 部会（WEB）	三谷
10/21	徳洲会 MSW 部会新人研修（WEB）	三谷、福田
10/31	徳洲会 MSW 部会新人研修（WEB）	三谷

4. 今後の課題と目標

2026 年度は、MSW 部会での活動が活発化される予定です。2025 年度の日報、月報の報告方法の変更に伴い、ソーシャルワーカーが専門職として活躍するための質向上に向けた体制構築における課題が浮き彫りとなりました。そこで、その手始めとしまして、部会単位でのスーパービジョン体制の構築に着手してまいりたいと存じます。これまで、意欲ある者が専門職としての力量の向上に伸び悩む傾向が見受けられ、部会でも度々解決方法の模索に関する話題があがっておりました。その第一歩としまして、スーパービジョンの活用を通じて専門職としての質の担保を図ってまいります。

学会等でのトピックとしましては、「ソーシャルワーク」の実践が十分でない社会福祉士が散見される点が懸念されております。科学的なアプローチを元にした実践ができているかを、スーパービジョンを通して再度問い直す一年となる見込みです。

42）病診連携室

病診連携室課長補佐　児島　和人

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

患者さまが安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、また大阪府の地域医療支援病院・がん拠点病院として、その役割を果たすべく地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発かつ密接におこなっております。そして、当院へ積極的にご紹介いただけるよう、常に迅速かつ正確な対応を心がけております。

また、地域の皆さまにも広く医療をご理解いただき、予防医療への関心をお持ちいただけるよう、定期的に医療講座を開講しております。がん教育の一環として、八尾市および中河内医療圏の小中学校・高校で児童・生徒さま向けの医療講演もおこない、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

今後も地域医療の中核病院としての役割を果たすべく、切れ目のない医療連携体制の構築を目指し、地域住民の皆さまに安心と信頼の医療を提供してまいります。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　副院長・外科統括部長　（肝臓外科・小児外科）

事務：児島和人・中道睦代・立川陽子・出口やよい・山中隆史

3. 実績

「中河内医療連携の会」（病診連携の会）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を開催

2025 年 2 月 15 日（土）「中河内医療連携の会」

会場：シェラトン都ホテル大阪／（共催）第一三共株式会社

一般演題 1　座長　宮澤眼科クリニック　院長　宮澤　裕之　先生

「地域に根ざす眼科医療」

演者　八尾徳洲会総合病院　眼科　部長　奥田　吉隆

一般演題 2　座長　甲野クリニック　院長　甲野　拓郎　先生

「放射線治療再開　―　新リニアック：TrueBeam・ExacTrac の紹介　―」

演者　八尾徳洲会総合病院　放射線治療部　医長　梶谷　千香枝

一般演題 3　座長　貴島病院本院　循環器内科　貴島　秀行　先生

「当院のめざす増改築後の高度急性期病院について」

演者　八尾徳洲会総合病院　救急総合診療科　救急センター長　村尾　佳則

特別演題　　座長　八尾徳洲会総合病院　脳神経外科　部長　吉村　政樹
「心房細動関連脳卒中診療の現状と課題」
演者　国立循環器病研究センター　脳血管内科　部長　古賀　政利　先生

講演会終了後　　当院医師と連携医の先生方との情報交換会開催

《当院主催の主な公開医療講座》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
医師	一般	大腸がんについて ～最新のロボット手術～	消化器外科 大田　修平	1月24日	八尾市立総合体育館 ウィング
		息切れ・胸痛・足の痛み ～歳のせいだけではありません～	循環器内科　部長 松尾　浩志	1月31日	八尾市文化会館 プリズムホール
		健診を受けよう！	消化器外科　医長 堤　綾乃	2月18日	グレース大聖堂
		小児外科で診るこどもの腹痛	小児外科　医長　河島　茉澄	2月26日	八尾市文化会館 プリズムホール
		骨粗鬆症と転倒予防	武田　悠吾	2月28日	八尾市立総合体育館 ウィング
		膝の痛みでお困りの方へ 根拠のある治療とは？	整形外科　部長 岩崎　圭至	3月18日	グレース大聖堂
		脳神経外科で行う低侵襲脊椎治療	脳神経外科　部長 吉村　政樹	3月19日	八尾市立総合体育館 ウィング
		胃カメラ・大腸カメラについて	消化器内科　医長 中島　ひろみ	3月21日	八尾市文化会館 プリズムホール
		がん薬物療法について ～肺がんを中心に～	副院長・腫瘍内科部長 瓜生　恭章	3月25日	八尾市文化会館 プリズムホール
		膵臓の病気・膵臓内視鏡	肝臓外科　医長 井上　雅文　医師	4月15日	グレース大聖堂
		眼の健康を助ける	眼科　医長 宮木　俊哉　医師	4月23日	八尾市文化会館 プリズムホール
		知っていますか？よくある手の病気 ～メノポハンドと低侵襲手術～	整形外科　医長 土肥　義浩　医師	4月24日	八尾市立総合体育館 ウィング
		骨の健康を考えよう！ ～今日から始める骨粗しょう症対策～	整形外科　医長 三木　秀賢　医師	5月15日	八尾市立高美小学校 集会所
		当院における様々な急な腹痛	外科 小池　廣人　医師	5月29日	八尾市立総合体育館 ウィング
		乳がんのお話	乳腺外科　部長 鄭　聖華　医師	5月30日	八尾市文化会館 プリズムホール
		便潜血陽性といわれたら大腸がん？ ～ウンが良ければ早期発見～	外科　医長 垣本　佳士　医師	6月17日	グレース大聖堂
		潰瘍性大腸炎について	炎症性腸疾患外来　部長 西村　東人	6月19日	八尾市立高美小学校 集会所
		骨の健康を考えよう！ ～今日から始める骨粗しょう症対策～	整形外科　医長 三木　秀賢　医師	6月24日	八尾市文化会館 プリズムホール
		新しい熱傷(やけど)の治療	救急科　救急センター長 村尾　佳則	8月19日	グレース大聖堂
		咳や痰、運動時の息切れ ～ COPD(慢性閉塞性肺疾患)～	集中治療部 山田　知樹	8月27日	八尾市立総合体育館 ウィング
		最新の肺がん治療について	呼吸器外科　部長 市橋　良夫	9月18日	八尾市立高美小学校 集会所
		心臓血管外科の現在地 ～体にやさしい新しい治療法～	副院長　心臓血管外科　部長 鷹岡　成年	9月26日	八尾市文化会館 プリズムホール
		子供が受診すべきタイミング ～安心のために知っておきたいこと～	小児科 中尾　聡宏	10月16日	八尾市立高美小学校 集会所
		膝の痛みでお困りの方へ 根拠のある治療とは？	整形外科　部長 岩崎　圭至	10月28日	八尾市文化会館 プリズムホール

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
医師	一般	褥瘡について	形成外科 福村　崇	11月21日	八尾市文化会館 プリズムホール
		新しい熱傷(やけど)治療 ～最新軟膏治療とスプレー式細胞植皮～	救急科　救急センター長 村尾　佳則	12月17日	八尾市文化会館 プリズムホール
看護師	一般	正しいくすりの飲み方	認定看護管理者 澁谷　豊克	1月16日	オンライン講座
		心臓の病気	認定看護管理者 澁谷　豊克	1月16日	オンライン講座
		花粉症とマスクのお話	看護部　感染制御部 宮本　幸子	1月27日	オンライン講座
		フットケア	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	1月27日	オンライン講座
		救命処置とAEDの使い方	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	2月17日	オンライン講座
		緩和ケアとは・・・？	緩和ケア認定看護師 今西　真奈美	2月20日	オンライン講座
		生活習慣改善10ヶ条 【歯の健康】	認定看護管理者 澁谷　豊克	2月25日	オンライン講座
		手術支援ロボット da Vinci(ダヴィンチ)とは	認定看護管理者 澁谷　豊克	2月25日	オンライン講座
		安全な手術のために ～患者さんに知っておいてほしいこと～	手術看護認定看護師 村野　尚久	3月10日	オンライン講座
		生活習慣改善10ヶ条 【　ストレス　】	認定看護管理者 澁谷　豊克	3月11日	オンライン講座
		知っておきたい認知症！	認定看護管理者 澁谷　豊克	3月11日	オンライン講座
		がんと免疫は関係あるの？part2 ～免疫を自分であげることはできるのか？～	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	3月24日	オンライン講座
		手術よもやま話 ～種々雑多な話～	手術看護認定看護師 村野　尚久	4月14日	オンライン講座+院内開催
		生活習慣改善10ヶ条 【　睡　眠　】	認定看護管理者 澁谷　豊克	4月22日	オンライン講座+院内開催
		歯周病からくる全身の病気	認定看護管理者 澁谷　豊克	4月22日	オンライン講座+院内開催
		黄砂とPM2.5による健康被害	感染制御部　部長 澁谷　豊克	5月13日	オンライン講座+院内開催
		「がん予防」 最新情報	認定看護管理者 澁谷　豊克	5月13日	オンライン講座+院内開催
		がんと栄養	がん薬物療法看護認定看護師 上田　晴香	5月26日	オンライン講座+院内開催
		気をつけたい食中毒	感染管理認定看護師 萩原　美香	5月27日	オンライン講座+院内開催
		動物からうつる感染症	感染制御部　部長 澁谷　豊克	6月9日	オンライン講座+院内開催
		便　秘	認定看護管理者 澁谷　豊克	6月9日	オンライン講座+院内開催
		熱中症の予防と対策	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	6月23日	オンライン講座+院内開催
		お口は大事です！ ～がん治療と口の関係～	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	6月23日	オンライン講座+院内開催
		集団食中毒！多い!?	感染制御部　部長 澁谷　豊克	7月29日	オンライン講座+院内開催
		知っておきたい認知症の基本	認定看護管理者 澁谷　豊克	7月29日	オンライン講座+院内開催
		熱中症を予防しよう ～熱中症の知識と対策～	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	7月31日	オンライン講座+院内開催
		食中毒予防の原則と 6つのポイント2025	感染制御部　部長 澁谷　豊克	8月5日	オンライン講座+院内開催
		熱中症特別警戒アラートとは？ 発表時の対策と熱中症予防のポイント	認定看護管理者 澁谷　豊克	8月5日	オンライン講座+院内開催

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験センター　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診センター　144
情報システム　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
看護師	一般	痛みの緩和 ～痛みの種類と薬の使い分け～	緩和ケア認定看護師 今西　真奈美	8月26日	オンライン講座+院内開催
		八尾市民が要介護になる病気とは	感染制御部　部長 澁谷　豊克	8月27日	八尾市文化会館 プリズムホール
		これからのことを考える ～がんと言われたその日に考えよう～	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	9月29日	オンライン講座+院内開催
		「結核」に注意！古くて新しい感染症 日本では毎年約1万人が新たに発症！	感染制御部　部長 澁谷　豊克	9月30日	オンライン講座+院内開催
		無煙たばこ・スヌースの健康影響と 受動喫煙について	認定看護管理者 澁谷　豊克	9月30日	オンライン講座+院内開催
		認知症予防にもなる？ ～みんなで脳トレ！～	感染制御部　部長／ 認定看護管理者　澁谷　豊克	9月24日	八尾市生涯学習センター かがやき
		手術な話 「あなたの知らない骨折の世界」	手術看護認定看護師 村野　尚久	10月20日	オンライン講座+院内開催
		高齢者の健康に関する現状	認定看護管理者 澁谷　豊克	10月30日	オンライン講座+院内開催
		あなたも骨粗鬆症？	感染制御部　部長 澁谷　豊克	10月30日	オンライン講座+院内開催
		冬に気をつけたい感染症	感染管理認定看護師 萩原　美香	11月25日	オンライン講座+院内開催
		加齢や病気などによって、 起こる嚥下障害	感染制御部部長・認定看護管理者 澁谷　豊克	11月25日	オンライン講座+院内開催
		がん遺伝子検査とは ～知っておきたい基本知識～	がん薬物療法看護認定看護師 上田　晴香	11月26日	オンライン講座+院内開催
		近年の認知症ケアについて	感染制御部部長・認定看護管理者 澁谷　豊克	11月20日	八尾市立高美小学校 集会所
		八尾市に流行する感染症	感染制御部　感染管理実務担当者 山下　あすか	11月28日	特別養護老人ホーム 愛の郷
		「あなたの知らない手術の世界」 腹腔鏡手術ってこんな感じ	手術看護認定看護師 村野　尚久	12月22日	オンライン講座+院内開催
		高齢者の健康に関する現状	感染制御部部長・認定看護管理者 澁谷　豊克	12月23日	オンライン講座+院内開催
		増えている肺の病気	感染制御部部長・認定看護管理者 澁谷　豊克	12月23日	オンライン講座+院内開催
		八尾市民が要介護になる病気とは	感染制御部部長・認定看護管理者 澁谷　豊克	12月16日	オンライン講座+院内開催
臨床検査技師	一般	「結石」のおはなし	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	1月20日	オンライン講座
		心不全予防 ～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	2月21日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	3月24日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	4月21日	オンライン講座+院内開催
		心不全予防 ～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	7月28日	オンライン講座+院内開催
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	9月29日	オンライン講座+院内開催
ソーシャルワーカー	一般	こころをメンテナンスしたい！ 実践・ボディースキャン	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	1月23日	オンライン講座
		正しく知りたい！セカンドオピニオン	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	2月10日	オンライン講座
		お得に介護保険を活用しよう！	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	4月28日	オンライン講座+院内開催
		心をリフレッシュしたい！ 実践：マインドフルネス！	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	5月20日	オンライン講座+院内開催
		医療保険と病床の種類 正しく退院先を選ぼう！	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	6月13日	オンライン講座+院内開催
		賢く選びたい！ 生命保険の活用法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	7月28日	オンライン講座+院内開催

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
ソーシャルワーカー	一般	終活のススメ ～遺言の書き方～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	8月18日	オンライン講座+院内開催
		続・終活のススメ ～相続の方法～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	9月22日	オンライン講座+院内開催
		実践！カラダとココロの調子を整える ヴィパッサーナ瞑想とシャマタ瞑想	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	10月27日	オンライン講座+院内開催
		賢く使いこなそう！ 年金の３つの仕組み	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	11月17日	オンライン講座+院内開催
		がん保険のメリット・デメリット 第三分野の保険と税	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	12月22日	オンライン講座+院内開催
臨床心理士	一般	こころと体のつながり ～自分に優しくできていますか？～	臨床心理士　公認心理師 朴　祐希	3月17日	オンライン講座
		怒りとうまくつきあうために	臨床心理士　宮坂　なつ花	8月26日	オンライン講座
		こころの病気について知ろう	臨床心理士　藤原　恭子	10月21日	グレース大聖堂

《糖尿病教室医療講演》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
医師	糖尿病教室	糖尿病と歯周病	歯科口腔外科　部長 占部　一彦　医師	1月21日	オンライン講座+院内開催
栄養士		よく噛んで健康的な食生活を ～オーラルフレイルの予防～	管理栄養士 坂本　美紀子	1月21日	オンライン講座+院内開催
薬剤師		血糖値　測ってみよう､考えてみよう	薬剤師 坂野　千賀	3月21日	オンライン講座+院内開催
ソーシャルワーカー		小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	3月21日	オンライン講座+院内開催
医師		血糖値はホルモンで動いている ～インスリンとインクレチンのひみつ～	糖尿病代謝内科部長 石橋　里江子	4月18日	オンライン講座+院内開催
栄養士		糖尿病食事療法の基礎・応用	栄養科係長／病態栄養専門管理栄養士 佐藤　友亮	4月18日	オンライン講座+院内開催
薬剤師		糖尿病の薬について　～内服～	薬剤師　栗野　大輔	5月16日	オンライン講座+院内開催
理学療法士		運動療法の基本と最近の話題	理学療法士　服部　玄徳	5月16日	オンライン講座+院内開催
臨床検査技師		検査データについて ～糖尿病連携手帳に沿って～	臨床検査技師　戸野川　始	6月20日	オンライン講座+院内開催
医師		糖尿病合併症および その検査について	糖尿病代謝内科　医師 植田　秀樹	6月20日	オンライン講座+院内開催
医師		災害への備え	総合診療部長　研修委員長 髙原　良典	7月18日	オンライン講座+院内開催
臨床心理士		糖尿病とこころ	臨床心理士　田原　一樹	7月18日	オンライン講座+院内開催
栄養士		運動と食事療法	管理栄養士　八坂　陽菜	9月19日	オンライン講座+院内開催
理学療法士		運動療法実践編 ～有酸素運動について～	理学療法士　服部　玄徳	9月19日	オンライン講座+院内開催
薬剤師		糖尿病の薬について　～注射～	薬剤師　栗野　大輔	10月17日	オンライン講座+院内開催
保健師		糖尿病と足のケア	保健師　牧田　美奈	10月17日	オンライン講座+院内開催
医師		糖尿病性網膜症	眼科　米田　貴博	11月21日	オンライン講座+院内開催
臨床検査技師		糖尿病の検査データの見方 JADEC連携手帳に沿って	臨床検査技師　山尾　克樹	11月21日	オンライン講座+院内開催

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験センター　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診センター　144
情報システム　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開　催　場　所
診療看護師	糖尿病教室	最も糖尿病が増悪しやすい この時期の過ごし方	診療看護師　髙橋　博之	12月19日	オンライン講座+院内開催
理学療法士		運動療法実践編 ～レジスタンス運動について～	理学療法士　植田　健斗	12月19日	オンライン講座+院内開催

《医療従事者向けオンライン医療講演》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開　催　場　所
技師 検査	医療従事者向け	患者同意や倫理審査は必要？ 学会発表前に知っておくべきポイント	治験センター 副センター長　元田　健太郎	1月17日	オンライン講座
事務		苦情等に対する対応要領(第三弾)	医療安全管理部　相談役 衛藤　隆一	2月14日	オンライン講座
臨床工学技師		当院で取り扱っている ＭＥ機器について	臨床工学科　杉本　拓弥	3月14日	オンライン講座
看護師		看護師がベッドサイドで行う問診の技術	看護部　クリティカルケア 認定看護師　藤原　麻友美	4月25日	オンライン講座
臨床検査技師		心電図のおはなし ～当院のパニック報告もかねて～	臨床検査技師　戸野川　始	5月23日	オンライン講座
理学療法士		糖尿病の理学療法 －やる気を引き出す運動支援－	リハビリテーション科 理学療法士　服部　玄徳	6月27日	オンライン講座
放射線技師		当院のRI検査	放射線科　主任　小川　宏明	8月22日	オンライン講座
薬剤師		地域におけるがん薬物治療の 充実に向けた取り組み	薬剤部　がん専門薬剤師 山本　倫数	9月26日	オンライン講座
管理栄養士		当院の早期栄養介入について	栄養科　室長　小山　洋史	11月28日	オンライン講座
医師		心臓血管外科領域における、 身体にやさしい新しい治療法	副院長・心臓血管センター長 鷹岡　成年	12月26日	オンライン講座

《依頼講演（特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷)》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開　催　場　所
臨床検査技師	一般	動脈硬化を防ぐ ～脳梗塞・心筋梗塞にかからないために～	薬剤師　栗野　大輔	2月6日	久宝寺コミュニティセンター
保健師		膝の痛みでお困りの方へ 根拠のある治療とは？	整形外科　部長 岩崎　圭至	6月26日	久宝寺コミュニティセンター
看護師		インフル・コロナ他 ワクチン接種のメリット・デメリット！	感染制御部部長 澁谷　豊克	10月23日	久宝寺コミュニティセンター

《依頼講演（学校)》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開　催　場　所
医師	がん教育	がん教育	外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	5月28日	八尾市立高安小中学校
医師	がん教育	がん教育	肝臓外科　部長 藤井　貴子	11月7日	八尾市立八尾中学校
看護師			緩和ケア認定看護師 今西　真奈美		
医師	がん教育	がん教育	外科　松岡　信子	11月19日	八尾市立高美中学校
看護師			緩和ケア認定看護師 今西　真奈美		

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師 看護師	がん教育	がん教育	外科　堤　綾乃 緩和ケア認定看護師 今西　真奈美	12月3日	大阪市立加美南中学校
医師 看護師	がん教育	がん教育	外科　大田　修平 緩和ケア認定看護師 今西　真奈美	12月22日	関西福祉科学大学高校

《依頼講演（八尾市障害者団体協議会）》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	一般	膝の痛みでお困りの方へ 根拠のある治療とは？	整形外科　部長　岩崎　圭至	10月23日	八尾市社会福祉会館

《世界糖尿病デー》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医療スタッフ	世界糖尿病デー	【イベント内容】糖尿病専門医による個別相談／保健師による歯周病リスクチェック／理学療法士による運動相談／InBody（体組成･脂肪や筋肉バランスの測定）／薬剤師による血糖測定（SMBG体験）／管理栄養士による栄養相談／検査技師による自律神経チェック／糖尿病川柳など	世界糖尿病デー in YAOTOKU	11月14日	1階　エントランス

《救急隊員対象》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
中河内地域救急隊員	循環器研修	中河内地域救急隊員対象 循環器研修会	循環器内科　田辺　悠馬	7月3日	八尾徳洲会総合病院

《がんフォーラム 2025》

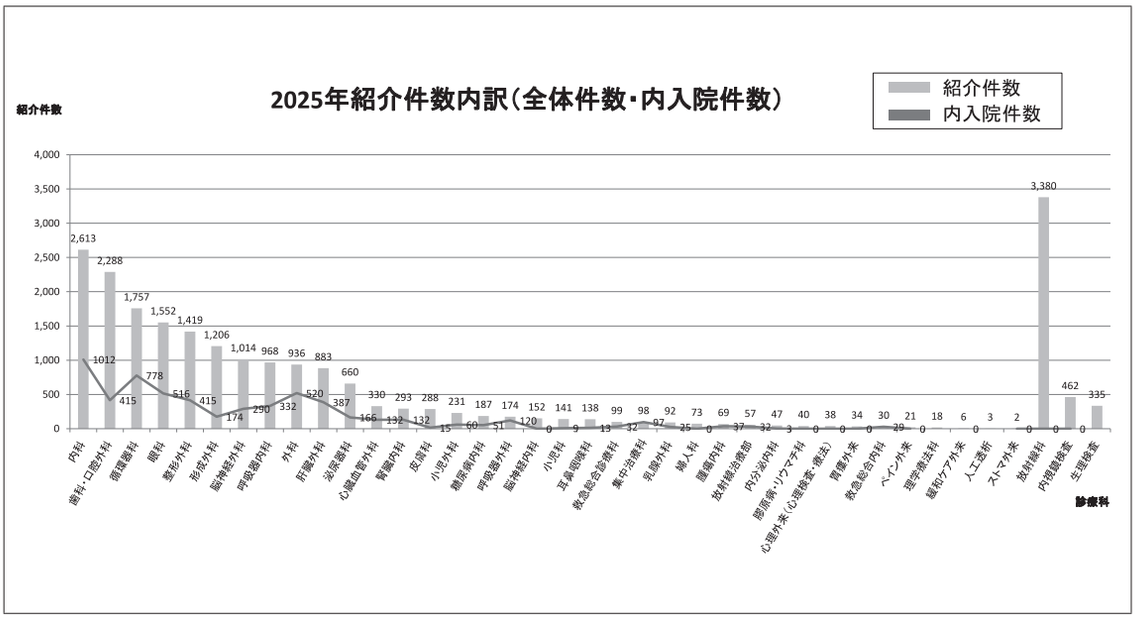
職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師 看護師	一般	「がん」に関する特別医療講演 がんフォーラム2025 ①最新の肺がん治療について ②胃がん・食道がんに対するロボット手術 ③がん患者を支える認定看護師の役割 ④大腸がん　正しく知ればこわくない ⑤肝がん　～特徴・検査から治療まで 【特別講演】 『癌という余命をみつめて』 嫁の乳がんとの戦い　一緒に生きた4年間	 ①呼吸器外科　部長　市橋　良夫 ②食道・胃外科　顧問　金谷　誠一郎 ③緩和ケア認定看護師　今西　真奈美 ④外科　部長　遠藤　幸丈 ⑤肝臓センター　部長　藤井　貴子 【特別講演】 円　広志　さん	10月11日	八尾市文化会館 プリズムホール 大ホール

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

《各科紹介件数（内入院数）》

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	177	151	217	243	205	229	248	216	216	246	217	248	2,613
	60	53	81	106	74	82	106	90	80	97	77	106	1,012
歯科・口腔外科	172	195	204	211	180	187	203	166	208	190	169	203	2,288
	32	38	36	42	28	31	38	37	38	32	30	33	415
循環器科	139	124	164	141	150	137	161	114	162	176	134	155	1,757
	58	52	68	73	67	52	70	53	73	79	66	67	778
眼科	101	114	139	138	131	134	125	108	125	160	138	139	1,552
	28	37	47	47	47	44	46	40	32	49	45	54	516
整形外科	135	84	85	98	112	133	131	124	137	133	108	139	1,419
	31	28	28	26	28	30	44	47	38	44	27	44	415
形成外科	94	95	113	122	94	85	95	95	92	95	107	105	1,192
	7	12	22	18	19	12	12	13	15	10	16	18	174
創傷治療センター	1	1	0	0	0	1	1	0	6	1	0	3	14
													0
外科	82	68	79	91	83	65	82	77	79	85	66	79	936
	46	32	50	51	42	39	41	51	41	48	37	42	520
脳神経外科	90	75	91	98	93	88	89	70	84	88	69	79	1,014
	24	22	29	26	25	22	26	27	15	27	23	24	290
呼吸器内科	76	83	81	65	63	72	94	77	92	99	75	91	968
	17	31	25	24	14	21	38	26	38	26	29	43	332
肝臓外科	55	56	79	73	82	90	79	78	75	74	74	68	883
	26	30	28	32	36	41	37	31	33	31	33	29	387
泌尿器科	47	48	57	51	64	58	57	68	39	53	57	61	660
	13	11	19	17	14	17	13	19	9	11	12	11	166
心臓血管外科	29	26	24	24	28	28	32	29	24	31	27	28	330
	14	12	11	8	13	13	8	7	7	12	10	17	132
集中治療科	15	18	13	7	9	13	4	6	6	5	0	2	98
	15	18	13	7	8	13	4	6	6	5	0	2	97
腎臓内科	26	19	21	28	25	24	29	23	27	24	23	24	293
	9	10	10	16	11	10	12	11	13	8	11	11	132
小児外科	11	11	17	21	23	21	20	30	24	20	15	18	231
	3	4	4	4	4	6	5	12	6	3	3	6	60
糖尿病内科	23	16	14	22	14	21	14	15	13	10	7	18	187
	7	3	4	5	3	7	2	7	4	2	2	5	51
小児科	11	7	9	11	15	22	13	8	18	13	10	4	141
	1		0	1	1	5		0		1	0		9
皮膚科	15	23	22	20	32	26	26	27	21	29	15	32	288
			3		2		1	3	2	2	0	2	15
呼吸器外科	13	21	12	9	14	18	8	18	17	16	17	11	174
	10	16	9	6	10	13	5	11	11	9	14	6	120
脳神経内科	9	9	14	12	10	17	17	14	9	10	13	18	152
								0					0
耳鼻咽喉科	6	10	6	12	11	16	10	9	8	18	11	21	138
		1	1	2	3	1		1	1		1	2	13
膠原病リウマチ外来	7	5	8	3		2	2	1	2	4	3	3	40
								0			0		0
内分泌内科	2	9	6	1	5	0	0	3	3	2	4	12	47
								0	1		1	1	3
乳腺外科	3	5	5	10	12	10	12	10	3	9	8	5	92
		1	4	4	2	5	4	1	1	2	0	1	25
救急総合診療科	1	6	13	6	12	12	7	6	7	13	5	11	99
		5	7	1	2	5	3	1	4	2	2		32
腫瘍内科	6	5	11	6	11	7	6	5	3	1	4	4	69
	5	2	9	3	5	6	2	0	2		2	1	37
婦人科	7	4	6	6	4	5	8	2	8	7	8	8	73
								0					0
胃瘻外来	1	1	4	3	1	7	4	1	2	2	4	4	34
								0					0
理学診療科(言語・発達検査)	4		0	2	2	3	2	1	2	0	0	2	18
								0					0
ペイン外来	1	2	0	3	4	2	1	1	2	2	0	3	21
													0
放射線治療部	7	3	4	3	1	5	1	5	6	7	4	11	57
	6	2	2	1		3	1	4	4	5	2	2	32
心理外来(心理検査・療法)	1	2	2		4	3		4	7	6	4	5	38
													0
人工透析	1	0	0			0	1	1		0	0	0	3
													0
緩和ケア外来		0	0		1	0	0	0	2	1	1	1	6
													0
ストマ外来			1			0		0		1	0	0	2
													0
いびき外来		0	0			0	0	0		0	0	0	0
													0
心理療法		0	0			0	0	0		0	0	0	0
													0
リウマチ科		0	0			0	0	0		0	0	0	0
													0
言語聴覚療法		0	0			0	0	0		0	0	0	0
													0
救急総合内科		0	0			0	3	1	7	6	5	8	30
							3	1	7	6	5	7	29
放射線科	237	241	305	276	294	335	307	229	274	305	272	305	3,380
													0
内視鏡検査	28	13	29	48	39	41	49	41	42	58	37	37	462
													0
生理検査	25	21	30	31	25	37	15	22	22	47	30	30	335
													0
その他													0
													0
乳腺内科													0
総合診療部													0
療養病床(医療)													0
療養病床(介護)													0
その他													0
紹介件数合計	1,658	1,571	1,885	1,895	1,853	1,954	1,956	1,705	1,874	2,047	1,741	1,995	22,134
内入院数合計	412	420	510	520	458	478	521	499	481	511	448	534	5,792

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院件数）》



科 / 項目	内科	歯科口腔外科	循環器科	眼科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器内科	外科	肝臓外科	泌尿器科	心臓血管外科	腎臓内科	皮膚科	小児外科	糖尿病内科	呼吸器外科	脳神経内科	小児科	耳鼻咽喉科
紹介件数	2,613	2,288	1,757	1,552	1,419	1,206	1,014	968	936	883	660	330	293	288	231	187	174	152	141	138
内入院数	1,012	415	778	516	415	174	290	332	520	387	166	132	132	15	60	51	120	0	9	13

科 / 項目	救急総合診療科	集中治療科	乳腺外科	婦人科	腫瘍内科	放射線治療部	内分泌内科	膠原病・リウマチ科	心理外来	胃瘻外来	救急総合内科	ペイン外来	理学療法科	緩和ケア外来	人工透析	ストマ外来	放射線科	内視鏡検査	生理検査	その他	
紹介件数	99	98	92	73	69	57	47	40	38	34	30	21	18	6	3	2	3,380	462	335		22,134
内入院数	32	97	25	0	37	32	3	0	0	0	29	0	0		0						5,792

※創傷治療センターは形成外科に含まれます。

《検査紹介件数》

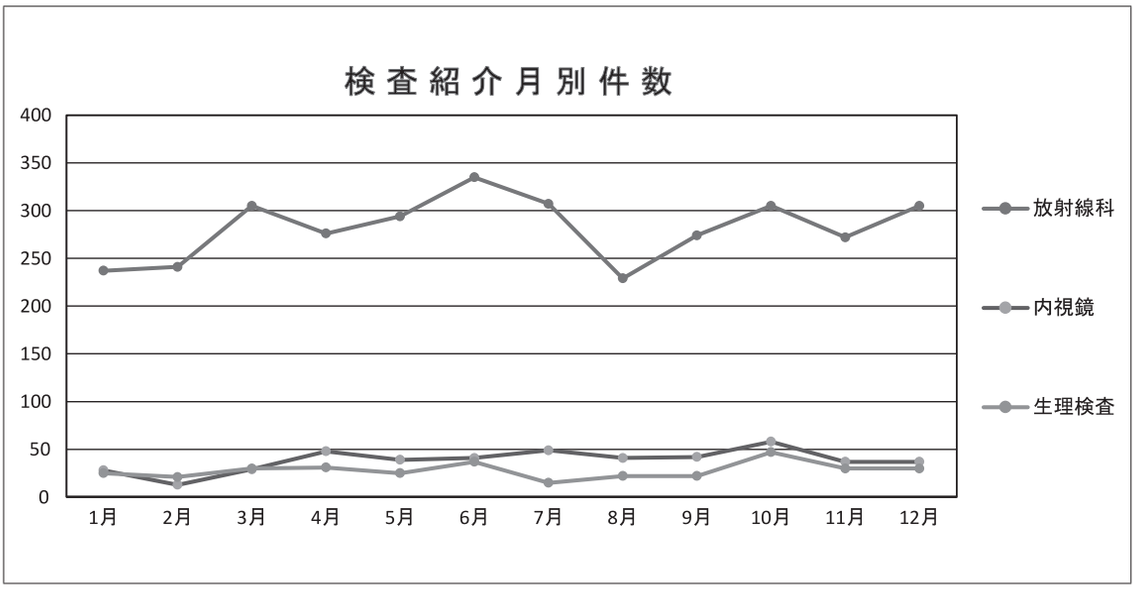
	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	237	28	25	290
2月	241	13	21	275
3月	305	29	30	364
4月	276	48	31	355
5月	294	39	25	358
6月	335	41	37	413
7月	307	49	15	371
8月	229	41	22	292
9月	274	42	22	338
10月	305	58	47	410
11月	272	37	30	339
12月	305	37	30	372
合計	3,380	462	335	4,177

主な検査項目

- 放射線科
  - MRI / CT / DSA
  - RI / インプラントCT / CT（冠動脈）
  - 単純撮影 / マンモグラフィー / 骨密度
- 内視鏡
  - GIF / CF
- 生理検査
  - 腹部エコー / 心エコー / 末梢血管エコー
  - 甲状腺エコー / 頚動脈エコー / 乳腺エコー
  - トレッドミル / 心電図 / ホルター心電図
  - 呼吸機能 / 脳波検査 / 肺機能
  - COVID-19検査

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

《検査紹介月別件数》（＊ PCR 検査紹介件数も含みます）



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ、広域の医療機関まで幅広く連携し、検査、外来、救急、入院など、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応するとともに、患者さまが安全かつ安心して、継続性のある適切な医療を受けられるよう、地域から信頼される医療機関として努めてまいります。

さらに地域の皆さまへ様々な情報を発信するとともに、公開医療講座、地域の団体・自治会等からのご依頼による講演にも積極的に取り組み、医療への理解を深めていただけるよう努めるとともに、予防医療の啓蒙活動も進めてまいります。

また、地域医療支援病院として、連携医の先生方による開放病床の積極的な共同利用を促進するとともに、定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて、医療連携のさらなる強化を図ってまいります。

43）健診センター

健診センター長　川野　友也

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

2024 年 12 月の南棟移転から一年余りが経過し、新しい環境での健診業務も定着してまいりました。2025 年 6 月より私がセンター長に着任し、前任からの引き継ぎ事項であった受診者さまの利便性向上と、予防医療の質のさらなる充実を目標に、業務に邁進しております。

本年度、当センターでは特に以下の 2 点を重点的な取り組みとして推進いたしました。

第一に、「胃内視鏡検査枠の拡大」です。

昨年度は、人間ドックコースにおける胃内視鏡検査の予約が早期に満枠となり、多くの受診者さまにご不便をおかけしておりました。この課題を解消すべく、検査枠を段階的に増枠いたしました。これにより、希望される受診者さまがよりスムーズに、ご希望の日程で検査を受けられる体制が整いつつあります。

第二に、「脳機能 MRI 検査（脳ドック新コース）の開設」です。

高齢化社会において関心の高い認知症の早期発見を目的とし、新たに MRI を用いた脳検査コースを新設いたしました。放射線科出身である私の経験も活かし、脳の海馬領域を質の高い画像解析にて計測し萎縮率を算出することで、地域の皆様の健康寿命延伸に貢献できるものと考えております。

上記の取り組みに加え、引き続き八尾市推奨の各種がん検診（肺、胃、乳、大腸、子宮）が施行できる認定施設としての責務を果たしつつ、婦人科健診やドック精査外来など、総合病院併設の強みを生かしたバックアップ体制につきましても堅持してまいります。

女性技師による乳線超音波検査やマンモグラフィー検査も実施しており、安心と快適さを提供できる環境が徐々に整備されてまいりました。今後もさらなるサービス向上を目指してまいります。

腹部超音波検査で要精密検査と判定された受診者さまのための専門医師によるドック精査外来や総合病院に併設されている健診センターの強みを生かした疾患の早期発見・早期治療のバックアップ体制にも注力してまいります。

予約業務に関しては、例年と同様に、毎年受診していただいている企業さまへの事前予約を実施し、個人受診者さまにもスムーズにご予約頂けるように努めております。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者さまにつきましては、予約開始から数ヶ月で予約枠が埋まってしまう状況があり、受診者さまには大変なご迷惑をおかけすることとなりました。今後も検査枠を増やしてまいる所存ですが、現状ではまだ受診者さまのご希望に十分にお応えできる枠数には達していないと認識しております。つきましては、さらなる業務改善を図ってまいります。

2. メンバー構成

常勤医師 3 名、常勤看護師 7 名、常勤放射線技師 1 名、常勤事務員 7 名、非常勤医師 3 名、非常勤看護師 2 名、非常勤事務員 1 名、非常勤検査技師 1 名

3. 実績

2025年	ドック	企業	バス健診	合計
1月	571	1,062		1,633
2月	585	1,723		2,308
3月	634	1,113		1,747
4月	609	777	49	1,435
5月	597	890	747	2,234
6月	624	1,034	741	2,399
7月	660	1,216	46	1,922
8月	578	1,810		2,388
9月	636	1,090	62	1,788
10月	815	858	59	1,732
11月	654	846		1,500
12月	654	1,176		1,830
合計	7,617	13,625	1,704	22,916

4. 今後の目標

内視鏡検査の増枠と認知症 MRI 検査の導入により検査体制の拡充を図り、より多くの受診者さまにご利用いただけるよう、医療機器の整備、スタッフの教育、検査体制の構築を進めてまいります。受診者さまの負担を可能な限り軽減し、安心安全な健診センターを目指してまいります。あわせて、増加する検査データや画像を、専門医がいかに迅速かつ正確に診断し、受診者さまへフィードバックできるかが重要となります。その為、微細な病変も見逃さない「質の高い読影体制」の維持・強化に努めてまいります。また、昨年度からの課題である結果返却の迅速化についても、システムの見直しを含めて継続的に改善を図ってまいります。受診者さまのニーズに応えられるよう、さらなる検査枠の拡充やオプションの充実も図ってまいります。

さらに、総合病院併設の健診センターとしての利点を最大限に活かし、呼吸器疾患、消化器疾患、脳疾患など、専門医師と連携することで、速やかに精密検査を実施し、早期治療へ移行できる体制構築に努めてまいります。受診者さまが安心して自身の健康管理をお任せいただける、地域に根差した健診センターを目指してまいります。

44）情報システム管理室

システム管理室　松本　巧

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

2025 年度は、当院の増改築に伴う大規模なインフラ整備の対応を行いました。 具体的には、環境構築までを一貫して実施いたしました。また、厚生会第一病院への電子カルテシステム新規導入を TIS と連携して行い、週に 1 回訪問して保守業務を行ないました。 ハードウェア面では、老朽化した電子カルテサーバーの交換を計画的に遂行いたしました。ハードウェアの更新によりシステムの可用性と信頼性を大幅に向上させ、ダウンタイムリスクの低減を図ることができました。

さらに、最先端技術の導入支援として、SSI 社が開発した電子カルテ内「生成 AI」の活用基盤整備と業務効率化に向けた技術的補助を遂行いたしました。広報面では、Instagram を活用した情報発信を開始し、SNS を通じた病院広報の多角化にも着手いたしました。

2. メンバー構成

システム管理室：5 名

久保　準人、松本　巧、萬田　恭平、北川　兼士、石川　胡桃

システム委員：24 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書、健診センター）

3. 実績

- システム依頼件数（作業依頼書 + 電話連絡対応数）

1月	2月	3月	4月	5月	6月
84件	96件	79件	113件	100件	85件
7月	8月	9月	10月	11月	12月
118件	91件	91件	77件	110件	81件
年間合計					1,125件

- 主な内訳
  - 電子カルテクライアント機器メンテナンス対応（PC、プリンター、ネットワーク）
  - 電子カルテサーバー保守・運用　（メンテナンス対応）
  - 病院関連システムメンテナンス（データ更新、保守作業、修理対応）
  - ベンダーコントロール業務（各部門システムベンダーとの折衝業務）
  - PC 関連　院内ヘルプデスク対応
  - 電子カルテ操作教育
  - 部門検査機器導入　関連システム接続対応
  - ホームページ関連

4. 今後の目標

当院の増改築に伴い、病床数の増加や手術室の増設が実施され、運営規模が大きく拡張しております。これに伴う業務負荷の増大に柔軟に対応すべく、次年度は「電子カルテシステムの高度化と利便性の追求」を最優先課題として掲げてまいります。

具体的には、本年度基盤整備を行った電子カルテ内の「生成 AI」活用領域を本格的に充足・拡大させてまいります。単なる導入に留まらず、現場のニーズを反映したプロンプトの最適化を図るとともに、グループ病院における運用ノウハウや先行事例を積極的に取り入れてまいる所存です。 これにより、医師および看護師の事務負担を軽減する「実効性の高いシステム運用」を推進してまいります。

また、規模拡大に伴う人員確保を支援すべく、IT の側面から採用広報活動をバックアップしてまいります。Instagram 等の SNS を活用し、当院の職場環境を視覚的に訴求することで、魅力ある病院情報の外部発信に注力してまいります。

「利便性が高く、高効率な電子カルテ環境」の構築を通じ、医療スタッフが本来の専門業務に専念できる体制を整備してまいります。また情報システムの側面から、人材確保と組織力強化の双方に寄与することを目指してまいります。

45）保育室

保育室係長　河野　美加

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

昨年より他園への入園申請にご協力いただきましたおかげで、2025 年 4 月は例年より少人数の園児で新年度をスタートすることができました。保育士 1 名の入職もあり、4 月・5 月当初は人員にやや余裕ができたため､保育室職員は年次有休休暇の消化をすることができました。月を追うごとに、産休明けの職員のお子さまが次々に入室され、例年通りの活気あふれる保育室となりました。7 月には職員 1 名が産休に入り、12 月には当院増改築工事に伴う白鳩幼稚園の送迎バス停留所が急遽変更になるなど、慌ただしい 1 年でございました。

また、2025 年度は猛暑に伴いプール遊びが中止となり、戸外遊びも制限される状況が続いたため、子どもたちは室内での遊びを余儀なくされました。そのような状況の中、徳洲苑よりお声がけいただき、初めての交流会が 8 月に行われました。当初はお年寄りの方々との交流に戸惑いが見られた子供たちですが、合奏やプレゼント交換などを通して、最後まで楽しく過ごすことができ、参加された徳洲苑のご利用者さまにも大変喜んでいただくことができました。

モコモコ保育室（病児保育室）では、例年より早い 10 月頃からインフルエンザ A 型が流行り始め､高熱の子どもたちが多くみられました。アデノウイルスや溶連菌との重複感染もあり、隔離保育が必然となりました。そのため、受け入れ可能人数が少なくなり、お断りするケースが増加した時期もございました。本年度の利用者の半数以上が当院職員でした。

今後もエンジェル保育室・モコモコ保育室ともに、職員が安心して業務に就けるよう努めてまいる所存です。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	中西　曽我　吉原
	《リス組》	河野　大岩　木下（菜津稀）
	《アヒル組》	永田　幸嶋　中村
	《ヒヨコ組》	長谷川　今岡　田中
	《フリー》	小林　木下（宏子）
	《育児休業中》	佐藤
モコモコ保育室		荻　竹田　奥村

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
登室数	0歳児	232	211	241	0	41	62	99	111	170	212	230	306	1,915
	1・2歳児	305	273	356	264	266	249	248	225	207	206	163	202	2,964
	3歳児	75	70	80	57	52	51	44	47	40	50	41	42	649
	4歳児	89	98	99	70	76	82	82	68	84	80	74	90	992
	5歳児	143	137	140	103	103	106	107	93	95	107	93	95	1,322
	学童保育	9	9	17	21	19	14	15	36	14	11	26	25	216
	合計	853	798	933	515	557	564	595	580	610	666	627	760	8,058
	一時預かり保育		1							1		1	1	4
	半日預かり保育	1	1	1	1	1	1					1	1	8

《病児・病後児保育室運営状況》

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	17	20	18	20	20	22	19	20	20	18	20	233
利用者数	76	55	55	46	86	70	92	63	65	94	122	119	943
一日平均利用者数	4	3.2	2.8	2.6	4.3	3.5	4.2	3.3	3.3	4.7	6.8	6	4
保育士数	48	44	46	42	60	57	64	46	53	62	59	64	645
一日平均保育士数	2.5	2.6	2.3	2.3	3	2.9	2.9	2.4	2.7	3.1	3.3	3.2	2.8
診察結果待ち数	12	10	4	2	5	2	5	0	1	3	6	12	62
意見書利用数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

《研　修》

8月23日　管理者研修

7月20日・21日　第34回全国病児保育研究大会（in 金沢）

★3ヶ月に1回保育士研修（勉強会）を保育室にて実施

《行　事》

2月3日　節分

3月3日　ひな祭り

3月15日　お別れ会

5月14日・27日　春の健康診断

5月2日　こどもの日

5月9日　春の遠足（青山第一公園）

6月10日　時の記念日

7月7日　七夕

7月13日　お楽しみ会

8月20日　徳洲苑交流会
9月8日～13日　個人懇談
10月7日　秋の遠足（キッズプラザ）
11月7日　QI 大会
11月4日･25日　秋の健康診断・インフルエンザ予防注射
12月21日　クリスマス会（保育室にて）
★毎月身体測定・避難訓練・誕生会　月 2 回幼児教育（英語 ECC）

4. 今後の目標

- 感染症拡大防止に努める
- 保育士の確保
- 保育士の研修参加を強化する
- 職員、園児の安全管理に努める

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

46）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

1. 概要

2025 年度は、やお徳サロン（患者サロン）の開催において、毎月 1 回の現地開催を試みました。テーマとしまして、1 月は「アロマと食欲」、2 月は祝日のため休会、3 月は「キャンサーケアヨガ」、4 月は「調理実習」、5 月は「笑いヨガ」、6 月は「乳房パッド」、7 月は「キャンサーケアヨガ②」、8 月は「折花」、9 月は「ハンドトリートメント」、10 月は「認知行動療法とヨガ」、11 月は「笑いヨガ②」、12 月は「乳がんバリアフリーヨガ」など、新企画を多数盛り込みました。その結果、参加人数も増え、コロナ禍の影響が払拭することができました。

2 次医療圏単位での合同サロンは、対面式での開催となりました。第 7 回中河内圏域合同がんサロンのテーマは「がんと栄養・リハビリ」とし、「栄養と食事の工夫」、「がん専門運動指導士によるリハビリ体験」を企画いたしました。

地域貢献としましては、国立がん研究センターがん対策研究所からのご依頼により、「がん相談教育ネットワーク事業　相談対応の質保証（QA）研修」のファシリテーターとして、旧Ⅲ群研修の運営に携わらせていただきました。

1 月 20 日には、大阪府がん診療（連携）拠点病院訪問として、石切生喜病院へ赴き、視察と情報の共有を行いました。

患者家族会である一般社団法人 Mon ami の活動として、映画撮影を実施し、2 つのコンペに出品いたしました。「スマートフォン・フィルム・フェスティバル映画コンテスト　エキストラ部門」では、グランプリを獲得することができました。また本作品の 2 次利用として、当院のホームページへの掲載とインスタグラムへの投稿を実施いたしました。

2. メンバー構成

委員長：医師	池下　和敏（麻酔科部長）
委員：認定社会福祉士（医療分野）	三谷　勇一 （認定がん専門相談員：国立がん研究センター） （両立支援コーディネーター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

1/18　中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウム
1/20　大阪府がん診療（連携）拠点病院訪問（石切生喜病院）
2/7　第 4 回中河内がん相談支援センター部会（WEB 開催）
2/26　大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会（大国がんセンター）
4/22　第 1 回中河内がん相談支援センター部会（WEB 開催）
6/20　第 2 回中河内がん相談支援センター部会（WEB 開催）
6/28「がん相談教育ネットワーク事業　相談対応の質保証（QA）研修」
ファシリテーター拝命（Ⅲ群研修）

7/18　大阪府がん相談支援センター部会（大阪国際がんセンター）
10/24　第７回中河内合同がんサロン（現地開催）がん、栄養・リハビリ
11/16　令和７年度大阪府がん診療拠点病院等相談支援センター相談員研修会
12/19　中河内がん相談支援センター部会　社会保険労務士合同勉強会

(2) がん患者サロン（やお徳サロン）の開催

2025 年度の実績

開催計画：12 回程度／年時：第 2 火曜日 14:00 ～ 15:00　場所：当院会議室にて

2025 年 1 月 14 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　香りで整える ; アロマと食欲
2025 年 2 月 11 日　（祝日）休み
2025 年 3 月 11 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　キャンサーケアヨガ①
2025 年 4 月 8 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　栄養科
2025 年 5 月 13 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　「笑いヨガ」①
2025 年 6 月 10 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　乳房パッド
2025 年 7 月 8 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　キャンサーケアヨガ②
2025 年 8 月 12 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　折花
2025 年 9 月 9 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　ハンドトリートメント
2025 年 10 月 14 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　ワンモア
2025 年 11 月 11 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　「笑いヨガ」②
2025 年 12 月 9 日　（火曜日）14：00 ～ 15：00　乳がんバリアフリーヨガ

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

（3）がん相談支援センター相談延べ件数の表

2025年相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
治療	5	8	6	10	1	1	11	4	9	13	11	12	91
←手術	1	0	4	3	1	1	4	1	5	9	11	11	51
←放射線	0	1	1	8	1	0	7	2	2	4	7	3	36
←薬物	4	7	2	3	1	0	7	2	6	12	7	4	55
←免疫	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	4	2	11
←ゲノム	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	5
←その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
検査	0	0	5	0	0	0	0	1	1	2	2	4	15
症状	1	2	5	1	0	1	1	1	4	6	7	5	34
←妊生殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5
←アピアランス	0	2	0	1	0	1	1	0	2	2	5	2	16
←晩期合併	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5
←長期フォロ	0	0	5	0	0	0	1	1	3	3	8	5	26
←その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
セカンドオピニオン（一般）	1	0	4	10	1	3	5	2	1	1	2	0	30
セカンドオピニオン（受入）	0	0	2	3	0	2	4	2	1	1	1	0	16
セカンドオピニオン（紹介）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
治療実績	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	1	7
臨床試験	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	6
受診・入院	2	0	4	0	1	2	2	3	1	5	6	9	35
転院	0	0	2	1	4	5	2	3	2	1	9	2	31
医療機関紹介	0	2	7	14	3	10	6	7	6	7	10	6	78
予防・検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅医療	2	3	11	16	9	14	12	6	7	17	2	4	103
緩和・ホスピス	12	19	12	16	13	8	9	5	7	7	2	5	115
ADL・服薬	2	1	5	8	0	1	1	2	4	10	2	4	40
介護・看護・養育	3	2	5	10	0	1	2	3	6	11	3	6	52
←介護	3	2	5	10	0	1	2	2	6	10	3	6	50
←看護	2	2	4	8	0	1	2	1	3	9	3	1	36
←養育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会	1	0	2	0	2	0	1	1	1	2	5	4	19
←就労	1	0	2	0	1	0	1	1	1	2	5	4	18
←仕事と両立	1	0	2	0	2	0	0	0	1	0	4	1	11
←就学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
←学業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
費用	3	5	4	10	4	3	4	5	12	11	12	7	80
←介護保険	0	2	1	10	3	1	2	2	4	7	3	5	40
←傷病手当	1	0	0	0	0	0	1	1	6	2	2	1	14
←その他	2	3	3	0	1	3	3	3	9	5	9	2	43
補完	0	0	0	7	0	2	2	0	1	3	6	2	23
生きがい	1	2	1	9	0	1	2	3	4	2	7	4	36
苦痛	0	1	4	8	1	9	11	5	8	12	8	4	71
告知	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4
医療者とのコミュニケーション	0	1	2	8	1	2	2	1	2	6	5	1	31
患者・家族間のコミュニケーション	0	1	1	2	0	0	2	0	5	1	5	4	21
友人・知人・職場のコミュニケーション	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	5
患者会	1	1	0	1	0	1	2	0	3	2	6	1	18
グリーフケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

4. 今後の目標

2025 年度は、がん相談支援センターの評価の年となる予定でした。大阪府がん相談支援センター部会と連携を図り、統一した評価体制の構築を予定しておりましたが、見送りとなりました。今後、部会で統一した患者さまの満足度に関するアンケートの配布を実施し、QA（相談対応の質保証）のデータ化を目指してまいります。

がんサロンならびに患者家族会の開催におきましては、認知行動療法、図書館との連携、アピアランスケアをキーワードとして、質の向上を図ってまいります。

また、がん相談支援センターの業務内容に関しましては、相談者さまからフィードバックを得る体制の構築、がん患者さま及びそのご家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問できる体制の構築、Web 会議ツールを活用した遠隔相談の実施体制の構築が、未だに整っておらず、依然として多くの課題が残されております。意思決定支援に関わる人材育成、がん患者さまの自殺リスクに対する体制の未整備、情報の取得や意思疎通に配慮を必要とする方々に対するマニュアルの不在など、これらの課題を一つひとつ解決してまいる所存でございます。

がん患者サロン（やお徳サロン）の 2026 年度の計画

2026 年 1 月 13 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	キャンサーケアヨガ①
2026 年 2 月 10 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	香りで整える：アロマと食欲
2026 年 3 月 10 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	「笑いヨガ」①
2026 年 4 月 14 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	栄養科（調理実習）
2026 年 5 月 12 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	キャンサーケアヨガ②
2026 年 6 月 9 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	乳房パッド
2026 年 7 月 14 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	折花と香りで癒されたい
2026 年 8 月 18 日	（第三火曜日）14：00 ～ 15：00	乳がんバリアフリーヨガ
2026 年 9 月 8 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	キャンサーケアヨガ③
2026 年 10 月 13 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	ワンモア（認知行動療法）
2026 年 11 月 10 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	「笑いヨガ」②
2026 年 12 月 8 日	（火曜日）14：00 ～ 15：00	こころと身体を癒す：ハンドトリートメント

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験セン 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診セン 144
情報シス 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

47）医療安全管理部

医療安全管理者　藤井　正作

1. 概要

八尾徳洲会総合病院は医療安全管理部を設置し、医療安全に従事する専属の医療職を配しています。また、当院で発生したインシデント・アクシデントにつきましては、その内容を詳細に分析し、再発防止のため部署責任者とセーフティーマネージャーを中心に医療安全対策カンファレンスを実施、具体的な対策を検討しております。さらに、患者さまへの影響度が高い事例に関しましては、根本原因を見つけ出し、具体的な対策を立案・実行できるよう根本原因分析（RCA 分析）を実施しております。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1 名
医療安全管理者　専従看護師	1 名
患者支援・相談窓口担当職員	2 名
事務局	1 名
相談役（主業務：警察事案対応）	1 名

3. 実績

1）医療安全管理活動

(1) インシデント・アクシデント報告システム

報告総数は例年 2,500 件前後で推移しており、報告数は増加傾向にあります。事例別エラー発生率（表 1）では、自己転倒、薬剤エラー、ドレーン・チューブ抜去が多くあげられております。転倒事例は前年と比較して 1.5%増加しているものの、低床ベッドの導入、転倒転落予防フローチャートの策定、リスクの再評価を行なうことで、今後の発生数減少を目指してまいります。

事例別件数を月別に比較したところ、6.0%～ 21.6%の範囲で推移しており、「転倒・転落」および「薬剤」に関する事例が高い傾向にありました。次に事故レベル別に見てみると（表 2）治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 87.2%を占めていました。Lv0 の報告数 10%以上を目標としておりましたが 6.52%でした（前年度 5.50%）。研修医からの報告は Lv0 が多く提出されています。

Lv3b 以上は 42 件（1.62%）のレポート報告がありました。また、そのうち 16 件（38.1%）は転倒による事例でした。

表1　事例の内容と月別報告書　対象期間　2025年1月1日～2025年12月31日

月	薬剤	輸血	治療・処置	医療機器等	ドレーン・チューブ	検査	療養上の世話	転倒・転落	その他	合計	月別報告数
1	43	2	17	9	20	18	36	38	40	223	8.6%
2	62	5	17	12	23	17	26	44	39	245	9.5%
3	30	0	5	31	29	20	17	62	39	233	9.0%
4	42	4	15	23	20	19	8	55	32	218	8.4%
5	36	3	12	17	21	12	5	49	20	175	6.8%
6	44	3	14	7	17	18	8	41	20	172	6.6%
7	34	4	15	18	30	22	11	39	14	187	7.2%
8	45	1	11	6	14	18	32	47	36	210	8.1%
9	49	3	14	9	22	17	26	42	39	221	8.5%
10	64	2	17	8	25	22	19	41	37	235	9.1%
11	52	3	8	5	33	27	21	44	29	222	8.6%
12	52	4	11	11	23	25	23	58	43	250	9.6%
合計	553	34	156	156	277	235	232	560	388	2,591	
概要別割合	21.3%	1.3%	6.0%	6.0%	10.7%	9.1%	9.0%	21.6%	15.0%		

表2　事故レベル　事例実件数：2,591　対象期間　2025年1月1日～2025年12月31日

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
169	1,009	1,083	288	38	0	4	0	2,591
6.52%	38.94%	41.80%	11.12%	1.47%	0.00%	0.15%	0.00%	

(2) 医療安全管理委員会

毎月第4月曜日に開催　(1月～12月、延べ12回)

病院における高度な医療の提供に不可欠である安全管理体制を確保するために、病院のあらゆる部門・診療科が連携し、組織横断的に安全な医療を提供することを目的としております。医療安全管理におけるリスクと現状の分析、発生した有害事象の分析、再発防止策の検討、啓発活動を実施しております。

(3) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に並行して、毎月1回開催（1月～12月、延べ12回）

医療安全管理委員会の下部組織として患者さまの安全・安心に貢献することを目的として、医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行うため、院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスを実施しております。RCA分析結果の共有および半年後の評価を実施しております。

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

(4) 医療安全全体研修

医療安全管理部主催で、年間2回開催しております。2月の研修内容は、タイムアウト（手術場面）をテーマにしたEラーニングで開催し、延べ688名が受講、受講率は69.0%でした。7月の研修内容は、患者安全について講義＋Eラーニングで開催し、延べ1,026名が受講、受講率は100%でした。

(5) 医療安全部会参加

医療安全管理部会　会議

年4回（関西・大阪ブロックの医療安全管理者が参加して安全対策や近況等の共有）

医療安全管理部会　全国担当者研修会

(6) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院（会員）

医療事故紛争対応研究会（会員）

日本医療リスクマネジメント学会（会員）

近畿厚生局　医療安全セミナー参加

大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会

2）院内安全パトロールの継続実施

院内や病院周辺における様々な事案（トラブルなど）を発見し対応するために、午前・午後（1日2回）のパトロールを実施しています。これまでには、パトロール中にスタッフと患者さま（その家族など）のトラブルを発見して早期に解決したり、スタッフからの相談に対応するなどしています。現在までに、不法侵入者によるスタッフへの暴力事案などの発生はなく、今後もパトロールを継続します。

3）患者相談窓口

(1) 患者相談窓口活動（患者支援サポート窓口）

患者相談窓口は、患者さま・ご家族の医療に関する心配や苦情に対して、迅速に対応するための窓口として設置されています。体制は医療安全管理部所属の事務員と臨床検査技師等が主に担当しています。

その業務内容は主に案内・相談・介助などで、下記の表に示す通りです。

八尾パルス(相談等)業務実績(件数:35,543　対象期間:2025/1/4 ～ 2025/9/30)

案内												相談		介助				
予約診(再来機)	入院患者	再診	紹介受付	バス乗場	駐車券	職員面会	文書受付	初回	健診センター	会計(返戻等)	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他	その他	総合計
5,598	2,901	2,317	1,821	1,266	1,774	789	493	689	532	426	5,815	3,459	268	4,762			2,633	35,543
15.7%	8.2%	6.5%	5.1%	3.6%	5.0%	2.2%	1.4%	1.9%	1.5%	1.2%	16.4%	9.7%	0.8%	13.4%			7.4%	100%
68.7%												10.5%		13.4%			7.4%	100%

患者さま等の対応を確実に行えるように、10月1日より、患者サポート窓口の時間帯を変更しました。9月までは、月曜日～金曜日（土・日・祝日除く）の9：00～17：00までしたが、10月1日より月曜日～土曜日（日・祝日除く）の9：00～19：00（土曜日は9：00～12：00）としました。

窓口には、常に、医療関連の資格を有する職員を配置しています。また、より良い業務ができるように、週に1回、患者支援サポート窓口の業務に携わるスタッフでカンファレンスを行い、情報共有や意見交換などを行っています。

窓口に有資格者を配置することで医療相談にも対応できるようにしていますので、気軽にご相談いただければと思います。

1月から9月までの業務の詳細は、案内業務が全体の約68.7％を占め、昨年より若干少なくなりました。しかし、「紹介受付窓口と総合受付窓口が離れていて、どちらの窓口に行けば良いのかわかりにくい」という問題も改善に至っておらず、わかりやすい案内図を掲示するなどの対策を検討する必要があると考えています。

相談業務は全体の10.5％であり、内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法、検査データ、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンのこと、発熱しているが診てもらえるのかといった内容など多岐にわたっています。その都度、担当部署と連絡を取りながら対応しています。2025年は、昨年同様病院の増改築工事に伴い、駐車場を一部閉鎖せざるを得なかったことから、駐車スペースに関する相談が多くありましたが、駐車場工事終了に伴い、駐車場に関する相談は少なくなってきました。

介助業務は全体の13.4％と昨年より少し増加しました。車いす患者さまの窓口までの移送や、筆談援助、電話をかける、タクシー呼び出しなどの介助が多くなっています。昨年は、車いすが不足したため、1人でも多くの患者さまにご利用いただけるよう、車いすを増台しました。

10月から12月までの業務実績は12,044件で詳細を下記に示します。

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

八尾パルス(相談等)業務実績　(件数:12,044　対象期間:2025/10/1 ～ 2025/12/30)

		10月	11月	12月	合計	%	%
案内	入院受付	49	47	70	166	1%	70%
	初回受付	80	81	94	255	2%	
	再診受付	171	201	250	622	5%	
	紹介受付	225	211	260	696	6%	
	巡回バスについて	158	144	203	505	4%	
	健診センター	53	62	74	189	2%	
	駐車場(料金)について	292	222	282	796	7%	
	会計(返戻等)	52	34	53	139	1%	
	文書受付	55	52	59	166	1%	
	ご面会(入院患者)等	375	316	384	1,075	9%	
	職員面会	51	48	67	166	1%	
	通訳依頼	12	28	17	57	0%	
	他の院内施設	479	433	551	1,463	12%	
	再来機(予診機)の取扱	776	651	744	2,171	18%	
介助	車椅子(貸出・移乗介助等)	264	160	163	587	5%	11%
	Taxi呼出	97	79	75	251	2%	
	視・聾・聴	1	1	7	9	0%	
	マスク配布枚数	152	135	97	384	3%	
	院内介助依頼	10	3	26	39	0%	
相談	診療科案内	105	80	92	277	2%	15%
	マイナ保険証マイナ受付ついて	362	207	332	901	7%	
	予約変更について	50	45	54	149	1%	
	選定療養費について	79	78	93	250	2%	
	その他	54	56	65	175	1%	
集計	医療相談	48	73	37	158	1%	5%
	その他の相談	226	79	31	336	3%	
	苦情	15	26	21	62	1%	
	合計	4,291	3,552	4,201	12,044	100%	100%

10月から12月も案内業務が全体の71%を占めておりますが、いつでも医療相談にも対応できるようにスタッフ一同心がけてまいります。

(2) 皆様の声

「皆様の声」は266件で、それらに対する回答を1ヶ月毎に掲示しています。施設等への要望が55.0%と最も多く、病院の増改築工事に伴って駐車場を一部閉鎖したことにより、車を止めることができないという意見を多く頂き、患者さまやそのご家族など、来院者の方々には大変ご迷惑をお掛けしました。

コンビニエンスストア前の飲食用のテーブル・椅子を増やしてほしいという声を多く

頂いていますが、建物の構造上、テーブルなどを増やすことはできず、来院者の方々には、不自由な思いをお掛けしております。

病棟では清掃の不十分さを指摘され、清掃回数を増やすなど改善に取り組んでいるところです。また、職員の不適切な言動に対してのご意見も頂いており、職員全員でご意見を共有し、改善に努め、患者さまが安心して療養できる環境作りに励む所存です。

接遇に関する苦情は10%と昨年より6%減少しています。外来部門の受付事務へのご意見が多く、一部の職員の言動によって病院全体の印象を損ねていることも事実であり、職員一人ひとりが、患者さまに寄り添い誠意をもって対応することを心掛けます。

感謝のお言葉は、昨年同様21%でした。感謝のお言葉は、全ての職員の励みになり、ありがたく受け止めております。

これからも、ご意見（皆様の声）を職員間で共有して、正すべき点は改善に努めてまいります。皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様方のご要望にお応えできるよう努め、皆様から愛される病院を目指します。

2025年1月から12月分の皆様の声分類

	①感謝	②接遇	③要望等	④その他	合計
医局	14	2	2		18
看護部	29	13	59	6	107
医事課	1	5	17		23
眼科	1				1
総務／資材課	7	1	55	1	64
予約センター	1	1	2		4
検査科			2		2
MSW		3			3
リハビリ	2		1		3
栄養科			4		4
薬剤部	2		1		3
システム			3		3
放射線科		1			1
掲示不可				30	30
合計	57	26	146	37	266
	21%	10%	55%	14%	100%

4. 今後の目標

今後も薬剤関連・転倒転落のリスク評価を毎日継続しておこない、対策を見直して発生数の減少を目指します。また、Lv3b以上のアクシデントに対しては根本原因分析を行ない、カンファレンスや委員会で共有し再発防止に努めます。

薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

48）感染制御部

感染制御部　統括部長　石原　英樹
部長　澁谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

感染管理のための基本的考え方

当院は、徳洲会の基本理念に基づき、医療関連感染を未然に防ぐことを第一として取り組んでおります。感染症患者発生の際には、拡大防止のため、原因の速やかな特定と科学的根拠に基づく対策を実施し、制御・終息を図ります。職員は、この目標達成のため、感染管理指針および院内感染管理マニュアルに則り、患者さまとそのご家族に安全な医療を提供できるよう努めます。

第 1.　感染管理体制の充実を図ります。

院内感染対策委員会を設置し、医療関連感染対策の推進を図ります。病院長直下に感染制御部を設置し、組織的に医療関連感染対策を実施できる体制を整え、感染を制御・管理してまいります。また、チーム医療として感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、医療関連感染防止対策の推進、薬剤耐性菌対策としての抗菌薬の適正使用を推進してまいります。

第 2.　職員に対して教育、研修を実施します。

医療関連感染対策のための基本的な考え方および具体的な方策について、職員への周知徹底を図ってまいります。個々の職員の医療関連感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での知識・技術の向上を目指します。病院全体に共通する医療関連感染に関する内容について、定期的に研修会を開催します。

第 3.　感染症の監視と発生時の迅速な対応を実施します。

日常的に院内における感染症の発生状況を把握するシステムを有し、医療関連感染症の発生またはその兆候を察知した際には、迅速かつ適切に対応いたします。

第 4.　他の医療機関等との連携体制を推進します。

他の医療機関と合同で、定期的に医療関連感染対策に関するカンファレンスを実施いたします。また、河内地域のネットワークに参画し、地域における医療・介護・福祉・保育の感染制御を支援します。

第 5.　新興感染症に対応できる体制を構築します。

保健所、医師会と連携し、他の医療機関と合同で新興感染症等の発生を想定した訓練を実施します。また、新興感染症の発生時等には都道府県等の要請を受けて、感染症患者を受け入れる体制を構築いたします。



薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

2. メンバー構成

- 院内感染対策委員会

  病院長、看護部長、事務部長、薬剤部長、検査技師長、その他部門長

  職種：医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、
  理学療法士、診療放射線技師、歯科衛生士、保育士、委託業者（清掃、リネン、中材）

- 感染制御部

  専従配置：看護師１名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理士）
  事務員１名（感染管理実務担当者）

  専任配置：医師２名（ICD：１名）、薬剤師４名（感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師：１名）
  臨床検査技師３名、看護師３名 （感染管理特定認定看護師：２名）

- ICT（感染制御チーム）

  職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、調理師、臨床工学技士、
  理学療法士、診療放射線技師、事務員

- AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

  職種：薬剤師、医師、臨床検査技師、看護師、診療放射線技師

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワーク（行政、医療、介護、福祉、保育）の開催（毎月） ②中河内感染防止対策協議会への参画（施設名：順不同） 【カンファレンス連携施設】 八尾市保健所　八尾市医師会 東大阪徳洲会病院　東朋八尾病院　貴島病院本院　八尾こころのホスピタル 北田内科・呼吸器内科　松田クリニック　しろばとクリニック 浅井クリニック　吉田クリニック　ほりい内科・整形外科クリニック 吉崎クリニック　中谷クリニック　くずもと内科クリニック　松本クリニック 【加算1相互ラウンド連携施設】 八尾市立病院　医真会八尾総合病院 【加算2/加算3ラウンド連携施設】 東大阪徳洲会病院　東朋八尾病院　貴島病院本院 ①2025年度新興感染症訓練開催
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年2回（対面+e-ラーニング） 第1回参加率：100%　　第2回参加率：100% ②4月新人研修（座学+実技） ③中途採用者研修（座学+実技） ④PPE着脱訓練（N95マスク：フィットテスト、フルPPE）
Surveillance	①微生物（細菌・ウイルス） ②手指衛生、デバイス、（BSI、UTI、VAP）、手術部位（SSI） ③血液・体液曝露 【ベンチマーキング】 ④厚生労働省（JANIS）：検査部門、手術部位部門、ICU部門、全入院部門 ⑤感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）：手指衛生、デバイス、抗菌薬 ⑥徳洲会グループ：手指衛生、耐性菌、インフルエンザ、ノロウイルス、COVID-19
感染防止技術	①手指衛生キャンペーン開催 ②PICC・CVC固定交換 ③PPE着脱訓練・手指衛生実施テスト・N95マスクフィットテスト

職業感染対策	①採用時健診による抗体価検査 HBV、HCV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②職員ワクチン接種 HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ ③結核曝露対策 ④血液・体液曝露対策
ファシリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施 ②空調、水、リネン、清掃管理 ③ゾーニングの見直し、工事リスクアセスメント ④陰圧室の差圧モニタリング

【リスクアセスメント】

項目	発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
血液・体液曝露(HIV含む)	4	3	4	2	13
結核	4	3	3	2	12
CABSI	3	3	4	2	12
CAUTI	3	2	3	2	10
手指衛生	2	3	3	2	10
COVID-19	3	2	3	1	9
MRSA	3	2	2	1	9
SSI	2	3	2	2	9
VAP	2	2	2	2	8
インフルエンザ	2	2	2	1	7

点数表

発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
1.なし	1.なし	1.なし	1.良好	最大値　15点
2.低い	2.一時的	2.低い	2.中等度	最小値　4点
3.中等度	3.多大・永久的	3.中等度	3.不十分	
4.高い	4.致命的	4.高い		



薬剤部 102
放射線科 105
臨床検査 107
リハビリ 111
臨床心理 118
臨床工学 120
栄養科 125
治験センター 128
医療福祉 130
病診連携 134
健診センター 144
情報システム 146
保育室 148
がん相談 151
医療安全 155
感染制御 161
臨床腫瘍 166

【成果指標】

2025年に特定した課題と優先順位と結果

順位	課題	成果指標	2024年結果値	目標値	2025年結果値	対策
1	血液・体液曝露	血液・体液曝露件数	17件	10件	10件	入職者に対する血液・体液曝露研修 新人職員への安全装置作動の実技練習 既卒者への安全装置作動の実技練習 入職時の抗体価(HIV)チェック
2	結核	職員LTBI件数	0件	0件	0件	肺炎患者に対する抗酸菌検査の実施 防護具の適正使用 職員の接触者検診の実施
3	CABSI	CABSI発生率	1.44‰	1.4‰	1.53‰	PICC固定方法、テープ交換方法の研修 薬剤投与時のアクセスポート消毒方法のマニュアル作成と周知、徹底 ルート交換頻度の再周知と徹底、記録 固定状況、ルート交換遵守ラウンド実施
4	CAUTI	CAUTI発生率	0.41‰	0.3‰	0.61‰	防止技術の実施率向上に向けての取り組み 部署へのフィードバックの方法検討 使用比低減の取り組み リマインダー活用について見直し 長期留置患者の抜去に向けた取り組み検討
5	手指衛生	手指衛生実施率	74%	80%	76.8%	患者接触前に焦点をあてた実施率調査と即時フィードバックの実施 手指衛生キャンペーンの実施 手洗いフォトコンテスト 3役に参加してもらいポスター作成 手指衛生直接観察者の育成 ユースキンハンドケア講習会

【出前講座】

施設名	日付	テーマ	参加人数
吉田クリニック	3月4日	感染症対策の基礎知識・嘔吐物処理の訓練等	7名（看護師3名、介護士1名、介護支援員1名、事務2名）
株式会社NBC訪問看護ステーション	5月2日	感染症対策の基礎知識と実践	26名（看護師11名、介護士6名、理学療法士1名、作業療法士2名、事務6名）
東雄苑都島	6月3日・6月10日	手指衛生の訓練、防護具の着脱訓練、嘔吐物処理の訓練	39名（看護師9名、介護士11名、介護支援員2名、支援相談員2名、理学療法士7名、作業療法士4名、管理栄養士2名、事務2名）
八尾の杜	11月4日	施設内ラウンド、防護具の着脱訓練	4名（看護師1名、介護士2名、事務1名）
八尾徳洲苑	12月9日	感染管理と対策、防護具の着脱訓練	3名（インドネシア出身の新入職介護士3名）



【地域キャリア支援協議会への参画】

2024 年度より地域の認定看護師が集い、看護専門実践及び感染管理に関する知識とスキルの向上をはかり、保健医療福祉施設に従事する職員へのキャリア支援を目的とした協議会

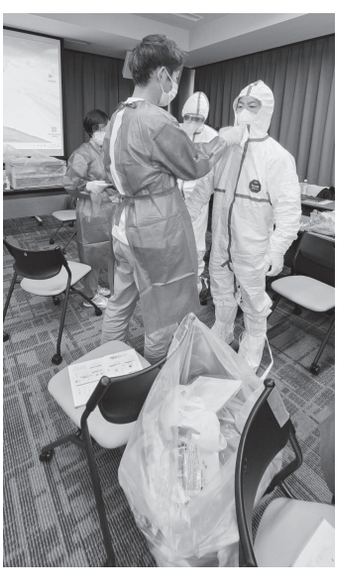
開催日	研修名	参加施設数	参加人数
2025年3月1日(土) 9：00 ～ 16：00	第1回コラボ研修 『足病変への予防的ケアとアセスメント』 『認知証の人の緩和ケア ～痛みをケアする～』 『フィジカルアセスメントのススメ』	11施設 1事業所	20名 (看護師16名、介護士1名、 事務2名、 介護タクシードライバー 1名)
2025年5月～ 2026年3月 (毎月最終土曜日) 9：00 ～ 16：00	第1回 感染管理者育成コース	20施設	41名 (看護師27名、准看護師3名、 診療放射線技師1名、 介護福祉士1名、介護士2名、 薬剤師1名、臨床検査技師2名、 理学療法士2名、保健師1名、 事務1名)
2025年9月6日(土) 9：00 ～ 16：00	第2回コラボ研修 『足病変への予防的ケアとアセスメント』 『認知証の人の緩和ケア ～痛みをケアする～』 『フィジカルアセスメントのススメ』	11施設	21名 (看護師18名、准看護師1名、 看護学生1名、作業療法士1名)
2025年11月22日(土) 2025年12月13日(土) 2026年1月24日(土) 2026年2月14日(土) 9：00 ～ 12：00	第1回 褥瘡ケアコース	19施設	34名 (看護師29名、准看護師2名、 看護学生1名、介護福祉士1名、 事務1名)

4. 今後の目標

1）JCI（Joint Commission International）受審により、JCI 認証（更新）を目指します。

2）新たな感染症対応外来・病棟にて、行政（保健所・消防署）と連携し大規模な新興感染症訓練を企画・実施します。新興感染症を含め、あらゆる感染症に対応可能な医療機関の構築を目指します。

3）地域キャリア支援事業の充実を目指します。



49）臨床腫瘍センター

臨床腫瘍センター副センター長　山本　倫数

薬剤部　102
放射線科　105
臨床検査　107
リハビリ　111
臨床心理　118
臨床工学　120
栄養科　125
治験セン　128
医療福祉　130
病診連携　134
健診セン　144
情報シス　146
保育室　148
がん相談　151
医療安全　155
感染制御　161
臨床腫瘍　166

1. 概要

当センターには、がん薬物療法に関わる専門資格および認定資格を取得したスタッフが常駐し、各科臨床医、看護師、管理栄養士らの協力のもと、それぞれの専門性を活かし、安全かつ質の高いチーム医療を提供しております。

また、院内全体のがん化学療法を安全かつ適切に行えるよう、がん化学療法看護認定看護師およびがん専門薬剤師の育成を推進するとともに、地域の保険薬局とのトレーシングレポートを活用した連携強化にも取り組んでおります。

2025年5月にはセンターを4階へ移転し、面積を拡大いたしました。明るくゆとりのある空間で、患者さまがより安心して快適に治療が受けられるよう、療養環境の充実を図っております。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、山本倫数（薬剤部：日本医療薬学会がん専門薬剤師）
外　　科：垣本　佳士
肝臓外科：木村　拓也
脳神経外科：吉村　政樹
薬　剤　部：濱田　達志（日本医療薬学会がん専門薬剤師）
看　護　部：苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）
　　上田　晴香（がん薬物療法看護認定看護師）
栄　養　科：篠田　歩美
医　事　課：片山　由貴、吉本　祐史

3. 実績

2025年のがん化学療法施行件数は年間3,248件（外来：2,779件、入院：469件）であり、前年度の2,990件（外来：2,735件、入院：255件）と比較して大幅に増加いたしました。

生物学的製剤の施行件数は年間670件でした。癌種別では、昨年度と同様に肺癌が約27%と最も多く、次いで大腸癌が約20%、肝・胆・膵癌が約17%を占めております。



がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2025 年 1 月～ 12 月）

		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	75	18	60	12	48	18	65	34	52	22	57	21	53	15	49	8	47	34	44	26	41	17	55	7	646	232
	大腸癌	54	0	47	0	52	0	61	0	64	1	61	0	59	0	47	0	59	1	57	0	50	0	52	0	663	2
	胃癌	25	1	21	0	15	1	17	0	22	0	23	2	17	2	14	1	19	1	22	0	13	0	12	2	220	10
	乳癌	10	0	13	0	8	2	14	1	18	0	19	0	21	0	22	0	10	0	19	1	19	0	29	1	202	5
	肝・胆・膵	62	1	45	2	33	2	49	0	46	3	39	0	40	0	39	2	44	4	55	0	43	1	35	2	530	17
	食道癌	1	0	1	4	1	6	1	17	1	12	2	5	2	5	2	4	2	12	2	22	1	21	3	15	19	123
	泌尿器癌	30	2	24	0	27	0	29	0	38	2	38	3	38	4	22	3	23	3	29	1	29	3	34	4	361	25
	造血器腫瘍	5	3	3	5	3	1	5	5	10	6	4	3	3	3	2	2	8	5	5	5	4	7	5	4	57	49
	婦人科癌	7	0	6	0	4	0	5	0	6	0	6	0	8	0	3	0	8	2	5	0	4	0	5	0	67	2
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	2	4	2	1	0	3	0	14	4
	合 計	269	25	220	23	191	30	247	57	260	46	250	34	241	29	200	20	221	64	242	57	205	49	233	35	2,779	469

（診療科別）	内科	41	1	25	0	22	3	33	8	22	6	18	2	21	0	10	0	13	1	17	5	11	2	17	0	250	28
	腫瘍内科	51	20	46	17	38	17	49	31	56	22	53	22	46	17	50	9	50	37	51	27	48	22	57	12	595	253
	外科	74	1	64	4	58	6	69	17	74	12	77	7	76	6	49	5	70	13	70	19	55	21	58	16	794	127
	乳腺外科	7	0	10	0	5	2	13	1	16	0	18	0	16	0	19	0	14	0	12	3	16	0	25	1	171	7
	肝臓外科	66	1	50	2	41	2	54	0	54	4	45	0	44	0	50	2	51	4	59	0	46	1	41	2	601	18
	泌尿器科	30	2	24	0	27	0	29	0	38	2	39	3	38	6	22	4	23	8	29	1	28	3	33	4	360	33
	脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	2	0	4	3
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	合 計	269	25	220	23	191	30	247	57	260	46	250	34	241	29	200	20	221	64	242	57	205	49	233	35	2,779	469

生物学的製剤	膠原病・ﾘｳﾏﾁ	58	0	40	0	43	0	52	0	56	0	55	0	57	0	57	0	49	0	64	0	45	0	50	0	626	0
	炎症性腸疾患	5	0	4	0	4	0	5	0	3	0	5	0	4	0	1	0	1	0	6	0	1	0	5	0	44	0
	合計	63	0	44	0	47	0	57	0	59	0	60	0	61	0	58	0	50	0	70	0	46	0	55	0	670	0

実習生受け入れ

日本医療薬学会　地域薬学ケア専門薬剤師（がん）：1 名（アイン薬局八尾店）

4. 今後の目標

患者さまに安全かつ質の高いがん化学療法を受けていただけるよう、診療科・職種の枠組みを超えて免疫関連有害事象などの早期発見を目的としたチーム医療を実践できるよう努めてまいります。

また、緩和ケアチームと連携して患者さまの生活面および精神面の支援を行うとともに、トレーシングレポートや ePRO（電子的患者報告アウトカム）システムを活用して地域の保険薬局との連携強化を図ってまいります。

看　護　部

―― 2025年 ――

50）　4階西　4階東　170
5階西　5階東　171
6階西　6階東　172
7階西　7階東　173
8階西　8階東　173-174
ICU　HCU　174-175
外来　保健指導　175-176
ER　手術室　176-177
透析室　入退院支援　177-178

50）看護部

看護部長　柴山　智賀子

4階西　170
4階東　170
5階西　171
5階東　171
6階西　172
6階東　172
7階西　173
7階東　173
8階西　173
8階東　174
ICU　174
HCU　175
外　来　175
保健指導　176
E　R　176
手術室　177
透析室　177
入退支援　178

1. 概要

急性期病院において質の高い医療を提供するうえで、看護の果たす役割は重要であり、その役割を担う人材の育成が不可欠です。今年、看護部では以下の目標を掲げております。

1. 急性期病院の役割認識と地域医療への貢献
2. 安全で質の高い看護実践
3. 地域貢献につながる人材育成
4. 健康な職場環境、安全な療養環境

今後も、地域の方々が安心して受診していただけるよう、安全で質の高い看護を提供できるよう、日々取り組んでまいります。

4階西病棟　内科

当病棟は、感染症対応機能を備えた病棟として2025年11月15日に新設･開棟いたしました。病床数は26床で、個室12室を有し、そのうち7室は陰圧機能を備えた感染症対応病室として整備しております。新型コロナウイルス感染症を含む各種感染症患者さまの受け入れを想定するとともに、一般内科患者さまにも柔軟に対応可能な病棟として運用を開始いたしました。2025年は開棟間もない期間であり、安全かつ円滑な病棟運営ができるよう、受け入れ体制の構築および環境整備に重点的に取り組みました。感染症患者受け入れ時の動線やゾーニングの確認、陰圧室運用に関する手順整理を行い、感染対策上の安全確保に努めました。多岐にわたる診療科の患者対応ができるよう、20～50代の幅広い経験を有する看護師を配置し、内科看護に加え、脳神経外科・整形外科・外来等での経験を活かした看護を提供できる体制を整えました。また、感染管理認定看護師と連携し、感染対策に関する助言・支援を受けながら標準予防策および感染症対応に関する知識の共有を行っております。今年度は、病棟としての基盤を整える年となりました。今後は、感染症患者さまの増加を見据えた運用体制の確立、スタッフ教育の継続、多職種連携の強化を進め、感染症対応における中核病棟としての役割を果たしてまいります。

4階東病棟　脳神経外科／脳神経内科／眼科

当病棟は、脳神経外科・脳神経内科・眼科を中心とした45床の病棟で、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患など急性期から回復期に至るまで幅広い疾患に対応しております。また、脳神経内科および眼科においては、各診療科の専門性を尊重しながら、医師をはじめ他職種と連携した看護を実践しております。2025年の入院患者数は847名、退院患者数は1,193名、在院日数は15.9日です。術前後の管理や意識障害・麻痺などの神経症状を有する患者さまへの専門的な観察と看護を実践しています。また、多職種連携を重視し、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカーと協働しながら、早期離床・早期リハビリテーションを推進し、在宅復帰や転院支援に取り組んでおります。看護においては、患者さまとそのご家族への丁寧な説明と心理的支援を大切にし、安心して治療に臨める環境づくりに努めており、今後も安全管理の徹底と看護の質向上を図り、地域医療に貢献できる病棟を目指していきます。

5階西病棟　内科／婦人科外来／乳腺外科／眼科／小児領域全ての診療科

当病棟は、内科、眼科、婦人科外来部門、乳腺外科、15歳以下の小児科を対象とし、全診療科の患児（男女問わず）の受け入れを行う40床のレディース病棟です。入院患者数1,060名、退院患者数1,273名、平均在院日数は月11.3日です。内科では主に誤嚥性肺炎や尿路感染症、慢性心不全の患者さまが大半を占めております。退院後、より良い環境下で生活できるよう入院時から、患者さまとそのご家族の意向と気持ちに寄り添いながら退院支援活動に取り組んでおります。眼科では白内障、硝子体、網膜剥離手術を目的とした患者さまの受け入れを行っています。婦人科外来では、癌検診や婦人科特有の疾患に対しての内服治療を主に行っています。2025年12月より新たに乳腺外科の受け入れを開始しました。レディース病棟であることのメリットを活かし、術後の看護やデリケートな処置を患者さまの気持ちに寄り添いながら関わることを目指しております。15歳以下の小児領域に相当する患児の受け入れは、診療科問わず患児と保護者が安心で安全な療養環境を提供できるよう取り組み、受け入れを行っております。小児から高齢者まで、診療区域も年齢層も幅広く、他病棟とは違う特徴を持つ病棟です。そのため、日々広い視野での知識や看護を意識し、優しさと温かさを持ち、患者さまやそのご家族の環境にも配慮した看護の提供を目指しております。

5階東病棟　循環器科／心臓血管外科

当病棟は、循環器科・心臓血管外科を有する循環器系病棟として、高度急性期医療を担いながらも、患者さまの生活を見据えた看護を実践し、24時間体制で緊急性の高い患者さまを受け入れております。心筋梗塞、狭心症、心不全などの循環器疾患に対するカテーテル治療に加え、心臓血管外科手術前後の周術期管理を行い、急性期から回復期、退院後の生活につながる看護を提供しております。心臓血管外科患者さまに対しては、術後の循環動態や呼吸状態、出血・不整脈などの変化を継続的に観察し、異常の早期発見と迅速な対応を行っております。あわせて疼痛管理や早期離床支援を通じて日常生活動作の回復を意識した関わりを行い、患者さまとそのご家族が退院後の生活を具体的にイメージできるよう支援しております。循環器科においては2025年に、不整脈に対するカテーテルアブレーション治療が開始されました。看護師は術前から患者さまの生活背景や理解度を踏まえて説明・支援を行い術後は出血や不整脈、合併症の早期発見に努めるなど、高度な治療を安全に支えております。また、高度化する循環器医療に対応するため、新人看護師が段階的に治療・周術期看護にかかわれるよう指導体制を整え、「治療を見る力」と「生活を見る力」の両立を意識した人材育成に取り組み、チーム全体で患者さまを支える看護体制の強化を図っております。2025年は、入院患者数は1,824名、退院患者数は2,138名、平均在院日数は7.2日で推移しました。特に心不全患者さまに対して





は、入院中からセルフケア支援や家族指導を行い、退院後も外来・地域と連携した支援を継続しております。今後も、循環器科・心臓血管外科の枠を超え、急性期であっても『生活を起点とした看護』を大切にし、地域に信頼される高度急性期医療を支えてまいります。さらに、新たに導入された治療や高度化する医療に対応できるよう、看護師一人ひとりの観察力・判断力の向上と、継続的な人材育成に取り組み、安全で質の高い看護の提供を目指しております。

4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外 来 175
保健指導 176
E R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

6階西病棟　整形外科／耳鼻咽喉科

当病棟は、整形外科および耳鼻咽喉科の疾患を主に受け入れている急性期病棟であり、骨折整復術、人工関節術、脊椎手術を中心とした周術期医療･看護を提供しております。2025年は、転倒を契機とした大腿骨近位部骨折などによる高齢の患者さまのご入院が多く、緊急入院や手術に対して迅速かつ安全な対応が求められました。入院患者数948名、退院患者数998名、年間の手術件数は前年より130件増加し、業務負担が高まる中においても、合併症予防や早期離床を意識した看護を実践し、安全な周術期管理に努めてまいりました。医師、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーが連携し、入院早期から退院後の生活を見据えた支援を行うことで、円滑な退院調整につなげております。また、骨折リエゾンサービスを継続的に実施し、骨折リスク評価や骨粗鬆症治療、転倒予防指導を行い、二次骨折予防にも取り組みました。今後も多職種協働を強化し、質の高い急性期看護の提供を目指してまいります。



6階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科／眼科

当病棟は、形成外科・泌尿器科・口腔外科・眼科・腎臓内科からなる、周術期を中心とした外科系の病棟です。2025年、入院患者数は1,634名、退院患者数1,595名、手術件数は819件。平均在院日数は9.6日でした。形成外科では、陰圧閉鎖療法をはじめとする創部管理を必要とする患者さまが糖尿病や腎不全などの慢性疾患を併存するケースも多く、そのため創部のみならず全身状態の継続的な観察と、合併症予防を重視した専門的な看護を実践しております。泌尿器科では、人工肛門造設などボディーイメージの変化を伴う患者さまに対する身体的ケアに加え､患者さまの思いに沿った精神的支援や意思決定支援を行うことを看護の重要な役割とし、周術期から退院後を見据えた継続的な関わりを行なっております。腎臓内科ではライフスタイルを尊重した腹膜透析を選択する人が増えており、自己管理支援や生活支援を含めた看護の果たす役割は大きいといえます。患者さまとそのご家族の理解度や生活背景を踏まえて、安心して在宅療養へ移行できるよう支援を行なっております。看護を通して、退院後もその方らしい生活が継続できるよう支援してまいります。

7階西病棟　消化器内科／肝臓内科

当病棟は、消化器内科を中心とした混合内科病棟です。病床数44床、2025年は入院患者数1,149名、退院患者数1,447名、平均在院日数12.2日でした。当病棟は、胆嚢炎・胆管炎・胃潰瘍・ポリープ切除等、内視鏡的治療を必要とする患者さま、および誤嚥性肺炎・尿路感染など一般内科患者さま、術前の患者さま・抗がん剤治療・放射線治療を受ける患者さまなどの受け入れを行なっています。そのため内視鏡室・放射線治療室スタッフや医療ソーシャルワーカーとの連携も重要で、患者さまの必要な情報を正確に伝達するよう心がけています。高齢化社会であり退院困難患者さまも増加傾向にあるため、入院早期から退院支援活動を意識し、患者さまとそのご家族との関わりの必要性について指導教育を継続し、患者さまに応じた情報提供や介入ができるよう取り組みを行っています。また。高齢の患者さまは、入院によりADL低下や認知機能の低下が起こるリスクが高く、残存機能の維持を意識し、定期的に退院支援カンファレンスを行い、患者個々に応じた対応が行えることを目指しております。日々、安心・安全な看護と療養環境を提供できるようスタッフ一人一人のスキルに応じた教育・接遇指導を行いながら取り組みを継続しております。

7階東病棟　消化器外科／肝臓外科／肝胆膵外科／呼吸器外科

当病棟は、消化器外科・肝臓外科・呼吸器外科の周手術期の患者を中心とした44床の高度急性期病棟です。胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、肺がんなどのがん手術や、鼠径ヘルニア、盲腸炎、胆嚢炎・胆管炎、気胸などの手術患者さまを受け入れています。2025年は新入院患者数1,416名、退院患者数1,510名、平均在院日数10.5日でした。手術前日に入院される患者さまが多いため、入院前支援看護師と連携し、患者さまの不安や疑問に対応しております。ADL（Activities of Daily Living: 日常生活動作）は自立、または軽介助状態で入院する患者さま、また手術を終えると歩いて退院する患者さまが多くいらっしゃいます。患者層は比較的若い方が中心ですが、ご高齢・超高齢の患者さまにも手術を行うことがあり、せん妄予防や転倒転落予防のため、理学療法士等と協力しながらリハビリテーションや日常生活リズムを整えております。複数のクリニカルパスを改定し、患者さまにとってわかりやすく適切な医療・看護を提供できるように整えました。安全かつ安心な環境で治療・療養を行えるよう、引き続きクリニカルパスの改定および活用を積極的に行ってまいります。

8階西病棟　呼吸器内科

当病棟は、呼吸器内科を主とした45床の内科病棟です。呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症（間質性肺炎）などの患者さまを受け入れております。疾患により人工呼吸器管理や、ハイフローセラピーを必要とする患者さまの看護を積極的に行い、離脱への援助に取り組んでおります。2025年は入院患者数646名、退院患者数895名、平均在院日数は20.4日でした。在院日数が長期化する傾向にあり、入院によるADLの低下を最小限に抑えるため、理学療法士や作業療法士との連携に加え、嚥下機能低下を評価し安全に食事を提供するために言語聴覚士との連携も欠かせません。通常、無意識に行っている呼吸ですが、呼吸器疾患による呼吸困難感、呼吸がうまくできないという自覚症状からくる不安、息切れなどにより日常生活に支障がでている患者さまもおられます。住み慣れた地域での自分らしい生活を支援するため、医療ソーシャルワーカーや地域のケアマネージャーとの連携にも力を入れ、

社会資源の情報提供を行なってまいります。このように、院内・院外の他職種と連携し、慢性呼吸器疾患の患者さまが安心して外来通院し、症状悪化時には入院・治療が受けられる病棟を目指しております。

4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外 来 175
保健指導 176
E R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

8階東病棟　総合内科／糖尿病内科／腫瘍内科／眼科

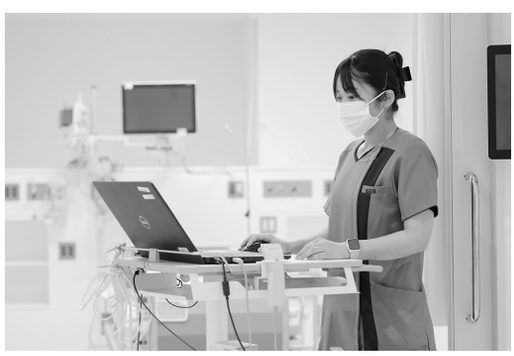
当病棟は、腫瘍内科、糖尿病教育入院の患者さまを多く受け入れ、化学療法や放射線治療を受ける患者さま、ネーザルハイフロー（NHF）で高流量酸素投与が必要な患者さま、急性期を脱した人工呼吸ケアが必要な患者さま等への看護を提供しております。病床稼働率の向上を図り、より多くの患者さまを受け入れられるよう、眼科の白内障手術を目的とする患者さまも随時受け入れております。当病棟は2024年に増床し白内障の手術患者さまを受け入れたことで、2025年の入院患者数は832名、退院患者数は1,028名と過去最多となりました。平均在院日数は17.1日で、初めて平均在院日数が20日以下を達成しました。短期入院患者さまのみならず、長期的な治療を要する患者さまについても、医療ソーシャルワーカーと協働し転院・退院調整に早期から介入した成果であると考えております。今年は糖尿病患者さまへのインスリンポンプ療法の導入を始めました。現時点では2件と件数は多くありませんが、糖尿病チームと連携を図り安全に導入対応が行えるよう、また糖尿病看護を深めるため、診療看護師による勉強会を開催しました。看護師のケアの質を向上できるようにモニタリングや呼吸器疾患看護などのスキル向上を図り、学んだことを実践できるよう日々努力してまいります。「学ぶ楽しさを経験し、患者さまに寄り添うケアを実践できるようになることで看護の質向上および離職防止に繋げていきたい」との思いを大切に、腫瘍内科を多く受け入れる病棟として、臨床腫瘍センターと連携して化学療法を学び、緩和ケアチームと痛みや意思決定支援についてさらに協働を推進してまいります。

ICU

ICUは、重篤な急性臓器機能不全状態にある患者さまを対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署です。入院患者数257名、退院患者数55名、重症な内科救急患者さま、侵襲度の高い術後の患者さまを24時間体制で受け入れております。より質の高い集中治療の提供のため、特殊モニタリング装置などの新規機器の導入を積極的に行っております。呼吸モニタリングとしてEIT装置を導入し、綿密な呼吸管理を実践しております。また、1日1回多職種カンファレンスを行い、治療やケアの検討および共有を図っております。心臓血管外科・脳神経外科の術後に加え、緊急手術患者さまも増加しており、患者さまの重症度が年々高くなっています。また、重症呼吸不全・循環不全患者さまへのECMO管理についても多く対応してまいりました。2026年にはICUを増床するため集中治療に対応できる医師や看護師を増員していきます。さらにより質の高い医療・看護の提供を行い、患者さまの早期回復支援につなげてまいります。集中治療を安全で効果的に提供するため、必要な安全文化と診療ガイドライン等に基づいた医療提供体制の構築に向けた取り組みを継続してまいります。

HCU

HCU（High Care Unit）は、内科・外科・脳神経外科・循環器内科・心臓血管外科・整形外科と多岐にわたる診療科の患者さまを受け入れ、ERからの緊急入院、術後管理、ならびに重症度の高い患者さまへの集中的治療を担う高度治療室として役割を果たしております。2025年6月15日には、20床から30床へ増床し、急性期医療における受け入れ体制の強化を図りました。2025年の入室患者数は、2,772名であり、内訳は緊急入院1,665人、転入1,107人でした。これは、2024年の入室患者数2,098人（緊急入院1,241人、転入857人）と比較し、大幅な増加です。退室患者数は2,768名（退院155名、転室2,613名）でした。増床に伴い新たに看護師を配置し､体制整備を行いながら診療需要の増大に対応してまいりました。一方で、業務量の増加や環境の変化においても、看護の質を維持・向上させることを重要課題と位置づけ、安全管理の観点から医療安全ラウンドの実施や看護師のスキル向上に向けた取り組みを強化しました。今後は、高度治療室として安全かつ質の高い急性期医療を継続的に提供できるよう、認定看護師および特定行為看護師の育成を推進し、専門性の高い看護実践とチーム医療のさらなる充実を図ってまいります。



外来

当院外来は、『診療部門』『検査・治療部門』『予防医療部門』の3つの部門で構成されています。各診療科の診察をはじめ、日帰り手術、放射線治療、検査・治療、保健師による保健指導、予防医療まで幅広い分野を担っております。2025年の外来患者数は1日平均858人で、平日は1,000人を超える日も多くありました。今年は、患者満足度の向上を目指し、外来フロアでのラウンドと積極的な声かけを行いました。待ち時間の不安の軽減や、ニーズの汲み取りを行うことで患者さまに寄り添った看護の実践に努めてまいりました。また、ラウンドを通じてスタッフの意識向上と患者さまへの注意喚起を図ることで転倒・転落対策への意識も高まりました。患者さまへの働きかけとしましては、電子掲示板と掲示物を活用し、1週間以内の転倒歴がある患者さまに自己申告を促す取り組みを開始しました。さらにリスクアセスメントの見直しにより危険因子の認識が統一され、継続的な取り組みと他職種連携の強化が今後の重要課題と位置づけ、取り組んでまいります。

検査・治療においては、特にERCP検査が年間361件（うち緊急140件）と、前年より約40％増加しました。「処置前アセスメント」、「年齢・体重別の鎮静剤投与量基準」を導入しました。他職種と情報を共有して、個別性を重視した対応を行うことで、安全かつ安心な検査・治療体制を構築することができました。

今後も各領域の専門性を発揮し、地域に信頼される外来を目指してまいります。

4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外 来 175
保健指導 176
E R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

保健指導

6名の保健師が一次予防～三次予防の観点で健診センターにおける特定保健指導、小児科における予防接種指導、外来における保健指導、禁煙指導、糖尿病ケアチームにおける患者支援を他職種と連携しながら行っております。糖尿病内科は西外来にダイアベティスケアセンターとして移設され、インスリンポンプ療法や持続グルコースモニタリングでは選択可能な機種が増えたことで患者さまの治療選択の幅が広がりました。特定保健指導では、従来の協会けんぽ、集合契約に加え、八尾市国保との新規契約を開始しましたが、階層化や特定保健指導利用勧奨方法を変更したことで、担当者の負担を増やすことなく特定保健指導利用者を増やすことができました。保健指導件数は年3,788件、昨年に比べ96.8%に減少しました。領域では糖尿病外来が最も多く2,222件(58.9%)、健診利用者への結果説明、特定保健指導が1,153件(30.4%)と続いています。昨年と比較して特定保健指導の割合が増加しました。今後の目標としては、外来における緊急対応をすべてのスタッフがスムーズに行えるよう、医師、診療看護師と協働しながら、フローチャートを作成し、運用していきたいと考えております。

《保健指導の領域件数》

領域		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	内科外来	11	13	9	6	8	9	6	4	16	8	10	1	101
	小児科外来	6	10	16	7	5	6	0	3	6	6	4	5	74
	糖尿病外来	200	195	182	234	205	195	199	171	168	176	142	155	2,222
	その他	6	3	6	4	7	3	3	2	1	1	2	1	39
病棟	糖尿病ケアチーム	3	7	5	5	0	5	2	2	5	7	3	3	47
	ラウンド	4	3	5	4	6	5	2	0	4	5	3	3	44
	その他	2	1	2	0	1	0	0	0	1	0	1	3	11
健診	健診結果説明・保健指導	41	36	35	34	38	42	50	41	41	55	49	60	522
	特定保健指導	30	48	68	69	61	66	62	44	67	52	38	26	631
その他	電話・メール支援・相談	9	11	28	6	24	6	1	5	3	2	2	0	97
合計		312	327	356	369	355	337	325	272	312	312	254	257	3,788

ER

当院は中河内二次医療圏における救急医療の中心的役割を担い、「断らない医療の実践」を掲げ、24時間体制で安定的かつ安全な救急受け入れの維持・向上に努めております。ホットラインは、救急ホットラインに加え、循環器ホットライン、脳卒中ホットラインが稼働しており、迅速かつ専門性の高い診療につながる体制を整備しております。2025年、初療室を4床から12床へと大幅に拡充しました。これにより、複数の患者さまが同時に搬入される状況にも柔軟に対応できるようになり、地域における救急医療の受け皿としての機能がさらに強化されました。また、救急搬送の受け入れ件数は11,000件を超え、軽傷から重傷まで多様な救急患者に対応しています。さらにER看護師は、救急部門だけでなく血管治療(IVR)領域にも携わっています。循環器診療では、CAG室が2部屋から3部屋に増え、新たにアブレーショ

ン治療も導入されました。これにより、急性冠症候群への迅速な対応に加えて不整脈治療にも対応可能となり、より幅広い循環器診療を提供できる体制となりました。今後も、拡張されたERの診療体制を最大限に活用し、救急医療の質向上と地域住民の安心・安全の確保に向けて、診療体制の充実と機能強化に努めてまいります。

手術室

当院の手術室は8部屋あり、ダヴィンチ対応やハイブリット手術室を備えております。2026年は2部屋増加し、10部屋となる予定です。2025年の手術件数は6,757件（うち緊急手術670件）であり、急性期病院として救急など緊急入院の増加に伴い、手術件数はもちろん緊急手術が年々増加傾向にあります。多岐にわたる業務が増加する中で、安全確保は極めて重要な課題と認識しております。術前マーキングやタイムアウト、医材カウントなど医師と協力しながら手順の標準化と実施の徹底を継続してまいります。また、手術侵襲を低減するため、高度化された機器類を使用する手術件数（ロボット手術など）も増加し、TAVIなど新たな術式導入も予定しております。設備・システム整備や他部門とのチーム協働の強化を行い、手術需要に対応できるよう努めてまいります。周術期看護として、2025年は術前支援外来枠の拡大に加え、入院後の術前訪問を再開しました。次年度は、麻酔科医の術前診察に看護師・薬剤師も同席する、包括的な術前外来診察が始まります。患者さまが安心して手術に臨めるよう、またお一人おひとりに適した周術期看護の提供を目指してまいります。

《手術件数》（2025年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
手術件数	512	494	585	576	535	591	589	529	532	621	540	653	6,757
緊急手術	46	42	62	56	55	42	55	49	59	64	63	77	670
手術外手術件数	25	24	38	31	26	22	25	13	19	23	14	31	291

透析室

透析室は、一般フロア39床と個室1床、合計40床を有しております。広々としたワンフロアで、血液透析を午前と午後の2クール体制で実施しております。血液透析に加え、毎週木曜日には腹膜透析外来も担当しております。また2025年は特にレオカーナや血漿交換といった特殊透析の件数が増加し、急性期の患者さまの病態に応じた透析治療を提供いたしました。外来登録患者数の増加を最重要目標として取り組んでまいりました結果、新規導入患者さまのうち12名の患者さまが当院での透析治療をご希望くださいました（昨年6名）。透析室の看護師は新たに透析治療を開始される患者さまに真摯に向き合い、サポーターとして、その方らしい自立した透析生活を送れるよう支援してまいります。患者さまの満足度向上を目指し、早く患者さまの穿刺に向かえるよう、申し送りを廃止するなど業務改善を図ってまいりました。今後も継続して、透析患者さまの大切なシャントを守るため、知識や穿刺技術の習得に加え、シャントトラブルに迅速に対応できる体制を構築してまいります。

《透析患者数》（2025 年）

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来患者数	53	53	51	52	51	50	50	49	51	53	53	53	619	52
登録患者数	90	88	89	84	82	79	82	81	86	80	89	86	1,016	85
新規登録患者数	10	8	3	5	8	5	17	9	4	3	11	4	87	7
転入合計	33	31	43	36	34	22	42	47	47	42	46	61	484	40
死亡合計	3	3	4	1	3	3	1	4	1	1	3	3	30	3
導入患者数（PD含む）　53名（うち当院通院患者12名）														
腹膜透析患者数　7名														

入退院支援

当院は急性期医療を提供することが使命であり、救急患者さまを受け入れるには、空きベッドの確保が必要です。当院の入退院支援看護師は、①患者さまが安全・安心な入院生活を送ることができ、②住み慣れた地域での生活へスムーズに戻れることを目的として、入院前もしくは入院早期から患者さまとそのご家族と関わり、支援にあたっております。入院前支援におきましては、患者さまとそのご家族に入院生活や治療に関する説明・オリエンテーションを実施し、患者さまの特性や治療内容に応じて、手術室看護師・薬剤師・管理栄養士・医療相談員などと連携を図っております。入院前に得た患者さまの情報は、病棟や医療相談員などと共有し、入院前から退院支援を開始できる体制を構築しております。退院支援におきましては、退院支援カンファレンスで退院困難となる要因や支援内容を医療ソーシャルワーカーや病棟看護師と共有し、患者さまとそのご家族の受容支援や意思決定支援、方向性の共有、自立支援などを他職種と協働しながら実践しております。

2025 年 12 月には、月間退院数は過去最高の 1,258 件を記録いたしましたが、年明けには病床が満床となり、救急搬送をお受けできない状況も発生いたしました。「救急患者連携搬送」とは、初期診療後に「他院でも対応可能」と判断した患者さまを、連携する他医療機関へ搬送するという、2024 年に開始された国の施策です。当院でも 2025 年 12 月から「救急患者連携搬送」の運用を開始しました。今後も当院が急性期医療機関としての重要な役割を果たすべく、入退院支援のさらなる質の向上を図り、地域の病院や施設との連携を強化してまいります。



4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外　来 175
保健指導 176
E　R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵	看護部副看護部長：中島麻由美
4 階西病棟看護師長：秋田裕香里	4 階東病棟看護師長：坂田レミ
5 階西病棟看護主任：眞砂美貴	5 階東病棟看護師長：小見山理恵
6 階西病棟看護主任：植村寿子	6 階東病棟看護主任：田中恵
7 階西病棟看護師長：尾崎芽紅美	7 階東病棟看護師長：坂本景子
8 階西病棟看護師長：毛頭悦子	8 階東病棟看護師長：井本ユミ
ICU 看護師長：村中烈子	HCU 看護師長：乾恵美
外来看護主任：大熊留美	ER 看護主任：吉川優子
手術室師長：井上静香	透析室看護師長：栗田美貴、山本真紀
入退院支援看護師長：竹内裕子	保健師主任：酒井菜穂子

3. 教育実績

実習受入れ一覧

学校名	科目	期間	学生数
奈良学園大学	統合	6 月16日～ 6 月26日	3名
	成人・老年看護学	9 月 8 日～ 9 月26日	9名
	成人・老年看護学	9 月29日～10月17日	8名
	成人・老年看護学	10月20日～11月 7 日	8名
	成人・老年看護学	11月10日～11月28日	8名
	成人・老年看護学	12月 1 日～12月19日	8名
	成人・老年看護学	12月15日～12月18日	1名
	成人・老年看護学	1 月 5 日～ 1 月 9 日	7名
	小児看護学	1 月 5 日～ 1 月 8 日	3名
	成人・老年看護学	1 月19日～ 1 月23日	8名
	成人・老年看護学	1 月26日～ 2 月 5 日	8名
	小児看護学	2 月 2 日～ 2 月 5 日	4名
	成人・老年看護学	2 月 9 日～ 2 月13日	8名
	成人・老年看護学	2 月16日～ 2 月20日	5名
アナン学園高等学校	成人看護学（急性期）	6 月23日～ 7 月 5 日	3名
	小児看護学	8 月12日～ 8 月16日	2名
	基礎看護学	9 月 1 日～ 9 月13日	6名
	統合	9 月22日～10月 2 日	6名
	老年看護学	11月25日～12月 4 日	6名
	基礎看護学	1 月 8 日～ 1 月 9 日	5名
錦秀会看護専門学校	小児看護学	5 月12日～ 5 月16日	3名
	小児看護学	5 月19日～ 5 月23日	3名
	小児看護学	6 月23日～ 6 月27日	3名
	小児看護学	6 月30日～ 7 月 4 日	3名
	小児看護学	7 月 7 日～ 7 月11日	3名
	小児看護学	7 月14日～ 7 月18日	3名
	小児看護学	7 月22日～ 7 月25日	2名
	小児看護学	7 月28日～ 8 月 1 日	3名
	小児看護学	1 月19日～ 1 月22日	3名
明浄学院高等学校	基礎看護学	1 月 5 日～ 2 月 6 日	19名
東亜看護専門学校	老年看護学	8 月 7 日～ 8 月 8 日	3名
	成人看護学	8 月13日～ 8 月14日	3名
	統合	10月 8 日～10月 9 日	3名

4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外 来 175
保健指導 176
E R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

院内研修

《新人》

研修日	研修名
4月	看護技術Ⅰ　酸素療法・吸引・吸入
5月	看護記録　電子カルテ操作編
	食事介助・口腔ケア
	メンタルヘルスケア
6月	看護技術Ⅱ 採血・末梢静脈路確保・輸液ポンプ
	看護技術Ⅲ(膀胱留置カテーテル)
7月	医療安全研修Ⅰ (転倒転落防止対策(KYT))
	二次救命処置
8月	看護技術(フィジカルアセスメント)
	リフレクション-基本編-
	物品管理とコスト意識
9月	卒後6ヵ月リフレクション
	RCA(基本編)研修Ⅰ
10月	RCA研修Ⅱ(フィッシュボーン)
	BLS
	目標管理
	終末期のケア
11月	看護技術Ⅳ「皮下・筋肉注射」
	RCA研修Ⅲ(なぜなぜ分析)
12月	医療安全「RCA]
	看護を語るナラティブ
1月	医療安全「転倒転落防止対策」

《レベルI》

研修日	研修名
6月	二次救命処置研修(急変時対応)

《レベルI・Ⅱ》

研修日	研修名
6月	個人目標管理
	医療安全RCA
7月	急変キャッチトレーニング
12月	医療安全研修(RCA)
	入退院支援ⅡⅢ (退院調整・退院支援カンファレンス)

《レベルI以上》

研修日	研修名
5月	ホスピタリティー①
7月	ホスピタリティー③
	ホスピタリティー④
8月	メンバーシップ研修①
	倫理研修
	倫理研修
9月	メンバーシップ研修②
10月	ホスピタリティー⑤
	ホスピタリティー⑥
11月	メンバーシップ研修③
12月	メンバーシップ研修④

《レベルⅡ》

研修日	研修名
9月	リーダーシップ研修初級編①
10月	リーダーシップ研修初級編②
11月	リーダーシップ研修初級編③④
1月	チューターになる準備①②

《レベルⅡ・Ⅲ》

研修日	研修名
10月	リーダーシップ研修中級編②

《レベルⅢ･Ⅳ》

研修日	研修名
7月	急変キャッチトレーニング
9月	リーダーシップ研修中級編①

《レベルⅢ・Ⅳ・管理者》

研修日	研修名
6月	医療安全(医療事故発生時の対応)
	個人目標管理
10月	入退院支援(退院支援・退院支援カンファレンス)

《レベルⅢ以上》

研修日	研修名
9月	チュータースキルアップ研修

《スキルアップ》

研修日	研修名
7月	リーダー経験者　感染管理Ⅰ-①
	小児BLS指導者養成研修①
	身体診察　問診
	小児BLS指導者養成研修②
8月	臨床推論
9月	二次救命処置
	リーダー経験者　感染管理Ⅱ-①
11月	「挿管介助」①
	「除細動器の使い方」①
	リーダー経験者　感染管理Ⅰ-②
	敗血症の初期対応と看護
	二次救命処置
	「挿管介助」②
	「除細動器の使い方」②
12月	「CV挿入介助」①
	「Picc挿入介助」①
	「胸腔ドレナージ」①
1月	「CV挿入介助」②
	「Picc挿入介助」②
	「挿管介助」③
	「除細動器の使い方」③
	「挿管介助」③
	「除細動器の使い方」③
	せん妄教育④

《トピックス》

研修日	研修名
7月	せん妄教育②
10月	せん妄教育③
1月	せん妄教育④

4階西　170
4階東　170
5階西　171
5階東　171
6階西　172
6階東　172
7階西　173
7階東　173
8階西　173
8階東　174
ICU　174
HCU　175
外　来　175
保健指導　176
E　R　176
手術室　177
透析室　177
入退支援　178

院外研修

《看護協会　短期研修》

研修月	研修コース名
6月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント【講義編①】【完全オンライン：ライブ配信型】
	現場で知っておきたい外国人対応【完全オンライン：ライブ配信型】
	感染管理の基礎知識　＊6月へ変更あり
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修①
7月	災害看護における初期医療支援活動①
	摂食・嚥下障害のある患者の看護【完全オンライン：ライブ配信型】
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント【演習編①】
	正しくスッキリ伝える文章術〜小論文のプロによる即効ビフォーアフター〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	ストーマ・瘻孔のスキンケア
	2025年度新入職者対象研修　集まれ！新人ナース！
8月	スタッフの自律と成長を促す対話〜１ｏｎ１の活用〜
	より良い意思決定に向けたナッジの活用〜看護現場における課題解決の一方法〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	がん放射線治療の最前線【完全オンライン：ライブ配信型】
	コーチング・コミュニケーション①
	コーチングコミュニケーション①
	明日から人材育成に活用できる‼6ステップモデルを用いた「経験学習支援」のコツ
	看護職が集まる施設へ！施設が出来る工夫①【完全オンライン：ライブ配信型】
9月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①
	2025年度認定看護管理者教育課程サードレベル
	がん薬物療法を受ける患者の支援【完全オンライン：ライブ配信型】
	認知症患者のケア〜認知症患者が安心して医療を受けられるケアを考える〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	重症化・急変予測に必要なスキル〜臨床推論の思考を学ぶ〜
	共に育つための教育の基本的知識〜改めて教えることについて考えてみよう！〜
	患者に寄り添う時間を生み出すための医療・看護DXの活用　※講義はオンライン
	多職種協働とコンフリクトマネジメント〜組織内のアサーティブなコミュニケーションに向けて〜　①
	看護に関係する施設基準を理解して外部調査に備える【完全オンライン：ライブ配信型】
10月	一般病棟において、予兆をとらえて急変を防ぐ観察と看護のポイント【完全オンライン：ライブ配信型】
	ACPに基づいた穏やかでその人らしい最期を見守る看取りのケア
	危険予知トレーニング
	災害看護における初期医療支援活動②
	頑張る看護職のストレス対処法〜アンガーマネジメントでストレス軽減〜
	よりよい意思決定のための情報とは〜ヘルスリテラシーの視点から学ぼう〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	看護チームにおけるリーダーシップ①
	地域包括ケア時代の看護管理者の役割
	入退院支援強化研修①
11月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②
	みんなで考える看護倫理
	ファシリテーションの基本を学ぼう
	ファシリテーションの基礎を学ぼう

研修月	研修コース名
11月	「学習する組織」の観点から学ぼう〜潜在能力の引き出し方〜
	ペイシェント・ハラスメントへの組織的対応〜医療・在宅現場におけるカスタマーハラスメントに対する組織的対応〜
	看護管理者が知っておきたい労務管理〜少しだけハラスメント対策について〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	大阪府看護職員認知症対応力向上研修
12月	eラーニング活用型医療安全管理者養成研修
	災害支援ナース養成研修④（厚生労働省受託事業）
	がん患者の症状緩和を図る看護【完全オンライン：ライブ配信型】
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント【講義編②】【完全オンライン：ライブ配信型】
	慢性心不全患者の療養支援
	人工呼吸器ケアと呼吸アセスメントスキル〜基礎から学び苦手を克服〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	一般病棟における精神疾患をもつ患者のとらえ方と接し方〜精神的苦痛に寄り添う看護〜
	病院・施設から地域へつなぐ入退院支援・退院調整の基礎知識
	実地指導者研修
	コーチングコミュニケーション②
	入退院支援強化研修②
	災害・感染拡大時に備える看護管理者が知っておきたい自然災害への備えと新興感染症対策（大阪府受託研修）
1月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント【演習編③】
	外来看護と訪問看護でつなぐ在宅療養者への継続看護〜暮らしの中でつなぐACP〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	今日から実践できる褥瘡ケア【完全オンライン：ライブ配信型】
	指導者必見のOJT手法〜思考発話でやってみせる指導方法〜【完全オンライン：ライブ配信型】
	概念化スキル（コンセプチュアルスキル）で問題解決・人材育成
	多職種協働とコンフリクトマネジメント〜組織内のアサーティブなコミュニケーションに向けて〜②
	本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会
2月	大人の発達障害〜共に働くために〜
	患者が求める看護と看護師が考える看護〜ズレに気づけば看護は変わる〜
	看護チームにおけるリーダーシップ②
	看護管理に大切な人材育成とチームマネジメント
	データを制する看護管理者を目指す
	新人看護職員研修責任者フォローアップ研修
	大阪クリティカルケア領域認定看護師フォローアップ研修【WEB】

《看護協会　長期研修》

研修月	研修コース名
5月	2025年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル
	2025年度認定看護管理者教育課程セカンドトレベル
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会
7月	2025年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル

4階西 170
4階東 170
5階西 171
5階東 171
6階西 172
6階東 172
7階西 173
7階東 173
8階西 173
8階東 174
ICU 174
HCU 175
外 来 175
保健指導 176
E R 176
手術室 177
透析室 177
入退支援 178

研究発表業績

1)院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テーマ
2025/3/1	CVIT44(近畿地方会)	ER	松尾智子	当院におけるACS患者に対する迅速な対応への取組みについて
2025/5/29～2025/5/31	第68回日本糖尿病学会学術集会	外来	酒井菜穂子 髙橋博之 (共同演者)	離島の非専用施設における応援診療看護師(NP)による糖尿病合併症予防外来開設での挑戦
2025/7/17～2025/7/19	第33回日本心血管インターベンション治療学会	ER	松尾智子	タイムリーな状況確認により急変予測・救命につながった症例
2025/7/26	第3回日本NP学会近畿地方会学術集会	ICU	髙橋博之	NPに求められる末梢挿入式カテーテルPICC/MIDLINEの適応と管理
2025/7/26	第4回日本NP学会近畿地方会学術集会	ICU	髙橋博之	Multirole NPのワークライフバランス
2025/9/20～2025/9/21	第39回手術看護学会年次大会	手術室	村野尚久	中小病院における術後疼痛管理チーム運用の結果報告
2025/10/25～2025/10/26	第11回日本NP学会学術集会	ICU	髙橋博之	離島における診療看護師(NP)主導による糖尿病合併症外来に関する実践報告
2025/10/25～2025/10/26	第11回日本NP学会学術集会	看護部	浅野実希	重症慢性閉塞性肺疾患患者に対する去痰薬吸入後の退院延期症例から得た教訓
2025/10/25～2025/10/26	第11回日本NP学会学術集会	ICU	田中一成	高齢消化管術後における診療看護師(NP)の創傷管理と医師業務のタスクシェアリング
2025/10/25～2025/10/26	第11回日本NP学会学術集会	看護部	小杉剛史	患者のアドヒアランスを考慮した診療看護師(NP)によるインスリン導入の一例
2025/10/25～2025/10/26	第11回日本NP学会学術集会	看護部	河畑美香	シンポジウム「プライマリケア診療看護師の新たなサブスペシャリティー創傷管理ー」テーマ「創傷管理における診療看護師の実践と展望」
2025/11/14～2025/11/15	第47回日本手術医学会総会	手術室	村野尚久	中小病院における少人数での術後疼痛管理体制の構築と運用
2025/11/22～2025/11/24	第35回日本医療薬学会年会	手術室	村野尚久 (共同演者)	術後疼痛管理チームによる頸静脈的自己調節鎮痛法(IVPCA)中止時期の決定
2025/11/28～2025/11/30	第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会第73回日本化学療法学会西日本支部総会(合同開催)	看護部	浅野実希	誤嚥性肺炎の生命予後を予測するNHOP scoreの開発

学術論文

著者名	所属	論文題名	発表誌名	共著者
Hiroyuki Takahashi	ICU	THE PATIENT CARE STRATEGY EMPLOYED BY NURSE PRACTITIONERS INVOLVES WORK SHARING;AS DEMONSTRATED BY THE USE OF PERIPHERALLY INSERTED CENTRAL CATHETERS	GLOBAL JOURNAL FOR RESEARCH ANALYSIS	Masahumi Inoue, osamu Murakami, Hiromasa Harada, Teruyoshi Amagai
浅野実希	看護部	熟練看護師の慢性心不全患者に対する緩和ケア実践	日本NP学会誌 Vol.9 No.2 2025年12月	岩佐由美(森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科)、 齋藤雅子(森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科)

2)雑誌投稿・著書発刊

著者名	表題	雑誌名／出版社名	発行年月
髙橋博之	糖尿病患者トラブルシューティングA to Z	文光堂	2025年

委　員　会

―― 2025年 ――

51）呼吸ケアチーム（RST）　188
52）褥瘡対策委員会　189
53）研修管理委員会　190
54）栄養サポートチーム（NST）　194
55）緩和ケアチーム　196
56）がん緩和支援委員会　198
57）地域医療支援病院運営委員会　200

51）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　片田　理恵

呼吸ケア　188
褥瘡対策　189
研修管理　190
栄養サポ　194
緩和ケア　196
がん暖和　198
地域医療　200

1. 概要

病床増加に伴い、救急搬送件数も増え重症患者さまも増加傾向にあります。呼吸リハチームでは、ICU や HCU に入室される患者さまへの介入頻度が増加しております。今後さらなる ICU の増床が予定されており、ICU に理学療法士が常駐してリハビリテーションを提供できる体制構築が望ましいと考えております。このため、人員確保が課題であり、更なる増員に向けた働きかけを行なってまいります。

また、患者さまの高齢化に伴い、在宅酸素療法を必要とする症例も増加傾向にあります。このような患者さまへの呼吸ケアにつきましても、今後も継続して提供してまいります。

2. メンバー構成

医　　師：原田博雅、石原英樹、緒方嘉隆、濱口眞成、山田知樹、渡辺広樹、村上沙羅
看　護　師：村中烈子
理学療法士：片田理恵、岩本千尋、麻野智幹、村上隼

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
患者数	480	332	460	524	444	410	700	691	688	663	599	715	6,706	558.8
単位数	572	421	586	684	632	563	927	966	1014	996	791	955	9,107	758.9

4. 今後の目標

- 呼吸リハビリテーションスタッフの増員
- ICU・HCU における早期離床および 365 日リハビリテーション介入の充実

52）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院は、2002 年より褥瘡対策委員会を発足しております。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・資材課・医事課で構成され、毎週１回の回診を実施し、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的かつ効率的な褥瘡の予防･治療を目指しております。さらに、きめ細やかなケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配置しております。

2. メンバー構成

医　　師	綾部　忍、福村　崇、小倉　一真、安藤　加奈子、山口　優里
看　護　師	髙橋　章恵、小見山　理恵、田中　恵、河畑　美香
管理栄養士	齊藤　朝美、藤田　春菜、佐々木　真悠
薬　剤　師	森田　幸男、岩政　かおり
理学療法士	明見　匡人
資　材　課	柏山　文成
医　事　課	星野　真佑

3. 実績

2025 年 1 月～ 2025 年 12 月の実績

褥瘡発生率（実質）　平均 1.66％

褥瘡有病率　平均 7.58％

4. 今後の目標

褥瘡予防に努めるとともに、褥瘡治療において保存的治療・手術治療を行い、早期発見・早期治癒の促進に努めております。年々高齢化に伴い、持ち込みによる褥瘡の件数が増加傾向にございます。また褥瘡を有した状態で地域へ戻られるケースも多く、退院後の環境を踏まえた褥瘡治療を多職種カンファレンスや回診ラウンドを通じて提供しております。今後の課題といたしまして、褥瘡ハイリスク患者に対して重症褥瘡を発生させることなくチームによる介入を行い、褥瘡発生率の低減を目指してまいります。

53）研修管理委員会

呼吸ケア 188
褥瘡対策 189
研修管理 190
栄養サポ 194
緩和ケア 196
がん暖和 198
地域医療 200

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（総合診療部長）

1. 概要

当院は、厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院および協力型臨床研修病院として初期臨床研修医の育成を行っております。プライマリ・ケアと救急医療を中心に、数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指しております。また、高度集中治療から在宅医療まで幅広く経験できる研修を強みとし、ここ数年は定員数のフルマッチを継続して維持しております。気軽に意見を交わせる場として毎月研修医会議を開催し、指導医・研修医双方が研修環境の改善に取り組めるような雰囲気づくりを心がけております。

研修医の基礎的な臨床スキルの向上や、プレゼンテーションの英語表現能力の向上を目指し、イギリス人医師ジョエル・ブランチ氏によるケースカンファレンス・レクチャーを週２回開催しております。さらに、外部や海外からも講師を招聘し、八重樫牧人先生のレクチャーを１月、6月、9月、12月の計４回開催いたしました。5月には米国より、感染症専門医 Lo 医師を、そして７月には集中治療専門医ラマー医師を招聘し、来日勉強会を開催いたしました。

臨床研修説明会につきましても、昨年度に引き続き徳洲会グループ主催も含め、多くの大型説明会に参加し、広報を実施いたしました。来年度も継続して活動してまいります。

現在、大阪公立大学医学部附属病院のたすきがけプログラム協力型施設としても初期臨床研修医２名を受け入れ指導にあたっております。次年度は１名増員の３名の受入枠が決定いたしました。今後も更なる定員枠増員に向け運営を行ってまいります。

専門研修プログラムに関しては、現在基幹施設として内科、外科、総合診療科、整形外科（Ⅱ型）、救急科の認定を受けております。

脳神経外科、形成外科、麻酔科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、病理診断科領域については、引き続き大学病院や徳洲会グループの各施設と連携を取りながら当院の特色を活かし、初期研修から専門研修へとシームレスな移行ができるよう、企画・運営を行ってまいります。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　プログラム責任者：髙原良典（総合診療部長）
事務責任者　　：井上雅章（事務部長）
外部委員　　：３名（菊池内科 院長 菊池 博氏、医療法人幸晴会 中谷クリニック院長 飯地 理氏、八尾市消防本部消防署 救急課長 芋縄 秀央氏）
その他委員　　：56 名（内訳　院内医師９名、看護部・コメディカル９名、協力施設医師 38 名）

3. 実績（2025 年度）

１）研修医数

《初期臨床研修》

１年次：６名（大阪公立大学医学部附属病院たすきがけ２名含む）
２年次：５名

《専攻医》（2025 年度開始）

内科：1 名　外科：2 名　整形外科：0 名　救急科：1 名　総合診療科：0 名

（以下、他 連携施設として受入れ）

大阪公立大学形成外科専門研修プログラム（3 名）、大阪医科薬科大学外科専門研修プログラム（1 名）、大阪公立大学脳神経外科専門研修プログラム（1 名）、大阪公立大学泌尿器科専門研修プログラム（1 名）、大阪公立大学皮膚科専門研修プログラム（1 名）

2）学会発表・勉強会・カンファレンス等

《学会発表》

年次	学会（診療科）	発表の場	開催日	演題
2年次	日本脳神経外科学会	第87回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	2025年4月5日	内頚動脈起始部狭窄を伴う内頚動脈先端部閉塞に対する血管内治療後待機的頸動脈ステント留置術を選択した一例
2年次	日本臨床救急医学会	第28回日本臨床救急医学会総会	2025年6月20日	急性腎障害を呈したサルモネラ菌血症の3症例
2年次	日本内科学会	第248回近畿地方会	2025年6月28日	タイからの旅行中に救急搬送され広範なすりガラス陰影を認めたタイ人若年男性の一例
2年次	日本臨床外科学会	第87回日本臨床外科学会学術集会	2025年11月20-22日	腸閉塞を来した回腸子宮内膜症の一例
2年次	日本感染症学会	第95回西日本地方会学術集会	2025年11月28～30日	誤嚥性飛燕に対する広域抗菌薬治療選択の検討
1年次	日本感染症学会	第95回西日本地方会学術集会	2025年11月28～30日	髄膜炎菌性肺炎の一例
1年次	内視鏡外科	第38回日本内視鏡外科学会総会	2025年12月11～13日	突発性血小板減少性紫斑病合併肺癌のVATS症例
1年次	内視鏡外科	第38回日本内視鏡外科学会総会	2025年12月11～13日	腹腔鏡にて診断がついたMelanoma肺転移の1手術症例
1年次	外科	第209回近畿外科学会	2026年2月28日	脾sclerosing angiomatoid transformation（SANT）に対し、腹腔鏡下脾部分切除を施行した一例
1年次	外科	第209回近畿外科学会	2026年2月28日	巨大後腹膜腫瘍として手術加療を要した後腹膜原発卵黄嚢種の1例
1年次	日本腹部救急医学会	第62回日本腹部救急医学会総会	2026年3月12～13日	上部消化管出血をきたした十二指腸消化管間質腫瘍の一例
2年次	日本内科学会	第251回近畿地方会	2026年3月14日	肺MAC症既往例に発生した孤立性結節に対し、診断的切除で確定したM.intracelluare肺病変の一例

呼吸ケア 188
褥瘡対策 189
研修管理 190
栄養サポ 194
緩和ケア 196
がん暖和 198
地域医療 200

《勉強会》Morning Lecture

毎週火・金曜日午前7時50分より指導医・コメディカルによるレクチャー形式の勉強会を開催し、研修医による症例共有・発表も行っております。(※は初期研修医による発表)

発表内容	開催日
糖尿病について	1月14日
CTカンファレンス	1月21日
NPによる講義	1月29日
外科領域の講義	1月31日
透析の入門について	2月4日
心房細動の抗凝固薬について	2月14日
NPによる講義	2月25日
NPによる講義	3月11日
低体温症について(※)	3月13日
急性薬物中毒について	3月21日
NPによる講義	3月25日
Introduction	4月8日
ERでのCPA/院内急変対応の基本	4月11日
ERでの初療およびカルテ記載について	4月15日
動脈血ガスの読み方①	4月18日
ERで必要なECG評価	4月22日
動脈血ガスの読み方②	4月25日
見逃してはいけない画像所見(大血管)	4月28日
ERでの重要な画像所見(頭部)	5月2日
ERでの重要な画像所見(胸部①)	5月7日
ERでの重要な画像所見(大血管②)	5月9日
ERでの重要な画像所見(腹部)	5月13日
ERでの重要な画像所見(胸部②)	5月16日
抗菌薬使用について	5月20日
ERでの重要な画像所見(胸部③)	5月23日
Over doseの対応について	5月27日

発表内容	開催日
ERでの整形外科疾患対応まとめ	5月30日
外傷診療(JATEC)①	6月10日
院外心停止症例に対するプロトコル策定について	6月13日
医薬品における医療安全	6月17日
エコーの基本(オーダーについて)	6月20日
栄養管理の第一歩 ～経腸栄養編～	6月24日
疼痛に対するリハビリテーション	6月27日
CPAおよび当院でのECMO適用について	7月3日
急性大動脈解離について	7月4日
大動脈瘤の治療について	7月8日
専攻医による抄読会レクチャー	8月5日
海外での医療活動について	8月8日
薬剤師による講義	8月26日
心電図について(心筋梗塞の場合)	9月16日
創部処置について	9月29日
外傷診療について	9月30日
痙攣について(※)	10月14日
ER症例発表(※)	11月4日
予演会:腸閉塞を来した回腸子宮内膜症の一例(※)	11月14日
予演会:髄膜炎菌性肺炎の一例(※)	11月18日
専攻医によるER振り返り講義	11月21日
検査技師よりエコー検査について	11月28日
予演会:胸腔鏡にて診断がついたMelanoma肺転移の1手術症例(※)	12月2日
予演会:突発性血小板減少性紫斑病合併肺癌のVATS症例(※)	12月5日
Over doseについて(※)	12月9日
専攻医によるER症例振り返り	12月19日

《臨床病理検討会》（※は初期研修医による発表）

演　題	開催日
肺がん化学療法中に死亡した一例（※）	1 月24日
気管食道瘻が疑われた肺扁平上皮癌の一例（※）	3 月28日
間質性肺炎で入院中に死亡した一例（※）	4 月25日
肺癌脳幹転移に対する放射線療法中にMRSA肺血症で死亡した一例（※）	6 月27日
リウマチ性多発筋痛症にて通院中で急性膵炎にて死亡した一例（※）	10月24日
小細胞肺癌で入院中に死亡した一例（※）	11月28日
非小細胞性肺癌の化学療法中に死亡した一例（※）	12月26日

3）各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS、緩和ケア研修会をはじめ、JATEC、PALS や NST 研修会など、各種講習会への参加を奨励し費用の負担などを行っております。

4）研修医の主な卒業大学

大阪公立大学、奈良県立医科大学、愛媛大学、徳島大学、広島大学、和歌山県立医科大学、久留米大学、鳥取大学、関西医科大学、東海大学、高知大学、京都府立医科大学、福井大学、大阪大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、琉球大学など、研修医の出身大学も多岐にわたっております。学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。

4. 今後の目標

- 初期臨床研修医の募集定員増員に向けてとり組む、および専攻医採用に力を注ぐ。
- 研修医のスキルアップを図るため、再考した院内勉強会を引き続き計画的に実施する。
- 研修医のインシデント・アクシデント報告意識を高め、医療安全体制を確立する。
- 働き方改革において、引き続き臨床研修医労働時間短縮計画の取り組みを行う。
- 専門研修プログラムの連携強化を目指し、連携先の充実を図る。
- 研修医年 1 回の学会発表の継続を必須として実践する。

54）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

呼吸ケア　188
褥瘡対策　189
研修管理　190
栄養サポ　194
緩和ケア　196
がん暖和　198
地域医療　200

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者さまを対象に、通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養を含む全ての栄養療法における適切な栄養管理・評価・提案を行い、一日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動しています。

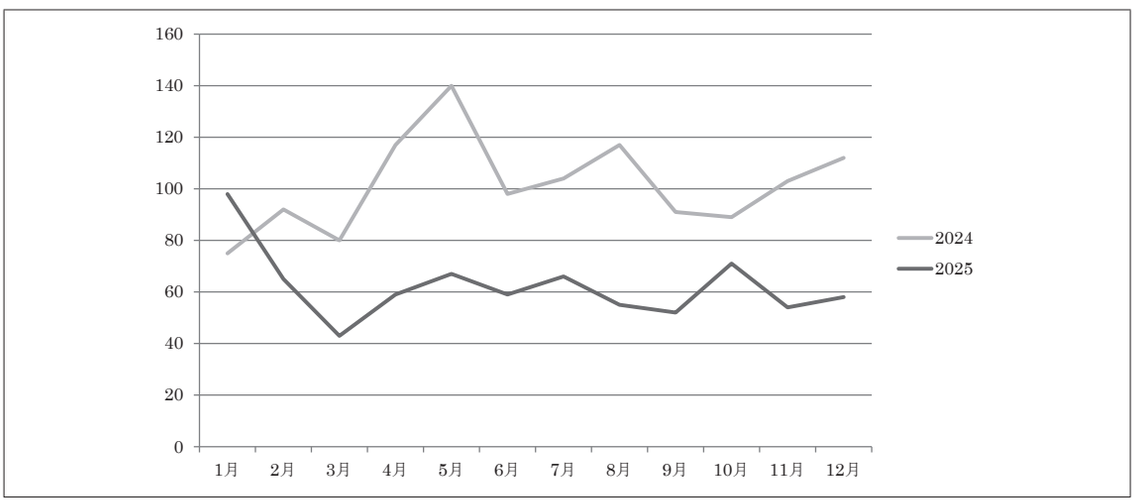
また、NST 教育認定施設として研修生受け入れを実施しており、2025 年度は 15 名の研修生を受け入れました。

2. メンバー構成

医師　　4名
看護師　10名
薬剤師　 2名
臨床検査技師　3名
管理栄養士　　3名

3. 実績

《NST 加算件数》



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2024	75	92	80	117	140	98	104	117	91	89	103	112	1218	101.5
2025	98	65	43	59	67	59	66	55	52	71	54	58	747	62.3

本年度より NST 専従から専任へ登録変更となっており、加算件数が 1 日最大 30 件から 15 件へと減少しました。それに伴い合計加算件数も減少となりました。

4. 今後の課題

• 教育、研修

近年実施できていなかった勉強会を開催し、栄養療法に関する知識を習得できる機会を提供してまいります。

2026 年度も研修生の受け入れを積極的に行なってまいります（16 名受け入れ予定）。

• 研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本臨床栄養代謝学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会へ参加し、培った知識や技術を患者さまに還元できるよう日々研鑽に努めてまいります。

55）緩和ケアチーム

緩和ケア特定認定看護師　今西　真奈美

呼吸ケア　188
褥瘡対策　189
研修管理　190
栄養サポ　194
緩和ケア　196
がん暖和　198
地域医療　200

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院には、緩和ケアチームの設置が義務づけられています。

当院の緩和ケアチームは、医師（外科・内科・麻酔科・精神科・心療内科）、看護師、薬剤師、作業療法士、公認心理師、管理栄養士、医療相談員で構成され、それぞれの職種が持つ専門知識を最大限に活用し、多角的・継続的にアプローチすることで、患者さまの苦痛の緩和を目指しております。

定期的なチーム回診では、患者さまの病気と QOL を切り離すことなく、身体面・精神面・社会面・スピリチュアルな側面から総合的に評価いたします。チーム介入時に確認した“患者さまとそのご家族の希望”を叶えられるよう調整を実施しております。

緩和ケアチームの核となる役割は苦痛の除去ですが、同時に患者さまとそのご家族に残された時間を満足感や達成感で満たせるように、ケアの提案やサポートも実施しております。

しかし、残念ながら患者さまとそのご家族、医療従事者においても、“緩和ケア＝終末期のケア”という認識を持っている方が多いのが現実です。緩和ケアは、終末期になってからの開始ではなく、診断されたときから開始することが推奨されております。早期からの緩和ケア介入が QOL の維持・向上につながるということを、チーム活動を通して啓発し、周囲の意識改革を図っております。患者さまとそのご家族に寄り添い、ケアを継続することでつらい気持ちや苦しい時間を少しでも軽減できるよう活動してまいります。

2. メンバー構成

医　　師：池下　和敏（麻酔科）、髙原　良典（総合内科）、仲村　光世（麻酔科）
　　木村　拓也（肝臓外科）、片上　徹也（精神科）、杉本　貴美子（心療内科）
看　護　師：今西　真奈美（緩和ケア特定認定看護師）
薬　剤　師：青山　瑛里子、山田　直輝（緩和薬物療法薬剤師）、井上　悠
作業療法士：梅崎　大貴
公認心理師：朴　祐希、宮坂　なつ花、
管理栄養士：小山　洋史、佐藤　友亮、篠田　歩実
医療相談員：門田　翔太、竹内　里咲、柿沼　和絵

3. 実績

《緩和ケアチーム介入件数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	月平均
新規依頼件数	4	4	3	4	8	4	4	2	6	3	7	5	54	4.5
介入人数	6	4	4	4	8	5	5	2	6	3	7	6	60	5.0
介入件数	21	30	26	19	32	22	22	11	12	17	24	27	263	21.9

《がん種別件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管(胆嚢含)	乳	前立腺	その他	非がん
17	5	11	5	5	1	1	2	11	2

《院内緩和ケア研修会》

開催日	講演1	講演2	参加者
3月6日	リンパ浮腫の保存的加療について	神経ブロックとがん性疼痛	31名
6月5日	がん告知と適応障害	緩和ケアにおける心理士の関わり	40名
12月4日	もっと「私らしく」なるアピアランスケア		27名

今後の目標

- 急性期病院としての役割を担いながら、がんの診断期から治療期、終末期に至るまで、すべての病期において、患者さまを継続的に支援してまいります。
- 近隣の病院や診療所と十分に連携を図り、患者さまの病期・病状・体調にふさわしい環境をご提案できるよう、継続的な努力と工夫を重ねてまいります。
- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を推進し、患者さまとそのご家族の気持ちを尊重し、寄り添うことを大切にしながら、患者さまを中心に人生の最終段階を過ごすための体制を整えることを支援してまいります。

56）がん緩和支援委員会

緩和ケア特定認定看護師　今西　真奈美

呼吸ケア　188
褥瘡対策　189
研修管理　190
栄養サポ　194
緩和ケア　196
がん暖和　198
地域医療　200

1. 概要

当委員会は、がん診療において疾患別に推奨される治療方法や生活・世代別の特徴などを知り、情報提供することで患者さまにとって最善と考えられる質の高い医療を提供すること、大阪府がん拠点病院としての役割を果たすことを目的として活動を行なっております。患者さまのQOLの維持・向上や、がんと診断されたときから出現する身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛に対して、積極的・継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するために、安定した体制確保の実現を目指しております。

2. メンバー構成

委員長　医　師：池下和敏（麻酔科／緩和ケア研修指導者）
事務局長　薬剤師：山田直輝（緩和薬物療法認定薬剤師）
委　員　医　師：髙原良典（内科／緩和ケア研修指導者）
：仲村光世（麻酔科／緩和ケア研修指導者）
：片上徹也（精神科／緩和ケア研修指導者）
：杉本貴美子（心療内科）
看護師：今西真奈美（緩和ケア特定認定看護師）
苗代啓子（がん化学療法看護認定看護師）
公認心理師／臨床心理士：朴祐希
管理栄養士：佐藤友亮、篠田歩実
作業療法士：梅崎大貴
医　事　課：西田美帆
医療相談員：三谷勇一

3. 実績

《がん地域連携パス件数》

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん	肺がん
適応件数	2	0	11	0	0	4
実施件数	2	0	11	0	0	1

4. 今後の目標

緩和ケア研修（PEACE 研修）が対面研修になったことで意見交換が活発に行われ、多職種の専門的な知識を活かした有意義な研修となりました。がんに携わる医療者が質の高い医療を提供できるように、今後も緩和ケア研修会（PEACE 研修）を含めた緩和ケアに関する研修を継続的に開催し、医療従事者が意欲的に参加できるような工夫をしていきたいと考えております。

併せて、がんサロンにつきましても患者さまご自身が主体的に情報収集を行えるようになりました。しかしながら、新型コロナ感染症の蔓延以前の頃のような活気には未だ戻ってはおりません。広報にも注力し、患者さまに「参加したい」と感じていただけるような魅力的ながんサロンを目指してまいります。

また、患者さまが転院され実際に過ごされる療養環境について、私たち医療従事者が把握しておくことの重要性を認識し、新たに病院見学を実施してまいりました。書面上の情報だけでなく、実際に私たちが見て聞いて感じたことを患者さまに情報提供できるよう、今後も地域の病院さまと連携しながら病院見学を継続してまいります。

患者さまが求めることに誠実に対応し、病気になったことで何かを諦めるのではなく、最期のその時まで自分らしく生きられるように支援を行ってまいります。

57）地域医療支援病院運営委員会

事務局　酒匂　精一（事務長）

呼吸ケア　188
褥瘡対策　189
研修管理　190
栄養サポ　194
緩和ケア　196
がん暖和　198
地域医療　200

1. 概要

当院は 2023 年 4 月、大阪府より地域医療支援病院として承認を得ました。

24 時間 365 日救急医療の提供、より地域に根ざした最善の医療を提供し大阪府中河内医療圏の中核的な医療機関を目指しております。また、地域の医療従事者の資質の向上を図るため 2021 年 7 月より地域の医療従事者向け研修会を開催しております。

2. メンバー構成

地域の委員：7 名

八尾市医師会副会長、八尾市歯科医師会副会長、八尾市薬剤師会副会長、八尾市保健所長
八尾市消防長、池田クリニック院長、八尾市民生委員児童委員協議会会長

病院の委員：6 名

病院長、顧問 2 名、副院長、看護部長、事務部長

事務局：3 名

3. 実績

1）地域医療支援病院運営委員会開催日（3 月、5 月、9 月、12 月 第 4 木曜日 15 時より）

2025 年

3 月 27 日(木)、5 月 22 日(木) 、9 月 25 日(木) 、12 月 18 日(木)

2）医療従事者向け研修会

	開催日	担当部署	演　題
1 月	1 月17日(金)	治験センター	患者同意や倫理審査は必要?学会発表前に知っておくべきポイント
2 月	2 月14日(金)	医療安全管理部	苦情等に対する対応要領(第三弾)
3 月	3 月14日(金)	臨床工学科	当院で取り扱っているME機器について
4 月	4 月25日(金)	看護部	看護師がベッドサイドで行う問診の技術
5 月	5 月23日(金)	臨床検査科	心電図のおはなし　～当院のパニック報告もかねて～
6 月	6 月27日(金)	リハビリテーション科	糖尿病の理学療法　～やる気を引き出す運動支援～
8 月	8 月22日(金)	放射線科	当院のRI検査
9 月	9 月26日(金)	薬剤部	地域におけるがん薬物治療の充実に向けた取り組み
11月	11月28日(金)	栄養科	当院の早期栄養介入について
12月	12月26日(金)	医局	心臓血管外科領域における、身体にやさしい新しい治療法

4. 今後の目標

地域医療支援病院として他の医療機関や介護施設との連携、関係機関との協力を強化し、地域のニーズに合わせた高度医療、救急医療を含めた医療の提供と地域全体の医療体制の向上を目指します。また感染症対策のための施設整備やプロトコルの改善に取り組みながら、地域住民の皆さまへの感染症予防に関する啓発・教育活動を継続的に実施してまいります。

関　連　施　設

―― 2025年 ――

58）八尾徳洲会介護センター　204
59）よろこび訪問看護ステーション　208
60）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　210
61）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　219
62）サービス付き高齢者向け住宅　223
　　ラフィーネの郷
63）ラフィーネ介護センター　224

58）八尾徳洲会介護センター

管理者　日髙　陽子

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

1. 概要

当センターでは、増加するご相談や複雑化する支援への対応、およびケアマネジャーの後継育成に備えるため、人材確保の必要性が高まっております。一方で、前年よりも介護支援専門員の人材確保が一層厳しく、採用活動を継続したものの、新規採用には至りませんでした。独居、認知症、癌末期など医療依存度の高い利用者さまの増加、入退院支援への関与、生活課題の多様化といった背景に加え、これまでの支援実績が地域の関係機関や利用者さま、家族さまからの信頼に繋がったものと受止めております。ご相談が多いことは当センターの役割と存在価値を示す一方で、現行体制のままでは担い切れなくなる可能性があり、体制強化の必要性を痛感しております。

また介護保険制度はICT化やデジタル化の推進を求めておりますが、現場では電子化と紙媒体の併存、事業所間での導入状況の違い、制度対応に伴う書類整備の増加など、効率化とは逆方向の負担が顕在化しております。令和8年度は介護保険報酬改定によりケアプラン料の一部利用者負担が開始され、ケアマネジャーに求められる事務的な対応は広範囲に及びます。そのため、利用者さまの支援にさく時間とのバランスが課題であると認識しております。人材不足や制度対応の複雑化が進めば、地域での支援を支える基盤そのものの脆弱化に繋がりかねません。特に在宅看取り、認知症、医療依存度が高い事例など地域が求める支援のニーズは年々増加傾向にあります。人材確保は短期的な改善は見込みにくい状況ではございますが、採用活動の継続と業務改善、育成環境の整備によって中長期的な安定を図ることで、地域のニーズと信頼に応え続けるため、体制作りに向けた取り組みを継続してまいります。

2. メンバー構成

管　　理　　者：日髙陽子
主任介護支援専門員：山﨑美保 野宗かおり 矢竹千津栄
介護支援専門員：米谷昌広
事　　務：土井真佐子

3. 実績

1）業務実績

《介護度別人数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	48	44	43	43	45	44	40	37	32	35	36	34	481
要介護2	43	43	44	44	40	38	38	41	39	36	40	41	487
要介護3	17	20	21	24	25	28	28	35	39	43	42	43	365
要介護4	28	30	29	27	26	31	31	31	32	32	32	33	362
要介護5	23	32	19	19	18	16	15	16	17	19	19	19	232
要支援1	4	4	4	3	4	5	4	4	4	4	5	6	51
要支援2	12	12	12	12	13	13	13	12	12	13	11	12	147
利用者合計	175	185	172	172	171	175	169	176	175	182	185	188	2,125

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	1	2	0	3	4	3	5	5	2	9	5	6	45
入院時情報連携加算(I)	6	2	3	6	3	8	3	5	10	2	3	4	55
入院時情報連携加算(II)	0	0	0	1	2	1	2	0	2	3	0	0	11
退院・退所加算(I1)	0	6	1	2	1	4	0	7	1	2	3	2	29
退院・退所加算(II1)	0	0	0	1	1	0	0	2	3	2	1	0	10
退院・退所加算(I2)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退院・退所加算(II2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算(III)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院時情報連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
緊急時カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ターミナルケアマネジメント加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
予防支援初回加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防支援委託連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加算合計	7	10	4	13	11	16	10	19	19	18	13	13	153

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	154	156	152	178	177	176	167	185	179	183	193	194	2,094
サービス担当者会議	25	25	29	25	17	28	29	26	20	47	37	333	641
新規	0	2	0	2	4	5	3	4	5	11	7	45	88
終了	4	3	2	3	3	3	0	3	4	1	3	32	61

2）研修

• 大阪府各市町村主催の研修・連絡会

1/31	居宅介護支援事業者向け研修　「自立支援に向けた介護支援専門員と通所サービス事業所との連携」　八尾市健康福祉部　高齢介護課主催	米谷
3/19	居宅介護支援事業者向け研修　八尾市健康福祉部　高齢介護課主催	米谷
11/19	令和7年度　認知症対応力向上研修「認知症ケアや権利擁護、家族支援について」八尾市地域福祉部高齢介護課地域支援室主催	野宗
11/21	介護予防ケアマネジメント業務に関する研修会 八尾市健康福祉部高齢介護課主催	米谷

• 八尾市介護保険事業者連絡協議会

1/15	居宅介護支援事業者部会定例会 「ケアマネジャーが知っておきたいヤングケアラー支援について」	山﨑
2/27	令和6年度　第2回　八尾市事業者連絡協議会 総会・研修会　八尾市　人権研修　「介護現場における身体拘束について」	野宗
6/20	令和7年度　第1回　八尾市介護保険事業者連絡協議会 総会・研修会　「爆笑!おもろい人生のススメ～ 100歳人生転ばぬ先の知恵」	米谷
7/16	令和7年度居宅介護支援事業者部会 地区別研修会　「居宅支援事業所　地域包括支援センター合同事例検討会」	山﨑

介護セン 204
よろこび 訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺 愛の郷 219
ラフィーネ の郷 223
ラフィーネ 介護セン 224

7/25	令和7年度居宅介護支援事業者部会　新人研修会 「ケアマネジメントプロセスの基本を理解する」	米谷
10/17	令和7年度居宅介護支援事業者部会　第1回定例会開催 「障がいの支援のことを知ろう」	米谷

• 大阪介護支援専門員協会

2/15	近畿ブロック研修大会　in　しが 介護支援専門員の未来を拓く新たな視点～ダイバーシティ&インクルージョン　桜梅桃李～	日髙
2/28	令和6年度第2回研修会　法定外研修 「身元保証サービスを理解し適切に使うために」	山﨑
6/24	八尾支部総会　研修会　「産業ケアマネジャーの地域での取り組み、仕事と介護の両立支援・　介護支援が介護現場に起こす化学反応についての具体的実践」	野宗
9/10	八尾支部　事例検討会　「認知症高齢者とアルコール依存症の家族が同居している家庭」	山﨑
11/18	八尾支部　法定外研修　「ケアマネジメント業務を助けるデジタル活用」	山﨑

• 法人内

2/20	居宅介護支援部門　第3回全体研修 「成年後見人制度の理解と実践～ケアマネジャーが果たす役割～」	日髙
4/23	居宅介護支援部門　第1回全体研修　「法令遵守」	日髙・矢竹
6/18	介護部会全体研修会 「高齢者虐待防止のために医療・介護職として果たす役割」	山﨑
6/23	感染症研修・訓練　介護老人保健施設八尾徳洲苑主催	米谷・土井
7/10	介護部会　第2回全体研修　「医療・介護職のためのストレスコントロール術」	日髙・矢竹
8/23	八尾徳洲会総合病院　管理者研修　「カスタマーハラスメント防止研修」	山﨑
10/7	介護部会　第3回全体研修　「認知症を理解する　認知症も病気・寄り添う心」	野宗
11/20	介護部会　第4回全体研修　「人を育てる人のためのコーチングを学ぶ」	日髙
12/22	地域包括支援センター部門全体研修　「重層的支援・複雑複合的課題のある世帯への支援事例を通して　『8050問題』のある世帯への支援」	日髙

• 事業所内

2/27	人権研修	
3/18	BCP	
4/23	法令遵守	
6/19	高齢者虐待防止、身体拘束についての勉強会	
6/23	感染勉強会	
8/21	ヤングケアラー勉強会	
10/16	個人情報保護法、プライバシー保護に関する勉強会	
12/18	ハラスメント勉強会	
[症例検討]、[伝達研修・情報提供等]　週1回定例会議にて実施		

• その他

3/18	しきの会　業務効率化について	日髙
5/7	株式会社ウェルモ主催（zoom開催） 「専門家から学ぶ!介護現場におけるカスタマーハラスメント」	日髙
5/14	訪問看護ステーションorient主催 「皮膚排泄ケア認定看護師（WOCナース）とは、認定看護師の活用方法」	山﨑
6/12	令和7年度第1回長寿社会開発センター研究セミナー（オンデマンド配信） 「統合失調症、発達障害、パーソナリティ障害という診断のある利用者の支援、 診断名や見かけの症状にまどわされない対応」	山﨑
8/19	しきの会　サービス付き高齢者高齢者向け住宅、ICTについて	日髙
11/29	令和7年度第3回長寿社会開発センター研修セミナー（オンデマンド配信） 「地域共生社会と生活困窮者支援」「本人らしい生活をするためにどうする？ 地域との連携」	山﨑

4. 今後の目標

• 人材確保

• 業務効率化

59）よろこび訪問看護ステーション

管理者　山口　耕平

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

1. 概要

2025 年は在宅療養における利用者さまのご依頼において、終末期・緩和ケア医療での介入が必要なケースが多く見受けられました。介入後も、ご家族さまが自宅療養への負担を感じられ、早期に緩和ケア病院へと移られることもあり、訪問件数が伸びず、経営不振が続きました。

対策としましては、親病院である徳洲会病棟へのラウンドや、地域ケアマネジャーへの営業などを積極的に実施いたしました。その結果、医療保険のみならず介護保険での介入件数も増加し、経営は安定傾向にございますが、累計では依然として経営不振が続いております。

2. メンバー構成

管理者　：山口 耕平
看護師〈常勤〉　：渡邉 一正（2025 年 12 月徳洲苑～異動）・長谷川 由紀子
中澤 陽子・奥田 梨佳・安部　純奈（2025 年 6 月復職）
看護師〈非常勤〉　：辻本　由加里
理学療法士〈常勤〉　：松本　龍也
事務員　：岡見　亜耶

3. 実績

《訪問看護》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
利用者	83	77	78	78	78	75	69	72	79	79	77	80	925
訪問件数	657	577	539	498	501	472	445	448	483	604	542	580	6,346
新規導入者	15	3	5	3	3	5	3	7	4	10	4	5	67
終了者(その他)	9	9	4	3	3	8	9	4	3	4	6	2	64

《研修及び行事》

1 月 16 日　多職種連携研修会（山口）
1 月 23 日　八尾市地域医療を考える会（山口）
1 月 24 日　自殺対策推進事業（山口）
2 月 8 日　在宅医療における災害対策研修（オンライン）（松本）
2 月 13 日　在宅医療・介護連携推進に係る多職種研修（Web 受講）（山口）
2 月 16 日　災害対策の知識向上（オンライン）（松本）
2 月 27 日　大阪府看護協会　府東支部の第 2 回夜間研修（奥田）
3 月 22 日　在宅医療における ACP 研修会（中澤）
5 月 18 日　肩における末梢神経の評価・治療（オンライン）（松本）
5 月 25 日　症例報告を読む・書く人のための知識と気づきの学び（オンライン）（松本）
6 月 18 日　徳洲会介護部門全体研修（中澤）

7 月 13 日　生体心理学的概念に基づいた運動療法（オンライン）（松本）
7 月 19 日　緩和ケア研修会（奥田）
11 月 16 日　上級救命講習（松本）
12 月 7 日　学会・研修会名簿理学療法専門領域研修会（オンライン）（松本）
12 月 14 日　日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス（オンライン）（松本）

《実習受け入れ》
太成学院大学　計 11 名
2025 年度生
1/28~1/30（2 名）、2/4~2/6（3 名）、9/30~10/3（3 名）、10/21~10/23（3 名）

4. 今後の目標
- 利用者さまから信頼を得られるよう看護の質を向上させる。
- 新規受け入れ 100%、経営安定、働きやすい職場を目指す。
- 八尾介護複合施設、多職種連携を強化し、信頼性の向上を図る。

60）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　森本　修

介護セン 204
よろこび 訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺 愛の郷 219
ラフィーネ の郷 223
ラフィーネ 介護セン 224

1. 概要

2025 年 11 月末に非徳洲会系病院（以下　A 病院）より紹介され、当苑にご入所された 78 歳女性は、24 年前に 1 型糖尿病を発症されております。10 年前に前医から A 病院が治療を引き継いだ時点で内因性インスリンは枯渇しており、血糖の変動が大きく、低血糖が頻発していたとのことでした。

今回 A 病院へ入院される契機となったのは､9 月 6 日ご自宅で意識レベルが低下した状態を、患者さまの夫が発見し、他の救急病院へ搬送・入院されたことでした。その少し前から食欲が低下しておりインスリン自己注射を中断されていたため、糖尿病性ケトアシドーシスを発症されたことによるものでした。10 月 6 日に救急病院を退院後も食事摂取量が少なく、続く 8 日には、A 病院の受診予約があったのでそのまま入院となりました。入院後、食事量は徐々に安定し、スケール打ちから固定打ちに移行できたため、当苑へのご入所となりました。A 病院からの紹介状では、

ヒューマログ注ミリオンペン　　朝 8U　　昼　7U　　夕　6U
トレシーバ注フレックスタッチ　　眠前　5U

の記載がございました。

11 月 21 日に当苑へご入所されました。以前に低血糖を頻発していた事から、ヒューマログ注ミリオンペンについては、食事を 50％以上摂取した場合のみ皮下注する指示といたしました。しかし、26 日朝食を 100％摂取したため、指示通りの単位を皮下注射した後 11 時過ぎに血糖値 33mg/dL となり意識レベル低下を認めました。これに対し 50％ブドウ糖 20ml を静注したところ、13 時には血糖値 201m/dL になりました。そこで、朝のヒューマログ注を 5U に減量いたしました。翌日 27 日、朝食をほぼ 100％摂取された後の 10 時 30 分頃、再び意識レベル低下を認め、血糖値 26mg/dL となりました。ブドウ糖 20ml 静注 3 分後、血糖値 329mg/dL となり、更に 45 分後には再度下降し血糖値 117mg /dL となりました。

以上の事から内因性インスリンの残存または回復を疑い､血中 C－ペプチドを測定した結果、0.13ng/ml と A 病院の紹介状の通り枯渇しておりました。結論として、高齢者の外因性インスリンへの感受性の過剰な亢進と考え、現在は

ヒューマログ注ミリオンペン　　朝　0　　昼　4U　　夕　4U
トレシーバ注フレックスタッチ　　眠前　6U

で食事を 40％以上摂取した場合のみ皮下注する方針とし、最近の 4 日間は問題なく経過されております。この症例から、高齢者の外因性インスリンの対する感受性亢進が非常に大きい事を学びました。

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	109	110	109	110	104	109	105	112	110	106	111	114	1,309	109	+3.2%
延べ人数	3,006	2,741	3,007	2,891	3,023	2,917	3,041	3,038	2,902	2,940	2,787	2,917	35,210	2,934	+0.4%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	8	7	7	7	8	6	5	5	9	11	10	9	92	7.6	+109%
延べ人数	30	26	24	23	23	16	14	15	32	44	30	29	306	25.5	+42%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	91	94	92	95	95	97	103	103	101	102	101	102	1,176	98	+16%
延べ人数	693	720	812	844	862	809	877	841	891	937	856	937	10,079	840	+15%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	1	0	1	0	0	0	5	1	0	1	2	12	+25%
八尾徳洲会	4	5	10	10	5	9	4	11	8	7	13	9	95	+14%
他病院	5	7	4	1	3	5	2	1	3	4	3	6	44	+33%
介護施設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	−50%
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	±%
合計人数	11	13	14	12	8	14	6	17	12	11	17	17	154	+22%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	4	1	4	4	3	4	1	7	4	3	5	4	44	+54%
八尾徳洲会	6	3	5	3	2	1	4	2	1	7	4	6	44	−25%
他病院	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	4	+50%
特養	1	4	0	3	1	1	2	2	2	0	1	2	19	+53%
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	±0%
死亡(看取り)	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	7	-43%
その他施設	1	6	1	2	1	4	2	3	6	4	2	9	41	+25%
合計人数	12	15	11	14	9	10	10	15	14	14	13	23	160	+31%
在宅復帰率	41.7	50	50	50	50	80	30	71.4	71.4	50	57.1	62.5	55.3%	−%

一年間の在宅復帰率は、55.3%（前年度は55.8%である。）

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.41	3.40	3.41	3.39	3.40	3.39	3.41	3.40	3.39	3.40	3.38	3.37	−	3.39
経管栄養	31	28	31	30	31	30	31	31	32	48	35	36	394	32.8
インシュリン	93	39	27	35	48	70	110	74	60	83	112	123	874	72.8
褥瘡処置	111	103	124	99	126	109	60	37	44	41	30	18	902	75.1
酸素吸引	64	84	114	90	93	90	62	62	62	31	30	31	813	67.7
頻回吸引	90	90	30	10	90	90	90	30	30	210	360	360	1480	123.3
点滴注射	17	25	21	23	25	15	26	11	4	27	10	13	217	18

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 10 年）

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	合計	平均	前年比
3件	5件	3件	4件	1件	11件	7件	9件	11件	4件	58件	5.8件	−63%

3）重症者搬送件数

八尾徳洲会総合病院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
	5	2	2	0	1	0	1	0	1	3	1	2	18	1.5	+32%

【機能訓練室】

理学療法士副室長　水島　知絵

1. 概要

「みんなのニーズに応えたい」という部署理念と５つの行動指針を基盤に、利用者さまお一人おひとりに寄り添う支援を推進した一年でございました。短期集中リハビリテーション加算の算定件数増加を目指して計画的な取り組みを行った結果、平均算定件数増加という成果に繋げることができました。COVID-19 陽性のご利用者さまに対しても個別リハビリテーションの提供を中止することなく、感染対策を徹底した上で途切れない介入をおこないました。また、部署内勉強会を継続的に実施し、知識・技術の向上を図りました。学会発表や外部研修への参加を積極的に推進し、専門性の向上と情報発信に努めました。通所リハビリテーションでは、リハビリテーション提供体制加算の算定率向上に向けて人員配置を工夫し、安定したサービス提供を実現しました。これらの取り組みを通じて、ご利用者さまの在宅生活支援とリハビリテーションの質向上に寄与した一年となりました。

2. メンバー構成

理学療法士　6 名／作業療法士　1 名／言語聴覚士　1 名（非常勤）

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	1,222	1,248	1,419	1,405	1,389	1,312	1,403	1,338	1,546	1,516	1,369	1,496	16,663	1,389
内､加算算定数	322	322	378	407	402	358	346	299	489	513	459	477	4,772	398

2）講演活動

PT 水島・土井　：• 大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）

PT 土井　：• 奈良リハビリテーション専門学校『失行・失認タイプ別の理学療法』

• 大阪府社会福祉協議会

『利用者の状態に合わせた環境作り（シーティング）（福祉用具の活用)』

3）学会・研修参加

PT 土井　：第 36 回全国介護老人保健施設大会演題発表

『介護生産性の評価に向けた夜勤業務時間調査』

PT 出井　：大阪介護老人保健施設協会『通所リハにおける運営の工夫点』

PT 範　：大阪介護老人保健施設協会『認知症介護実践者研修』

4）実習受け入れ

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

地域理学療法臨床実習 4 名（3 日間）

4. 今後の目標

短期集中リハビリテーション加算や通所リハビリテーション提供体制加算の適切な算定に向け、体制の見直しと質の向上に努めてまいります。ご利用者さまの状態に応じたサービス提供や人員配置の工夫を重ね、よりよい支援に繋がる取り組みを進めてまいります。

【栄養科】

管理栄養士主任　樋口　晶代

1. 概要

栄養科は、入所定員 100 名、通所定員 60 名、サ高住定員 60 名を対象に、「安全でおいしい食事の提供」と「低栄養予防・経口摂取の維持」を基本方針として、日々の業務に取り組んでおります。年間延べ食数は入所が約 10.5 万食、サ高住が約 5.9 万食、通所が約 8,000 食、職員食が約 9,500 食であり、1 日平均約 500 食を提供いたしました。入所における食種の内訳は、普通食 37%、一口大 33%、刻み食 22%、ペースト食 7%でした。

栄養管理については､2025 年 3 月より栄養マネジメント強化加算の算定を開始いたしました。新規入所時および定期的な栄養スクリーニング・アセスメントを実施し、低栄養リスク者に対しては状態に応じて評価、栄養補助食の導入や食形態の調整を行い、体重の維持や栄養状態の維持・改善に努めました。また、経口維持加算や療養食加算も継続して実施しており、多職種

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

と連携して個別栄養ケア計画の作成・見直しを行いました。

給食管理においては、利用者の食事満足度向上を目的として、新メニューの導入に取り組みました。季節感を意識したメニューや、利用者からのリクエスト「麺メニュー」の提供を行い高い喫食率が得られました。

衛生管理と事故防止の取り組みについては、昨年度に発生した食中毒事故を重く受け止め、本年度は「事故を二度と起こさない」ことを最大の課題として衛生管理を強化いたしました。今後も継続的な教育と点検を行い、安全で安心な給食提供体制の維持･向上を図ってまいります。

2. メンバー構成

管理栄養士　2名
栄養士　　1名
調理師　　3名
調理補助　　9名

3. 実績

1）栄養マネジメント強化加算　算定件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
算定件数	0	0	3,007	2,891	3,020	2,914	3,041	3,038	2,902	2,941	2,787	2,915	29,456	2,455

2）療養食加算　算定件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
算定件数	1,883	1,691	2,173	2,122	2,365	2,210	2,470	2,290	2,046	2,057	1,963	2,460	25,730	2,144
実施費率	20.6%	20.3%	23.8%	24.3%	25.8%	25.0%	26.8%	25.0%	23.2%	23.0%	23.2%	27.9%		24.1%

3）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	13	15	18	17	19	15	15	15	13	11	13	14	178	15
（Ⅱ）	13	15	18	17	19	15	15	15	13	11	13	14	178	15

4）行事食・イベント食

1月　正月「おせち料理」、新年会「ちらし寿司」、麺メニュー「ミートスパゲティ」
2月　節分「巻き寿司」、麺メニュー「肉うどん」
3月　ひな祭り「ちらし寿司」、通所：お楽しみランチ「おでん」
4月　お花見ランチ「エビフライ弁当」、中華ランチ「エビチリ」、
　　麺メニュー「ミートスパゲティ」
5月　端午の節句「ちらし寿司、鯉のぼりゼリー」
6月　通所：中華ランチ

7月　七夕「ちらし寿司とそうめん汁」、お楽しみデザート「ケーキ」、
　　土用の丑「うなぎ入りちらし寿司」
8月　夏祭り行事食「屋台メニュー」、麺メニュー「ミートスパゲティ」
9月　敬老の日「赤飯、祝い御前」
10月　お月見「お月見ゼリー」、お楽しみデザート「ケーキ」、洋食ランチ「エビフライ」
11月　季節メニュー「きのこご飯」、麺メニュー「肉うどん」
12月　クリスマスランチ「星形ハンバーグ、クリスマスデザート」

4. 今後の目標

本年度は、栄養マネジメント強化加算の開始、新メニュー導入、衛生管理の強化を重点的に進めました。その結果、栄養ケアの質向上と利用者の満足度向上、安全な給食提供体制の再構築に一定の成果が得られたと考えます。一方で、栄養ケア計画の見直し頻度、多職種との情報共有タイミングなど、さらなる改善が必要な課題も明らかになりました。

次年度は、ミールラウンドの回数増加、低栄養リスク者への個別支援の強化、衛生教育の継続を目標とし、利用者一人ひとりの QOL 向上に寄与できる栄養管理を目指してまいります。

【支援相談員】

支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

新築移転から２年目がスタートしました。少しずつではありますが、地域の皆様へ当施設の利用内容をご理解いただき、地域の皆様のお力になりたいと思います。私たち支援相談員は、長期入所・短期入所・通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、ご利用にあたっての相談対応支援を中心に活動を行っております。

入所は 100 床あるベッドを運用し、入退所調整を実施しております。100 床中 1 床を短期入所用として活用しております。各部署と連携をとり安心したサービス利用の提供を目指しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。在宅復帰が困難な方にも長期間入所できる施設等の情報提供は実施しており、安心して生活できる環境の提供を心がけ対応しております。

通所リハビリテーションでは、医師の指示書（診療情報提供書）を簡略化し、スムーズな利用への調整を実施いたしました。

老健施設基準でもある「在宅復帰超強化型」は維持しております。今後も新たな取り組みを検討・構築し、各医療機関や地域でお困りの方に対して積極的に情報発信していき、医療機関の後方支援先・地域の相談窓口としての協力体制を整えていきたいと考えております。

2. メンバー構成

北出　眞和　　小茂田　加奈　　今野　あきの（産休中）

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

3. 実績

149 名の方（前年比 +40 名）が退所されました。内、在宅復帰 45 名（30%）、病院搬送 40 名（28%）、特養・他老健入所者 19 名（12%）、有料老人ホーム入所者（有料・サービス付き高齢者向け住宅など含む）45 名（30%）となっております。住宅系施設へ入居される方が増加し、年間在宅復帰率は 58%となりました。

入所に関しては、149 名（前年比 +27 名）の方が入所されました。136 名（91%）の方が医療機関からの紹介で、13 名（9%）の方が在宅からの入所となりました。協力医療機関でもある八尾徳洲会総合病院からの紹介者は全体の 6 割でした。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を可能な限り維持し、安定した入所者数の確保を目標に取り組んでまいります。

地域の窓口として開けた対応を実践してまいります。八尾徳洲会総合病院との連携も強化し、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力してまいります。

【介護・看護部】

総看護師長　武田　郁子

1. 概要

2025 年も看護介護職員みんなで協力しながら良いケアの提供に努めました。ご利用者さま、ご家族さまの声をよく聞き丁寧な対応につとめましたが、不適切ケアとなってしまったケースがありました。このことは今一度自分たちのケアについて振り返り、見直す機会になったと思います。良いケアとは何かを問い続け、基本に返り、施設一丸となって前に進んでまいりたいと思います。何より利用者さまが安全で安心して過ごせるように努めてまいります。また、通所リハビリテーションも同様にこの地域の多くの皆様にいつも笑顔で安心してご利用していただけるように尽力いたします。

《年間行事》

施設全体での行事開催はせず、フロアごとの行事を行いました。

2. 実績

1）看護介護目標と成果

2025 年度の八尾徳洲苑の施設目標

1. 思い遣る気持ちでタメ口「0」
2. ハラスメントのない職場

2）教育人材育成

- 認知症介護実践者研修　　2 名
- 介護福祉士国家試験受験　　2 名

3）身体拘束適正化検討委員会　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサー使用のご利用者さまの共有をおこなっております

4）安全管理委員会　毎月の事故報告書を分析し、重要事例などは臨時の会議を行い検討しております

5）高齢者虐待防止委員会　ご利用者さまの訴えに対応し不適切ケアになっていないか検討し対策をおこなっております

6）感染対策委員会　感染防止対策を共有し施設での感染発生防止に取り組んでおります
コロナ、インフルエンザ陽性者発生時は臨時感染対策会議を開催し感染防止対策を検討しております

7）施設内研修

今年度は集合型の研修を中心に勉強会を行い、web 研修、資料配付・レポート提出形式も継続しました。また、一部実技を取り入れた研修も実施しました。

5 月　介護職の医行為について
　　介護保険サービスと倫理及び法令遵守
6 月　感染対策
　　身体拘束廃止・高齢者虐待防止
7 月　接遇について
8 月　記録について、摂食嚥下・排泄ケア
9 月　介護保険制度、消防訓練
10 月　褥瘡ケア、感染対策（実技）
11 月　ハラスメント、看取り・エンゼルケア、認知症ケア
12 月　急変時対応（コードブルー）、個人情報・プライバシー保護
1 月　防災研修、BLS 研修
2 月　キャリアパス、身体拘束・高齢者虐待
3 月　認知症

8）実習受け入れ

• 大阪公立大学看護学部看護学科	早期体験実習	14 名	9 月 10 日 11 日
• 大精協看護専門学校	准看護師実習生	38 名	老年看護（7/30 ～ 11/21）
	准看護師実習生	30 名	追実習（補習及び再実習） 2025 年 2/3 ～ 2/26
• 加美南中学校	職業体験	3 名	11 月 27 日 28 日

9）学会発表

全国介護老人保健施設大会山口　2025 年 11 月 27 日 28 日開催

「介護生産性の評価に向けた夜勤業務時間調査」 理学療法士　土井敏之

「ヒヤリハットの活用方法」 介護福祉士　柳谷亜矢子

介護セン 204
よろこび 訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺 愛の郷 219
ラフィーネ の郷 223
ラフィーネ 介護セン 224

61）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　敬
業務執行理事　木口　良章

1. 概要

2025 年は物価の高騰や賃金上昇圧力で経営面では厳しい状況となりました。安定した施設経営のため、特養の食費を 150 円上げさせていただきました。

1 年を振り返りますと、1 月は特養のご入院が増加し、3 月には新型コロナ感染症で職員 2 名を含む 12 名のクラスターが発生いたしました。この影響により、短期入所とともに稼働率が一時的に低下いたしました。4 月以降は特養の入居者さまにおいて感染症の発生はありませんでした。12 月初旬にはインフルエンザの感染者数が警報レベルに達しましたが、入居者さまへの感染は確認されませんでした。

社会福祉法人として大切にしてきた地域との関係においては、新型コロナの感染症が発生した 2020 年以降取りやめていた夏祭りを、5 月に「ふれあい祭」として復活させることができました。多くの地域住民の皆様にボランティアとして運営にご協力いただきました。また、6 月の八尾市地域健診では会場を提供し、7 月の結果説明会では地域包括支援センターの職員が高齢者の方々の相談に対応いたしました。9 月には久宝寺地区の燈路祭りや災害訓練にも参加させていただくことができました。年末には、クリスマスイベントにボランティア（バックリバーサイドオーケストラ）の方に演奏会を開催していただきました。12 月 27 日には地域の方のご協力のもと餅つきも実施することができました。

生産性向上に向けた取り組みとしましては、業務改善により確保できた時間を入居者さまへのサービスの質向上に充てております。この時間の確保は重要であるという認識のもと、当施設では 4 年前から継続的に取り組んでおります。本年度は「気づきシート」を活用し、業務におけるムリ・ムダ・ムラを無くす活動を実施いたしました。まだ定着には至っておりませんが、QI 活動ができるレベルを目標としてまいります。

2. メンバー構成

日本人の若い介護職員を確保するのが非常に難しい状況が続いております。そのような状況下で、常勤職員 3 名が退職いたしました（介護支援専門員・タクシードライバー・鉄鋼関係への転職）。また、調理師や経理関係の事務職の確保も困難な状況です。

下記の表は 2017 年度からの職員数（非常勤は常勤換算で）の変遷となっています。多い時と比較すると 6 名ほど少なく運営できていて、生産性の向上に対応できている証と考えています。できるだけ現業部門に多く人員配置し、管理部門の人員は最小限にするなどの努力が実った成果です。また、早くから見守りシステムやタブレット、インカムなどの機器に投資できた事も大きかったです。

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
全体	65.9	63.4	67.7	64.4	64.0	65.2	64.2	63.7	61.4
特養介護	25.7	26.3	29.1	29.6	27.0	24.9	28.5	25.0	26.2
ショート介護	5.4	5.7	6.6	6.6	6.6	6.5	5.5	6	4.9
特養	31.1	32	35.7	36.2	33.6	31.4	34	31	31.1
デイ介護	6.2	7.2	6.7	5.6	6.9	5.9	6.8	6.3	6.2

（5月1日時点比較）

3. 実績

	特養				短期入所				通所介護			
	入所数	入所率	退所数	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度
1月	48.4	96.9%	3	4.4	33	250	80.6%	2.8	85	637	79.6%	1.7
2月	49.3	98.6%	0	4.4	33	281	100.4%	3.1	88	614	79.9%	1.6
3月	49.2	98.4%	1	4.4	32	239	77.1%	3.0	84	686	82.4%	1.7
4月	49.7	99.4%	0	4.4	35	276	92.0%	2.9	89	664	80.0%	1.7
5月	48.8	97.7%	1	4.4	33	287	92.6%	3.1	85	751	86.9%	1.7
6月	49.2	98.3%	0	4.4	39	321	107.0%	3.2	90	708	88.5%	1.7
7月	48.9	97.7%	3	4.4	40	325	104.8%	3.2	86	759	87.8%	1.7
8月	49.4	98.8%	0	4.4	30	299	96.5%	3.3	82	691	83.5%	1.8
9月	49.9	99.8%	0	4.4	35	272	90.7%	3.1	85	703	84.5%	1.8
10月	50	100.0%	0	4.4	40	304	98.1%	2.9	81	719	83.2%	1.8
11月	49.8	99.6%	2	4.4	43	291	97.0%	2.7	81	641	80.1%	1.8
12月	49.5	99.1%	1	4.5	37	274	88.4%	2.7	83	699	80.9%	1.7
平均	49.3	98.7%	0.9	4.4	35.8	284.9	93.8%	3.0	84.9	689.3	83.1%	1.7

• 特別養護老人ホーム（50 床）

1 年を通して 49 床稼働した日が 24 日間ございました。4 月以降は 4 日のみであったことを考えると、感染症の発生が稼働率に大きく影響したと推測されます。また、入居期間が長くなると入院リスクが高くなり、稼働率の目標である 99％以上を達成することはできませんでした。要介護度は 4.4 であり、重介護の状況は続いております。退所された方が 11 名いらっしゃり、そのうち 8 割は看取りでした。世間一般には、特養は最も入居が難しく待機の方が非常に多いと思われておりますが、数年前と比較し待機者数は少なくなり、タイミングが合えばすぐにでも入居できる状況になっています。また、八尾市は人口比率においてサービス付き高齢者住宅の数が日本で最も多い地域であり、高齢者入居の獲得競争が激化しております。今後は入居者の確保が重要な課題となる見込みです。

• 短期入所（10 床）

10 床という限られた定員の中で、目標である稼働率 94％を維持することは非常に困難ではありましたが、担当者の尽力により 93.8％という結果となりました。日々の送迎やご家族対応に多くの時間を費やしております。また、最も重要な居宅支援事業所との信頼関係の構築、

維持にも細心の注意を払っております。職員の配置も多くなるため、適切な運営体制の維持が課題です。

・通所介護（定員 35 名）

平均稼働率は 83.1％と、目標の 86％には達することができず、前年とほぼ同水準の結果となりました。月の利用者数が 90 名の時は稼働率 88.5％でした。この数値を目標とし、今後もご利用者さまの獲得に注力していく必要がございます。損益分岐点稼働率は 80％です。継続的な営業を行うとともに、ご利用者さまの平均要介護度の目標を 2.0（全国平均 2.2）とし、サービス単価を上げていく対応も必要です。居宅支援事業所や地域包括支援センターから高い評価をいただけるよう、サービス内容に関する積極的な情報提供も必要です。また、最終的にはご利用者さまに、継続して利用したいと感じていただけるようなサービス提供が必要です。

・八尾市地域包括支援センター（公益事業）

ご相談の受付件数は前年度より 158 件増え、内容が困難で継続的な関与を要するケースが増加傾向にあります。加えて、地域からのご相談に対しましては、電話対応や訪問活動を実施し、予防の視点を重視した自立支援や予防的な取り組みを行い、総合相談窓口としての機能を果たしております。

要支援 1・2 の介護保険利用者さまにつきましては、地域の介護支援専門員と協力して支援する原案委託業務を継続的に実施しております。介護予防支援費とマネジメント費の件数は、前年より 126 件少ないですが、八尾市内でも上位の件数を維持しております。要介護よりも単価が低い要支援のご利用者さまを担当する介護支援専門員を探すことに苦慮しており、今後も大きな課題です。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を共に検討する包括的業務を実施しつつ、地域の介護支援専門員との信頼関係を継続して構築してまいります。

介護予防教室は、感染予防を継続しつつ、年間を通して実施することができました。地域行事への参加を通じて、センターの周知活動の重要性を実感するとともに、改めて地域と共にあるセンターであることを再確認しました。

高齢者虐待や認知症への対応を中心に、多職種連携を通して権利擁護事業の支援を継続的に実施しております。実態把握件数は前年度より 60 件多く、年度統計でも増加する予定です。相談内容は介護相談や介護保険に関するものが多く、継続して質の高い相談支援を実施し、地域の介護相談窓口としての役割を遂行してまいります。また、土曜日にも相談にお越しいただける体制を構築しております。

介護センター 204
よろこび訪問看護ステーション 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護センター 224

内容	年月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	前年比
相談受付	2024年	373	347	358	390	401	364	383	425	394	393	374	368	4,570	
	2025年	408	475	388	454	381	384	459	345	347	383	355	349	4,728	158
介護予防支援費 マネジメント費	2024年	293	291	303	301	302	299	303	302	307	319	314	306	3,640	
	2025年	304	297	295	300	297	293	287	287	290	287	286	291	3,514	−126
介護予防教室 家族介護教室	2024年	2	3	2	2	2	1	3	2	1	2	2	1	23	
	2025年	2	3	1	2	2	3	2	1	1	2	2	2	23	0
地域行事	2024年	4	6	5	4	5	5	6	3	4	6	8	7	63	
	2025年	5	5	5	5	6	4	5	2	5	5	5	4	56	−7
実態把握	2024年	9	5	7	19	29	18	26	15	24	20	21	18	211	
	2025年	32	17	14	20	22	29	20	20	18	20	19	40	271	60

4. 今後の目標

幼保連携型認定こども園「くるみ」の 2026 年 4 月 1 日の開園に向けて準備を進めております。定員は 135 名ですが、開園当初の稼働率をどの程度にできるかが大きなポイントになります。和泉市立総合医療センターのご支援をいただきながら、医療的ケア児の受け入れを含め、インクルーシブ保育の実現を目指してまいります。早期に事業が軌道に乗るよう、一致団結して運営に尽力してまいります。

毎年目標に掲げておりますが、社会福祉法人として求められる役割をしっかりと認識し、地域への公益的な取組を継続して実施してまいります。このため、地域包括支援センターのサービス提供体制につきましても、見直しと強化を進める必要がございます。

利用者さまに安全、安心な介護サービスが提供できるよう、全職員一丸となって努めてまいります。そのためには、職員の更なるスキルアップが不可欠であると考えております。各職種の質向上に注力し、「寄り添う介護」を目標として、その実践ができるよう職員全員でチーム介護を実践してまいります。経営面におきましては、2025 年 4 月から営業企画室を設置いたしましたが、うまく機能しませんでした。2026 年は、居宅支援事業所への営業やグループ施設への情報提供などを組織的に行い、利用者さま獲得への施策を実施してまいります。職員の意識改革を推進し、業務プロセスの見直しによる業務改善を実施するとともに、生産性を向上させることを当面の目標といたします。感染症の管理も重要な課題であり、継続的な啓発と研修を実施してまいります。

地域の各種行事へ参加し、地域とのつながりを深めるとともに、当施設主催の行事にも参加していただき、地域との親密性をより高めてまいります。災害などの不測の事態においても協力し合える関係性を築いていく所存です。

62）サービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷

管理者　松野　香澄

1. 概要

当施設は2025年3月に開設2年目を迎えました。昨年度の開設当初は、入居者募集や職員体制の構築、サービス提供の基準化など多くの課題に直面しましたが、職員一人一人の努力と関連施設の皆さんのご支援により、着実に改善を重ねてまいりました。本当に感謝しております。施設行事でも職員より提案のあった秋祭り、クリスマス演奏会を実施することができました。

その結果、本年度においては58床がほぼ満床に近い稼働率を維持することができ、安定した施設運営を実現いたしました。これは八尾徳洲会総合病院をはじめ、地域の医療機関や居宅介護支援事業所との連携強化、迅速かつ丁寧な入居相談対応、そして入居者さま及びご家族さまのニーズに寄り添ったサービス提供の積み重ねによる成果であると考えております。

また、サービスの質の向上にも継続的に取り組み、職員研修の充実や情報共有体制の整備を進めることで､安心･安全な生活環境の提供に努めてまいりました｡職員間の連携も深まり､チームとしての一体感が醸成されたこともまた、安定運営の大きな要因となっています。今後も現状に満足することなく、さらなるサービスの質の向上と入居者満足度の向上を目指し、地域に信頼される施設運営に取り組んでまいります。

最後に、功労賞にお選びいただき、ありがとうございます。職員の努力が評価されたこと、本当に嬉しく思います。

2. メンバー構成

施設長　　松野　香澄
事務員　　入村　千紘
介護職員　ラフィーネ介護センター兼務　14名
看護職員　よろこび訪問看護ステーション兼務　3名

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新規入居数	1	2	0	1	1	2	0	0	0	1	1	2
退居者	0	2	0	1	2	0	0	0	0	2	2	1
月末入居者数	59	59	59	59	59	59	59	59	59	58	59	59
平均要介護度	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.6	2.6	2.6	2.7

4. 今後の目標

現在の高い稼働率を安定的に維持しつつ、急な退去から待機者がスムーズに入居に至れるように、迅速に対応できる入居調整の精度向上に取り組んでまいります。

また､接遇力の向上にも重点を置き「選ばれる施設」であり続けることを目指してまいります。

63）ラフィーネ介護センター

管理者　谷澤　裕子

介護セン 204
よろこび訪問看護ステ 208
徳洲苑 210
特養久宝寺愛の郷 219
ラフィーネの郷 223
ラフィーネ介護セン 224

1. 概要

当事業所は 2026 年 3 月で開設 3 年目を迎えます。サービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷にご入居されている要介護認定を受けた方へ、必要な訪問介護（掃除・洗濯・排泄・入浴・食事・身体介助等）、訪問看護（体調管理・服薬管理等）を提供しております。現在は 57 名の方にご利用いただいております。

今年度は職員から自主的にイベントの企画が提案され、施設行事を開催することができました。秋祭りは出店の輪投げや千本釣りを楽しまれ、クリスマス会にはボランティアの方々が、クリスマスの曲や万博のイメージソングの演奏を披露してくださいました。演奏を聴かれたご利用者さまから「アンコール」のお声があがるほど盛り上がり、大変喜ばれ「ありがとう」と感謝のお言葉をいただきました。今後も利用者さまに季節を感じ、お楽しみいただけるような行事を、職員も楽しみながら企画できるよう努めてまいります。すでに 1 月からは、誕生月の利用者さまに誕生日ケーキでお祝いをする企画を開始しております。

また、昨年同様に利用者さまへ適切なケアを提供できるように介護･看護職員で随時相談し、解決策を検討してまいります。夜間帯の看護師不在時もオンコール対応で何かあれば適宜指示を仰ぎ、対応いたします。各居室の見守りカメラも有効に活用し、居室内の様子を確認しながら､夜間帯の不要な訪問を控えることで質の高い睡眠時間の確保および職員の負担軽減に努め、安心・安全なケアを提供してまいります。

今後は業務の基盤を整え、働きやすい環境づくりを目標に、訪問診療･訪問歯科･ケアマネージャー・デイケア・デイサービス等、ご利用者さまに関する情報連携が円滑に行えるよう取り組んでまいりたいと考えております。

2. メンバー構成

管理者　　谷澤　裕子
介護福祉士　14 名
看護師　　3 名

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用者数	56	56	57	58	58	59	57	57	57	58	55	59
終了利用者	1	2	0	1	1	2	0	0	0	2	2	1
新規利用者	1	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	2

4. 今後の目標

要介護度の平均 2.5 を維持し、安定した収入の確保を継続してまいります。また、業務の効率化を目指し、現在の業務内容の見直しを行い、職員が働きやすい環境の整備に努めてまいります。

学　術　業　績

―― 2025年 ――

64）学会発表　228
65）学術論文　236

64）学会発表

【炎症性腸疾患科】

- 2025.8.23　第16回日本炎症性腸疾患学会学術集会（札幌）　西村東人　5-ASA不耐を生じて口側進展した直腸炎型潰瘍性大腸炎の1例

- 2025.10.31　第13回ENDOCLUB（神戸）　西村東人　直腸炎型潰瘍性大腸炎に発症した直腸扁平上皮癌の治療方針について

【透析】

- 2025.3.2　第102回大阪透析研究会（大阪）尾﨑大輝[1], 工藤歩香[1], 今村芙紀[1], 柴垣優輝[1], 川原田直樹[1], 岸田一格[1], 山谷和佳[1], 矢野佑紀[1], 稲田恵理[1], 三原寿之[1], 田村真基[2], 申　勝[3]（八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1], 診療情報課[2], 血管透析科[3]）地域支援病院の透析センターにおける臨床工学科の12年－2012～2023－

- 2025.5.18　第35回日本臨床工学会（大阪）今村芙紀[1], 工藤歩香[1], 川原田直樹[1], 本間梨音[1], 岸田一格[1], 市川詩乃[1], 東内耀平[1], 西村宥哉[1], 山本健心[1], 末次円香[1], 今堀泰一[1], 三原寿之[1], 長谷川弘将[1], 村尾佳則[2], 申　勝[3]（八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1], 救急科[2], 透析科[3]）大阪府急性期病院の腎不全治療における2023年臨床工学技士の業務状況

- 2025.6.20　第28回日本臨床救急医学会（横浜）矢野佑紀[1], 今村芙紀[1], 尾﨑大輝[1], 村尾佳則[2], 森ちさこ[3], 申　勝[4]（八尾徳洲会病院　臨床工学科[1], 救急科[2], 腎臓科[3], 透析科[4]）大阪府中河内地区の地域支援病院における腎不全患者の救急搬送と緊急血液浄化療法

- 2025.6.27　第70回日本透析医学会（大阪）三原寿之[1], 尾﨑大輝[1], 吉岡水輝[1], 平野涼寧[1], 中之花[1], 市川詩乃[1], 前田遼[1], 山谷和佳[1], 山本健心[1], 稲田恵理[1], 矢野佑紀[1], 吉村有梨奈[1], 玉城賞[1], 藤村篤志[1], 藤田和睦[1], 田村真基[2], 村尾佳則[3], 森ちさこ[4], 玉城裕史[5], 申　勝[5]（八尾徳洲会病院　臨床工学科[1], 情報課[2], 救急科[3], 腎臓科[4], 透析科[5]）大阪府地域支援病院の透析センターでの13年～救急対応について～

- 2025.7.12　130回近畿救急医学研究会（大阪）工藤歩香[1], 河田愛莉[1], 村田渓士[1], 尾崎玖琉[1], 岸田一格[1], 河野遙[1], 矢野友規[1], 三原寿之[1], 村尾佳則[2], 緒方嘉隆[2], 森ちさこ[3], 申勝4（八尾徳洲会総合病院臨床工学科[1], 救急科[2], 腎臓科[4], 透析科[5]）大阪府急性期病院の腎不全治療における2023年の臨床工学技士の業務状況

- 2025.7.12　130回近畿救急医学研究会（大阪）今村芙紀[1], 前田遼[1], 尾﨑大輝[1], 川原田直樹[1], 山谷和佳[1], 本間梨音[1], 山本健心[1], 末次円香[1], 田村真基[2], 濵口眞成[3], 阿部祐子[4], 申　勝[5]（八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1], 情報課[2], ICU科[3], 救急科[4], 透析科[5]）地域支援病院の集中治療室における腎不全患者の治療状況－2023－

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

- 2025.3.27　糖尿病領域社内研修会　（住友ファーマ株式会社　大阪本社）石橋里江子　2型糖尿病の薬物療法について

- 2025.5.29　第68回日本糖尿病学会年次学術集会（ANAクラウンプラザホテル岡山）石橋里江子　服部玄徳　栗野大輔　坂野千賀　髙橋博之　酒井菜穂子　羽鳥広隆　堀川慶子　植田秀樹　髙原良典　経口GLP-1受容体作動薬のもたらす行動変容と代謝・体組成・血圧への影響

- 2025.5.29　第68回日本糖尿病学会年次学術集会（ラヴィール岡山）服部玄徳　高津美乃里　栗野大輔　坂野千賀　西村千恵　酒井菜穂子　髙原良典　植田秀樹　石橋里江子　個別運動指導後の行動変容が2型糖尿病患者の体組成及び血糖管理に与え

る影響

• 2025.5.31　第68回日本糖尿病学会年次学術集会（岡山県医師会館）髙橋博之　石橋里江子　浦元智司　堀川慶子　羽鳥広隆　植田秀樹　坂野千賀　服部玄徳　酒井菜穂子　離島の非専門施設における応援診療看護師（NP）による糖尿病合併症予防外来開設での挑戦

• 2025.7.12　CGM病診連携セミナー in 八尾市（八尾市文化会館プリズムホール）酒井菜穂子　当院の糖尿病ケアチームにおけるCGM活用術　～つながる支援をめざして～

• 2025.10.9　DUAL Seminar in 大阪（八尾市文化会館プリズムホール）石橋里江子　高齢2型糖尿病患者におけるイメグリミンの期待

• 2025.10.28　LSF 大正製薬株式会社社内講演会（八尾市文化会館プリズムホール）石橋里江子　次世代の2型糖尿病治療

• 2025.11.29　第62回日本糖尿病学会近畿地方会（大阪国際会議場）服部玄徳　石橋里江子　髙原良典　酒井菜穂子　髙橋博之　坂野千賀　栗野大輔　佐藤友亮　高津美乃里　植田健斗　理学療法士が加入したチームによる透析予防指導により高度肥満・代謝改善に至った一例

• 2025.11.29　第62回日本糖尿病学会近畿地方会（大阪国際会議場）田中一成　石橋里江子　堀川慶子　髙橋博之　山本なつみ　太田龍一　血糖マネジメントのみで早期改善を得た高齢者糖尿病性舞踏病の一例

• 2025.12.13　第6回関西糖尿病看護ケアセミナー～高齢糖尿病患者をサポートする療養支援～（Web研修）藤井安希子　皮下硬結の発見・予防に向けた取り組み

• 2025.12.18　O-Summit for Diabetes in 大阪（Zoomウェビナーによるオンライン配信）栗野大輔　薬剤師視点でのセマグルチド皮下注指導のポイント

• 2025.12.18　O-Summit for Diabetes in 大阪（Zoomウェビナーによるオンライン配信）石橋里江子　次世代のダイアベティスケアにおけるセマグルチド注の役割

【救急科】

講演

• 2025.2.15　講演　中河内医療連携の会　村尾佳則　当院のめざす増改築後の高度急性期病院について　シェラトン都ホテル

• 2025.8.19　講演　八尾徳洲会総合病院　医療公開講座　村尾佳則　新しい熱傷（やけど）の治療　グレース大聖堂、八尾市

• 2025.12.17　講演　八尾徳洲会総合病院　医療公開講座　村尾佳則　新しい熱傷（やけど）の治療―最新軟膏治療とスプレー式細胞植皮　八尾市プリズムホール4階会議室　八尾市

特別発言

• 2025.9.19　特別発言　第17回日本Acute Care Surgery学会、一般演題、腹部･膵　村尾佳則　アバンセ、佐賀

シンポジウム、座長

• 2025.11.20　シンポジウム、座長　第87回日本臨床外科学会、村尾佳則、加地正人　腹部救急疾患に対する各大動脈遮断の適応と有効性　京王プラザホテル、東京

シンポジウム

• 2025.10.30　シンポジウム　第53回日本救急医学会　緒方嘉隆、濱口眞成、石井真梨子、渡邊宏

樹、山田知樹、村上紗羅、松岡信子、村尾佳則
ARDS における個別化戦略の重要性

一般演題

- 2025.3.8　一般演題　第 30 回日本災害医学会
康　ゆうえい、村尾佳則　新型コロナウイルス感染対応における救急センターの機能維持と課題について

- 2025.3.20　一般演題　第 61 回日本腹部救急医学会　橋詰将英、清水元就、白木秀門、大津周、堤綾乃、松岡信子、大田修平、豊田甲子男、村尾佳則　内視鏡的整復を行った胃軸捻転症の 1 例

- 2025.3.20　一般演題　第 61 回日本腹部救急医学会　白木秀門、豊田甲子男、大田修平、松岡信子、堤綾乃、大津周、橋詰将英、村尾佳則　血腫除去後に閉腹し得た腹部大動脈瘤破裂に対するステントグラフト内挿入後に腹部コンパートメント症候群を来した一例

- 2025.5.18　一般演題　第 35 回日本臨床工学会
今村芙紀、工藤歩香、川原田直樹、本間梨音、岸田一格、市川詩乃、東内躍平、西村宥哉、山本健心、末次円香、今堀泰一、三原寿之、長谷川弘将、村尾佳則、申　勝　大阪府地域支援病院の腎不全治療における 2023 年臨床工学士の業務状況

- 2025.6.20　一般演題　第 28 回日本臨床救急医学会　今津勇輝、村尾佳則　急性腎障害を呈したサルモネラ菌血症の 3 症例

- 2025.6.20　一般演題　第 28 回日本臨床救急医学会　矢野佑紀、尾崎大輝、村尾佳則、森　ちさこ、申　勝、今村芙紀　大阪府中河内地区の地域支援病院のおける腎不全患者の救急搬送と緊急血液浄化療法

- 2025.6.27　一般演題　第 70 回日本透析医学会
三原寿之、尾崎大輝、吉岡水輝、平野涼寧、中之花、市川詩乃、前田　遼、山谷和佳、山本健心、稲田恵里、矢野佑紀、吉村有梨奈、玉城　賞、藤村篤志、藤田和睦、田村真基、村尾佳則、森　ちさこ、玉城裕史、申　勝　大阪府地域支援病院の透析センターでの 13 年（救急対応について）

- 2025.7.20　一般演題　第 130 回近畿救急医学会
工藤歩香、河田愛莉、村田渓士、尾崎玖琉、岸田一格、河野とおる、矢野友規、三原寿之、村尾佳則、緒方嘉隆、森ちさこ、申　勝　大阪府急性期病院の腎不全治療における 2023 年の臨床工学技士の業務状況

- 2025.9.19　一般演題　KSACS 合同セッション（13th Joint Scientific Congress of KSACS and JSACS（2025）in 17th Annual Meeting of JSACS
大田修平、野間口侑基、村尾佳則　南アフリカ Tygerberg Hospital における外傷外科および他外科系領域研修の経験

- 2025.9.20　一般演題　第 17 回日本 Acute Care Surgery 学会、野間口侑基、大田修平、村尾佳則
国境なき医師団の医療活動中に経験した、内戦中のスーダンにおける爆創の症例の一例

- 2025.10.29　一般演題　第 53 回日本救急医学会
緒方嘉隆、濱口眞成、石井真梨子、渡邊宏樹、山田知樹、村上紗羅、松岡信子、村尾佳則　ARDS における個別化戦略ー診断・治療から人工呼吸までー

【整形外科】

- 2025.1.25　第 42 回中部日本手外科学会（京都市）
土肥義浩　パネルディスカッション　AO 分類を用いた中節骨基部 PIP 関節内骨折の治療の検討

- 2025.2.22　第 39 回東日本手外科研究会（札幌市）
土肥義浩　ピアニストの骨折後による指交叉の治

療とリハビリテーション

• 2025. 3. 1　第 48 回奈良手の外科懇話会（奈良市）　土肥義浩　最近の人工靱帯を用いた外傷性母指 CM 関節不安定症の治療

• 2025. 3. 24～28　the 2025 IFSSH and IFSHT Triennial Congress（Washington, D.C., USA）　土肥義浩　Investigation of the Significance of Arthroscopic Diagnosis of Ligamentous Injuries Associated with the Distal Radius Fractures.

• 2025. 4. 10～11（横浜市）　第 67 回日本手外科学会　土肥義浩　松尾裕次郎　橈骨神経管症候群の診断とエコーガイドブロックの治療成績

• 2025. 4. 24　八尾徳洲会総合病院　公開医療講座（八尾市）　土肥義浩　知っていますか？よくある手の病気　－メノポハンドと低侵襲手術－

• 2025. 4. 26　第 2 回奈良肘関節研究会（奈良市）　土肥義浩　橈骨頭の近位橈尺関節面側に骨欠損を認めた部分関節内骨折の治療経験

• 2025. 6. 5　久光製薬社内講演（大阪市）　土肥義浩　手の外科外来でのジクトルテープ処方状況

• 2025. 6. 27～28　第 51 回日本整形外傷学会学術集会（横浜市）　土肥義浩　橈尺骨遠位端骨折の dual volar locking plate 固定法の成績と問題点

• 2025. 9. 27　第 49 回奈良手の外科懇話会（奈良市）　土肥義浩　鈴木秀平　外傷性小指 MP 関節部分欠損への有頭中手骨関節移植の治療経験

• 2025. 10. 23　第 9 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（旭川市）　土肥義浩　手の橈骨神経領域の手術後のリハビリ期間時に発症する橈骨神経管症候群

• 2025. 10. 25　第 17 回日本手関節外科ワークショップ（東京都）　土肥義浩　橈尺骨遠位端骨折の尺骨掌側プレート固定という選択枝

【心臓外科】

• 2025. 2. 20-22　第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会（山口 / 福岡）　薦岡成年　東上震一　畔柳智司　降矢温一　平松範彦　小島三郎　春日健介　竹本哲志　小林正明　橋本和也　大動脈解離に対する PETTICOAT 法と re-intervention: 偽腔完全血栓化から大動脈リモデリングへ

• 2025. 2. 20-22　第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会（山口 / 福岡）　春日健介　薦岡成年　小島三郎　清水元就　A Case of TEVAR with chimney technique for the thoracic aortic aneurysm in an elderly patients

• 2025. 5. 21-23　第 53 回日本血管外科学会学術総会（福岡）　薦岡成年　東上震一　畔柳智司　降矢温一　平松範彦　小島三郎　春日健介　清水元就　西村淳史　Stanford B 型大動脈解離に対する PETTICOAT 法と偽腔完全血栓化を目指した re-intervention

• 2025. 5. 21-23　第 53 回日本血管外科学会学術総会（福岡）　春日健介　薦岡成年　小島三郎　清水元就　腸骨動脈領域の慢性完全閉塞に対する循環器内科との協同治療の経験

• 2025. 5. 21-23　第 53 回日本血管外科学会学術総会（福岡）　清水元就　春日健介　薦岡成年　小島三郎　二次性大動脈十二指腸瘻に対して一期的な WVAR・十二指腸再建術が奏功したい 1 例

• 2025. 5. 21-23　第 53 回日本血管外科学会学術総会（福岡）　小島三郎　薦岡成年　春日健介　清水元就　西村淳史　当院における開窓型ステント－グラフト（Najuta）の治療経験からの検討

• 2025. 10. 16–17　第 66 回日本脈管学会学術総会（東京）　春日健介　薦岡成年　小島三郎　清水元就　腹部大動脈～腸骨動脈領域の慢性高度閉塞に対する血管内治療の経験

• 2025. 10. 16–17　第 66 回日本脈管学会学術総会（東京）　薦岡成年　東上震一　畔柳智司　降矢温一　平松範彦　小島三郎　春日健介　小林正明　橋本和也　清水元就　B 型大動脈解離に対する PETTICOAT 法と偽腔完全血栓化を目指した re-intervention

• 2025. 10. 23–25　第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会（大阪）　薦岡成年　東上震一　畔柳智司　降矢温一　平松範彦　小島三郎　春日健介　小林正明　橋本和也　清水元就　大動脈解離に対する PETTICOAT 法と re-intervention：Endo でどこまでやりますか？

【形成外科】

• 2025. 1. 11　第 6 回日本フットケア・足病医学会関西地方会学術集会（大阪）　綾部忍　歩き続けるための創傷治療の工夫

• 2025. 3. 1　第 30 回日本形成外科手術手技学会（名古屋）　森川周至　下肢壊死性軟部組織感染症に対する Skin Sparing Debridement

• 2025. 4. 17–19　第 68 回日本形成外科学会総会・学術集会（東京）　綾部忍　心臓血管外科 SSI の保存的治療

• 2025. 4. 17–19　第 68 回日本形成外科学会総会・学術集会（東京）　小倉一真（八尾徳洲会総合病院形成外科）、鍋谷峻矢、鈴木寛久、藤岡麗、大島希実子、奥村誠子（愛知県がんセンター　形成外科）、高成啓介（岡山大学　形成外科）　悪性腫瘍に対する顔面神経合併切除症例における QALY を考慮した即時静的再建

• 2025. 5. 31　第 25 回形成外科集学医療技術研究会（大阪）　安藤加奈子　下肢閉塞性疾患を有する透析患者に対する SIXPAD 介入結果について

• 2025. 6. 27　第 70 回日本透析医学会学術集会・総会（大阪）　綾部忍　下肢閉塞性動脈硬化症を有する透析患者に対する SIXPAD 介入結果について

• 2025. 7. 3–4　第 17 回日本創傷外科学会学術集会（東京）　綾部忍　病院所属医師が訪問診療に取り組む際の障壁と解決策について

• 2025. 7. 3–4　第 17 回日本創傷外科学会学術集会（東京）　綾部忍　糖尿病性足病変に対する Surgical Offloading の実践法：その適応、手技、その習得

• 2025. 9. 12–14　Diabetic Foot Study Group 2025（Praque）　Shinobu Ayabe　Effects of Electrical Muscle Stimulation on Hemodynamic Performance and Muscle Strength in Diabetic Patients with Lower Extremity Arterial Disease

• 2025. 10. 16–17　第 34 回日本形成外科学会基礎学術集会（鹿児島）　綾部忍　下肢閉塞性動脈硬化症を有する血液透析患者の下肢筋力および末梢循環に対する神経電気刺激の効果（A Pilot Study）

• 2025. 11. 13　大阪府医師会　在宅医療における褥瘡管理研修会（大阪）　綾部忍　最新の創傷治療から在宅での管理におけるポイント

【小児外科】

2025. 10. 30–31　PSJM2025（千里ライフサイエンスセンター）　河島茉澄、木村拓也、山中宏晃　腎盂尿管移行部通過障害にロボット支援下腎盂形成術を施行した 1 例　市中病院におけるロボット手術導入まで

【歯科・歯科口腔外科】

• 2025. 11. 14　日本口腔外科学会総会（福岡国際会議場）　笠原　駿　中川紀世子　安田卓司　占部一彦　小児下顎エナメル上皮腫に対し病変内に埋伏した永久歯を保存した 1 例

【肝臓センター】

藤井貴子

① 2025 May 28-31
The 2025 International Congress of ILTS (Singapore)
Takako Fujii, Takuya Kimura
「Bile duct disconnection and ligation added on ALPPS induce rapid liver hypertrophy and successful right trisegmentectomy for intrahepatic cholangiocarcinoma」

② 2025. 12. 4〜5
第 46 回日本肝臓学会西部会（下関市）
藤井　貴子、木村　拓也
「Sarcomatoid hepatic malignancy presenting as a chronic expanding hematoma」

③ 2025. 4. 12
第 3 回徳洲会外科部会（仙台市）
藤井貴子、河島茉澄、中多靖幸、木村拓也
「ロボット支援下肝膵手術における取り組みと短期成績」

武田　悠吾（専攻医）
2025. 12. 11〜13
第 38 回日本内視鏡外科学会（横浜市）
武田悠吾、中多靖幸、木村拓也、河島茉澄
「高度肥満症に対してロボット支援下腹腔鏡下膵体尾部切除を施行した一例」

講演、講義

藤井貴子

①「「肝疾患と生活習慣病との相互関係について」〜B 型・C 型肝炎、脂肪肝（MASH、MASLD）を中心に〜」
2025. 2. 22　AbbVie 社主催 Web 講演会（エリア）

②「肝疾患の早期介入と免疫療法時代の肝がん治療」
2025. 9. 7　八尾市薬剤師会

③「肝がんに立ち向かう〜地域と専門医のタッグで〜」
2025. 10. 4　第 1 回八尾病診連携の会

④「肝がん〜特徴・検査から治療まで〜」
2025. 10. 11　八尾徳洲会がんフォーラム

⑤八尾中学校　がん教育
2025. 11. 7

河島　茉澄
高安小学校　がん教育
2025/5

臨床研究

藤井　貴子

①「マイナンバー保険証連携情報を用いた受診勧奨と肝疾患スクリーニングの前向き研究」
研究実施期間　2025. 9. 1〜2030. 8. 31　新規

②「アルコール性肝硬変患者における Acute-on-chronic liver failure 発症の病態および予後予測因子の解明」
研究実施期間 2023〜2027. 10. 31　継続

【乳腺外科】

• 2025. 7. 10-12　第 33 回日本乳癌学会学術総会（東京）　鄭　聖華　男性透析患者に発症した乳腺分泌癌の 1 例

【病理診断科】

• 2025. 6. 27〜28　第 66 回日本臨床細胞学会春期大会（東京）　南部尚子、坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、久保勇記、寺田信行、鄭聖華、中塚伸一　高齢男性に発症した乳腺分泌癌の一例

• 2025. 11. 29〜30　第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会（広島）　坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一　大腸癌に合併した腹膜中皮腫の 1 例

• 2025. 11. 29〜30　第 64 回日本臨床細胞学会秋期

大会（広島） 西川裕子、坪佐朱莉、室木魁人、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一 LBC 残検体のセルブロックの免疫染色が原発巣推定に有用であった尿路上皮癌の 1 例

• 2025. 11. 29～30 第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会（広島） 藤尾友水、坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一 肺内多発転移で判明した悪性黒色腫の一例

• 2025. 11. 30～12. 1 第 12 回徳洲会病理部会学術集会（広島） 坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一 大腸癌に合併した腹膜中皮腫の 1 例

• 2025. 11. 30～12. 1 第 12 回徳洲会病理部会学術集会（広島） 久保勇記、南部尚子、寺田信行、坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、中塚伸一 奇異な浸潤形態を示した肺癌の 2 例

【薬剤部】

• 2025. 6. 28-29 2025医療薬学フォーラム / 第33回クリニカルファーマシーシンポジウム（旭川） 大槻玲子 薬剤管理サマリーを活用した退院後の投薬変化と病棟薬剤師によるポリファーマシー対策の評価

• 2025. 6. 28-29 2025医療薬学フォーラム / 第33回クリニカルファーマシーシンポジウム（旭川） 草薙みか 入職時からのローテイト教育と人材の確保

• 2025. 6. 28-29 2025医療薬学フォーラム / 第33回クリニカルファーマシーシンポジウム（旭川） 中本友美 ワルファリン持参患者における PY-INR 採血オーダー代行の有用性の検討

• 2025. 11. 23-24 第 35 回日本医療薬学会年会（神戸） 草野早紀 irAE 心筋炎早期発見を目指した PBPM による心筋トロポニン I 測定の評価

• 2025. 11. 23-24 第 35 回日本医療薬学会年会（神戸） 中田将基 免疫チェックポイント阻害薬使用患者における副腎機能不全の PBPM 化による有用性の検討

• 2025. 11. 23-24 第 35 回日本医療薬学会年会（神戸） 前田晃佑 術後疼痛管理チームによる経静脈的自己調節鎮痛法（IV-PCA）中止時期の決定

• 2025. 11. 23-24 第 35 回日本医療薬学会年会（神戸） 山本浩二郎 ロクロニウムによるアレルギーへの条件を考慮した 2 症例への対応

• 2026. 2. 13-14 第 41 回日本栄養治療学会学術集会（横浜） 森田幸男 経腸栄養剤の選択に難渋した一症例

【臨床検査科】

• 2025. 10. 3～5 日本医療検査科学会第 57 回大会ランチョンセミナー（パシフィコ横浜） 松田治恵子 変化の時代に対応し続ける新検査室構築とその導入効果

• 2025. 11. 29～30 第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会（広島国際会議場） 西川裕子 LBC 残検体のセルブロックの免疫染色が原発巣推定に有用であった尿路上皮癌の一例

• 2025. 11. 29～30 第 64 回日本臨床細胞学会秋期大会（広島国際会議場） 坪佐朱莉 大腸癌に合併した腹膜中皮腫の 1 例

• 2025. 11. 22～23 第 64 回日臨技近畿支部医学検査学会（国立京都国際会館） 上紺屋利則 当院における業務改革①～生化学免疫連結器・Atellica 選定の是非～

・2025.11.22～23　第64回日臨技近畿支部医学検査学会(国立京都国際会館)　山尾克樹　当院における業務改革②全自動搬送と集中管理システムの評価

【臨床心理科】

・2025.9.19～21　第43回日本小児心身医学会学術集会　朴　祐希　育児を通して幼少期の課題に取り組めるようになった一症例

・2025.9.19～21　第43回日本小児心身医学会学術集会　藤原恭子　歩行障害で来院した身体表現性障害の中学生女子の1例

・2025.9.19～21　第43回日本小児心身医学会学術集会　田原一樹　抜毛を主訴に来院した不登校児の心理的治療の経過

【臨床工学】

・2025.5.17　第35回日本臨床工学会（グランキューブ大阪）　口演　藤田和睦　当科の医療安全の取り組み

・2025.5.18　第35回日本臨床工学会（グランキューブ大阪）　ポスター　今堀泰一　酢酸不耐症を疑い、無酢酸透析液を使用し奏効した一例

・2025.5.18　第35回日本臨床工学会（グランキューブ大阪）　ポスター　今村芙紀　大阪府急性期病院の腎不全治療における臨床工学技士の業務状況 -2023年-

・2025.5.18　第35回日本臨床工学会（グランキューブ大阪）　ランチョン　藤田和睦（座長）輸液機器データ連携に見るvision～理想の輸液機器管理の実現に向けて～

【栄養科】

・2025.2.14-15　第41回日本栄養治療学会学術集会(横浜)　小山　洋史　脳外科経腸栄養投与プロトコールの作成

【MSW】

・2025.3.29　第35回日本がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　柿沼和絵　2次医療圏における6病院合同がんサロンの開催と評価:第6回キャンサーケアヨガ

・2025.9.7　第73回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会（福岡）　三谷勇一　急性期病院における平均在院日数の短縮に関連する要因：分析結果をもとにした組織改革

【感染制御部】

・2025.7.10～12　第40回日本環境感染学会総会・学術集会(パシフィコ横浜)　萩原美香　院患者における手指衛生に関する情報提供後の行動変容

・2025.7.18～19　日本医療マネジメント学会(福岡国際会議場)　山下あすか　医療･介護従事者に対する地域キャリア支援の取り組み

65）学術論文

【腫瘍内科】

- Prognostic impact of concomitant pH-regulating drugs in patients with non-small cell lung cancer receiving epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors: the Tokushukai REAl-world Data project 01-S1. Uryu K, Imamura Y, Shimoyama R, et al. Cancer Chemotherapy and Pharmacology. https://doi.org/10.1007/s00280-024-04666-4

- Public assistance and survival equality in patients with EGFR mutation-positive lung cancer. Uryu K, Imamura Y, Shimoyama R, et al. Japanese Journal of Clinical Oncology. https://doi.org/10.1093/jjco/hyae167

【透析センター】

- 「大阪府中河内地区の地域支援病院における腎不全患者の救急搬送と緊急血液浄化療法」 矢野佑紀[1)], 今村芙紀[1)], 尾﨑大輝[1)], 山谷和佳[1)], 矢野友規[1)], 三原寿之[1)], 藤村篤志[1)], 藤田和睦[1)], 田村真基[2)], 村尾佳則[3)], 阿部祐子[3)], 緒方嘉隆[4)], 濵口眞成[4)], 福田貢[5)], 森ちさこ[6)], 申　勝[7)] 臨床工学科[1)]、情報課[2)]、救急科[3)]、ICU科[4)]、循環器科[5)]、腎臓科[6)]、透析科[7)]　大阪救急第111号P2-9(2025年6月)

【救急科】

- 疾患で学ぶ　病態・薬物治療　アナフィラキシーショック（村尾佳則、松岡信子、阿部祐子）アークメディア　222―225、2025

- 大阪府中河内地区の地域支援病院における腎不全患者の救急搬送と緊急血液浄化療法 矢野佑紀、今村芙紀、尾崎大輝、山谷和佳、矢野友規、三原寿之、藤村篤志、藤田和睦、田村真基、村尾佳則、阿部祐子、緒方嘉隆、濱口眞成、福田　貢、森　ちさこ、申　勝　大阪救急,111, 2-9, 2025

【整形外科】

- 橈骨遠位端骨折MIPO用プレートを用いて2cmの皮切で行うcondylar stabilizing法の手術成績（原著論文） 鈴木秀平 （共著者：土肥　義浩）日本手外科学会雑誌　41巻6号　P812 － 815　2025年4月

- 手関節鏡による舟状月状骨靱帯断裂の直接的評価関節鏡プローベによるフックテストSL hook test（原著論文） 松尾裕次郎 （共著者：土肥　義浩）日本手外科学会雑誌　42巻2号　P41 － 44　2025年9月

【形成外科】

- 特集／下肢切断を知る　Ⅲ.切断後の治療　切断端の再検　綾部忍　PEPARS　218:69-78,　2025

【小児外科】

- 1歳の胆嚢捻転症に対し術中ICG蛍光観察を用いた単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例　河島茉澄、木村拓也、山中宏晃、堤綾乃、森本大樹、清水元就　日本内視鏡外科学会雑誌　30号、247-253、2025

【歯科・歯科口腔外科】

- 『歯根嚢胞の臨床診断で治療を行い、病理組織検査結果で骨形成線維腫と確定診断を得た1例』占部一彦　安田卓司　笠原　駿　大阪府歯科医師会雑誌　800号 p68-69 2025.9

【肝臓センター】

藤井貴子

①「Pancreatectomy with en bloc superior mesenteric vein resection and permanent mesocaval shunting for locally advanced pancreatic head cancer」 Takako Fujii, Takuya Kimura　J Surg Case Rep. 2025 Aug 12;2025

(8) :rjaf624.

②「Initial hepatic artery reperfusion for complex portal vein thrombosis in living donor liver transplantation: A case report.」 Takako Fujii, Koichi Tanaka, Takuya Kimura Journal of Liver Transplantation. 2025; 18.

河島 茉澄

「1歳の胆嚢捻転症に対し術中ICG蛍光観察を用いた単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例」 河島 茉澄、木村 拓也、山中 宏晃、堤 綾乃、森本 大樹、清水 元就 日本内視鏡外科学会雑誌 30巻4号 p247-253

臨床研究

藤井貴子

①「マイナンバー保険証連携情報を用いた受診勧奨と肝疾患スクリーニングの前向き研究」 研究実施期間 2025年9月1日～2030年8月31日 新規

②「アルコール性肝硬変患者における Acute-on-chronic liver failure 発症の病態および予後予測因子の解明」 研究実施期間 2023～2027年10月31日 継続

【病理診断科】

- Triple synchronous primary cancers comprising large cell neuroendocrine carcinoma of the lower uterine segment and endometrioid carcinomas of the uterine corpus and right ovary – a rare combination: A case report. Yamamoto K, Nakatsuka SI, Goto T, Samoto R, Minami A, Imamura M. Gynecol Oncol Rep; 58: 101721, 2025.

- A case of occult cancer of prostatic ductal adenocarcinoma in which urinary cytology and immunostaining led to identification of primary site. Kubo Y, Kanamaru T, Ichihashi Y, Nambu N, Terada N, Nakatsuka S. J Case Rep Images Pathol; 11 (2) : 1-5, 2025.

- HSD3B1 免疫染色が栄養膜細胞分化評価に有用であった化学療法後の尿路上皮癌の1例. 西川裕子、室木魁人、坪佐朱莉、岩崎由恵、花見恭太、南部尚子、久保勇記、中塚伸一. 医学検査 ; 74 (2) : 403-410, 2025.

- 脂肪滴が充満する中皮腫細胞が胸水中に多数出現した悪性中皮腫の1例. 坪佐朱莉、室木魁人、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一. 細胞質内脂肪球を有する細胞とエオジン好性細胞を多数認めた中皮腫の1例. 日臨細胞会誌 ; 64 (3) : 148-154, 2025.

- 室木魁人、坪佐朱莉、西川裕子、岩崎由恵、吉川つかさ、溝邊栞、平井翔也、南部尚子、久保勇記、杉原綾子、本間圭一郎、寺田信行、中塚伸一. 免疫染色により超音波内視鏡下穿刺吸引法の採取検体で診断し得た膵腺房細胞癌の一例. 明和病院医学誌 12. 115-119. 2025.

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和八年七月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４



医療法人
徳洲会 八尾徳洲会総合病院

〒５８１-００１１ 大阪府八尾市若草町１番１７号
ＴＥＬ（０７２）９９３-８５０１（代）
ＦＡＸ（０７２）９９３-８５６７
https://www.yao.tokushukai.or.jp

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構